

2020年度

シ ラ バ ス

桐生大学 短期大学部

生活科学科

講義コード	30010001
講義名	歴史と文化
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	2時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員		
職種	氏名	所属
教員	◎ 飯島 正義	指定なし

授業の概要と教育目標

歴史を理解するにあたっては、過去の事柄を知るだけでなく現代と結びつけて理解することが大切です。授業では、日本の戦国時代末期から近代日本が確立する明治末期までの時期を中心に説明します。授業の形態は、双方向型の遠隔授業で行います。理解を確認するために授業時に「確認問題」を実施するとともに、その問題の解答と解説を行います。あるいは、解答のみをWebで提出してもらい、次週に解答と解説を行います。本科目は、歴史を学ぶことを通して、人間や社会に対する理解を深めていくことを目標とします。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連では、1. 私たちの生活を身近な問題からグローバルなテーマまで多角的に理解している、という項目と関連しています。本講義を通じて、日本社会に対する理解を深め、私たちの身近な問題を歴史的に、さらに科学的・多面的に理解することができるようになることを目指します。

到達目標

日本の封建社会から近代社会への移行期を学ぶことによって、その後の日本の方向性、さらには今日との関係について考えることができるようになることを目標とします。

授業計画

	授業内容と方法、課題	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	大航海時代の世界と日本 オリエンテーション（授業内容、 授業の進め方、成績評価等） 大航海時代の世界状況と日本について学びます。	予習90分：シラバスの内容をよく確認しておくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第2回	16世紀のアジアと日本 16世紀の東インド貿易圏と日本との関係について説明します。	予習90分：プリント資料を読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
	織豊時代（1）	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。

第3回	織田信長の天下統一と経済政策について学びます。	と。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第4回	織豊時代（2） 豊臣秀吉の経済政策について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第5回	江戸幕府の成立 江戸幕府の成立や統治機構の整備について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第6回	近世の村（1） 江戸時代の村の成立について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第7回	近世の村（2） 江戸時代の農民の生活について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第8回	幕藩体制の経済構造 江戸時代の経済構造の形成と特徴について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第9回	商品経済の発展 幕藩体制下で商品経済がどのように発展していったのかを学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第10回	幕藩体制の動揺 商品経済の発展が幕藩体制をどのように変化させていったのかについて学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第11回	19世紀の東アジア情勢 欧米列強が進出するようになった東アジア情勢について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第12回	開国の影響 開国の経済的影響と幕藩体制の崩壊について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第13回	明治政府の成立 明治維新から大日本帝国憲法制定までの政治過程について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第14回	日本資本主義の形成 明治以降、日本の資本主義体制がどのように形成されていったのかを学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第15回	帝国日本の誕生 日清・日露の「戦後経営」とその後の日本について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。

教科書

教科書は使用しません。プリント資料を配布します。

参考書

必要に応じて随時紹介していきます。

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上

筆記（Web）試験60%、平常点（確認問題の提出、授業への取り組み等）40%

課題等に対する

フィードバックの方法

双方向型の遠隔授業となったので、授業資料の中に入っている確認問題を随時行うとともに、解答と解説も併せて授業内に実施します。あるいは確認問題の解答だけを授業日に提出してもらい、次週に解答と解説を行います。授業等の質問については、できるだけ授業時間内に答えるようにします。

履修のポイント

まずプリント資料を繰り返し読んで下さい。次に、授業項目の重要点を文章として簡単にまとめて下さい。その作業を繰り返し行うと力がつきます。

オフィス・アワー

授業日の授業開始前もしくは終了後もWebで質問に応じます。

科目区分

基礎科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C010

講義コード	30020001
講義名	くらしと色彩
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	4時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 大日向 基子	指定なし

授業の概要と教育目標

カラーコーディネーター検定試験スタンダードクラス公式テキスト（東京商工会議所）に沿って授業を行う。本科目では、普段の生活にごく当たり前に溶け込んでいる色についての認識を新たにすると共に、その重要性や身近な活用例、配色テクニック、色の心理的側面、消費者が好む色等にも幅広く意識を向け、学生の色に関する興味を高めることを、教育の目標とする。

- ※シラバスの内容、実施順番等については状況により変更する場合がある
- ※本授業は2回の中間テストの合計により成績評価を行い、定期試験は実施しない
- ※中間テストは授業で扱った範囲内から出題する

卒業認定・学位授与の方針との関連

「私たちの生活を身近な問題からグローバルなテーマまで多角的に理解している」という短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、色彩への理解を通して「生活科学の基礎となる衣食住に関する基本的なことからについて、さらに生活を取り巻く社会的環境について」科学的な理解を深め、色に関する興味・関心を引き出す学修を目指すものとする。

到達目標

日々の生活をより豊かにするため、色の効果を楽しんで活用できる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	大日向基子	前提講義 Chap1 生活と色の効用 1)色の効用 2)色の違いで気分が変わる 3)色の基礎事項	パワーポイントスライドやカラーチャート、色画用紙等を用いて、色の性質についての意識を高める	予習90分： 教科書を読む 復習90分： 教科書、配布資料、ノート等を見直す
				予習90分：

第2回	Chap1 生活と色の効用 1)色の効用 2)色の違いで気分が変わる 3)色の基礎事項	パワーポイントスライドや カラーチャート、色画用紙 等を用いて、色の性質につ いての意識を高める	教科書を読む 復習90分： 教科書、配布 資料、ノート 等を見直す
第3回	Chap2 色を自在に操る方法 1)色の分類 2)色の表示方法 3)色名と名前のつけ方 4)PCCS—色 を操り、記録し、伝える手 法(PCCS) 5)マンセル表色系—色彩 のプロが使う正確な色の伝え方		予習90分： 教科書を読む 復習90分： 教科書、配布 資料、ノート 等を見直す
第4回	Chap2 色を自在に操る方法 1)色の分類 2)色の表示方法 3)色名と名前のつけ方 4)PCCS—色 を操り、記録し、伝える手 法(PCCS) 5)マンセル表色系—色彩 のプロが使う正確な色の伝え方		予習90分： 教科書を読む 復習90分： 教科書、配布 資料、ノート 等を見直す
第5回	Chap3 きれいな配色をつくる 1)配色を知る 2)配色を使いこなす		予習90分： 教科書を読む 復習90分： 教科書、配布 資料、ノート 等を見直す
第6回	Chap3 きれいな配色をつくる 1)配色を知る 2)配色を使いこなす		予習90分： 教科書を読む 復習90分： 教科書、配布 資料、ノート 等を見直す
第7回	Chap4 色を美しく見せる光のマ ジック 1)光から色が生まれるしくみ 2)光から生まれる色の世界		予習90分： 教科書を読む 復習90分： 教科書、配布 資料、ノート 等を見直す
第8回	中間テスト1 Chap4 色を美しく見せる光のマ ジック 1)光から色が生まれるしくみ 2)光から生まれる色の世界		予習90分： 教科書を読む 復習90分： 教科書、配布 資料、ノート 等を見直す
第9回	Chap5 背景色を上手に使って色の 見えを変えてみよう 1)色見えを左右する基礎事項と 色使いのポイント 2)色の効果を活用するために		予習90分： 教科書を読む 復習90分： 教科書、配布 資料、ノート 等を見直す
第10回	Chap5 背景色を上手に使って色の 見えを変えてみよう 1)色見えを左右する基礎事項と		予習90分： 教科書を読む 復習90分： 教科書、配布

	色使いのポイント 2)色の効果を活用するために		資料、ノート 等を見直す
第11回	Chap6 色で売り上げをアップするために 1)消費者が選択する色とは 2)消費者に受け入れられる色を生み出すために		予習90分： 教科書を読む 復習90分： 教科書、配布 資料、ノート 等を見直す
第12回	Chap6 色で売り上げをアップするために 1)消費者が選択する色とは 2)消費者に受け入れられる色を生み出すために		予習90分： 教科書を読む 復習90分： 教科書、配布 資料、ノート 等を見直す
第13回	対策問題で今までの学習を振り返る	質疑応答	予習90分： 教科書を読む 復習90分： 教科書、配布 資料、ノート 等を見直す
第14回	対策問題で今までの学習を振り返る	質疑応答	予習90分： 教科書を読む 復習90分： 教科書、配布 資料、ノート 等を見直す
第15回	中間テスト2 対策問題で今までの学習を振り返る	質疑応答	予習90分： 教科書を読む 復習90分： 教科書、配布 資料、ノート 等を見直す

教科書

カラーコーディネーター検定試験スタンダードクラス公式テキスト（東京商工会議所編）

参考書

カラーコーディネーター検定試験3級問題集（東京商工会議所編）、色の知識（城一夫）、カラーコーディネーター入門色彩（大井義雄・川崎秀昭）色彩デザイン学（三井直樹・三井秀樹）、色彩学概論（千々岩英彰）、ヨハネス・イッテン色彩論（大智浩訳）ほか

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上 第1回中間テスト50% 第2回中間テスト50%

課題等に対する フィードバックの方法

教科書Chap1からChap6までの授業内容や対策問題、検定については、随時質問を受け付けている。中間テストは、採点して返却する。

履修のポイント

教科書を熟読すること。検定対策問題等で要点を理解し、問題形式や解答方法に慣れること。

オフィス・アワー

金曜日 14:50-15:00 9号館901教室

科目区分

基礎科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-C030

講義コード	30030001
講義名	人間と心理
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	2時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員		
職種	氏名	所属
教員	◎ 大澤 靖彦	指定なし

授業の概要と教育目標

ものを見ること、覚えること、考えること、泣いたり笑ったりすることなど、私たちが意識するとしなやかにかかわらず、人のあらゆる活動に心はかかわっている。心理学は、そのような私たちの心のはたらきを明らかにすることを目的としているが、そのはたらきはさまざまである。そして、人は常に、状況に応じて適切な判断を下し、その場に合った行動をうまく選択し、自分にとって必要で大切だと思うことをきちんと覚えておくような存在かということ、そうでもない。本講義では、そうした人の心の多様なはたらきについて取り上げる。授業は講義形式で行うが、テーマによって視聴覚にうったえる試みもする予定である。教育目標として、人の心のはたらきの基礎知識の習得し、人に対する理解を深めることを目指す。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマポリシーとの関連として、私たちの生活を身近な問題からグローバルなテーマまで多角的に理解すること、生活科学の基礎となる衣食住に関する基本的なことからについて、さらに生活を取り巻く社会的環境について、科学的に理解することを目指し、心理的側面の理解を通してその目的達成に資する知識を養う。そして、将来的な展望としては、多様な人間の生活科学の問題を理解する基盤となる学修成果を残すことを目指すものとする。

到達目標

1. 知覚・記憶・学習・発達・性格・感情と欲求・適応機制などにかかわる専門用語の意味を理解する。
2. 知覚・記憶・学習・発達・性格・感情と欲求・適応機制などにかかわる心理学理論について理解する。
3. 日常的な出来事を心理学の理論に沿って理解する。
4. 人の心の全般的なしくみについて理解する。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な 時間
		オリエンテーション（授業の進め方、成績評価など）	予習90分：教科書

第1回	心理学のいろいろ	心理学の系譜を概観しながら、日常生活から社会の動きまでのワークシートを使いながら理解を深める。	第1章を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第2回	知覚心理学	錯視をはじめとし、見えの不思議について教科書のワークをしながら知覚の不思議を体験する。 (DVDの視聴あり)	予習90分：教科書pp.20-34を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第3回	学習心理学	テスト勉強で何かを覚えるだけでなく、知らず知らず身につけてしまう学習について取り上げる。日常生活で我々が知らず知らず身につけている行動の例についてグループで考える。	予習90分：教科書pp.34-43を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第4回	認知心理学	記憶や思考についてのワークをしながら理解を深める。	予習90分：教科書pp.43-54を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第5回	人格心理学	いくつかの心理検査を行い、自分自身についての理解を深めるながら、パーソナリティについて理解を深める。	予習90分：教科書pp.56-70を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第6回	発達心理学①	発達の基本概念について取り上げる。発達を促進する遺伝的要因と環境要因についてグループで意見交換し考えを広げたり深めたりする。	予習90分：教科書pp.71-83を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第7回	発達心理学②	自分らしさを作り上げる過程から死を迎えるまでの発達について取り上げる。心理検査等により自分のアイデンティティについての理解を深めながら、青年期の発達課題について理解する。	予習90分：教科書pp.84-101を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第8回	社会心理学①	グループで意見交換を行い、対人関係における印象形成、対人魅力、恋愛について自分の考えを広めたり深めたりする。	予習90分：教科書pp.102-118を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第9回	社会心理学②	グループで意見交換を行い、人を動かす心理学について自分の考えを広めたり深めたりする。 (DVD視聴あり)	予習90分：教科書pp.119-135を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第10回	社会心理学③	グループで意見交換を行い、援助行動と攻撃行動について自分の考えを広めたり深めたりする。	予習90分：教科書pp.136-148を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第11回	健康心理学①	グループで意見交換を行い、心の健康、適応について自分の考えを広めたり深めたりする。	予習90分：教科書pp.149-158を読む。 復習90分：配布資料を見直す。

			料を見直す。
第12回	健康心理学②	グループで意見交換を行い、ストレスについて自分の考えを広めたり深めたりする。	予習90分：教科書pp.158-163を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第13回	健康心理学③	心の健康の維持、回復について取り上げるが、まず正常と異常の違いについてグループで意見交換を行い、多面的に考える。 (DVD視聴あり)	予習90分：教科書pp.164-171を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第14回	臨床心理学 無意識の発見から明らかになった知見について取り上げる。 さらに心の病と心理療法について取り上げる。	(DVD視聴あり)	予習90分：教科書p18,19,146,157を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第15回	社会現象 心理学から見た社会現象について取り上げる。	(DVD視聴あり)	予習90分：教科書pp.172-182を読む。 復習90分：配布資料を見直す。

教科書

藤本忠明他 『ワークショップ心理学』 ナカニシヤ出版

参考書

適宜紹介する。

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上

確認テスト（最終授業で毎回の授業で行う小テストから40問を出題）40%

レポート・課題30%

授業への積極性・態度30%

課題等に対する

フィードバックの方法

授業内でレポートや課題を課すことがある。返却するので学習の参考にすること。また、授業の振り返りの資料とその解答を配布するので、授業内容の理解に役立てること。

履修のポイント

講義への積極的な取り組みを期待します。本科目は、「ピアヘルパー」資格取得にかかわる科目（「人間と心理」「臨床心理学」「人間関係」）のひとつです。

オフィス・アワー

水曜日・木曜日、12：30～13：20（昼休み）、11号館第8研究室。

※講義終了前後にも、適宜受け付けます。

科目区分

基礎科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C011

講義コード	30040001
講義名	くらしと憲法
(副題)	【教職必修(共通)】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	3時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 松原 直樹	指定なし

授業の概要と教育目標

社会保障費の増大と消費税増税、地方自治体の消滅可能性、働き方改革など、国の課題は山積している。そんな中、選挙権年齢が18歳以上に引き下げられ、大学生全員が選挙権を有することになってから、すでに何回かの選挙が行われている。本講座においては、私たちの生活や安全に大きな関わりをもつ国の基本法である日本国憲法を素材に、私たちの生活を考えていく予定である。

憲法の基本原理とその根底に流れる思想を学習した後、われわれの生活に深く関わりのある現代的なトピックを取り上げ、できる限りくらしとの関わりに留意しながら、主権者としての判断能力を身につけられるよう、学習していく。

卒業認定・学位授与の方針との関連

憲法を素材として、私たちの生活を身近な問題からグローバルなテーマまで多角的に理解できるようにする。憲法に関わる社会におけるさまざまな現象を科学的に理解し、そうした学修成果を社会で実践的に活用できるよう学修する。

到達目標

1. 憲法とは何か、また法令の基本構造、および法令における憲法の位置づけを理解する。
2. 憲法に規定されている基本的人権は何か、またその具体的内容について理解する。
3. 国の政治のしくみについて、憲法はどう規定しているかを理解する。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	現在、日本国憲法に関してどのような問題が生じているのかについて学習した後、憲法とはどのような法かを学習する。立憲主義についても学習する。		予習90分：シラバスを読み、授業計画について把握する。 復習90分：ハンドアウト第1回に記載してある内容を読んで、復習する。

第2回	日本国憲法の制定過程について、第二次大戦後からGHQによる憲法案の提示、国会での審議等について、VTRに沿って学習する。		予習90分：ハンドアウト第2回および『目で見える憲法』p.viii、p.2～p.4を読む。 復習90分：ハンドアウト第2回に記載してある内容を読んで、復習する。
第3回	日本国憲法の基本原理である「国民主権」について、規定と意味について学習する。さらに、「基本的人権の尊重」に関する規定とその概要について学習する。	憲法の制定過程についてのドキュメンタリーVTRに対するコメントを発表する。	予習90分：ハンドアウト第3回および『目で見える憲法』p.5～p.7を読む。 復習90分：ハンドアウト第3回に記載してある憲法や関連法令の条文を読んで、復習する。
第4回	日本国憲法の基本原理である「平和主義」について、規定内容を学習し、さらに日本の防衛政策の現状、安保関連法制との関係について、学習する。		予習90分：ハンドアウト第4回および『目で見える憲法』p.8～p.10を読む。 復習90分：ハンドアウト第4回に記載してある憲法や関連法令の条文、その他の内容を読んで、復習する。
第5回	憲法が保障している法の下での平等の意義・内容について学習する。現実に生じている平等をめぐる問題について、判例を素材として検討する。		予習90分：ハンドアウト第5回および『目で見える憲法』p.23～p.29を読む。 復習90分：ハンドアウト第5回に記載してある憲法や関連法令の条文、判例、その他の内容を読んで、復習する。
第6回	信教の自由を中心に学習する。なぜ認められる必要があるのか、その歴史的沿革、内容について学習する。また、政教分離原則について学習し、信教の自由に関する判例と政教分離に関する判例を素材として、学習する。		予習60分：ハンドアウト第6回および『目で見える憲法』p.30～p.33を読む。 復習120分：ハンドアウト第6回に記載してある憲法や関連法令の条文、その他の内容を読んで、復習する。授業で取り上げた判例を読んで、復習する。中間確認テストに向けて、これまでのハンドアウトを見直す。
第7回	表現の自由の意義とその内容について、学習する。また、プライバシー権との関係についても学習する。さらに、表現の自由・プライバシー権をめぐる判例を検討する。	表現の自由とプライバシー権に関する判例のうちいくつかを取り上げ、議論する。	予習60分：ハンドアウト第7回および『目で見える憲法』p.34～p.42、p.19～p.20を読む。 復習120分：ハンドアウト第7回に記載してある憲法や関連法令の条文、その他の内容を読んで、復習する。授業で取り上げた判例を読んで、議論について、復習する。中間確認テストに向けて、これまでのハンドアウトを見直す。
第8回	憲法が保障する「人身の自由」について学習した後、刑法との関係について理解する。また、犯罪と刑罰制度の概要を学習し、特に死刑制度について、その現状とそれに対する議論を検討する。		予習90分：ハンドアウト第8回および『目で見える憲法』p.48～p.50を読む。 復習90分：ハンドアウト第8回に記載してある憲法や関連法令の条文、その他の内容を読んで、復習する。

	討する。 中間確認テスト(45分間)を実施する。		授業で取り上げた判例を読んで、復習する。
第9回	社会権と区分される人権について学習した後、「生存権」と「労働基本権」についてその概要を学習する。		予習90分：ハンドアウト第9回および『目で見える憲法』 p.51～p.53を読む。 復習90分：ハンドアウト第9回に記載してある憲法や関連法令の条文、その他の内容を読んで、復習する。授業で取り上げた判例を読んで、復習する。
第10回	労働者に関わる人権と「教育を受ける権利」について学習し、理解する。		予習120分：ハンドアウト第10回および『目で見える憲法』 p.54～p.56を読む。レポート(第12回提出)を作成する。 復習60分：ハンドアウト第10回に記載してある憲法や関連法令の条文、その他の内容を読んで、復習する。授業で取り上げた判例を読んで、復習する。返却されたテストの誤った部分について、正解を検討しておく。
第11回	国会のさまざまな権能、国権における地位について概観する。衆議院と参議院の関係、国会の意思決定過程、具体的な役割について学習する。さらに、選挙制度についても、学習する。		予習120分：ハンドアウト第11回および『目で見える憲法』 p.57～p.61、 p.69～p.84を読む。レポート(第12回提出)を作成する。 復習60分：ハンドアウト第11回に記載してある憲法や関連法令の条文、その他の内容を読んで、復習する。授業で取り上げた判例を読んで、復習する。
第12回	内閣の地位・役割について、学習する。「議院内閣制」の内容とメリット、内閣総理大臣の選出方法、国务大臣の任免、さらに内閣の具体的な役割、意思決定の方法等について、主に学習する。 ※授業終了時にレポートを提出する。課題は「憲法に関するニュースもしくは課題を法学的に検討する。」A4用紙1枚以上を条件とする。		予習120分：ハンドアウト第12回および『目で見える憲法』 p.85～p.92を読む。レポート(第12回提出)を作成する。 復習60分：ハンドアウト第12回に記載してある憲法や関連法令の条文、その他の内容を読んで、復習する。授業で取り上げた判例を読んで、復習する。
第13回	裁判のしくみについて、概要を学習した後、刑事裁判で取り入れられている裁判員制度について、VTRに沿って学習する。		予習60分：ハンドアウト第13回および『目で見える憲法』 p.93～p.103を読む。 復習120分：ハンドアウト第13回に記載してある憲法や関連法令の条文、その他の内容を読んで、復習する。授業で取り上げた判例を読んで、復習する。最終確認テストに向けて、これまでのハンドアウトを見直す。
			予習60分：ハンドアウト第14回お

第14回	憲法が規定する「象徴天皇」の地位・権能、またそれを規定している皇室典範について、学習する。また、地方自治に関する規定内容について学習し、さらに、憲法改正の手續、憲法改正に関する各政党・学界・国民の考え方について理解する。	裁判員裁判に関するVTRに対するコメントを発表する。	よび『目で見える憲法』p.104～p.113を読む。 復習120分：ハンドアウト第14回に記載してある憲法や関連法令の条文、その他の内容を読んで、復習する。授業で取り上げた判例を読んで、復習する。発表されたコメントについて、自分の意見と対照させる。最終確認テストに向けて、これまでのハンドアウトを見直す。
第15回	これまでの学習について、全体をまとめ、憲法を取り巻く状況とその課題について検討する。最終確認テスト(45分間)を実施する。		予習90分：ハンドアウト8～14を確認する。 復習90分：最終確認テストの解答・解説を確認し、間違ったところを解説にチェックし、ハンドアウトで復習する。

教科書

『目で見える憲法』初宿正典・大沢秀介・他 編著 (有斐閣)

参考書

『ポケット六法』山下友信・山口厚 編集代表 (有斐閣)

成績評価の方法・基準

平常点(授業への参加度・学習態度・授業内課題等) [25%]、レポート [25%]、確認テスト [50%] を総合して評価。総合点60点以上で単位認定する。

課題等に対する

フィードバックの方法

第8回に実施する中間確認テストの解答例と解説は、第11回の授業時に行う予定である。採点した答案は、第10回の授業時に返却する予定である。第12回に提出を義務づけたレポートについては、採点および講評記載の後、第15回の授業時に返却する予定である。第15回の最終確認テストについては、解答例及び解説を「桐生大学学生共有フォルダー」の「生活科学科1年・憲法」のフォルダーにPDFファイルで掲載する。採点した答案については、希望する者には返却する。11号館3階研究室11に取りに来ること。

履修のポイント

教員免許を取得しようとする学生は、必ず履修すること。

オフィス・アワー

月・水・金曜日, 11時～15時(授業時間以外), 11号館3階研究室11

科目区分

基礎科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C012

講義コード	30050001
講義名	現代社会と経済
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	4時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員		
職種	氏名	所属
教員	◎ 飯島 正義	指定なし

授業の概要と教育目標

授業内容は、1. これまでの代表的な経済思想を知る、2. ミクロ・マクロの経済学の基礎知識を習得する、3. 経済統計や新聞記事の内容ができるようにする、という3つの内容を含んでいます。授業は、講義形式で行いますが、内容的な切れ目で「確認プリント」を実施します。本科目は、私たちの生活の身近な経済的問題からグローバルな問題までを理論的に理解できるようになることを目標とします。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連では、1. 私たちの生活の身近な問題からグローバルなテーマを多面的に理解している、という項目と関連しています。本講義を通して身近な経済的問題を理論的に理解・説明できるようになることを目指します。

到達目標

1. 代表的な経済思想の特徴を理解できるようになる
2. ミクロ・マクロの経済学の基礎理論を理解できるようになる
3. 経済指標の見方がわかるようになる

授業計画

	授業内容と方法、課題	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	経済学の成立 オリエンテーション（授業内容、授業の進め方、成績評価等） 経済学でどのようなことを学ぶのか、経済学の成立について学びます。	予習90分：シラバスをよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第2回	経済思想（1） アダム・スミスなど古典派経済学の特徴について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
	経済思想（2）	予習90分：プリント資料をよく読んでおく

第3回	歴史学派、マルクス経済学の特徴について学びます。	こと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第4回	経済思想（3） 新古典派経済学の特徴について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第5回	経済思想（4） ケインズの経済学の特徴について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第6回	国民経済の仕組み 国民経済を構成している家計・企業・政府の経済3主体とその相互関係について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第7回	市場メカニズム 市場メカニズムとは何か、需要と供給の関係、価格の決定について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第8回	市場の失敗 市場メカニズムのメリット・デメリットについて学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第9回	景気循環 景気変動がなぜ起こるのか、景気の波について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第10回	政府の役割 政府の経済に関する役割について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第11回	中央銀行の役割 中央銀行（日本銀行）の役割について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第12回	国内総生産（GDP） 国内総生産（GDP）とは何か、三面等価の原則について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第13回	経済成長 経済成長とは何か、成長要因について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第14回	貿易と国際収支 古典的な貿易理論、国際収支とは何かについて学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第15回	為替レート 為替レートとは何か、その変動要因と影響について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。

教科書

使用しません。プリント資料を配布します。

参考書

必要に応じて紹介します。

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上
筆記試験70%、平常点（確認プリントの提出、授業への取り組み等）30%

課題等に対する フィードバックの方法

授業で行った確認プリント等は、原則として次週返却します。

履修のポイント

授業のポイントの整理・まとめを着実に積み重ねて下さい。

オフィス・アワー

授業日の授業開始前もしくは終了後に教室等で質問に応じます。

科目区分

基礎科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C013

講義コード	30060001
講義名	くらしと統計
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	1時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 石井 広二	指定なし

授業の概要と教育目標

現在の情報化社会では、健康情報をはじめさまざまな数値やデータがあふれており、それらの数値を適切に扱うためには、統計的な手法の理解が必要である。そこで、偶然に起きると思われる事象から得られるデータを、数表化、視覚化したり、数学的道具を用いてより科学的に分析したりして、研究や、仕事をはじめ、社会生活に広く役立てていくことを目的にして、統計の具体的な例や、記述統計、推測統計の基礎的な理論を学ぶ。授業ではMoodleを活用する予定である。

卒業認定・学位授与の方針との関連

この授業は、生活科学科のDP「私たちの生活を身近な問題からグローバルなテーマまで多角的に理解」を目指し、数値や図表として表現されているデータの持っている意味を正しく把握する力を養う。その上で、物事を多角的に理解する力を身に付け、専門科目での科学的な学修を行うための礎となっている。

到達目標

- ・統計学の概念を理解し、説明できる
- ・データを集計し、各種統計量を求められる
- ・母平均の推定などが行える
- ・統計的仮説検定の考え方を理解し、行える

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	母集団や標本などの統計学の基本概念と数学知識の確認、電卓の使用方法 【電卓を持参すること】	振り返り課題	予習90分：高校の数学「データの分析」について、教科書等で確認 復習90分：教科書および配布教材の見直し、振り返り課題の見直し

第2回	標本抽出	振返り課題	予習90分：配布教材・教科書p17～32を読む 復習90分：教科書および配布教材の見直し、振返り課題の見直し
第3回	度数分布表の作り方	振返り課題	予習90分：配布教材・教科書p33～48を読む 復習90分：教科書および配布教材の見直し、振返り課題の見直し
第4回	中心的傾向の特性値（平均、中央値、最頻値など）の求め方	振返り課題	予習90分：配布教材・教科書p49～62を読む 復習90分：教科書および配布教材の見直し、振返り課題の見直し
第5回	変動の特性値（不偏分散、標準偏差など）の求め方	振返り課題	予習90分：配布教材・教科書のp63～76を読む 復習90分：教科書および配布教材の見直し、振返り課題の見直し
第6回	確認テスト① 確率分布の性質について（離散型確率分布） （確率p78～88については、授業中扱いませんので、各自で学習してください）		予習90分：配布教材・教科書p77～101を読む 復習90分：教科書および配布教材の見直し、確認テストの見直し
第7回	確率分布の性質について（連続型確率分布） 正規分布とは	振返り課題	予習90分：配布教材・教科書p77～114を読む 復習90分：教科書および配布教材の見直し、確認テストの見直し
第8回	正規分布の性質や標準化、標準正規分布表の見方などについて	振返り課題	予習90分：配布教材・教科書p107～130を読む 復習90分：教科書および配布教材の見直し、振返り課題の見直し
第9回	統計的有意性（有意水準、信頼係数など）	振返り課題	予習90分：配布教材・教科書p131～138を読む 復習90分：教科書および配布教材の見直し、振返り課題の見直し
第10回	標本平均の分布、中心極限定理、推定方法の基本的な考え方 正規分布と母平均の推定	振返り課題	予習90分：配布教材・教科書p139～150を読む 復習90分：教科書および配布教材の見直し、振返り課題の見直し
第11回	t分布と母平均の推定 母平均の推定のまとめ	振返り課題	予習90分：配布教材・教科書第6章を読む 復習90分：教科書および配布教材の見直し、振返り課題の見直し
第12回	母平均の推定のまとめ 統計的仮説検定の考え方（有意水	振返り課題	予習90分：配布教材・教科書第8章を読む 復習90分：教科書および配布

	準、有意確率、棄却域、仮説)		教材の見直し、振り返り課題の見直し
第13回	母平均に関する仮説検定の方法	振り返り課題	予習90分：配布教材・教科書第8章を読む 復習90分：教科書および配布教材の見直し、振り返り課題の見直し
第14回	母平均に関する仮説検定のまとめ	振り返り課題	予習90分：配布教材・教科書第8章を読む 復習90分：教科書および配布教材の見直し、振り返り課題の見直し
第15回	講義のまとめ、確認テスト②		予習90分：教科書・配布教材の見直し 復習90分：授業全体の振り返り、確認テストの見直し

教科書

「はじめての統計学」鳥居泰彦（日本経済新聞社）

参考書

「管理栄養士・栄養士のための統計処理入門」武藤志真子編著（建帛社）「完全独習統計学入門」小島寛之（ダイヤモンド社）「マンガでわかる統計学」高橋信（オーム社）など

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。授業中に課す振り返り課題40%、理解度確認のための試験60%。

課題等に対する フィードバックの方法

確認テストについて、結果が明示されますので、参考にしてください。
課題については解答を明らかにしますので、各自で確認し、疑問点は質問してください。

履修のポイント

数学的な理論には深入りせず、なるべく具体例で統計学の考え方を身に付けられるように配慮していく予定である。また、2年次の「栄養情報処理演習」ではコンピュータを用いて統計処理を扱う予定である。

- ・講義には【電卓】（平方根の機能がついたもの!）を持参すること
- ・課題については必ず自分の力で解き、疑問点などは質問すること
- ・授業に欠席（公欠も含む）した場合は、授業の課題等を確認すること

オフィス・アワー

火曜日の昼休み。それ以外の曜日・時間については、授業の際に伝える。また、研究室は9号館3階第11研究室。

科目区分

基礎科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C014

講義コード	30070001
講義名	くらしと現代科学
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	1時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋爪 博幸	指定なし

授業の概要と教育目標

私たちの生活のなかで、身近に接する物質や現象に注目し、物質の性質や製品への活用方法をみていく。最初に物質を構成する原子や元素について知り、そのあとで洗剤や食物、薬やセラミックスなど私たちの身のまわりにある製品や材料について、それらのミクロの構造を解き明かし、それらの用途をみていく。物質やエネルギーの活用事例を豊富に取り上げ、私たちの周りに最先端科学の成果が生かされていることを学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

私たちの日々の生活のなかで、数多くの製品やサービスと、最新の科学の成果とが深い関係で結ばれていることに気づく。生活科学科のディプロマポリシーにある「生活を取り巻く社会的環境について、科学的に理解」することに関係し、その活用用途を探る。

到達目標

暮らしに密着した物質や製品について基本的な事象を理解する。間違った情報に振り回されず、客観的な判断ができる社会人になるための必要な知識を習得する。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブ ラーニングの 内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	橋爪博幸	現代科学（自然科学）の区分について、また物理変化と化学変化の違いについて理解する。		『化学の基礎』第1章1頁～6頁を事前に読んでおく（90分）。復習として配布プリントを見直す（90分）。
第2回	橋爪博幸	原子の構造を知り、さまざまな化学反応とそれに伴う熱の出入りについて調べ、まとめる。		『化学の基礎』第1章7頁～9頁を事前に読んでおく（90分）。復習として配布プリントを見直す（90分）。
	橋	熱を発生させたり冷やしたりする化学反応の具体	簡単な発熱反	『化学の基礎』第1章10頁～12頁を事前に読んでおく（90分）。復習

第3回	爪博幸	例を確認しつつ、その化学変化を熱化学方程式に置き換えて理解する。	応を確認し、レポートにまとめる。	として配布プリントを見直す(90分)。レポートを作成する(90分)。
第4回	橋爪博幸	酸と塩基の性質を確認し、身近でみられる中和反応について調べる。	身近な食品や生活製品に含まれる酸や塩基を調査し、一覧表にまとめる。	『化学の基礎』第2章13頁～20頁を事前に読んでおく(90分)。復習として配布プリントを見直す(90分)。一覧表を作成する(90分)。
第5回	橋爪博幸	さまざまな繊維について知る。合成繊維と天然繊維の違いを理解する。保温性に優れる羊毛繊維の特長をみていく。		『化学の基礎』第3章23頁～32頁を事前に読んでおく(90分)。復習として配布プリントを見直す(90分)。
第6回	橋爪博幸	洗剤の種類、石鹼と合成界面活性剤の違いについて調べる。		『化学の基礎』第4章33頁～44頁を事前に読んでおく(90分)。復習として配布プリントを見直す(90分)。
第7回	橋爪博幸	炭水化物やたんぱく質、ビタミンのいくつかについて化学構造の観点から理解する。		『化学の基礎』第5章68頁～78頁を事前に読んでおく(90分)。復習として配布プリントを見直す(90分)。
第8回	橋爪博幸	発酵食品とそれに関係する微生物、その働きを化学反応を踏まえつつ見ていく。発酵と腐敗の違いを理解する。		『化学の基礎』第7章76頁～78頁を事前に読んでおく(90分)。復習として配布プリントを見直す(90分)。レポート課題を出すので、期日までに仕上げて提出する。
第9回	橋爪博幸	コロイドについて理解する。身近な食品のなかにコロイドをふくむ食品が数多くあることに気づく。		『化学の基礎』第8章79頁～84頁を事前に読んでおく(90分)。復習として配布プリントを見直す(90分)。
第10回	橋爪博幸	薬の化学的成分とその効能、薬と食べ物との相互作用についてまとめる。		『化学の基礎』第9章91頁～98頁を事前に読んでおく(90分)。復習として配布プリントを見直す(90分)。
第11回	橋爪博幸	薬の服用に際して注意すべきことをまとめる。副作用の存在や依存症の危険があることを知る。		『化学の基礎』第9章99頁～102頁を事前に読んでおく(90分)。復習として配布プリントを見直す(90分)。レポート課題を出すので、期日までに仕上げて提出する。
第12回	橋爪博幸	食器や容器などの素材を知る。私たちの身近にあるセラミックス製品を調べる。		『化学の基礎』第11章114頁～124頁を事前に読んでおく(90分)。復習として配布プリントを見直す(90分)。
第13回	橋爪博幸	電気エネルギーをうむ発電のしくみと、今日の最新の電池について調べる。		『化学の基礎』第12章125頁～133頁を事前に読んでおく(90分)。復習として配布プリントを見直す(90分)。
	橋	さまざまな調理器具に注目し、とくに電子レンジ		『化学の基礎』第13章135頁

第14回	爪博幸	やIHクッキングヒータの仕組みを見ていく。電磁誘導の原理を再確認する。	～144頁を事前に読んでおく(90分)。復習として配布プリントを見直す(90分)。
第15回	橋爪博幸	自然と人間との関係を探り、今日の科学の功罪を捉える。	『化学の基礎』第14章150頁～166頁を事前に読んでおく(90分)。復習として配布プリントを見直す(90分)。

教科書

『身の回りから見た化学の基礎』 化学同人、最新版

参考書

講義のなかで必要なとき紹介する。

成績評価の方法・基準

単位認定 60 点以上 課題の提出 (20%)、期末試験 (80%) をもとに総合的に評価する。

課題等に対する フィードバックの方法

提出された課題は確認後、コメントを記入して返却する。こちらで求めた内容を授業内でパワーポイントを使い、口頭で解説する。

履修のポイント

休まず出席してください。授業は限られた回数しかないので、一回の欠席でも、授業の一項目がすっかり抜け落ちてしまいます。レポート課題は、かならず提出してください。

オフィス・アワー

水曜日の昼休みをオフィス・アワーとする。9号館3階の第10研究室に来てください。

科目区分

基礎科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C031

講義コード	30080001
講義名	情報社会とくらし
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	4時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 石井 広二	指定なし

授業の概要と教育目標

現代の我々のくらしでは、情報化・ネットワーク化が進展し、音楽や映像といったエンタテインメントをはじめ、コンピュータ、スマートフォンや携帯電話などコミュニケーションの方法も大きく様変わりしている。それらの変化に対応するために、マルチメディアやインターネットなど最新技術の動向などについて体系的に学びながら、変化が激しい情報化社会において生活するために必要な知識（情報リテラシ、メディアリテラシ）を身に付け、実生活で役立てるようになることを目標とする。
また、授業ではMoodleを活用する予定である。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のDPとの関連として、ICTを中心に、「身近な問題からグローバルなテーマまで」扱いながら、我々の「生活」を「多角的に理解」する力を養う。そして専門科目における「社会的環境について、科学的に理解」するための基礎的な能力となる。

到達目標

- ・コンピュータやインターネットの仕組みを理解し、説明できる
- ・新しいメディアへ対応できるようになる
- ・ネットワーク社会で問題となっていることを理解し、安全に利用できる

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	アナログ・デジタル、マルチメディア構成要素		予習90分：教科書を読む 復習90分：教科書と配布資料を見直し、授業の振り返りを行う
第2回	インタラクティブ、ユーザインタフェース		予習90分：教科書を読む 復習90分：教科書と配布資料を見直し、授業の振り返りを行う

第3回	ハードウェア、ソフトウェア、周辺機器 課題：PCを1つ選び、その特徴を説明		予習90分：教科書を読む 復習90分：教科書と配布資料を見直し、授業の振り返りを行う、課題を作成する
第4回	ファイルフォーマット、文書処理		予習90分：教科書を読む 復習90分：教科書と配布資料を見直し、授業の振り返りを行う
第5回	画像処理、映像処理		予習90分：教科書を読む 復習90分：教科書と配布資料を見直し、授業の振り返りを行う
第6回	インターネットの仕組み、モバイル通信		予習90分：教科書を読む 復習90分：教科書と配布資料を見直し、授業の振り返りを行う
第7回	WWW、電子メール、SNS		予習90分：教科書を読む 復習90分：教科書と配布資料を見直し、授業の振り返りを行う
第8回	コンピュータウイルス、ネットワークセキュリティ		予習90分：教科書を読む 復習90分：教科書と配布資料を見直し、授業の振り返りを行う
第9回	知的財産権、個人情報保護		予習90分：教科書を読む 復習90分：教科書と配布資料を見直し、授業の振り返りを行う
第10回	オンラインショッピング、ネットマーケティング		予習90分：教科書を読む 復習90分：教科書と配布資料を見直し、授業の振り返りを行う
第11回	情報家電、映像コンテンツ		予習90分：教科書を読む 復習90分：教科書と配布資料を見直し、授業の振り返りを行う
第12回	ICカード、ITS 医療・福祉、学術、行政・政治		予習90分：教科書を読む 復習90分：教科書と配布資料を見直し、授業の振り返りを行う
第13回	プレゼンテーション課題のまとめ (1)	これからの社会と暮らしについて、いくつかのテーマの中から選び、プレゼンテーション資料としてまとめる	予習90分：教科書を読む 復習90分：プレゼンテーション課題をまとめる
第14回	プレゼンテーション課題のまとめ (2)	引き続き、プレゼンテーション資料としてまとめる	予習90分：教科書を読む 復習90分：プレゼンテーション課題をまとめる
第15回	まとめ課題のプレゼンテーションを実施	お互いのプレゼンテーションについて、コメントを行う	予習90分：プレゼンテーション資料の確認 復習90分：授業全体の振り返りを行う

教科書

「入門マルチメディア ITで変わるライフスタイル」 CG-ARTS協会

参考書

「マルチメディアと情報化社会」「入門Webデザイン」「入門CGデザイン」「Webデザイン」「デジタル映像表現」(財団法人 画像情報教育振興協会)

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。授業中に課す課題・振り返り50%、まとめの課題とその関わり方50%。

課題等に対する フィードバックの方法

日々の振り返りについて、全体にコメントをします。
課題については、お互いに評価をしてもらい、その結果について、コメントをします。
プレゼンテーションについては、全体にコメントをします。

履修のポイント

コンピュータやインターネットなどに興味を持ち、積極的に関わっていくことが必要です。

オフィス・アワー

火曜日の昼休み。それ以外の曜日・時間については、授業の際に伝える。また、研究室は9号館3階第11研究室。

科目区分

基礎科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C032

講義コード	30090001
講義名	生活と社会 (H31入学)
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	通年
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員		
職種	氏名	所属
教員	◎ 橋本 まさ子	指定なし

授業の概要と教育目標

短期大学部2年間在学中に、大学主催の講演会（犯罪防止、公開講座）、外部研修（事前指導・事後報告を含む）、海外研修を経験・体験して、個人個人の社会性の向上を図る内容の授業である。さらに就職活動（進学）については、キャリアガイダンスへの参加や個人指導などの実施から社会に出るための意識付けを行ない、卒業後の進路の決定を確実にする。このように2年間の学生生活のなかで社会に出る前の基礎知識（教養）および応用力を身につけ、多くの体験・経験することにより社会で求められる学生の育成が目標である。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーの関連として、生活を身近な問題からグローバルなテーマまで多角的に理解する。体験学習を通じて教養、専門性（応用力）を習得することが教育目標である。将来的には2年間の学習成果を生かせることをめざす。

到達目標

キャリアガイダンス、海外研修、公開講座等の経験・体験学習を通じて、教養を習得し、現場に出て役に立つ社会人となることが到達目標である。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	現代社会の仕組み：社会に出る前の企業を中心とする経済活動、企業の制度		事前準備180分以上
第2回	犯罪防止講演に参加する。		終了後のレポート作成に180分以上
第3回	毎年行われる公開講座（1年次、2年次）に参加し、教養を深める		事前準備に60分終了後のレポート作成に120分以上
第4回	ボランティア入門：共生社会の実現、人		事前準備に90分終了後のレポート作成

	間力・社会力・市民力、国際協力活動		に120分以上
第5回	就職活動とは（進学とは）：エントリーシート、履歴書、面接（集団・個人）、実地試験、内定後の研修	エントリーシート、履歴書の記入をする。	就職に必要な書類の作成に180分以上
第6回	キャリアガイダンス（1年次、2年次）では、就職担当者から就職状況についての説明がある。	ハローワークによる、集団面接指導の実施。	就職に必要な書類の作成に180分以上
第7回	キャリアガイダンス（1年次、2年次）については、2年生から就職体験談の発表があり質問形式で実施される。	ハローワークによる、個別の面接指導の実施。	事前縦鼻に60分、就職に必要な書類の作成に180分以上
第8回	事前指導では、担任から海外研修の趣旨・概要の説明がある。		事後学習のため180分以上
第9回	国内外研修旅行（2年次に研修内容が決定）		事前課題のために180分以上
第10回	国内外研修旅行（2年次に研修内容が決定）	各グループで情報を共有する	事前資料収集のために120以上、予習に60分
第11回	国内外研修旅行（2年次に研修内容が決定）	各グループで情報を共有する	事前準備のために120分以上、復習に60分
第12回	国内外研修旅行（2年次に研修内容が決定）	各グループで情報を共有する 事前調査書類についての説明	事前調査書類作成のために180分以上
第13回	国内外研修旅行（2年次に研修内容が決定）	各グループで情報を共有する 事前課題の提出	事前課題作成のために180分以上
第14回	国内外研修旅行（2年次に研修内容が決定）	各グループで情報を共有する	まとめのための資料作りに180分以上
第15回	社会人になるための基礎知識・応用力の総まとめ 学生生活2年間を振り返る		まとめの資料作り180分以上

教科書

授業で適宜配布する。

参考書

授業で適宜紹介する。

成績評価の方法・基準

単位認定 50 点以上。レポート(50%)、課題(50%)を総合して評価する。

課題等に対する フィードバックの方法

レポートおよび課題は採点后返却するので授業の参考にすると良い。

履修のポイント

基本と応用の両面から内容を理解することが望ましい。

オフィス・アワー

月曜日12：30～13：20（お昼休み）または、放課後（16：40～18：00）研究室は9号館2階第5研究室。

科目区分

基礎科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-C033

講義コード	30090002
講義名	生活と社会 (R2入学)
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	通年
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員		
職種	氏名	所属
教員	◎ 橋本 まさ子	指定なし

授業の概要と教育目標

短期大学部2年間在学中に、大学主催の講演会（犯罪防止、公開講座）、外部研修（事前指導・事後報告を含む）、海外研修を経験・体験して、個人個人の社会性の向上を図る内容の授業である。さらに就職活動（進学）については、キャリアガイダンスへの参加や個人指導などの実施から社会に出るための意識付けを行ない、卒業後の進路の決定を確実にする。このように2年間の学生生活のなかで社会に出る前の基礎知識（教養）および応用力を身につけ、多くの体験・経験することにより社会で求められる学生の育成が目標である。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーの関連として、生活を身近な問題からグローバルなテーマまで多角的に理解する。体験学習を通じて教養、専門性（応用力）を習得することが教育目標である。将来的には2年間の学習成果を生かせることをめざす。

到達目標

キャリアガイダンス、海外研修、公開講座等の経験・体験学習を通じて、教養を習得し、現場に出て役に立つ社会人となることが到達目標である。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	橋本まさ子	短期大学部でのオリエンテーション 2年間の学生生活（生活科学科の学び、資格取得について他）	自己紹介、情報交換他	事前準備120分以上
第2回	橋本まさ子	講義の受け方、履修の仕方、成績の取得方法、課題提出方法、他		終了後のレポート作成に180分以上

	子			
第3回	橋本まさ子	健康に過ごすための食生活、学生生活における安全と衛生、犯罪防止講演に参加する。		事前準備に90分、終了後のレポート作成に90分以上
第4回	橋本まさ子	毎年行われる公開講座（1年次、2年次）に参加し、教養を深める		事前縦鼻に90分、終了後のレポート作成に90分以上
第5回	橋本まさ子	キャリアガイダンス：就職活動とは（進学とは）：エントリーシート、履歴書、面接（集団・個人）、実地試験、内定後の研修	エントリーシート、履歴書の記入をする。	就職に必要な書類の作成に180分以上
第6回	橋本まさ子	国内外研修旅行：事前指導では、担任から海外研修の趣旨・概要の説明がある。	各グループで情報を共有する	事前資料収集のために120分以上、復習に60分以上
第7回	橋本まさ子	国内外研修旅行（2年次に研修内容が決定）	ハローワークによる、集団面接指導の実施。	事前資料収集のために120分以上、復習に60分以上
第8回	橋本まさ子	社会人になるための基礎知識・応用力の総まとめ 学生生活2年間を振り返る。	ハローワークによる、個別の面接指導の実施。	まとめの資料作り180分以上

教科書

授業で適宜配布する。

参考書

授業で適宜紹介する。

成績評価の方法・基準

単位認定 60 点以上。レポート(50%)、課題(50%)を総合して評価する。

課題等に対する フィードバックの方法

レポートおよび課題は採点后返却するので授業の参考にすると良い。

履修のポイント

基本と応用の両面から内容を理解することが望ましい。

オフィス・アワー

月曜日12：30～13：20（お昼休み）または、放課後（16：40～18：00）研究室は9号館2階第5研究室。

科目区分

基礎科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C033

講義コード	30100001
講義名	くらしと英会話
(副題)	【教職必修(共通)】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	3時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	高校で「英文法」、英会話学校で「英会話」の講師として、また実用英語検定面接委員としての経験を活かし、実践的な英語教授法をもとに学生の英語能力の向上を計っている。
学年	1学年

担当教員		
職種	氏名	所属
教員	◎ 野中 博雄	指定なし

授業の概要と教育目標

英語の様々な状況による会話表現を習得すればコミュニケーション力は向上する。本科目では、英語コミュニケーション力の向上のため、状況に応じた「生活英語」に関連する英会話表現の習得を図る。また英会話表現においては、単語レベルでは発音、アクセントの正確さが重要あり、文レベルではイントネーションやセンテンス・ストレス（文強勢）を正確に付けることが会話での重要な要素となるので、それらの観点からも学習する予定である。本科目では、状況に応じた「生活英語」に関する英会話表現を習得し、英語コミュニケーション力の向上を目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーの1つである「私たちの生活を身近な問題からグローバルなテーマまで多角的に理解している」ことを目指し、状況による英会話表現の学習を通して、コミュニケーション力の向上と英語使用者の生活文化の理解を深める。

- 到達目標**
1. CDやインターネットによる発音・ヒアリング練習に慣れる。
 2. インターネットの辞書・翻訳機能を利用できるようにする。
 3. Exerciseの解答や課題の作成はワードやエクセルで出来るようにする。
 4. 英語を使って日常生活に関するコミュニケーションがストレスなくできるようになる。
 5. 発音、アクセント、イントネーション、センテンス・ストレスなどの重要性を理解する。

授業計画				
	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	野中博	オリエンテー	1. 評価方法、授業の進め方等の説明 2. 課題：英語に対する自己の印象、自己紹介、ある語の連想語な	

	雄	シヨン	どの質問に対する答えを作成する。	
第2回	野中博雄	写真を撮る	Dictation, Conversation Practice, Composition, Translation 会話文はペアで練習する。 課題： ペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第3回	野中博雄	レストランで	Dictation, Conversation Practice, Composition, Translation 会話文はペアで練習する。 課題： ペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第4回	野中博雄	健康や体調	Dictation, Conversation Practice, Composition, Translation 会話文はペアで練習する。 課題： ペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第5回	野中博雄	テレビ	Dictation, Conversation Practice, Composition, Translation 会話文はペアで練習する。 課題： ペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第6回	野中博雄	スポーツ	Dictation, Conversation Practice, Composition, Translation 会話文はペアで練習する。 課題： ペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第7回	野中博雄	確認する	Dictation, Conversation Practice, Composition, Translation 会話文はペアで練習する。 課題： ペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第8回	野中博雄	タクシーに乗る	Dictation, Conversation Practice, Composition, Translation 会話文はペアで練習する。 課題： ペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第9回	野中博雄	機内で	Dictation, Conversation Practice, Composition, Translation 会話文はペアで練習する。 課題： ペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第10回	野中博雄	空港での出迎え	Dictation, Conversation Practice, Composition, Translation 会話文はペアで練習する。 課題： ペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第11回	野中博雄	感想を聞く	Dictation, Conversation Practice, Composition, Translation 会話文はペアで練習する。 課題： ペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第12回	野中博雄	忠告する	Dictation, Conversation Practice, Composition, Translation 会話文はペアで練習する。 課題： ペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第13回	野中博雄	許可を求める	Dictation, Conversation Practice, Composition, Translation 会話文はペアで練習する。 課題： ペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第14回	野中	招待す	Dictation, Conversation Practice, Composition, Translation	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復

	博雄	る	会話文はペアで練習する。 課題： ペアで作成し、提出する。	習90分：既習内容の確認。
第15回	野中博雄	Review	Course Reviewing	復習90分：コース全体の既習内容の復習をするので、配布資料を確認し、まとめておくこと。

教科書

Checkbook for English You Need (南雲堂)

参考書

副教材: Internet Materials (毎回 英語の歌などの聞き取りをする)

成績評価の方法・基準

単位認定: 60点以上 (筆記試験50%、課題20%、授業参加度30%)

課題等に対する フィードバックの方法

課題は次回の週に返却し、共通する間違い等について説明するので、指摘内容を理解して以後間違いの無いようにすること。

履修のポイント

ペアワークでの課題や授業での積極性 (授業参加度) が最終評価に影響するので積極的に授業に臨むことが必要。

オフィス・アワー

授業の前後の時間が可能。

科目区分

基礎科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C015

講義コード	30110001
講義名	ことばと文化
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	2時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	学校現場での教員経験を活かし、作文、要約、発表原稿などさまざまな表現の仕方についての知識を深めていく授業を展開する。
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 簗輪 欣房	指定なし

授業の概要と教育目標

実社会では1000字程度の文章を書く機会は多くあります。文章を書くのが苦手な人も文章を書くルールを意識して、短文、長文の書き方を学び、実践のためのトレーニングを進めていきます。そして、「しっかりと書ける」ようになってもらいたいと考えています。何事も練習してそのノウハウを一度身に付ければ比較的簡単に文章が書けるようになります。そのために200字程度の短い文章の書き方から始まり、小論文と進みます。そして、文章力をアップさせるために他人の書いた文章を添削することを通して自らの文章力をアップさせる。

卒業認定・学位授与の方針との関連

自らの考え、意見を伝えたり、反対に他人の意見や考えを聞くことは社会人として求められている能力のひとつである。

到達目標

- 1)大学の学びの場で求められるさまざまな文章表現の形式を理解し、自ら実践できるようになる。
- 2)自らの考え、意見を適切な文章で伝えることができるようになる。
- 3)論理的文章を書く手順を身に付け、書くことができるようになる。
- 4)様々な私信、ビジネス文書を書くことができるようにする。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	オリエンテーション 「要約」にチャレンジしてみよう	提示された課題を各自が要約し、発表する。	復習90分 配布されたプリント等を用いて復習すること
第2回	短い文章を書くときの2つの基本型について	短い文章を書く型Aを用いて各自が書いたものを発表する。	予習90分：復習90分 配布されたプリント等を用いて基本型Aについて復習すること

	基本A型		
第3回	短い文章を書くときの2つの基本型について 基本B型	短い文章を書く型Bを用いて各自が書いたものを発表する。	予習90分：復習90分 配布されたプリント等を用いて基本型Bについて復習すること
第4回	短い文章を書くときの2つの基本型について 知的な文章を書くときの型	知的な文章を書くときの型を用いて各自が書いたものを発表する。	予習90分：復習90分 配布されたプリント等を用いて知的な文章を書く時の型について復習すること
第5回	短い文章を書くときの2つの基本型について 総括と詳細を説明し、文章を整理する	総括と詳細を説明する文章を書き、それを発表する。	予習90分：復習90分 配布されたプリント等を用いて総括と詳細を説明する文章について復習すること
第6回	短い文章を書くときの2つの基本型について 出来事と感想を書くときの型	出来事と感想を書き、それを発表する。	予習90分：復習90分 配布されたプリント等を用いて出来事と感想を書くことについて復習すること
第7回	短い文章を書くときの2つの基本型について 目的と方法を書くときの型	目的と方法の文章を書き、それを発表する。	予習90分：復習90分 配布されたプリント等を用いて目的と方法を書くことについて復習すること
第8回	文章のルールを意識して書く 話し言葉と書き言葉を区別する	話し言葉と書き言葉の区別を理解し、各自で文章を書き、それを発表する。	予習90分：復習90分 配布されたプリント等を用いて話し言葉と書き言葉の区別について復習すること
第9回	文章のルールを意識して書く 読点の打ち方と段落の変え方	読点の打ち方、段落の変え方を理解し、文章を書き、それを発表する。	予習90分：復習90分 配布されたプリント等を用いて読点の打ち方や段落の変え方について復習すること
第10回	文章のルールを意識して書く 一文を短くして文法的に正しい日本語を用いる	提示された課題文を一文を短くするようし、書き、それを発表する。	予習90分：復習90分 配布されたプリント等を用いて一文を短くし、文法的に正しい日本語について復習すること
第11回	文章のルールを意識して書く 敬体と常体どちらかに統一する	敬体と常体を理解し、文章を書き、それを発表する。	予習90分：復習90分 配布されたプリント等を用いて敬体と常体について復習すること
第12回	文章をきちんと読み取る	提示された課題文から何が書かれているのかを各自が読み取り、それを発表する。	予習90分：復習90分 配布されたプリント等を用いて文章をきちんと読み取ることについて復習すること
第13回	他人の書いた文章を添削する	他人が書いた文章を各自が添削して見たことを発表する。	予習90分：復習90分 配布されたプリント等を用いて添削することについて復習すること
第14回	言い換える力を鍛える その場にあった	その場にあった表現に提示された課題分を変えて、そ	予習90分：復習90分 配布されたプリント等を用いて言い換えたり、その場にあった表現

	表現が使えるように	れを発表する。	が使えることについて復習すること
第15回	自己PR書を書いてみる	各自が自分の事をPRする文章を書いてみる。	自らのPR等を書く時にはどのように書くのかについて復習しておく

教科書

特に使用しないが適宜授業時にプリントを配布する。

参考書

樋口裕一 著『やさしい文章術』中公新書
 秋岡伸彦 著『文章表現テキスト』東京農業大学出版会
 岡田啓助 他著『演習文章表現』おうふう
 野田尚史・森口稔著『日本語を書くトレーニング』ひつじ書房

成績評価の方法・基準

○成績評価の基準

1. 文章の書き方に関する基礎的、基本的事項を理解しているか。
2. 分かりやすい表現方法や明瞭かつ論理的な文章を作成する力がついたか。

○評価の方法

単位認定60点以上

授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。

- 1 積極的態度（発言、討議、取り組み等） 総合点の30%
- 2 毎回の課題 総合点の70%

課題等に対する

フィードバックの方法

提出された課題についてはコメントを加筆して次時の授業時に返却する。

履修のポイント

毎回それぞれの場面を設定して書くことが求められますのでその課題に対応できるようになるためにもいろいろな本を読んでください。

科目区分

基礎科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C034

講義コード	30120001
講義名	健康とスポーツ
(副題)	【教職必修(共通)】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	3時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員		
職種	氏名	所属
教員	◎ 武井 英夫	指定なし

授業の概要と教育目標

本授業は、数種目の運動・スポーツと講義から構成されている。運動・スポーツの基本スキルを身につけ、練習やゲームを通して運動・スポーツの楽しさを味わいながら授業を進めていく。そして、健康の維持・増進を図るためには、他者との関わりの中でコミュニケーションをとりながら、運動・スポーツを継続することの必要性を学ぶ。なお本科目は、運動・スポーツを科学的に理解して、基本スキルの習得と生涯にわたって運動・スポーツに取り組もうとする意識を高めることを目標としている。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部生活学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、生活を取り巻く社会的環境について、科学的に理解していることが求められており、スポーツの科学的な理解や実践を通して、その目標達成に必要な知識や体力を養う。

到達目標

1. 自己の体力レベルや健康状態を把握することができる。
2. 運動・スポーツの基礎知識、各スポーツ種目の歴史、基本スキルを習得することができる。
3. 自らコミュニケーションをとって活動することができる。
4. 生涯にわたって運動・スポーツに取り組もうとする資質を身につけることができる。
5. 種目の得意・不得意にとらわれず、運動・スポーツを楽しむことができる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	武井英夫	オリエンテーション (授業の概要、成績評価、諸注意など) 体育概論① (運動・スポーツ		予習60分：シラバスを読む。「生活習慣病とは何か」について調べる。 復習60分：配布資料を見直す。

		のすすめ)	
第2回	武井英夫	バドミントン① (バドミントンの歴史、ルールの確認とシングルス)	予習60分：バドミントンの歴史やルールを調べる。 復習60分：本日行った運動について確認する。
第3回	武井英夫	バドミントン② (基本スキルの習得とダブルスのゲーム)	予習60分：バドミントンのダブルスのゲーム方法を調べる。 復習60分：本日行った運動について確認する。
第4回	武井英夫	バドミントン③ (シングルスやダブルスのゲーム)	各自が作戦を立ててゲームに取り組む。 予習60分：バドミントンのシングルスやダブルスの戦術を調べる。 復習60分：本日行った運動について確認する。
第5回	武井英夫	フットサル① (フットサルの歴史とルール把握、簡易ゲーム)	予習60分：フットサルの歴史やルールを調べる。 復習60分：本日行った運動について確認する。
第6回	武井英夫	フットサル② (基本スキルの習得とゲーム)	予習60分：フットサルの基本スキルについて調べる。 復習60分：本日行った運動について確認する。
第7回	武井英夫	フットサル③ (基本スキルの習得とリーグ戦のゲーム)	各チームごとに話し合い、ポジションやフォーメーションを決め、作戦を立ててゲームに取り組む。 予習60分：フットサルの戦術について調べる。 復習60分：本日行った運動について確認する。
第8回	武井英夫	ソフトバレーボール① (ソフトバレーボールの歴史とルール把握、簡易ゲーム)	予習60分：ソフトバレーボールの歴史やルールを調べる。 復習60分：本日行った運動について確認する。
第9回	武井英夫	ソフトバレーボール② (基本スキルの習得とルール把握、ゲーム)	予習60分：ソフトバレーボールの基本スキルを調べる。 復習60分：本日行った運動について確認する。
第10回	武井英夫	ソフトバレーボール③ (リーグ戦のゲーム)	各チームごとに話し合い、ポジションを決め作戦を立ててゲームに取り組む。 予習60分：ソフトバレーボールの戦術やゲーム方法について調べる。 復習60分：本日行った運動について確認する。
第11回	武井英夫	バレーボール (バレーボールの歴史、フォーメーションの理解、ゲーム)	予習60分：バレーボールの歴史、フォーメーションについて調べる。 復習60分：本日行った運動について確認する。
第12回	武井英夫	ネットボール① (ネットボールの歴史とルール把握、ゲーム)	予習60分：ネットボールの歴史、行われている国、ルールについて調べる。 復習60分：本日行った運動について確認する。

第13回	武井英夫	ネットボール② (基本スキルの習得とゲーム)	各チームごとに話し合い、ポジションの決定や作戦を立ててゲームに取り組む。	予習60分：ネットボールの基本スキルと戦術について調べる。 復習60分：本で行った運動について確認する。
第14回	武井英夫	ユニホック (ユニホックの歴史、基本スキルの習得、ルール理解、ゲーム)		予習60分：ユニホックの歴史、基本スキルやルールについて調べる。 復習60分：本で行った運動について確認する。
第15回	武井英夫	体育概論② (生涯スポーツと競技スポーツ、学校スポーツ)		予習60分：生涯スポーツと競技スポーツ、学校スポーツの共通点と相違点について調べる。 復習60分：配布資料を見直す。

教科書

特定の教科書は使用しない。資料は必要に応じて配布する。

参考書

必要に応じて紹介する。

成績評価の方法・基準

実単位認定60点以上
実技試験40%、課題・レポート20%、授業への参加度40%

課題等に対する フィードバックの方法

授業内でレポートや課題を課すことがある。返却するので授業内容の理解に役立てること。

履修のポイント

授業への積極的な取り組みを期待します。特に指定はしませんが、季節にあった運動着、運動靴（体育館用シューズ・グラウンド用シューズ）を準備してください。

オフィス・アワー

講義前後に、適宜受け付けます。

科目区分

基礎科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C035

講義コード	30121001
講義名	データサイエンス
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	3時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 石井 広二	指定なし

授業の概要と教育目標

世界ではデジタル化・グローバル化が進み、社会・産業が大きく変化してきている。特に様々なものがデータでつながるSociety5.0の社会においては、データサイエンス・AIはデジタル社会の基礎知識として捉えられ、すべての学生が身に付けておくべき素養である。そのため、この授業ではデータサイエンスの基礎的な知識や、活用事例、演習を通して、データサイエンス・AIを日常生活や仕事等の場で扱うことができる基礎的な素養を身に付け、人間中心のAI社会において、適切に判断、活用できるようになることを目指す。
 なお、授業にはMoodleを活用して、グループワークなどを行う予定である。

卒業認定・学位授与の方針との関連

この授業は、生活科学科のDP「私たちの生活を身近な問題からグローバルなテーマまで多角的に理解」を目指し、数値や図表として表現されているデータの持っている意味を正しく把握し、それが社会でどのように活用されているかを理解する力を身に付ける。

到達目標

- ・データサイエンスを学ぶ意義を理解する
- ・社会でデータサイエンスがどのように活用されているか説明できる
- ・データを適切に読み解き、判断し、活用できる

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	データサイエンスの概要		予習90分：教科書の第1章を読む 復習90分：教科書および配布教材の見直し
第2回	データ分析の基礎		予習90分：教科書の第2章を読む 復習90分：教科書および配布教材の見直し
第3回	データサイエ		予習90分：教科書の第3章を読む 復習90分：教科書および配布教

	ンスの手法		材の見直し
第4回	データサイエンスの応用事例 (1) マーケティングの事例など		予習90分：教科書の第5章を読む 復習90分：教科書および配布教材の見直し
第5回	データサイエンスの応用事例 (2) Webサービスでの事例など		予習90分：教科書の第5章を読む 復習90分：教科書および配布教材の見直し
第6回	データ分析演習 (1)	RESASやe-Statなどのデータを利用して、実際にグループで演習を行う予定	予習90分：教科書の第4章を読み、Excelの使い方を復習 復習90分：教科書および配布教材の見直し
第7回	データ分析演習 (2)	RESASやe-Statなどのデータを利用して、実際にグループで演習を行う予定	予習90分：教科書の第4章および配布資料で、データ分析手法について確認 復習90分：教科書および配布教材の見直し
第8回	データ分析のまとめ	グループでまとめた内容について、一部発表予定	予習90分：グループ課題について確認 復習90分：授業全体の振り返り

教科書

「データサイエンス入門」(学術図書出版) 竹村彰通他編

参考書

適宜紹介する

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。授業中に課すグループ課題の内容と取組70%、その他の課題30%。

課題等に対する フィードバックの方法

課題については、お互いに評価をしてもらい、その結果について、コメントをします。

履修のポイント

Moodleを活用し、グループで課題を進めたり、お互いに評価したりしますので、積極的に取り組んでください。
また、日々の生活における活用事例などを意識してみることも重要です。

オフィス・アワー

火曜日の昼休み。それ以外の曜日・時間については、授業の際に伝える。また、研究室は9号館3階第11研究室。

科目区分

基礎科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-R036

講義コード	30130001
講義名	生活科学概論
(副題)	【教職必修（家庭）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	2時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	高等学校等で家庭科の授業を担当した経験をもとに、実践的な授業を展開する。
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋本 まさ子	指定なし

授業の概要と教育目標

生活科学は、家政学から出発して生活全体を科学する学問であり、対象は衣食住を主体にした幅広い学問である。そこで、本学の学生が授業を通して、これからの人生設計の参考になることをめざす。本授業は、生活を育くむところに着目して、衣食住のほかに生活の中の人間関係、家族のかかわり、生活の中の自然環境など現状に対応できる授業内容。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーの関連として、生活科学の基礎となる衣食住に関する事柄について、さらに生活を取り巻く社会的環境について、科学的に理解することを養う。そして将来的な展望としては、多様な人間のライフステージ、ライフサイクルを理解する基礎となる学修をめざす。

到達目標

生活科学の基礎となる衣食住に関する事柄について、さらに生活を取り巻く社会的環境について、科学的に理解する。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために 必要な時間
第1回	オリエンテーション 生活科学科の学び (授業の概要、成績評価) 現代社会の状況（長寿社会）を知り、人生のマネージメントを思案して学生生活での目標を考えさせる。		予習60分： 教科書 第1章を読む 復習90分： 授業内容の 復習
			予習60分： 教科書

第2回	身体活動、エクササイズ、生きるためにはなどの項目についての講義内容。		第2章を読む 復習90分： 授業内容の復習
第3回	人生を3つのライフステージに区分して、それぞれの特長について学修する。	一人一人が健康に関する自己管理能力に気づき、身につける講義内容。健康について意見交換をさせ、さらに気づかせる。	予習60分： 教科書 第3章を読む 復習120分： 授業内容の復習
第4回	環境問題をとらえた講義内容。インターネット等の情報機器を使用することにより、最近の問題を取り上げ考えさせる講義内容。		予習60分： 教科書 第4章を読む 復習120分： 授業内容の復習
第5回	社会生活について取り上げ、個々の関わり方を考えさせる講義内容。	卒業後の自分について考えさせ、レポートにまとめさせる。	予習60分： 教科書 第5章を読む 復習120分： 授業内容の復習
第6回	家族について、身近にある人的（子ども、高齢者）問題を取り上げ、そこから課題を導く講義内容。 自分の家族について考えさせ、これからのような関わりが必要なのか考える講義内容。		予習60分： 教科書 第6章を読む 復習120分： 授業内容の復習
第7回	社会人とは、卒業後の自分の姿について考えさせ、まとめさせる講義内容。課題「卒業後の自分について」		予習60分： 教科書 第7章を読む 復習120分： 授業内容の復習
第8回	現代の若者が生きるために必要とする経費について、親世代および次世代について、人生デザインをさせ、発表させる講義内容。		予習60分： 教科書 第8章を読む 復習120分： 授業内容の復習
			予習60分： 教科書

第9回	リスクにはいろいろとあることを講義し、これからの人生の中で起こり得るリスクについて考える講義内容。		第9章を読む 復習120分： 授業内容の復習
第10回	生活の中にある「法律」についての講義内容。これから生活していくうえで必要となる法律についての授業。	授業の振り返りとして、意見交換をする	予習60分： 教科書 第10、11章を読む 復習120分： 授業内容の復習
第11回	食生活について考える講義内容。なぜ食は必要なのか、食は安全・安心なのかを考えさせ、安全なものにするためには、どのようにしたらよいのかを考える講義内容。	意見をまとめさせ数名に発表させる。	予習60分： 教科書 第12章を読む 復習120分： 授業内容の復習
第12回	衣生活の歴史、被服の機能、衣服の購等学習する。		予習60分： 教科書 第13章を読む 復習120分： 授業内容の復習
第13回	住居の歴史、住居の機能、安全な住まい、ライフサイクルと住生活、自分にとっての住居等についての講義内容。これから望む住居について考えさせ具体的にまとめさせる。		予習60分： 教科書 第14章を読む 復習120分： 授業内容の復習
第14回	これからの生活について、食生活、衣生活、住生活、ライフステージ、社会環境などの中からテーマを決めさせ、これからの生活設計を考えさせる。次回の授業で発表させる。		予習60分： 教科書 第5章を読む 復習120分： 授業内容の復習
第15回	まとめ	授業の振り返りとして各自発表する。	予習180分： 発表準備 復習60分： 本試験に向けて準備

人と生活 建帛社,
管理栄養士・栄養士になるための国語表現 萌文書林
必要に応じて資料を配布する

参考書

随時紹介する。

成績評価の方法・基準

単位認定 60点以上 レポート課題50% 本試験50%

課題等に対する フィードバックの方法

授業内でレポートや課題を課すことがある、返却するので学習の参考にするとよい。

履修のポイント

予習・復習の積み重ねが知識を身につける力になる。予習として、次回授業の範囲の教科書を読み、復習は、教科書、配布資料を活用し講義ノートを整理する。

オフィス・アワー

火曜日12:30~13:20 (お昼休み) 授業終了後 9号館2階 第5研究室

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-R110

講義コード	30140001
講義名	生活活動論
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期（重複①）
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	4時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 榮 昭博	指定なし

授業の概要と教育目標

日常における労働、家事、運動等の生活活動と体力の維持向上および健康増進のため、体を形成する栄養素と運動の関係、身体機能の維持の基礎知識を学ぶ。また、運動する人の生理的状況、人の身体の様々な状況時の栄養についても学ぶ。
 長じて身体活動の必要性と身体の健全を維持することの理解を深めることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマポリシーの中で、人間の体・栄養・健康・生活を取り巻く社会環境がそれぞれ影響しあっていることを理解していること、とあり、日常生活や運動栄養学の科学的根拠に基づいた基礎理論を学び、多様な生活活動や運動、スポーツ競技の栄養管理に力を発揮できるよう、その基礎を学修を行うことを目指すものとする。

到達目標

一般生活活動、運動、スポーツ競技、体力と栄養の関係について理解し、栄養士として活動できる知識を持つこと。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	健康増進と運動（1）運動不足、運不足が原因となる主な疾患、廃用症候群、サルコペニア、筋肉の衰えなどについて考える。	左記の内容に関連する基礎項目について学生に質問し、その解答についてコメントする。	予習：90分 事前に配付した資料を読んでおく。 復習：90分 授業内容の復習
第2回	健康増進と運動（2）健康の定義を復習し、運動の長所・短所を考え、運動の身体への影響を学ぶ。特に血管の健全性や血液成分の変化、骨量の変化について学ぶ。	左記の内容に関連する基礎項目について学生に質問し、その解答についてコメントする。	予習：90分 配付資料を読んでおく。 復習：90分 授

			業内容の復習
第3回	運動とエネルギー代謝（1）高エネルギーリン酸化合物について復習し、エネルギー代謝（解糖系、TCAサイクル、 β 酸化について運動との関連を学ぶ。	左記の内容に関連する基礎項目について学生に質問し、その解答についてコメントする。	予習：90分 配付資料を読んでおく。 復習：90分 授業内容の復習
第4回	運動とエネルギー代謝（2）運動の種類（タイプ）別に、消費される栄養素を学び、有酸素運動と無酸素運動の相異について考える。また運動のタイプを理解する上で、最大酸素摂取量について学ぶ。	左記の内容に関連する基礎項目について学生に質問し、その解答についてコメントする。	予習：90分 配付資料を読んでおく。 復習：90分 授業内容の復習 配付資料を見直す。
第5回	運動と代謝（1）運動と糖代謝、運動と脂質代謝、運動とたんぱく質代謝について考える。	左記の内容に関連する基礎項目について学生に質問し、その解答についてコメントする。	予習：90分 配付資料を読んでおく。 復習：90分 授業内容の復習 配付資料を見直す。
第6回	運動と代謝（2）運動と骨密度、運動と寿命の関係、運動と高血圧、運動とQOLの関係について学ぶ。肥満と運動（メリットとデメリット） ダイエットの取り組み	左記の内容に関連する基礎項目について学生に質問し、その解答についてコメントする。	予習：90分 配付資料を読んでおく。 復習：90分 授業内容の復習 配付資料を見直す。
第7回	運動療法（1）運動処方（有効限界と安全限界）について学び、特に肥満症に対する運動療法について学ぶ。	左記の内容に関連する基礎項目について学生に質問し、その解答についてコメントする。	予習：90分 配付資料を読んでおく。 復習：90分 授業内容の復習
第8回	運動療法（2） およびまとめ 運動療法の実際例を学び、その一方、運動のデメリット（問題点）についても考察する。	1～7回の内容について、まとめを行い、各項目について学生に質問し、その解答についてコメントする。	予習：90分 配付資料を読んでおく。 復習：90分 授業内容の復習 課題の取り組み ディスカッションのまとめ

教科書

授業で適宜プリントを配布する。

参考書

授業で適宜プリントを配付する。
または、適宜参考書を紹介する。

成績評価の方法・基準

単位認定 50 点以上。 試験100%

課題等に対する フィードバックの方法

課題について解説を行う。

授業の復習のための資料を配付するので授業の理解に役立てること。

履修のポイント

生理学の知識が基本となっているので、その内容を事前に理解しておくこと。

オフィス・アワー

授業終了後受け付ける。

月曜日・火曜日・水曜日・金曜日(12:30~13:20) 11号館3階第14研究室で受け付ける。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C270

講義コード	30150001
講義名	公衆衛生学
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	2時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員		
職種	氏名	所属
教員	◎ 岩田 昇	指定なし

授業の概要と教育目標

公衆衛生学の概念，方法論の基礎を学ぶ。一次予防，二次予防および三次予防の理論に基づき，環境諸要因が健康あるいは社会生活に及ぼす影響について理解を深め，疾病予防や健康増進へのアプローチの方法等，保健予防・医療に関する知識を習得する。公衆衛生実践活動を学び，人々の健康を守るための組織，機関および医療従事者の役割や機能への理解を深める。なお，授業ではほぼ毎回，現代社会における健康問題・報道などを題材として，グループディスカッションおよびプレゼンテーションの時間を設定し，自らの判断・見解を持ち，それを他者に伝えるスキルの習得も目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマ・ポリシー「2.生活科学の基礎となる衣食住に関する基本的なことから，さらに生活を取り巻く社会的環境について，科学的に理解している。」に関連する科目として，特に栄養士に必要な知識・技術を理解していくため，「社会生活と健康」に関して幅広く学ぶ。

到達目標

1. 社会生活・環境と人間の保健・医療問題との関わりについて，概要を説明できる。
2. 保健医療問題に対して栄養士が果たすべき役割について説明できる。

授業計画				
	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な 時間
第1回	岩田昇	オリエンテーション(授業の進め方、グループ分け、成績評価など) 社会と健康	健康の概念とその歴史的変遷、公衆衛生の歴史に関する資料・解説を基に、各自の意見を発表し議論することにより、理解を深める。	予習90分：気になる健康問題について、新聞・メディア記事を調べてみる 復習90分：配布資料を見直し、疑問点を調べる

第2回	岩田昇	環境と健康	生態系の中の人間生活、環境汚染と健康、環境衛生に関する配布資料の事前学習に基づき、グループ発表し議論することにより、理解を深める。	予習90分：配布資料に目を通しておくこと 復習90分：配布資料を見直し、疑問点を調べる
第3回	岩田昇	健康・疾病・行動に関わる統計資料	保健統計、人口静態統計、人口動態統計、生命表、傷病統計、その他の保健統計に関する事前学習に基づき、グループ発表し議論することにより、理解を深める。	予習90分：配布資料に目を通しておくこと 復習90分：配布資料を見直し、疑問点を調べる
第4回	岩田昇	生活習慣（ライフスタイル）の現状と対策1	健康に関する行動と社会(身体活動・喫煙・飲酒行動・睡眠・休養・ストレス・歯科保健行動)に関する配布資料の事前学習に基づき、グループ発表し議論することにより、理解を深める。	予習90分：配布資料に目を通しておくこと 復習90分：配布資料を見直し、疑問点を調べる
第5回	岩田昇	生活習慣（ライフスタイル）の現状と対策2	健康日本21（第二次）、特定健康診査・特定保健指導などに関する配布資料の事前学習に基づき、グループ発表し議論することにより、理解を深める。	予習90分：配布資料に目を通しておくこと 復習90分：配布資料を見直し、疑問点を調べる
第6回	岩田昇	確認テスト1	確認テスト1の実施 解答および解説を行うことにより、理解程度の確認と理解不足箇所の明確化を図る。	予習120分：1～5回の講義資料に目を通し、整理・理解しておくこと 復習90分：不正解箇所・あいまいな箇所について、復習しておくこと
第7回	岩田昇	主要疾患の疫学と予防対策1	生活習慣病の概念、主要部位のがん、循環器疾患、代謝疾患に関する配布資料の事前学習に基づき、グループ発表し議論することにより、理解を深める。	予習90分：配布資料に目を通しておくこと 復習90分：配布資料を見直し、疑問点を調べる
第8回	岩田昇	主要疾患の疫学と予防対策2	骨・関節疾患、歯科・口腔疾患、感染症、精神疾患、自死に関する配布資料の事前学習に基づき、グループ発表し議論することにより、理解を深める。	予習90分：配布資料に目を通しておくこと 復習90分：配布資料を見直し、疑問点を調べる
第9回	岩田昇	保健・医療・福祉・介護の制度1	社会保障の概念、医療制度、福祉・介護保険制度に関する配布資料の事前学習に基づき、グループ発表し議論することにより、理解を深める。	予習90分：配布資料に目を通しておくこと 復習90分：配布資料を見直し、疑問点を調べる
第10回	岩田昇	保健・医療・福祉・介護の	地域保健、母子保健に関する配布資料の事前学習に基づき、グループ発表し議論する	予習90分：配布資料に目を通しておくこと

	昇	制度 2	ことにより、理解を深める。	復習90分：配布資料を見直し、疑問点を調べる
第11回	岩田昇	確認テスト 2	確認テスト 2 の実施 解答および解説を行うことにより、理解程度の確認と理解不足箇所の明確化を図る。	予習120分：7～10回の講義資料に目を通し、整理・理解しておくこと 復習90分：不正解箇所・あいまいな箇所について、復習しておくこと
第12回	岩田昇	保健・医療・福祉・介護の制度 3	成人・高齢者保健、学校保健などに関する配布資料の事前学習に基づき、グループ発表し議論することにより、理解を深める。	予習90分：配布資料に目を通しておくこと 復習90分：配布資料を見直し、疑問点を調べる
第13回	岩田昇	保健・医療・福祉・介護の制度 4	産業保健・産業ストレス対策に関する配布資料の事前学習に基づき、グループ発表し議論することにより、理解を深める。	予習90分：配布資料に目を通しておくこと 復習90分：配布資料を見直し、疑問点を調べる
第14回	岩田昇	保健・医療・福祉・介護の制度 5	保健・医療・福祉・介護の連携、国際保健に関する配布資料の事前学習に基づき、グループ発表し議論することにより、理解を深める。	予習90分：配布資料に目を通しておくこと 復習90分：配布資料を見直し、疑問点を調べる
第15回	岩田昇	まとめ	総合テストの実施 解答および解説を行うことにより、理解程度の確認と理解不足箇所の明確化を図る。	予習120分：1～14回の講義資料に目を通し、整理・理解しておくこと 復習90分：不正解箇所・あいまいな箇所について、復習しておくこと

教科書

講義は配布資料に基づいて行う。

参考書

古野・辻・吉池編『社会・環境と健康』 南江堂
その他は適宜紹介する。

成績評価の方法・基準

- ・単位認定50点以上。
- ・3回の筆記試験90%、授業への参加度10%

課題等に対する フィードバックの方法

- ・確認テスト(45分程度)の後、解答および解説を行う。
- ・グループディスカッション・プレゼンテーションに対するコメント等を適宜行う。

履修のポイント

・健康水準の高い社会に住んでいることを自覚し、俯瞰的視点を持って、積極的な取り組みを期待します。
--

オフィス・アワー

・水曜日・木曜日12:30～13:20（昼休み） 11号館第5研究室 （講義終了前後にも適宜受付可能）
--

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C271

講義コード	30160001
講義名	食品学
(副題)	【栄養士必修】 【教職必修（家庭）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	1時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員		
職種	氏名	所属
教員	◎ 橋本 まさ子	指定なし

授業の概要と教育目標

食品に関する科学は、食生活や健康を維持するための重要な課題となっている。その中で食品は、安全性を前提として栄養特性（栄養機能）、嗜好性（感覚機能）、生体機能調節性（生体調節機能）が備わっている。食品の栄養特性に関わる成分である水分、タンパク質、炭水化物、脂質、ミネラル類、ビタミン類の化学的に理解する。食品の嗜好性は、色、味、かおりについて学ぶ。さらに、食品の生体機能調節性についても学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、総合的に理解することにより、幅広い知識をこの食品学の講義から習得することを教育目標とする。資格の取得をする。

到達目標

栄養士として食品を科学的視点で理解することにより、食品の調理・加工・保存などの複雑な工程を考察できる能力を養うことを到達目標とする。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	オリエンテーション（授業の概要、成績評価）食品、人間と食品に授業内容。		予習30分、教科書を読む。復習60分 授業の復習とノート整理。
第2回	食品の分類と表示、国民健康・栄養調査、特別用途食品、保健機能食品の種類と機能に関する授業内容。	市販されている食品を用いて食品表示の意見交換し、レポートにまとめる。	予習30分、教科書を読む。復習60分 授業の復習とノート整理。
第3回	食品成分表についての概要、水の構造と性質および食品中の水分の役割		予習60分、教科書を読む。復習120分 授業の復習とノー

	と定量法についての授業内容。		ト整理。
第4回	たんぱく質の構造と栄養成分および働きについての授業内容。 脂質の構造と栄養成分および働きについての授業内容。		予習90分、教科書を読む。復習120分 授業の復習とノート整理。
第5回	炭水化物の構造と栄養成分および働きと食物繊維の働きと役割についての授業内容。 無機質のの構造と栄養成分および働きについての授業内容		予習60分、教科書を読む。復習120分 授業の復習とノート整理。
第6回	ビタミン類の種類と働きおよび調理加工による変化についての授業。 食品の消化吸収とエネルギーについての授業内容。		予習60分、教科書を読む。復習120分 授業の復習とノート整理。
第7回	成分（水、アミノ酸とたんぱく質）における調理加工における変化の授業内容。		予習90分、教科書を読む。復習120分 授業の復習とノート整理。
第8回	酵素の種類と化学的変化、および食品に関係する酵素の働きについての授業内容。 油脂の種類と脂肪酸組成による科学的な変化についての授業内容。		予習90分、教科書を読む。復習120分 授業の復習とノート整理。
第9回	炭水化物特に糖質の性質についての授業内容。 ビタミンの調理、加工、保蔵における成分変化についての授業。食品の化学的変化褐変についての授業内容。		予習90分、教科書を読む。復習120分 授業の復習とノート整理。
第10回	食品の香り調理加工における栄養に関する授業内容。 味成分の種類と化学、相互作用、食品の味の変化についての授業内容。		予習90分、教科書を読む。復習120分 授業の復習とノート整理。
第11回	コロイド、懸濁液と乳濁、食品の膨潤と浸透圧、レオロジー、テクスチャーについての授業内容。		予習90分、教科書を読む。復習120分 授業の復習とノート整理。
第12回	穀類、いも類、豆類、種実類の種類と成分についての授業内容。	穀類、いも類、豆類の種類を調べさせ発表する	予習90分、教科書を読む。復習120分 授業の復習とノート整理。
第13回	野菜類、果実類、キノコ類、藻類の種類と成分についての授業内容。	野菜類、果実類の種類を調べさせ発表させる	予習90分、教科書を読む。復習120分 授業の復習とノート整理。
第14回	食肉類（食肉・食肉加工品）、乳類（乳・乳製品）卵類（卵・卵加工品）、魚介類の種類と成分についての授業内容。	畜肉類、乳類、卵類、魚介類について種類を調べさせ発表させる	予習90分、教科書を読む。復習120分 授業の復習とノート整理。
第15回	嗜好品、調味・香辛料、15回の授業のまとめ。	授業内容についての情報交換を実施する。	予習90分、教科書を読む。復習120分 授業の復習とノート整理。

教科書

食物学I（食品の成分と機能）・II（食品材料と加工、貯蔵・流通技術）（公社）日本フードスペシャリスト協会編 建帛社

参考書

標準 食品学 総論 医歯薬出版

成績評価の方法・基準

単位認定 60 点以上。(授業内 3 回の確認テスト40%、本試験60%を実施)。毎回の授業後の復習と確認テストの模範解答の作成は必須です。

課題等に対する フィードバックの方法

確認テストは採点して返すので、復習して本試験に臨むこと。

履修のポイント

食品の成分の構造と性質を理解し、今後の栄養と食品について理解する基礎となることが望ましい。

オフィス・アワー

月曜日12：30～13：20（お昼休み）又は授業終了後随時 9号館2階 第5研究室。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-R210

講義コード	30170001
講義名	食品学実験I
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	実験
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	4時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 井桁 千恵子	指定なし

授業の概要と教育目標

健康を維持するためには、五大栄養素を中心としたバランスある食生活が必要である。その中で食品の栄養特性にかかわる成分である水分・たんぱく質・糖質・脂質・ミネラル類・ビタミン類の分析実験を学び、基礎的知識並びに技術を習得する。また食品の嗜好性について、ヒトの五感を活用した官能評価方法で検査を行い、官能検査の意義・方法論について学習する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

食品の分析に関する基本的知識を理解し、技術を経て学習を総合的に理解する。さらに食生活に関する事柄・食生活を取り巻く社会的環境についても科学的に理解を深める。

到達目標

食品学の実験・検査の基本技術と知識を身に着ける。病院や学校給食等の現場で、食品に対する有効な活用や食生活改善などの対応が迅速に行える栄養士となることを到達目標とする。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	食品学実験Iにおける基礎; 化学試験の取り組み方、 実験試薬および器具類の 取り扱い、実験レポート (ノート)の書き方	食品に関する情報ト ピックスについて発表 し、意見・情報交換を 行う 前期に学んだ講座(食 品学)の内容を復習 し、食品成分の分類を 理解する 実験授業に伴う数学的 要素(計算、パーセン ト処理、単位)につい て演習・確認をする	予習30分(食品学の教科書内 容) 復習60分(オリエンテーショ ン内容について、ノートの準 備・作成)

第2回	食品中の水分含量の定量実験； 試料の秤量方法（電子天秤の使用方法）、恒量（実験用語）について		予習30分（水分について；食品学の教科書おさらい、実験書を読む） 復習60分（ノート作成）
第3回	食品中の粗灰分顔料の定量実験； 器具の取り扱い方法（前回に準ずる）		予習30分（灰分について；食品学の教科書おさらい、実験書を読む） 復習60分（ノート作成）
第4回	定量実験に用いる試薬の調製； 標準液（0.1N-水酸化ナトリウム水溶液）の調製 中和滴定による力価（F）の求め方		予習30分（規定液の調整方法；実験書を読む） 復習60分（ノート作成）
第5回	食品中の粗たんぱく質の定量実験①； 窒素ケルダール法による分解過程～希釈調製、実験過程の説明 ※試料状態によっては希釈調製を別途時間に設定する場合あり		予習30分（たんぱく質について；食品学の教科書おさらい、実験書を読む） 復習60分（ノート作成）
第6回	食品中の粗たんぱく質の定量実験②； 窒素ケルダール法による蒸留家庭～滴定定量		予習30分（定量実験方法のおさらい；実験書を読む） 復習60分（ノート作成、次回の提出に備えて記録内容の確認）
第7回	食品中の粗脂肪の定量実験； 有機溶媒を用いたソックスレー抽出法による定量 【課題】ノート提出 チェック内容第1～6回 実験 授業終了時に提出		予習30分（脂肪について；食品学の教科書おさらい、実験書を読む） 復習60分（ノート作成）
第8回	食品中の粗繊維の定量実験①； ヘンネベルグ・ストーマン改良法による定量 ※乾燥後試料移し替えの操作は別途時間に設定する場合あり		予習30分（糖質と食物繊維について；食品学の教科書おさらい、実験書を読む） 復習60分（ノート作成）
第9回	食品中の粗繊維の定量実験②； 試料の灰化～秤量による最終値算出 還元糖の定量実験； ウイルシュテッター・シューデル法による定量		予習30分（糖類の還元性について；食品学の教科書おさらい、実験書を読む） 復習60分（ノート作成）
第10回	食品中のビタミンCの定量実験； インドフェノール法による還元型ビタミンCの定		予習30分（水溶性ビタミンについて；食品学の教科書おさらい、実験書を読む） 復習60分（ノート作成）

	量		
第11回	ケンカ価・ヨウ素価の測定； 試料（液状油）のケンカ価およびヨウ素価を測定し、油脂の同定を行う		予習30分（油脂の性質について；食品学の教科書おさらい、実験書を読む） 復習60分（ノート作成）
第12回	酸価・過酸化物価の測定； 試料（液状油）の酸価および過酸化物価を測定し、試料の状態を予測する	食品に関する情報トピックスについて発表し、意見・情報交換を行う 栄養・調理の視点から油脂および油脂食品の現状や利用について考察をする （講座学習内容の振り返りも含む）	予習30分（油脂の変敗について；食品学の教科書おさらい、実験書を読む） 復習60分（ノート作成）
第13回	官能検査の意義、実施と方法、注意点 基本味（五味）の識別試験		予習30分（官能試験について；実験書を読む） 復習60分（ノート作成）
第14回	比較法の試験（2点又は3点の識別試験法と嗜好試験法） 検定の方法 ※次週行うまとめテスト（筆記・実技）の予告説明あり		予習30分（官能試験について；実験書を読む） 復習60分（ノート作成、次回の提出に備えて記録内容の確認）
第15回	実技テスト（実験器具を使った操作） 筆記テスト（授業で学習した内容のまとめ確認） ※筆記テストの回答は採点后返却するので、学習理解度の自己確認を行うこと 【課題】ノート提出 チェック内容第7～14回実験 授業終了時に提出		予習30分（実技試験内容の確認、前回までの授業内容を再確認） 復習60分（授業内容と後日返却されるノート記録の確認→次年度実験（食品学実験II）への準備として）

教科書

食品学実験書（生活科科学科オリジナル）
授業項目に付随して、補足資料の配布も行う。

参考書

食品学（1年次履修授業）で使用した教科書
食品成分表（七訂2019版・香川明夫/監修・女子栄養大学出版社）
新食品分析ハンドブック（菅原龍幸 前川昭男監修・建帛社）
NEW調理と理論（山崎清子 他著・同文書院）

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。
授業への参加度および実験実技30%、授業内確認テスト20%、提出物（ノート）50%を総合して評価する。

課題等に対する

フィードバックの方法

【実験目的～結果および考察】を毎回ノートに記録しまとめる。記載項目と記録方法については初回オリエンテーションにて説明するので参照のこと。習得状況確認のためノート提出を課す（授業計画を参照）。
授業内容に関する総まとめとして、最終回授業内で確認テスト（記述・実技）を行う予定。

履修のポイント

化学的分野の基本原則と基本操作を理解して、積極的に実験に参加取り組みすることが望ましい。

実験授業は講義（実験成分について・実験方法等の説明）と実技で構成されている。実験操作で放置等の待ち時間が発生する場合は、講義内容のノート整理時間など有効な使い方を心掛けてほしい。

実験結果はパソコンで一覧表を表示し全体考察を行うことが多いので、パソコン操作の復習が望ましい。

オフィス・アワー

月・火曜日、12:30～13:20、9号館3階第8研究室

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C230

講義コード	30180001
講義名	食品学実験II
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	実験
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	3時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 井桁 千恵子	指定なし

授業の概要と教育目標

食品群の種類及び分類について学習し、それぞれの食品の持つ特色について理解し、これらを基本とした食品成分の性質について実験によって分析した学習を行う。
 栄養士としての食品の化学的特性と機能を理解し、その性質分析方法の基本操作を身に着ける。
 併せて食品に対する興味と多方面からのアプローチができる考え方を育てるようにする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

食品に関する基本的な事柄からはじめた関連学修事項を、科学的根拠に基づいて理解する。

到達目標

- ・食品成分表に基づく食品群の種類分類を理解する。
- ・食品学の授業で学習した事項について、科学的根拠に基づいた理解をできるようにする。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	実験室の取り扱いについて レポート（ノート）の書き方説明	食品に関する情報トピックスに関して、興味を持つ内容の意見・情報交換を行う 食品学実験Iで学んだ食品成分の分析法を復習し、食品成分表を基に群別分類を再度学ぶ 食品をとりまく現況や問題のトピックスを挙げて、食品に持つ意識を確認する	予習30分（1年後期履修・食品学実験Iの内容おさらい） 復習60分（オリエンテーション内容について、ノートの準備）
第2回	米の種類・品質・搗精度合の判定試験		予習30分（米について；食品学の教科書おさらい、実験書を読む） 復習60分（ノート作成）
	小麦粉の種類別試		

第3回	<p>験（乾麩・湿麩量） 食塩とかん水が小麦粉に与える影響について</p>	<p>予習30分（小麦粉とグルテンについて；食品学の教科書おさらい、実験書を読む） 復習60分（ノート作成）</p>
第4回	<p>卵白溶液の凝固試験（アミノ酸の定性試験） 加熱による卵の凝固観察</p>	<p>予習30分（卵の成分について；食品学の教科書おさらい、実験書を読む） 復習60分（ノート作成）</p>
第5回	<p>豆乳が凝固する要素の実験（凝固剤・温度による違い）</p>	<p>予習30分（大豆製品について；食品学の教科書おさらい、実験書を読む） 復習60分（ノート作成）</p>
第6回	<p>果物に含まれるたんぱく質分解酵素の働き 寒天とゼラチンの性質の違い</p>	<p>予習30分（寒天とゼラチンの性質について；食品学の教科書おさらい、実験書を読む） 復習60分（ノート作成）</p>
第7回	<p>溶液濃度と試薬の調製 次回授業の内容予習（水酸化ナトリウム水溶液の調製） 【課題】溶液濃度調整の計算問題 配布プリントに記入→次週ノートと一緒に提出</p>	<p>予習30分（前週に配布する資料（溶液濃度）を読んでおく） 復習60分（課題プリントノート提出準備の確認）</p>
第8回	<p>0.1N-水酸化ナトリウム水溶液の調製 中和滴定による力価の測定 【課題】ノート提出；チェック内容 第1～7回授業の記録 毎回提出後返却された実験報告書が貼付されている事</p>	<p>予習30分（前週講義内容のおさらい） 復習60分（後日返却するノートの内容確認および記録）</p>
第9回	<p>ヨーグルト中の酸度の定量（中和滴定）</p>	<p>予習30分（乳と乳製品について；食品学の教科書おさらい、実験書を読む） 復習60分（ノート作成）</p>
第10回	<p>100%果汁中の有機酸の定量（中和滴定）</p>	<p>予習30分（果物と有機酸について；食品学の教科書おさらい、実験書を読む） 復習60分（ノート作成）</p>
第11回	<p>醤油の塩分濃度の定量（沈殿滴定法）</p>	<p>予習30分（調味料と含有塩分量について；食品学の教科書おさらい、実験書を読む）</p>

			復習60分（ノート作成）
第12回	牛乳中の脂肪量（ゲルベル法）とSNF（バブコック法）の測定		予習30分（牛乳の成分について；食品学の教科書おさらい、実験書を読む） 復習60分（ノート作成）
第13回	酵素的褐変の定性試験（じゃが芋・りんご） 非酵素的褐変の定性試験（アミノ・カルボニル反応）		予習30分（食品の変質（主に褐変）について；食品学の教科書おさらい、実験書を読む） 復習60分（ノート作成）
第14回	添加材料の違いによるパンの製造試験 次週の実技試験内容予告	食品分析実験を学習してきた視点からの情報トピックスに関して、興味を持つ内容の意見・情報交換を行う 小麦粉製品の製造を通して、他講座（食品学、栄養学、調理学および実習）で学んできた内容の関連を理解する	予習30分（パンの製造について；食品学の教科書おさらい、実験書を読む） 復習60分（ノート作成）
第15回	実験操作の実技試験 授業ポイントのおさらい 【ノート提出の予告】期末試験の会場にてノート提出； チェック内容第8～14回授業の記録 毎回提出後返却された実験報告書が貼付されている事		予習30分（実技試験内容の確認、前回までの授業内容記録を確認しておく） 復習60分（授業内容とノート記録の確認）

教科書

食品学実験書（生活科学科オリジナル）
授業項目に付随して、補足資料の配布も行う。

参考書

食品学（1年次履修授業）で使用した教科書
食品成分表（七訂2018版・香川明夫監修・女子栄養大学出版社）
NEW調理と理論（山崎清子 他著・同文書院）

成績評価の方法・基準

認定単位50点以上
筆記試験80%、提出物（ノート）10%、授業への参加度（実技試験含む）10%

課題等に対する フィードバックの方法

毎回実験結果の報告書を配布するので、記入後授業終了時に提出する。
確認後返却されたらノートに添付し記録としてまとめる（ノート提出時に再度確認あり）。

履修のポイント

授業中の積極的な取り組み（講義および実技）を必要とする。
食品学実験I（1年次履修科目）から引き続いての食品関連実験であるので、実験Iで学習してきた内容を復習して実験IIの授業に活用してほしい。

オフィス・アワー
月・火曜日、12:30~13:20、9号館3階第8研究室
科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-C250

講義コード	30190001
講義名	調理学
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	4時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	医薬品メーカーや食品関連企業に管理栄養士として勤務した経験を活かし、栄養や食品・調理についての基礎知識について解説する。
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中島 君恵	指定なし

授業の概要と教育目標

「人間は健康のためにどのような食べ方をしたらよいか」を学ぶために、食べ物の嗜好性と機能、おいしさを演出する食品素材の科学、調理操作の科学、食事計画、食品食材の調理による変化と科学等について学習する。食べることの意義を基点として調理学の総論と調理科学の法則について学ぶ。なお本教科は、食事計画の基礎となる調理や調理科学に関する基礎知識を習得し、調理に対する理解を深めることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、「健康・栄養」に係る食を中心に生活を科学的に理解を深めることを目指し、「調理」「調理科学」の理解を通してその目的達成に資する知識を養う。そして将来的展望としては多様化する食生活に対応する食事を設計する基盤となる学修を行うことを目指すものとする。

到達目標

- ・食事計画から食材の選択、調理、供食にいたるまでの一連の調理過程の理論を習得する。
- ・食品食材の調理による変化と科学の理論を習得する。
- ・食事の設計を行う上で食事摂取基準及び食品成分表の活用のための基本的な知識を習得する。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	中島君恵	調理の目的		予習90分：教科書1章を読む。復習90分：配布資料を見直す。
	中島	調理の意義と食事の計画 ・食事の		予習90分：教科書10章を

第2回	君恵	形態(食事構成・食文化論) ・食事計画		読む。復習90分：配布資料を見直す。
第3回	中島君恵	食べ物のおいしさに関与する要因 ・におい、味を感じるメカニズム・食べ物の味	履修者に美味しいと感じる食べ物、場面について意見交換をさせ、おいしさの科学について理解するきっかけを作る。また図を用いておいしさの科学について解説して理解を深め、再度自分のおいしいと感じる食べ物、場面について分析して意見交換する。	予習90分：教科書2章1・2を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第4回	中島君恵	食べ物のおいしさに関与する要因 ・食べ物のおいしさ ・食べ物の色・テクスチャー・食べ物の外観 ・食べ物 の温度・おいしさの評価		予習90分：教科書2章3～8を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第5回	中島君恵	調理操作の分類・非加熱操作		予習90分：教科書3章1を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第6回	中島君恵	加熱調理操作・調理機器		予習90分：教科書3章2・3を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第7回	中島君恵	米の調理		予習90分：教科書4章1(1)(2)を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第8回	中島君恵	小麦・いも類・豆類・種実類の調理		予習90分：教科書4章1(3)(4)・2・3・4を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第9回	中島君恵	野菜類・果実類の調理		予習90分：教科書4章5・6を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第10回	中島君	きのこ類・藻類の調理		予習90分：教科書4章7・8を読む。復習90分：配布資料を見直す。

	恵			す。
第11回	中島君恵	食肉類・魚介類の調理		予習90分：教科書5章1・2を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第12回	中島君恵	卵類・牛乳・乳製品の調理		予習90分：教科書5章3・4を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第13回	中島君恵	油脂・ゲル化剤・とろみ剤砂糖の調理		予習90分：教科書6章・7章を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第14回	中島君恵	調味料・香辛料の調理		予習90分：教科書8章を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第15回	中島君恵	おいしく安全に調理を行うための基礎について	履修者に栄養士業務である食事設計における調理(科学)の意義について意見交換をさせ、食事設計、栄養士業務について理解するきっかけを作る。またこれまでの講義内容についてまとめを行い理解を深め、調理(科学)について意見交換する。	予習90分：第1回～第14回の配布資料を読む。復習90分：配布資料を見直す。

教科書

はじめて学ぶ 健康・栄養系教科書シリーズ
調理学 おいしく安全に調理を行うための科学の基礎

参考書

調理のためのベーシックデータ

成績評価の方法・基準

単位認定：60点以上 定期試験60% 授業レポート 10% 課題30%

課題等に対する
フィードバックの方法

授業内で課題やレポートを課すことがあります。返却しますので、学習の参考にしてください。

履修のポイント

調理学をよく理解するために日々の食や健康に関する情報収集が事前学習につながるので、教科書や配布プリント等の講義資料の熟読を復習として勧めます。調理(科学)と健康の視点を持ち授業には積極的に参加する。

オフィス・アワー

木曜日、12:30～13:20(昼休み)、9号館3階第7研究室
※講義授業前後にも、適宜受けます。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-R211

講義コード	30200001
講義名	基礎栄養学I
(副題)	【栄養士必修】 【教職必修 (家庭) 】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	4時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 井桁 千恵子	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養の意義をふまえ、各栄養素の種類概要・消化・吸収・代謝の流れ・栄養学的機能と特質・食品のもつ栄養効果について学習する。
また健康の保持増進・疾病の予防治療における栄養の役割を理解し、栄養学の原理となる基礎知識をを実践性活動の場に対応できるように習得する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

栄養に関する基礎知識を理解する。その知識を得た栄養士として健康栄養に係る現場で実践的に活用し、また問題を解決できる能力を習得できるようにする。

到達目標

栄養士養成課程の専門分野の原理を習得し、併せて他の専門科目との関連性を理解できるようにする。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	栄養の意義、生体の成り立ちとその機能、栄養学の歴史とその成立		予習90分 (教科書P1～12を読む) 復習90分 (授業の記録をノートと資料で再確認する)
第2回	食品成分 (糖質・脂質・たんぱく質・ビタミン・無機質) について		予習90分 (教科書第4～8章の各最初の1ページを読む) 復習90分 (授業の記録をノートと資料で再確認する)
		アクティブラーニング：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交	

第3回	糖質の種類、消化と吸収、代謝	換 授業内容の重要な部分や覚えるポイントを設問（選択肢、記入方式）にしたまとめテストを実施 回答後、正解と解説をして再度重要ポイントを理解する	予習90分（教科書P39～45読む） 復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
第4回	血糖とその調節、体内代謝、他の栄養素との関係	アクティブラーニング：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換 授業内容の重要な部分や覚えるポイントを設問（選択肢、記入方式）にしたまとめテストを実施 回答後、正解と解説をして再度重要ポイントを理解する	予習90分（教科書P45～52を読む） 復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
第5回	脂質の化学、消化と吸収、代謝	アクティブラーニング：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換 授業内容の重要な部分や覚えるポイントを設問（選択肢、記入方式）にしたまとめテストを実施 回答後、正解と解説をして再度重要ポイントを理解する	予習90分（教科書P53～64を読む） 復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
第6回	栄養機能、脂質と疾患、食事摂取基準	アクティブラーニング：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換 授業内容の重要な部分や覚えるポイントを設問（選択肢、記入方式）にしたまとめテストを実施 回答後、正解と解説をして再度重要ポイントを理解する	予習90分（教科書P64～70を読む） 復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
第7回	たんぱく質とアミノ酸、消化と吸収、代謝	アクティブラーニング：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換 授業内容の重要な部分や覚えるポイントを設問（選択肢、記入方式）にしたまとめテストを実施 回答後、正解と解説をして再度重要ポイントを理解する	予習90分（教科書P71～83を読む） 復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
第8回	栄養価、他の栄養素との関係、食事摂取基準、不足と過剰	アクティブラーニング：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換 授業内容の重要な部分や覚えるポイントを設問（選択肢、記入方式）にしたまとめテストを実施 回答後、正解と解説をして再度重要ポイントを理解する	予習90分（教科書P83～92を読む） 復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
		アクティブラーニング：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換	予習90分（教科書

第9回	脂溶性ビタミンの種類と特徴、代謝と栄養学的機能	授業内容の重要な部分や覚えるポイントを設問（選択肢、記入方式）にしたまとめテストを実施 回答後、正解と解説をして再度重要ポイントを理解する	書P93～102を読む 復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
第10回	水溶性ビタミンの種類と特徴、代謝と栄養学的機能	アクティブラーニング：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換 授業内容の重要な部分や覚えるポイントを設問（選択肢、記入方式）にしたまとめテストを実施 回答後、正解と解説をして再度重要ポイントを理解する	予習90分（教科書P102～115を読む） 復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
第11回	ビタミンと他の栄養素との関係 ビタミンの追加補足事項	アクティブラーニング：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換 授業内容の重要な部分や覚えるポイントを設問（選択肢、記入方式）にしたまとめテストを実施 回答後、正解と解説をして再度重要ポイントを理解する	予習90分（教科書P115～116を読む） 復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
第12回	多量ミネラルの分類および機能	アクティブラーニング：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換 授業内容の重要な部分や覚えるポイントを設問（選択肢、記入方式）にしたまとめテストを実施 回答後、正解と解説をして再度重要ポイントを理解する	予習90分（教科書P117～125を読む） 復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
第13回	微量ミネラルの分類および機能	アクティブラーニング：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換 授業内容の重要な部分や覚えるポイントを設問（選択肢、記入方式）にしたまとめテストを実施 回答後、正解と解説をして再度重要ポイントを理解する	予習90分（教科書P125～132を読む） 復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
第14回	生理機能を持つ非栄養素 他	アクティブラーニング：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換 授業内容の重要な部分や覚えるポイントを設問（選択肢、記入方式）にしたまとめテストを実施 回答後、正解と解説をして再度重要ポイントを理解する	予習90分（教科書P163～168を読む） 復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
第15回	食事摂取基準について、食と健康日本21 授業内容のまとめお		予習90分（教科書P177～187及び付表を読む） 復習90分（授業の記録を

よび解説

ノートと資料で再確認する)

教科書

Nブックス三訂 基礎栄養学 (林淳三監修・建帛社)
※後期履修の「基礎栄養学II」でも同教科書を使用する

参考書

栄養科学イラストレイテッド 基礎栄養学 (田地陽一編・羊土社)
栄養科学イラストレイテッド 基礎栄養学ノート (田地陽一編・羊土社)
食品成分表 (七訂2019版・香川明夫監修・女子栄養大学出版部)

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上
筆記試験80%、レポート・課題提出20%により評価。提出締切は期限を厳守すること。

課題等に対する フィードバックの方法

毎回授業計画書を確認して、予習と復習を行うことが望ましい。
授業のまとめとしてレポートやミニテストを複数回課す場合があるが、期末試験に向けた最終まとめの際にそれらも資料として必要となるのでファイリングしておくこと。

履修のポイント

生化学的視点(ヒトのからだのしくみ・消化吸収など)の講義内容を含むので、生化学や解剖学の教科書を参考にすることを薦める。
栄養学や食品学に関連する他の履修科目にも、この科目で学習する内容はつながっていることをふまえる。
課題やミニテストが返却されたら、各自の解答は正誤内容等を再度確認する習慣をつけること。

オフィス・アワー

月・火曜日、12:30~13:20、9号館3階第8研究室

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-R213

講義コード	30210001
講義名	基礎栄養学II
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	1時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 井桁 千恵子	指定なし

授業の概要と教育目標

基礎栄養学Iで学習した栄養素の機能の理解をふまえ、消化吸収・摂食行動、水と電解質、エネルギー代謝、栄養と遺伝子についての学習を行う。
ヒトが生活をしていく社会環境の中で、栄養学が関与する事柄について多角的に理解できるようにする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

健康と栄養を身近な部分から広域な問題点までを多角的に理解できるようにする。その知識を得た栄養士として健康栄養に係る現場で実践的に活用し、また問題を解決できる能力を習得できるようにする。

到達目標

栄養士養成課程の専門分野の原理を習得し、併せて他の専門科目との関連性を理解できるようにする。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	基礎栄養学Iで学習した項目のおさらい確認 生体の成り立ちとその機能、栄養学の歴史とその成立	アクティブラーニング：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換 授業内容の重要な部分や覚えるポイントを設問（選択肢、記入方式）にしたまとめテストを実施 回答後、正解と解説をして再度重要ポイントを理解する	予習90分（教科書P4～12を読む） 復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
		アクティブラーニング：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換	予習90分（教科書P13～20を読む）

第2回	食欲について、サーカディアンリズム、栄養と生体防御	授業内容の重要な部分や覚えるポイントを設問（選択肢、記入方式）にしたまとめテストを実施 回答後、正解と解説をして再度重要ポイントを理解する	復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
第3回	消化器系の構造と機能	アクティブラーニング：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換 授業内容の重要な部分や覚えるポイントを設問（選択肢、記入方式）にしたまとめテストを実施 回答後、正解と解説をして再度重要ポイントを理解する	予習90分（教科書P21～30を読む） 復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
第4回	消化の調節・吸収、消化管ホルモン、栄養素の体内動態、生物学的利用度	アクティブラーニング：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換 授業内容の重要な部分や覚えるポイントを設問（選択肢、記入方式）にしたまとめテストを実施 回答後、正解と解説をして再度重要ポイントを理解する	予習90分（教科書P31～38を読む） 復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
第5回	各栄養素（糖質・脂質・たんぱく質）の消化吸収	アクティブラーニング：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換 授業内容の重要な部分や覚えるポイントを設問（選択肢、記入方式）にしたまとめテストを実施 回答後、正解と解説をして再度重要ポイントを理解する	予習90分（教科書第4～6章の消化吸収のページを読む） 復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
第6回	水の機能、電解質の代謝	アクティブラーニング：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換 授業内容の重要な部分や覚えるポイントを設問（選択肢、記入方式）にしたまとめテストを実施 回答後、正解と解説をして再度重要ポイントを理解する	予習90分（教科書P133～138を読む） 復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
第7回	エネルギーとは、エネルギー変換、食品のエネルギー	アクティブラーニング：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換 授業内容の重要な部分や覚えるポイントを設問（選択肢、記入方式）にしたまとめテストを実施 回答後、正解と解説をして再度重要ポイントを理解する	予習90分（教科書P139～146を読む） 復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
	エネルギー代謝、臓器	アクティブラーニング：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換 授業内容の重要な部分や覚え	予習90分（教科書P139～146を読む②） 復習90分（授業の記録を

第8回	別エネルギー代謝	<p>るポイントを設問（選択肢、記入方式）にしたまとめテストを実施</p> <p>回答後、正解と解説をして再度重要ポイントを理解する</p>	<p>ノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認)</p>
第9回	遺伝病、栄養と遺伝子、遺伝子多型	<p>アクティブラーニング：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換</p> <p>授業内容の重要な部分や覚えるポイントを設問（選択肢、記入方式）にしたまとめテストを実施</p> <p>回答後、正解と解説をして再度重要ポイントを理解する</p>	<p>予習90分（教科書P147～157を読む）</p> <p>復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認)</p>
第10回	俟約遺伝子、栄養と癌、酸価ストレスと抗酸化作用をもつ栄養素	<p>アクティブラーニング：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換</p> <p>授業内容の重要な部分や覚えるポイントを設問（選択肢、記入方式）にしたまとめテストを実施</p> <p>回答後、正解と解説をして再度重要ポイントを理解する</p>	<p>予習90分（教科書P157～162を読む）</p> <p>復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認)</p>
第11回	食物繊維 他の栄養素	<p>アクティブラーニング：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換</p> <p>授業内容の重要な部分や覚えるポイントを設問（選択肢、記入方式）にしたまとめテストを実施</p> <p>回答後、正解と解説をして再度重要ポイントを理解する</p>	<p>予習90分（教科書P163～168を読む）</p> <p>復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認)</p>
第12回	栄養の補給、栄養評価	<p>アクティブラーニング：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換</p> <p>授業内容の重要な部分や覚えるポイントを設問（選択肢、記入方式）にしたまとめテストを実施</p> <p>回答後、正解と解説をして再度重要ポイントを理解する</p>	<p>予習90分（教科書P169～177を読む）</p> <p>復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認)</p>
第13回	栄養摂取適量	<p>アクティブラーニング：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換</p> <p>授業内容の重要な部分や覚えるポイントを設問（選択肢、記入方式）にしたまとめテストを実施</p> <p>回答後、正解と解説をして再度重要ポイントを理解する</p>	<p>予習90分（教科書P177～182を読む）</p> <p>復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認)</p>
第14回	日本人の食事摂取基準（3大栄養素）	<p>アクティブラーニング：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換</p> <p>授業内容の重要な部分や覚えるポイントを設問（選択肢、</p>	<p>予習90分（教科書P188～201を読む）</p> <p>復習90分（授業の記録を</p>

		記入方式) にしたまとめテストを実施 回答後、正解と解説をして再度重要ポイントを理解する	ノートと資料で再確認する)
第15回	日本人の食事摂取基準 (ビタミン、ミネラル) 授業内容のまとめおよび解説		予習90分 (教科書P188～201を読む②) 復習90分 (授業の記録をノートと資料で再確認する)

教科書

Nブックス三訂 基礎栄養学 (林淳三監修・建帛社)
※「基礎栄養学I」で使用した教科書を使用する。

参考書

栄養科学イラストレイテッド 基礎栄養学 (田地陽一編・羊土社)
栄養科学イラストレイテッド 基礎栄養学ノート (田地陽一編・羊土社)

成績評価の方法・基準

単位認定 60点以上。
筆記試験 80%、レポート・課題提出 20%により評価。提出締切は期限を厳守すること。

課題等に対する フィードバックの方法

毎回授業計画書を確認して、予習と復習を行うことが望ましい。
授業のまとめとしてレポートやミニテストを複数回課す場合があるが、期末試験に向けた最終まとめの際にそれらも資料として必要となるので、ファイリングしておく。

履修のポイント

生化学的視点 (ヒトのからだのしくみ・消化吸収など) の講義内容を含むので、生化学や解剖学の教科書を参考にすることを薦める。
栄養学や食品学に関連する他の履修科目にも、この科目で学習する内容はつながっていることをふまえる。
課題やミニテストが返却されたら、各自の解答は正誤内容等を再度確認する習慣をつけること。

オフィス・アワー

月・火曜日、12:30～13:20、9号館3階第8研究室。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C231

講義コード	30220001
講義名	応用栄養学
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	2時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 増野 弥生	指定なし

授業の概要と教育目標

人が誕生してから一生を終えるまでの間の成長・発達、加齢にともなう人体の構造や機能の変化、栄養状態等の変化について理解し、健康増進・疾病予防に寄与する栄養素の機能、健康に影響するリスクの管理について基本的な考え方や方法を学習する。なお、本科目を学ぶ上で、人のライフステージはその人生の積み重ねで成り立っていることを理解しながら学習を進め、体のさまざまな状況の変化に対応できる栄養ケア・マネジメントを身につけることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として「人体の構造・機能」と「栄養・健康」に関する学習を総合的に理解し、栄養士として活躍する現場において、各ライフステージに適応した栄養管理を効率よく的確に実践するための基本的な知識や技術の習得を目指すものとする。

到達目標

- ・人体の構造や機能の加齢に伴う変化について理解し、栄養アセスメント・ケア・マネジメントをどのように実施するのかを理解できる。
- ・健康増進や疾病予防に寄与する栄養管理を修得することができる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	増野弥生	栄養アセスメント・栄養マネジメントについて①	アセスメントシートに記入し、グループワーク、グループディスカッションを行う。	(予習：90分) 教科書を読んで初回授業に臨むこと (復習：90分) 練習問題の取り組み、ノート整理、教科書を基に授業の復習をしておくこと。
第2回	増野弥生	栄養アセスメント・栄養マネジメントについて②	アセスメントシートに記入し、グループワーク、グループディスカッションを行う。	(予習：90分) 教科書を読んで授業に臨むこと (復習：90分) 練習問題の取り組み、ノート整理、教科書を基に授業の復習をしておくこと。
	増			(予習：90分) 教科書を読んで授業に臨

第3回	野 弥 生	栄養必要量の科学的根拠		むこと（復習：90分）練習問題の取り組み、ノート整理、教科書を基に授業の復習をしておくこと。
第4回	増 野 弥 生	成長・発達・加齢		（予習：90分）教科書を読んで授業に臨むこと（復習：90分）練習問題の取り組み、ノート整理、教科書を基に授業の復習をしておくこと。
第5回	増 野 弥 生	妊娠期・授乳期の概要		（予習：90分）教科書を読んで授業に臨むこと（復習：90分）練習問題の取り組み、ノート整理、教科書を基に授業の復習をしておくこと。
第6回	増 野 弥 生	妊娠期・授乳期の特性		（予習：90分）教科書を読んで授業に臨むこと（復習：90分）練習問題の取り組み、ノート整理、教科書を基に授業の復習をしておくこと。
第7回	増 野 弥 生	妊娠期の栄養管理	アセスメントシートに記入し、グループワーク、グループディスカッションを行う。	（予習：90分）教科書を読んで授業に臨むこと（復習：90分）練習問題の取り組み、ノート整理、教科書を基に授業の復習をしておくこと。
第8回	増 野 弥 生	授乳期の栄養管理	アセスメントシートに記入し、グループワーク、グループディスカッションを行う。	（予習：90分）教科書を読んで授業に臨むこと（復習：90分）練習問題の取り組み、ノート整理、教科書を基に授業の復習をしておくこと。
第9回	増 野 弥 生	乳児期の特徴		（予習：90分）教科書を読んで授業に臨むこと（復習：90分）練習問題の取り組み、ノート整理、教科書を基に授業の復習をしておくこと。
第10回	増 野 弥 生	乳児期の栄養管理	アセスメントシートに記入し、グループワーク、グループディスカッションを行う。	（予習：90分）教科書を読んで授業に臨むこと（復習：90分）練習問題の取り組み、ノート整理、教科書を基に授業の復習をしておくこと。
第11回	増 野 弥 生	幼児期の特徴と栄養管理	アセスメントシートに記入し、グループワーク、グループディスカッションを行う。	（予習：90分）教科書を読んで授業に臨むこと（復習：90分）練習問題の取り組み、ノート整理、教科書を基に授業の復習をしておくこと。
第12回	増 野 弥 生	学童期の特徴・栄養管理	アセスメントシートに記入し、グループワーク、グループディスカッションを行う。	（予習：90分）教科書を読んで授業に臨むこと（復習：90分）練習問題の取り組み、ノート整理、教科書を基に授業の復習をしておくこと。
第13回	増 野 弥 生	思春期の特徴と栄養管理	アセスメントシートに記入し、グループワーク、グループディスカッションを行う。	（予習：90分）教科書を読んで授業に臨むこと（復習：90分）練習問題の取り組み、ノート整理、教科書を基に授業の復習をしておくこと。
第14回	増 野 弥 生	成人期・更年期の特徴と栄養管理		（予習：90分）教科書を読んで授業に臨むこと（復習：90分）練習問題の取り組み、ノート整理、教科書を基に授業の復習をしておくこと。
第15回	増 野 弥 生	高齢期の特徴と栄養管理	アセスメントシートに記入し、グループワーク、グループディスカッションを行う。	（予習：90分）教科書を読んで授業に臨むこと（復習：90分）練習問題の取り組み、ノート整理、教科書を基に授業の復習をしておくこと。

Nブックス 応用栄養学概論：渡邊早苗・松田早苗・真野由紀子編著 建帛社
参考書
「日本人の食事摂取基準 2020年版」 必要に応じてプリントを配布する。
成績評価の方法・基準
単位認定 50点以上 筆記試験 80% レポート・練習問題 20%
課題等に対する フィードバックの方法
单元ごとの復習を目的とした練習問題への取り組みに対し解答と解説を行う。 課題は、授業時間内に返却する。
履修のポイント
ライフステージごとの特性を理解し、日常の食生活に対する考えや、疑問に思うことを質問できるよう積極的に授業に取り組むことを期待する。
オフィス・アワー
月・火・水・木・金の昼休み 11号館研究室18にて対応するほか、授業の前後においても質問に対応する。
科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-C254

講義コード	30230001
講義名	栄養学実験
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	実験
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	1時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	病院管理栄養士としての栄養ケア・マネジメント経験に基づき授業を行う。
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 町田 大輔	指定なし

授業の概要と教育目標

ライフステージに応じた食事計画や調理、評価の方法を学び、栄養ケア・マネジメントが実践出来る力を身につける。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「人間のからだ」「食品」「栄養」に関して基本的なことから理解し、さらにそれら相互作用について、理解している。
「人間のからだ」「食品」「栄養」に関する学修を総合的に理解し、「健康・栄養」に係る現場で実践的に活用し、問題を解決できる能力を修得している。

到達目標

- ・各ライフステージや状況における栄養管理（評価、計画、実施）について説明できる。
- ・各ライフステージや状況における食事計画・調理と評価ができる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な 時間
第1回	町田大輔	ガイダンス、栄養ケア・マネジメント、食事摂取基準（教科書第1部）	自身の食事状況の評価および改善案をレポートにまとめる	予習：教科書の該当箇所を読む（30分） 復習：配布プリントを見直す（15分）
第2回	町田大輔	妊娠期・授乳期の栄養管理（教科書第2部1章、2章）	妊娠期の栄養アセスメント	予習：教科書の該当箇所を読む（30分） 復習：配布プリントを見直す（15分）

第3回	町田大輔	妊娠期・授乳期の栄養管理（教科書第2部1章、2章）	妊娠期の献立作成	予習：教科書の該当箇所を読む（30分） 復習：配布プリントを見直す（15分）
第4回	町田大輔	乳児期の栄養管理（教科書第2部3章）	離乳食の献立作成	予習：教科書の該当箇所を読む（30分） 復習：配布プリントを見直す（15分）
第5回	町田大輔	乳児期の栄養管理（調乳）	調乳を行う	予習：教科書の該当箇所を読む（30分） 復習：配布プリントを見直す（15分）
第6回	町田大輔	乳児期の栄養管理（調理実習）	作成した献立に基づいた調理実習を行う	予習：教科書の該当箇所を読む（30分） 復習：配布プリントを見直す（15分）
第7回	町田大輔	幼児期・学童期の栄養管理（教科書第2部4章、5章）	幼児期の栄養アセスメント	予習：教科書の該当箇所を読む（30分） 復習：配布プリントを見直す（15分）
第8回	町田大輔	幼児期・学童期の栄養管理（教科書第2部4章、5章）	幼児期の献立作成	予習：教科書の該当箇所を読む（30分） 復習：配布プリントを見直す（15分）
第9回	町田大輔	幼児期・学童期の栄養管理（食物アレルギー対応食）	食物アレルギー代替食への展開	予習：教科書の該当箇所を読む（30分） 復習：配布プリントを見直す（15分）
第10回	町田大輔	思春期・青年期の栄養管理（教科書第2部6章、7章）	思春期の栄養アセスメント	予習：教科書の該当箇所を読む（30分） 復習：配布プリントを見直す（15分）
第11回	町田大輔	成人期・高齢期の栄養管理（教科書第2部8章、9章）	高齢期の栄養アセスメント	予習：教科書の該当箇所を読む（30分） 復習：配布プリントを見直す（15分）

第12回	町田大輔	成人期・高齢期の栄養管理（献立作成）	高齢期の献立作成	予習：教科書の該当箇所を読む（30分） 復習：配布プリントを見直す（15分）
第13回	町田大輔	スポーツ選手の栄養管理（教科書第2部10章）	スポーツ選手の栄養アセスメント	予習：教科書の該当箇所を読む（30分） 復習：配布プリントを見直す（15分）
第14回	町田大輔	スポーツ選手の栄養管理（献立作成）	スポーツ選手の献立作成	予習：教科書の該当箇所を読む（30分） 復習：配布プリントを見直す（15分）
第15回	町田大輔	高齢期の栄養管理（調理実習）	作成した献立に基づいた調理実習を行う	予習：教科書の該当箇所を読む（30分） 復習：配布プリントを見直す（15分）

教科書

山本由喜子他 編著 応用栄養学実習ワークブック（株）みらい 2020年

参考書

適宜紹介する

成績評価の方法・基準

単位認定：50点以上
レポート課題の提出80%、授業への主体的な参加20%

課題等に対する フィードバックの方法

・レポート課題は採点后返却するので、学習の参考にしてください。配布プリントなどと合わせて学習の参考にしてください。

履修のポイント

授業には主体的には参加してください。講義の際も質問や議論を交えながら展開します。

オフィス・アワー

質問や相談には、授業開始前および終了後またはリアクションペーパーにて応じます。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C274

講義コード	30240001
講義名	調理実習I
(副題)	【栄養士必修】 【教職必修（家庭）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	2時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	医薬品メーカーや食品関連企業に管理栄養士として勤務した経験を活かし、栄養や食品・調理についての基礎知識について解説する。
学年	1学年

担当教員		
職種	氏名	所属
教員	◎ 中島 君恵	指定なし

授業の概要と教育目標

調理学で学習した調理に関する基礎を実習を通じて学習し、実践的な知識及び技術を習得することを目標とする。また、衛生管理に留意して調理の意義や大切さについてについても学習する。さらに実習を通じて、デモンストレーション → 実習(グループ) → 試食 → 評価 → 片付け という一連の流れの中でコミュニケーションの向上も目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマポリシーとの関連として、「人間のからだ」「食品」「栄養」に関する学修を総合的に理解し、「健康・栄養」に係る現場での実践的に活用、また問題を解決できる能力を修得することを目指して、調理に関する知識と技術を深く学び、実践力を養う。社会に出て活躍できるようグループ実習を通して自己や他者の役割を理解し、視野を広く積極的に実習に臨むことを目標とする。

到達目標

- ・調理科学について実習を通じて理解を深める。
- ・基礎的な調理技術(調理操作)を習得する。
- ・実習を通じてコミュニケーション力の向上をはかる。
- ・伝統食、郷土食を通じて、食文化の伝承と意義の理解を深める。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	オリエンテーション 調理の基礎I 1) 実習の留意点 2) 計量 3) 調理設備と道具類 4) 器具と布巾の洗浄 5) 実習後の記録 6) 栄養価計算の方法		予習30分：事前に教科書等を読む。復習30分：課題レポートに取り組む。
第2回	1) 調味パーセント 2) 切り方 3) だしの取り方 献立：白飯、澄まし汁、鯖の幽庵焼き、きんぴ	だしについて、うま味についてグループでディス	予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。復

	ら、大根の甘酢漬け、いちごの生クリームかけ	カッションを行い、まとめる。	予習30分：課題レポートに取り組む。
第3回	日本料理I 炊飯 献立：ご飯、味噌汁、二色そば、青菜の胡麻和え、リンゴの飾り切り		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。復習30分：課題レポートに取り組む。
第4回	日本料理II 炊飯の応用 味付けご飯(醤油味) 献立：筍ご飯 若竹汁 魚の西京焼き 青菜の胡麻和え オレンジ		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。復習30分：課題レポートに取り組む。
第5回	日本料理III 炊飯の応用 味付けご飯(塩味) 献立：えんどうご飯 かきたま汁 肉じゃが レタスとわかめの酢の物 果汁かん		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。復習30分：課題レポートに取り組む。
第6回	西洋料理I スープストックの取り方 献立：コンソメジュリエヌ チキンピカタ マセドアンサラダ コーヒーゼリー		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。復習30分：課題レポートに取り組む。
第7回	西洋料理II 西洋料理の献立構成 献立：魚のムニエル パンプキンスープ エッグサラダ フルーツパンチ		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。復習30分：課題レポートに取り組む。
第8回	日本料理III 揚げ物の調理操作・魚の取り扱い方 献立：白飯 沢煮 鰹の南蛮漬け イカと分葱のめた 白玉ぜんざい		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。復習30分：課題レポートに取り組む。
第9回	西洋料理III 炒め飯の調理 献立：エビ入りピラフ 魚のフライタルタルソース オニオンスープ レモンスカッシュ		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。復習30分：課題レポートに取り組む。
第10回	日本料理IV 麺料理 献立：冷麦 天ぷら きゅうりとわかめの酢の物 おはぎ(ずんだあん)		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。復習30分：課題レポートに取り組む。
第11回	西洋料理IV ブラウンソースの作り方と応用 献立：バターライス ビーフシチュー グリーンアスパラのサラダ チーズケーキ		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。復習30分：課題レポートに取り組む。
第12回	西洋料理V 加熱調理操作(蒸し焼き)・ひき肉料理の特徴・トマトソース方 献立：イタリアンハンバーグ コーンスープ マカロニサラダ 抹茶のムース		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。復習30分：課題レポートに取り組む。
	日本料理V 魚の取り扱い方 献立：		予習30分：次回の授業範囲

第13回	イワシの蒲焼 井 吉野鶏と三つ葉の吸い物 かぼちゃの含め煮 セロリのレモン漬け みつ豆		困を伝えるので、事前に教科書等を読む。復習30分：課題レポートに取り組む。
第14回	調理技術のまとめ及び実技テスト前期で学習した調理に関する基礎的技術について、到達度の確認を行う		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。復習30分：課題レポートに取り組む。
第15回	調理に関する知識のまとめ及び小テスト 前期で学習した調理に関する基礎的知識について、到達度の確認を行う		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。復習30分：課題レポートに取り組む。
第16回	日本料理VIもち米の調理 献立：炊きおこわ 菊花豆腐の澄まし汁 鯖の味噌煮 茶巾絞り		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。復習30分：課題レポートに取り組む。
第17回	西洋料理VIベシャメルソースの作り方と応用・パスタ料理 献立：マカロニグラタン グリーンサラダ 田舎風野菜スープ リンゴのブルジョアーズ		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。復習30分：課題レポートに取り組む。
第18回	日本料理VII加熱調理操作 蒸す・煮る(煎り煮) 献立：しめじご飯 炒り鶏 空也蒸し イカときゅうりのみぞれ和え 芋かりんとう		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。復習30分：課題レポートに取り組む。
第19回	西洋料理VII卵の調理特性 献立：オムライス ミネストローネ カナッペ カスタードプディング		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。復習30分：課題レポートに取り組む。
第20回	西洋料理VIII小麦粉調理特性(膨化料理) 献立：鶏肉のクリーム煮 ロワイヤル入りコンソメ ひじきサラダ シュークリーム		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。復習30分：課題レポートに取り組む。
第21回	日本料理VIII松花堂弁当 献立：萩ご飯 高野豆腐と干しシイタケの炊き合わせ 伊達巻 豚肉巻き イカのもみじ和え ほうれん草お浸し あんこ玉		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。復習30分：課題レポートに取り組む。
第22回	西洋料理IXパンを用いた料理 献立：サンドイッチ クラムチャウダー 鶏肉のサラダ スイートポテト		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。復習30分：課題レポートに取り組む。
第23回	日本料理IX寿司飯の特徴 献立：いなりずし 太巻き寿司 大根のワサビ和え ハマグリの潮汁 桜餅		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。復習30分：課題レポートに取り組む。

第24回	西洋料理X行事食I クリスマス料理 献立：オードブル ローストチキン 星空のスープ ブッシュドノエル		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。復習30分：課題レポートに取り組む。
第25回	行事食II 正月料理 献立：黒豆 二色卵 のし鶏 紅白なます 紅白かまぼこ 栗きんとん 数の子の土佐じょうゆ 和え 日の出ミカン		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。復習30分：課題レポートに取り組む。
第26回	日本料理X焼き物の調理 銀紙焼き 献立：牡蠣飯 のっぺい汁 たら銀紙焼き ひじきの炒り煮 わらび餅		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。復習30分：課題レポートに取り組む。
第27回	行事食III ひな祭り料理 献立：ちらし 寿司 菜の花の辛し和え ハマグリ の潮汁 桜餅		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。復習30分：課題レポートに取り組む。
第28回	調理に関する知識及び技術 まとめ 学生による献立作成、実習	献立作成から実習を振り返り、グループで献立の特徴についてまとめ、発表を行う。	予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。復習30分：課題レポートに取り組む。
第29回	調理に関する知識のまとめ及び実技テスト 学習した調理に関する基礎的技術について、到達度の確認を行う		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。復習30分：課題レポートに取り組む。
第30回	調理に関する知識のまとめ及び小テスト 学習した調理に関する基礎的知識について、到達度の確認を行う		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。復習30分：課題レポートに取り組む。

教科書

「楽しい調理」(医歯薬出版株式会社)
「調理のためのベーシックデータ」(女子栄養大学出版部)

参考書

「調理と理論」(同文書院)

成績評価の方法・基準

単位認定：60点以上(通年で評価)
実習ノート30% 実習実技及び課題30% 小テスト40%

課題等に対する フィードバックの方法

毎回栄養価計算と調べ学習の課題に取り組む。(次回提出)返却するので、ファイルに綴じ復習に有効に活用すること。

履修のポイント

実習については、各自が余裕をもって準備(身支度等)してのぞむこと。調理技術の習得と実習へ積極的に望む。食材の都合により実習が前後することがある。

オフィス・アワー

木曜日、12：30～13：20（昼休み）、9号館3F 第7 研究室
※授業前後にも適宜受けます。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C212

講義コード	30250001
講義名	調理実習II
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	1時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	医薬品メーカーや食品関連企業に管理栄養士として勤務した経験を活かし、栄養や食品・調理についての基礎知識について解説する。
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中島 君恵	指定なし

授業の概要と教育目標

基礎調理をふまえて、さらなる調理技術の向上及び造詣を深めるべく西洋料理、中国料理及び応用調理について学ぶ。また、調理の専門性や調理に関する分野の浸透を計るべく各分野のスペシャリストを講師として招いて行う。さらに実践力を養うため高齢者を対象として、献立作成→試作→実習を行いお弁当の製作を行う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマポリシーとの関連として、「人間のからだ」「食品」「栄養」に関する学修を総合的に理解し、「健康・栄養」に係る現場での実践的に活用、また問題を解決できる能力を修得することを目指して、調理に関する知識と技術を深く学び、実践力を養う。社会に出て活躍できるようグループ実習を通して自己や他者の役割を理解し、視野を広く積極的に実習に臨むことを目標とする。

到達目標

- ・基礎調理をふまえて、さらに調理技術を習得する。
- ・高齢者の調理(シルバーランチ)を通じて、高齢化時代に対応した献立作成を含めて実践力を養う。
- ・各分野のスペシャリストを通じて専門性を高める。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	1) ガイダンス 2) 高齢者の献立作成 3) 調味パーセント、吸油率について		予習30分：高齢者の献立に役立つ教科書や資料を読む。 復習30分：献立作成、ノート整理に取り

			組む。
第2回	西洋料理I・ソースについて・加熱調理操作(焼く)について 献立：バターロール、チーズスープ、チキンソテーマスタードソース、春野菜とグレープフルーツのサラダ、いちごゼリー		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第3回	日本料理I・米粉の調理性について・・加熱調理操作(蒸す)について 献立：新生姜ご飯、すまし汁、さわらの桜蒸し(道明寺蒸し)、たけのこの木の芽和え、うぐいすもち		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第4回	調理に関する基礎的技術について、到達度の確認(実技テスト)		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第5回	高齢者の調理II(シルバーランチ) 班ごとに作成した春の食材を使用した高齢者向け弁当の試作	実習後、班ごとにお弁当のねらい、調理法、使用した旬の食材、工夫点等を意見交換し、発表する。	予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第6回	中国料理I・中国料理のポイント・中国料理調理器具の特性について 献立：涼拌蕃茄、粟米湯、宮保鶏丁、炸春捲、杏仁豆腐		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
	日本料理II・煮込み料理の特徴・和菓子について・加熱調理操作(オーブンを利用した		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教

第7回	卵の調理)について 献立：そら豆ご飯、えびしんじょう椀、ぎせい豆腐、治部煮、錦玉		科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第8回	西洋料理II・スペイン料理について・米の調理について 献立：パエリア、ガスパチョ、エスカベッチョ、パナジェッツ		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第9回	高齢者の調理III(シルバーランチ) 班ごとに作成した春の食材を使用した高齢者向け弁当の試作	実習後、班ごとにお弁当のねらい、調理法、使用した旬の食材、工夫点等を意見交換し、発表する。	予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第10回	中国料理II・中国料理のポイント・「炒」「炸」について 献立：醬蛋、排黄瓜、榨菜肉絲湯、炒青椒牛肉絲、炸鶏塊、杏仁酥		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第11回	西洋料理III・ひき肉料理・蒸し焼きの調理特性について 献立：ビシソワーズスープ、豚肉のロベータ風、ミモザサラダ、米粉のロールケーキ		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む
第12回	日本料理III・加熱調理操作(オーブンを用いた肉の調理)について ・季節の特徴的な食材の扱い方について(冬瓜) 献立：あさりと根みつばの炊き込みご飯、そうめんのすまし汁、和風ローストポーク、冬瓜のえびあんかけ、水無月		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に

			取り組む。
第13回	高齢者の献立の立て方と調理IV(シルバーランチ) 班ごとに作成した夏の食材を使用した高齢者向け弁当の試作	実習後、班ごとにお弁当のねらい、調理法、使用した旬の食材、工夫点等を意見交換し、発表する。	予習30分：配布資料を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第14回	西洋料理V・パスタ料理の特徴・ベシャメルソースI 献立：ラザニア、レモンスープ、ビーンズサラダ、ビスコッティ		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第15回	調理に関する知識 まとめ及び小テスト		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第16回	西洋料理IV・煮込み料理について 献立：ご飯、人参のポタージュ、豚肉のプラム煮、ニース風サラダ、クラフティ		予習30分：配布資料を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第17回	日本料理IV・行事食(重陽節句)について 献立：菊花ごはん、飛竜頭のすまし汁、サンマの博多焼風 栗の甘露煮添え、舞茸のフリッター、ささみと春菊のごま和え、じょうよまんじゅう		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第18回	中国料理III・四川料理について		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。

第19回	西洋料理V・ベシャメルソースII・加熱調理操作(揚げる)について 献立：チキンピラフ、秋ナスのポタージュスープ、かのにのクリームコロケ、バナナケーキ		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第20回	中国料理II・中国料理のポイント・「炒」「炸」についてII 献立：涼拌茄子、白菜丸子湯、炒青梗菜、栗子鶏、拔絲地瓜		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第21回	日本料理III・揚げ物 変わり揚げについて・特徴的な汁物について 献立：舞茸ご飯、船場汁、鶏の南部揚げ、えびのあられ揚げ、里芋のゆず味噌煮、だし巻き卵、小松菜と油揚げの煮浸し、ラディッシュの甘酢漬け、きんつば		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第22回	高齢者の献立の立て方と調理V(シルバーランチ) 秋の高齢者向け弁当の試作を基に、お品書き作成も含めたおもてなし弁当を完成させる。	お弁当のコンセプト、調理法、使用した旬の食材、工夫点等を意見交換し、発表する。	予習30分：配布資料を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第23回	西洋料理VI・クリスマス料理IIについて・ひき肉料理について 献立：オードブル、ミートローフ、きのこのクリームスープ、焼きリンゴ、クリスマスケーキ(デモのみ)		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第24回	西洋料理VII・スポンジケーキについて		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、

			ノート整理に取り組む。
第25回	西洋料理VIII・デコレーションについて		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第26回	高齢者の献立の立て方と調理(シルバーランチ) VI 班ごとに作成した冬の食材を使用した高齢者向け弁当の試作	実習後、班ごとにお弁当のねらい、調理法、使用した旬の食材、工夫点等を意見交換し、発表する。	予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第27回	すしの歴史、寿司の食材及び調理		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第28回	西洋料理IX・イタリア料理について・加熱調理操作(揚げる)について 献立：カリフラワーのポタージュ、ミラノ風カツレツ、ポテトサラダ、ズッパイングレーゼ		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第29回	・調理に関する技術 まとめ及び実技テスト		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
			予習30分：配布資料を読む。

第30回	調理に関する知識 まとめ及び小テスト	復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
教科書		
「楽しい調理」(医歯薬出版株式会社)		
参考書		
「調理と理論」山崎清子(同文書院)		
成績評価の方法・基準		
単位認定：50点以上(通年で評価) 実習ノート30% 実習実技及び課題30%、小テスト40%		
課題等に対するフィードバックの方法		
調理を十分に理解して技術を習得するために授業時間外においても調理する機会を積極的に設けること。毎回課題レポートに取り組み、教科書や配布プリント等の講義資料を熟読しまとめる。ノート提出(計2回)を行うので、毎回授業終了に実習内容についてまとめることを復習として勧める。返却しますので、ノートに貼る又はファイルに綴じ学修の参考にすること。		
履修のポイント		
調理科学と健康の視点を持ち、実習には積極的な姿勢で実習に臨むこと。 食材の都合により、回数が前後する場合がある。		
オフィス・アワー		
木曜日、12:30~13:20(昼休み)、9号館3F第7研究室 ※調理実習前後にも、適宜受け付けます(9号館1F調理準備室)		
科目区分		
専門科目		
当該授業科目の教育課程内での位置づけ		
CS-C253		

講義コード	30260001
講義名	マーケティング
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	2時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員		
職種	氏名	所属
教員	◎ 飯島 正義	指定なし

授業の概要と教育目標

フードビジネスの視点から農水産物や加工食品の流通ルートとその担い手である卸売業・小売業、中食を含めた外食産業、食品消費と環境問題や食の安心・安全といった今日の私たちを取り巻く問題について説明していきます。授業は、講義形式で行いますが、授業内容が理解できているかどうかを確認するために「確認プリント」を実施する予定です。本講義を通して私たちの生活の身近な問題からグローバルな問題までを理解することを目標とします。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連では、1. 私たちの生活を身近な問題からグローバルなテーマまで多角的に理解している、2. 生活科学の基礎となる衣食住に関する基本的な事柄について、さらに生活を取り巻く社会的環境について、科学的に理解している、という2項目と関連しています。なお、この科目は、フードスペシャリストの資格を取得する場合には必ず履修しなければならない科目の一つです。

到達目標

1. 農水産物や加工食品の流通について説明できるようになる。
2. 食品卸売業・小売業の役割や現状について説明できるようになる。
3. 食品消費と環境問題、食の安心・安全など今日の課題についても説明できるようになる。

授業計画

	授業内容と方法、課題	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	フードビジネスとは何か オリエンテーション（授業内容、進め方、成績評価等） フードビジネス、フードマーケティングとは何かについて学びます。	予習90分：シラバスと教科書の「5 フードマーケティング」のところを読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
	食生活の変化（1）	予習90分：教科書の「1 食市場の変化」のところを

第2回	食生活がどのように変化してきたのか、その要因について学びます。	読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第3回	食生活の変化（2） 食生活の変化が商品消費をどのように変化させてきたのかを学びます。	予習90分：教科書の「1 食市場の変化」のところを読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第4回	食品の流通（1） 流通の役割と食品流通の特徴について学びます。	予習90分：教科書の「2 食品の流通」のところを読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第5回	食品の流通（2） 生鮮食品の卸売市場流通について学びます。	予習90分：教科書の「2 食品の流通」のところを読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第6回	食品の流通（3） 加工食品の流通について学びます。	予習90分：教科書の「2 食品の流通」のところを読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第7回	食品の流通（4） 食品小売業（スーパー・コンビニなど）について学びます。	予習90分：教科書の「2 食品の流通」のところを読んでおくこと。復習90分；：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第8回	食品の流通（5） 温度帯別食品流通について学びます。	予習90分：教科書の「4 主要食品の流通」のところを読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第9回	主要な食品流通（1） 米、麦、野菜・果物などの流通について個別にみていきます。	予習90分：教科書の「4 主要食品の流通」のところを読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第10回	主要な食品流通（2） 漬物、菓子、飲料などの流通について個別にみていきます。	予習90分：教科書の「4 主要食品の流通」のところを読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第11回	外食産業 外食産業の発展とその仕組みについて学びます。	予習90分：教科書の「3 外食・中食産業」のところを読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第12回	中食産業 中食産業の発展とその背景について学びます。	予習90分：教科書の「3 外食・中食産業」のところを読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第13回	食料消費と環境問題 食料消費と環境問題の関係について学びます。	予習90分：教科書の「6 食料消費の課題」のところを読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第14回	食料消費を取り巻く課題 買物難民、地産地消、食育など今日の課題について学びます。	予習90分：教科書の「6 食料消費の課題」のところを読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第15回	食品流通と安全 食品流通に対して、どのような安全策が施されているのかについて学びます。	予習90分：教科書の「6 食料消費の課題」のところを読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。

教科書

日本フードスペシャリスト協会編『三訂食品の消費と流通』建帛社

参考書

必要に応じて紹介します。

成績評価の方法・基準

単位認定50点以上
筆記試験70%、平常点（確認プリントの提出、授業への取り組みなど）30%

課題等に対する フィードバックの方法

確認プリント等については、原則として次週返却します。

履修のポイント

授業のポイントの整理・まとめを着実に積み重ねて下さい。

オフィス・アワー

授業日の授業開始前もしくは終了後に教室等で質問に応じます。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C171

講義コード	30270001
講義名	人間関係
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	2時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 大澤 靖彦	指定なし

授業の概要と教育目標

本講義では、人とのかかわり、人間関係を円滑に運ぶためのカウンセリングの考え方やその基本的な技法を中心に学習し、必要となる技術や理論について理解を深める。とくに対人援助場面でみられる基本的なコミュニケーションの技法とその背景にある考え方を取り上げる。授業は講義形式で行い、授業内で実習を組み込んだり、小レポートを課すことも予定している。また、「ピアヘルパー」の資格取得も視野に入れて講義を進める。人と人との関係を結ぶための基本的な考え方や技法について、心理学の立場から理解し、それらを確実にすることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマポリシーとの関連として、私たちの生活を身近な問題からグローバルなテーマまで多角的、科学的に理解することを目指し、心理的側面の理解を通してその目的達成に資する知識を養う。そして、将来的な展望としては、人間関係の多様なあり方を理解することを通して、生活科学の問題を理解する基盤となる学修成果を残すことを目指すものとする。

到達目標

1. 援助者としての心がまえについて理解する。
2. カウンセリングの基礎的な理論について理解する。
3. 援助（ヘルピング）技法の基本について理解する。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	ガイダンス 人間関係で取り扱う問題 ピアヘルパーとは何か、構成的グループエンカウンターの考え方	構成的グループエンカウンターを構成するエクササイズとシェアリングの実際について、いくつかのエクササイズを取り上げて、教員がファシリテーターとなって実施し、ピアヘルピング（仲間同士で助けたり助けられたりする）の関係性を体験を通して実感する。	予習90分：教科書第1章1節を読む。 復習90分：配布資料を見直す。

第2回	カウンセリング概論	カウンセリングの定義・略史・必要性についてグループで意見交換し、自分の考えを深める。	予習90分：教科書第1章2・7節を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第3回	援助関係の形成①	カウンセリングの種類、援助者としての資質についてグループで意見交換し、自分の考えを深める。	予習90分：教科書第1章3・4・6節を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第4回	援助関係の形成②	援助のプロセス（リレーションづくり、問題の把握、問題の解決）についてグループで意見交換し、自分の考えを深める。	予習90分：教科書第1章5節を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第5回	カウンセリング理論① 自己理論と精神分析理論にもとづくカウンセリングの考え方を学ぶ。	ヘルパーが話しやすくなるためにはどのようなことに注意すればよいのかについて、グループで話し合う。	予習90分：1年次「人間と心理」“臨床の心理学”を見直す。 復習90分：配布資料を見直す。
第6回	カウンセリング理論② 学習理論と論理療法理論にもとづくカウンセリングの考え方を学ぶ。	1年次に学習した「学習」について、グループで確認する。	予習90分：1年次「人間と心理」“臨床の心理学”を見直す。 復習90分：配布資料を見直す。
第7回	ヘルピングの技法① 非言語的技法～非言語的コミュニケーションに注目した援助技法	言語的技法と非言語的技法の双方を用いた二人一組になってエクササイズを行う。その後、普段はあまり自覚しないが、コミュニケーションとは言語・非言語のいずれかの技法を用いて行われるわけではなく、双方が伴ってはじめてコミュニケーションが成立することを体験を通して実感する。	予習90分：教科書第2章3節を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第8回	ヘルピングの技法② 言語的技法～言語的コミュニケーションによる基本的な援助技法（受容・繰り返し・明確化）	傾聴の技法のうち、受容・繰り返し・明確化について、履修者が二人一組になってのエクササイズを行い、傾聴を体験する。その後、エクササイズの感想等をシェアリングし、相手の良かった点やこうした方がもっと良くなる点などを共有する。	予習90分：教科書第2章1節を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第9回	ヘルピングの技法③ 言語的技法～言語的コミュニケーションによる基本的	傾聴の技法のうち、支持・質問について、履修者が二人一組になってのエクササイズを行い、傾聴を体験する。その後、エクササイズの感想等をシェアリングし、相手の良かった点やこう	予習90分：教科書第2章2節を読む。 復習90分：配布

	な援助技法 (支持・質問)	した方がもっと良くなる点などを共有する。	資料を見直す。
第10回	問題解決の対処法① 6つの対処法	自分の手に負えないとにはどんな対処方法があるのかについてグループで意見交換する。	予習90分：教科書第2章5節を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第11回	問題解決の対処法② 援助技法向上のための方法	いくつかの場面を設定し、グループでロールプレイを行う。	予習90分：教科書第2章7節を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第12回	対話上の諸問題への対応①	援助時に起こりやすい状況について、グループで対応策を考えてみる。	予習90分：教科書第2章4・6節を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第13回	対話上の諸問題への対応②	面接場面でヘルピーの感情をつかむための4択問題を行う。	予習90分：教科書第2章4・6節を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第14回	活動許容範囲① 青年期に生じるさまざまな課題とそれへの対処①	これまでのまとめとして4択問題や記述式問題を解いてみる。	予習90分：教科書第3章を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第15回	活動許容範囲② 青年期に生じるさまざまな課題とそれへの対処②、活動時の留意点		予習90分：教科書第3章を読む。 復習90分：配布資料を見直す。

教科書

日本教育カウンセラー協会編『ピアヘルパーハンドブック』図書文化社

参考書

適宜紹介する。

成績評価の方法・基準

単位認定50点以上。

確認テスト（最終授業で毎回の授業で行う小テストから40問を出題）40%、
レポート課題30%、
授業への積極的参加度30% を総合して評価します。

課題等に対する フィードバックの方法

授業内でレポートや課題を課すことがある。返却するので学習の参考にすること。また、授業の振り返りの資料とその解答を配布するので、授業内容の理解に役立てること。

履修のポイント

講義への積極的な取り組みを期待します。本科目は、「ピアヘルパー」資格取得にかかわる科目

（「人間と心理」「臨床心理学」「人間関係」）のひとつです。普段から人の行動に興味を持ち、各回の主題に該当する教科書の章に目を通すことが予習となります。配布資料・ノートのまとめを復習として勧めます。

オフィス・アワー

水曜日・木曜日、12：30～13：20（昼休み）、11号館第8研究室。
※講義終了前後にも、適宜受け付けます。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C170

講義コード	30280001
講義名	臨床心理学
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	3時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	教育機関での心理臨床活動および大学院生へのスーパーヴィジョン等の経験からケースの見立て・介入方法などに反映させた授業を行う
学年	2学年

担当教員		
職種	氏名	所属
教員	◎ 大澤 靖彦	指定なし

授業の概要と教育目標

臨床心理学は、心理学で蓄積された理論や技法を用いた応用的・実践的な学問領域である。人の心の安定をはかるための臨床援助活動の実際について理解を深めることが求められるが、その基本は自己を理解し、自己と他者は異なる存在であるということ認識してコミュニケーションをはかるところにある。本講義では、臨床心理学に関連するテーマとともに、自己理解や他者理解といったテーマを取り上げる。授業は講義形式で行うが、テーマによってVTR視聴や実習を取り入れる予定である。なお、対人場面におけるさまざまなコミュニケーションの特徴を学修し、併せて、自己と他者の違いを実感しながら、自らのコミュニケーション能力を理解することを教育目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマポリシーとの関連として、私たちの生活を身近な問題からグローバルなテーマまで多角的、科学的に理解することを目指し、心理的側面の理解を通してその目的達成に資する知識を養う。そして、将来的な展望として、人の多様性を加味した生活科学を心理的側面を通して考えることができる能力の養成の基盤となる学修を目指す。

到達目標

1. 自己理解・他者理解について学修し、自己と他者の違いを実感する。
2. 対人場面におけるコミュニケーションの特徴について理解する。
3. 臨床心理学で使われる専門用語（カウンセリングの専門用語など）について理解する。
4. 「相手の話を聞く」姿勢と「自らのことを話す」姿勢について理解する。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	オリエンテーション 臨床心理学とは何か①	一般的な問題解決のプロセスと臨床心理学における問題解決のプロセスの異同に	予習90分：教科書pp.12-23を読む。 復習90分：配布資料の整理し、

		ついて考える。	教科書と照合する
第2回	臨床心理学とは何か② 臨床心理学の活動や基本理念について取り上げる。		予習90分：教科書pp.24-44を読む。 復習90分：配布資料の整理し、教科書と照合する
第3回	アセスメント① アセスメントのための情報収集や分析方法からケース・フォーミュレーションを行うこと、つまり援助は自分の勘や経験によって進められるのではなく、仮説-検証のプロセスが大切であることを取り		予習90分：教科書pp.46-54を読む。 復習90分：配布資料の整理し、教科書と照合する
第4回	アセスメント② 心理検査の概要（検査の特色や目的等）について取り上げる。	自分の性格検査の結果についての妥当性について理解する。	予習90分：教科書pp.56-75を読む。 復習90分：配布資料の整理し、教科書と照合する
第5回	人の発達と心の問題① 発達段階における特徴と諸問題について取り上げる。	発達段階で起こりやすい問題の背景には何があるのかについて多面的に理解することを学ぶ。	予習90分：教科書pp.78-85を読む。 復習90分：配布資料の整理し、教科書と照合する
第6回	人の発達と心の問題② 発達過程における具体的な問題について取り上げる。	発達段階で起こりやすい問題の背景には何があるのかについて多面的に理解することを学ぶ。	予習90分：教科書pp.86-93を読む。 復習90分：配布資料の整理し、教科書と照合する
第7回	人の発達と心の問題③ 発達過程における具体的な問題について取り上げる。	発達段階で起こりやすい問題の背景には何があるのかについて多面的に理解することを学ぶ。	予習90分：教科書pp.94-119を読む。 復習90分：配布資料の整理し、教科書と照合する
第8回	心の疾患と理解① 異常心理学、不安障害について取り上げる。	正常と異常の違いについて考究討する。	予習90分：教科書pp.122-143を読む。 復習90分：配布資料の整理し、教科書と照合する
			予習90分：教科書pp.144-151、160-165

第9回	心の疾患と理解② 気分障害や精神病について取り上げる。		を読む。 復習90分：配布資料の整理し、教科書と照合する
第10回	心の疾患と理解③ パーソナリティ障害について取り上げる。	事例研究を行い、パーソナリティ障害についての理解を深める。	予習90分：教科書pp.152-159を読む。 復習90分：配布資料の整理し、教科書と照合する
第11回	問題への介入① 自分に向き合っていくための心理療法について取り上げる。	安心して自分の内面に目を向けるためには何が重要かについて考究する。	予習90分：教科書pp.168-179を読む。 復習90分：配布資料の整理し、教科書と照合する
第12回	問題への介入② 自分の行動や考え方に焦点を当てた心理療法について取り上げる。	物事の捉え方には一人一人のクセがあることを検討する。	予習90分：教科書pp.180-187, 216を読む。 復習90分：配布資料の整理し、教科書と照合する
第13回	問題への介入③ 11・12回で扱った以外の心理療法について取り上げる。		予習90分：教科書pp.188-204を読む。 復習90分：配布資料の整理し、教科書と照合する
第14回	コミュニティへの介入 児童虐待について取り上げる。	コミュニティへの介入で注意すべき事柄について考究する。	予習90分：教科書pp.108, 194-197, 226, 246を読む。 復習90分：配布資料の整理し、教科書と照合する
第15回	社会と臨床心理学 社会の中でと臨床心理学がどのように活用しているのかについて取り上げる。		予習90分：教科書pp.272-285を読む。 復習90分：配布資料の整理し、教科書と照合する

教科書

下山晴彦監修 『面白いほどよくわかる臨床心理学』 西東社

参考書

適宜紹介する。

成績評価の方法・基準

単位認定50点以上。
確認テスト（最終授業で毎回の授業で行う小テストから40問を出題）もしくは小論文40%、
レポート・課題30%、
授業への積極性・態度30% を総合して評価します。

課題等に対する フィードバックの方法

授業内でレポートや課題を課すことがある。返却するので学習の参考にすること。

履修のポイント

講義への積極的な取り組みを期待します。本科目は、「ピアヘルパー」資格取得にかかわる科目（「人間と心理」「臨床心理学」「人間関係」）のひとつです。

オフィス・アワー

水曜日・木曜日、12：30～13：20（昼休み）、11号館第8研究室。
※講義終了前後にも、適宜受け付けます。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C150

講義コード	30290001
講義名	生活環境論
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	3時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員		
職種	氏名	所属
教員	◎ 橋爪 博幸	指定なし

授業の概要と教育目標

地球環境問題は多岐にわたると同時に、私たちのすぐ身近に存在している。大気や水質の変化、土壌の汚染と劣化、生態系の危機など、日々の新聞にいずれかの環境問題の記事が必ず見られる。この講義では、私たちの生活のなかで生じている環境問題を、大気や水、土壌の汚染、私たちの社会がかかえる廃棄物・エネルギー問題、自然環境の変化など、個々の話題に着目して論じる。同時に、大気汚染、生態系の危機、エネルギー問題などについて、問題点を明確にし、解決策を探る。

卒業認定・学位授与の方針との関連

今日、世界規模で生じている地球環境問題について興味を持続し、たとえば廃棄物の削減や省エネルギーを意識した活動など、社会に出ても環境問題を考えた生き方ができる人材を育てる。生活科学科のディプロマポリシーにある「私たちの生活を身近な問題からグローバルなテーマまで多角的に理解している」という到達目標に関係し、人間の生活環境や自然環境について多面的に捉える能力を養う。

到達目標

今後、ますますクローズアップされてくる地球環境問題について、すこしでも地球環境の現状への興味をかきたて、これから社会に出たあとも環境に配慮した生活ができるようにする。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	橋爪博幸	環境問題と公害問題について違いを理解する。過去に起こった大気汚染による公害問題を知る。また、これに関連して、大気汚染についてどんな法律があるのかを見ていく。		復習としてテキスト12頁～14頁、55頁～60頁を見ておく(90分)。19頁2.1の問題を考える(90分)。
			大気汚染物質	予習の時間90分、復習の時

第2回	橋爪博幸	中国から日本へ渡ってくるの大気汚染物質について知る。大気汚染の原因となる物質について理解する。	にはどのようなものがあるか意見を出し合い、まとめる。	間90分。予習は事前にテキスト60頁～63頁を見ておく。復習として、67頁の問題をやってみる。次の授業時に解答する。
第3回	橋爪博幸	2011年3月の東日本大震災では多くの人命が失われ、同時に福島の原子力発電所の事故で放射能汚染が広がった。原子力発電所の事故により、どのような環境汚染が広がることになったのか、その概略を見ていく。		予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前配布プリントを読んでおく。復習は配布プリントを見直し、不足があれば調べてプリントに記入する。
第4回	橋爪博幸	地球規模で気候変動が生じていることや、CO2が増加している事実をデータで知り、今後予想される災害や海洋の変化などについて知る。		予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキスト101頁～105頁を見ておく。復習は配布プリントを見直し、不足があれば調べてプリントに記入する。99頁7.9の問題を解いてみる。
第5回	橋爪博幸	生態系という概念を理解し、日本列島の自然環境の多様性に触れる。	日本列島に見られる森林生態系について意見を出し合い、森林区分の地図を作成する。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキスト111頁～121頁を見ておく。復習は122頁9.3について調べまとめる。
第6回	橋爪博幸	廃棄物量の現状や循環型社会を目指す法整備が進められていることを知る。包装容器の再利用の道を探る。		予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキスト123頁～125頁を見ておく。江戸のリサイクル社会についてまとめる（141頁～147頁）。
第7回	橋爪博幸	商品等を包むパッケージについて、さまざまな機能、デザイン、素材について学ぶ。＜アクティブラーニング＞パッケージの再利用、活用事例について考える。		予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキスト126頁～128頁、133、134頁を見ておく。復習として140頁、10.8をやってみる。
第8回	橋爪博幸	枯渇性エネルギー、再生可能エネルギーにはどのようなものがあるかを知る。電気やガス、ガソリンといったエネルギー源の消費推移等を知る。		予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキスト106頁～108頁を見ておく。復習は148頁11.4を考えてみる。
第9回	橋爪博幸	WWFが発行するレポートに載る「エコロジカルフットプリントの世界地図」をもとに、これから社会をつくる私たちが、目指すべき人間社会はどのようなものであるかを考える。	エコロジカルフットプリントの世界地図を学生みなどで完成させる。	予習として配布プリントの穴埋めをしておく（90分）。テキスト6頁～9頁を読んでおく。復習は配布プリントを見直し、不足があれば調べてプリントに記入する（90分）。
第10回	橋爪博	世界の不平等を理解し、発展途上国といわれる国々でとりかえしのつかない破壊が生じている現状を		予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキスト4頁～5頁を見ておく。復習は配布プリントを見直し、不

	幸	見ていく。		足があれば調べてプリントに記入する。
第11回	橋爪博幸	野生生物保護や廃棄物の越境を防ぐための国際的な取り決めを知る。		予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキスト15頁～19頁を見ておく。復習は配布プリントを見直し、不足があれば調べてプリントに記入する。
第12回	橋爪博幸	地球上における淡水の割合を知り、淡水や海水がひどく汚染されている現実を知る。水質汚染を防ぐ方法について考える。		予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキスト41頁～49頁を見ておく。40頁、3.1の問題を解いてみる。
第13回	橋爪博幸	世界第4位の湖であったアラル海が消滅の危機にある。人間の事業活動が地球規模で環境破壊を招くことを知る。		予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前に配布プリントの穴埋めをしておく。復習はアラル海の消滅までの経緯をまとめる。
第14回	橋爪博幸	アジアやアフリカなど、世界各地で進行する砂漠化の現状を知る。		予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキスト1頁～4頁を見ておく。復習は9頁、1.6の問題について記述してみる。
第15回	橋爪博幸	現代のモノと情報があふれる人間社会が抱える環境問題をふり返り、人間らしく生きるために必要な事物は何であるかを考える。		これまで15回の講義を振り返り、大気汚染や気候変動など項目ごとにノートにまとめる(180分)。

教科書

鈴木孝弘『新しい環境科学』改訂2版(駿河台出版)

参考書

講義のなかで必要なときに紹介する。

成績評価の方法・基準

単位認定 60点以上 課題の提出(20%)、期末試験(80%)をもとに総合的に評価する。

課題等に対する フィードバックの方法

提出された課題は、こちらでチェックし、記述レポート等は添削し、補足説明を付して返却する。また細かくチェックできないときはレポート等を授業時間内で返却し、解説し、場合によっては模範解答を掲示、または配布する。

履修のポイント

求められた配布プリントの提出や、レポート課題はかならず提出すること。環境問題に関するニュースや新聞記事等を読み理解しておく。配布プリントは記入漏れがないようにしておく。

オフィス・アワー

水曜日の昼休みの時間をオフィス・アワーとする。9号館3階の第10研究室に来ること。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-R111

講義コード	30300001
講義名	コンピュータI
(副題)	【教職必修（共通）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	2時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋爪 博幸	指定なし

授業の概要と教育目標

私たちの日常生活では、スマートフォンをはじめとするさまざまな情報操作機器に触れる機会が多い。そのなかでもコンピュータは情報検索や文書作成、データ管理など多岐にわたる機能が備わっている。このコンピュータIの演習科目では、主に「ワード」ソフトを使い、文書作成の基礎操作を中心に学ぶ。また「パワーポイント」ソフトをつかって、口頭発表データの作成、インターネット機能を活用した情報検索の技術について学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

コンピュータI・IIの授業を通して、コンピュータ操作の基本ソフトを使いこなす。ワード、エクセル、パワーポイントなどのソフトを使い、データ作成、基礎的な表計算処理等ができるようにする。生活科学科のディプロマポリシーにある「生活科学に関する基礎的な知識」を科学的に捉えることに関係し、その実践的な能力を養う。

到達目標

ワードとパワーポイントの基礎的な操作方法を、実際の社会の現場で発揮できるレベルまで引き上げる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	橋爪博幸	漢字の入力方法、読み方がわからない漢字の入力方法を学ぶ。アルファベット、数字入力の方法も学ぶ。		復習の時間90分。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第2回	橋爪博幸	ワードソフトで使われる編集記号について理解する。また、記号の入力方法を学ぶ。	実技として、簡単な文章入力にチャレンジする。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。

第3回	橋爪博幸	中央揃え、文字サイズ、フォント、アンダーラインといった文字修飾の方法を学ぶ。		予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第4回	橋爪博幸	罫線をつかった表を作成する。表内の文字列の配置の換え方などを学ぶ。		予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第5回	橋爪博幸	パワーポイントを使った文書を作成する。(1回目)	自分自身の趣味や特技についてパワーポイントデータにまとめる。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、データ作成課題を仕上げる(90分)。
第6回	橋爪博幸	パワーポイントを使った文書を作成する。(2回目)	パワーポイントで口頭発表用のデータを作成し、口頭発表する。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、データ作成課題を仕上げる(90分)。
第7回	橋爪博幸	手紙や文書としてつかう敬語表現を確認する。A4用紙一枚で文書を作成する。	A4用紙一枚で、見栄えの良い履歴書送付のかがみ文書などを作成する。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、データ作成課題を仕上げる(90分)。
第8回	橋爪博幸	ワードアートや図の挿入方法を学ぶ。		予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第9回	橋爪博幸	用紙を無駄にしない印刷の方法を学ぶ。印刷する際の注意点を理解する。		予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第10回	橋爪博幸	A4用紙一枚の課題文書を作成する。		予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第11回	橋爪博幸	段組みや脚注といった、文書を美しくするよう工夫した文書づくりを行う。		予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第12回	橋爪博幸	同じ文書の一部だけを、差し替えて印刷する方法を学ぶ。		予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
		インターネットに接続して、地図	ワードソフト	予習の時間90分、復習の時

第13回	橋爪博幸	や電車の時刻表などを調べる。自分にとって必要な情報を見極める方法を学ぶ。インターネットを使う際のりすくについて認識する。	を使った実技問題にチャレンジする。 (1回目)	間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第14回	橋爪博幸	ワードソフトの使い方を総復習する。知識問題にチャレンジする。	ワードソフトを使った実技問題にチャレンジする。 (2回目)	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第15回	橋爪博幸	ワードソフトを使い、実技問題を仕上げる。	ワードソフトを使った実技問題にチャレンジする。 (3回目)	復習の時間90分。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。

教科書

『30時間アカデミック 情報リテラシー Office2016』 実教出版

参考書

講義のなかで必要なとき紹介する。

成績評価の方法・基準

単位認定 60 点以上 提出された課題 (50%)、実技試験 (30%) と知識問題 (20%) の点数をもとに評価する。

課題等に対する フィードバックの方法

配布プリントや、作成データを印刷し提出する。こちらで確認後、返却し授業内で課題への回答について解説する。記入漏れ、データ作成の不備があるときは再提出をもとめる。

履修のポイント

提出を求められた課題は、かならず提出すること。

オフィス・アワー

水曜日の昼休みをオフィス・アワーとする。9号館3階の第10研究室に来ること。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-R112

講義コード	30310001
講義名	コンピュータII
(副題)	【教職必修(共通)】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	2時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員		
職種	氏名	所属
教員	◎ 橋爪 博幸	指定なし

授業の概要と教育目標

前期のコンピュータIにひきつづき、後期開講のコンピュータIIの演習科目では、エクセルソフトを活用した表計算やグラフ作成を中心におこなう。エクセルソフトを使いこなすことで、さまざまな表計算だけでなく、グラフの作成や名簿などデータベースの管理がスマートにでき、文書作成時のミスも防げる。またエクセルソフトに備わっている数多くの関数を使いこなすことで、数値や文字データの処理をスムーズに進めることができる。後期のコンピュータIIでは、このエクセルソフトを使った情報処理技術を学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

コンピュータIとIIの授業を通じて、コンピュータの操作に慣れる。コンピュータのソフトとして、ワード、エクセル、パワーポイントを使い、短時間で与えられた文書や発表データの作成、基礎的な表計算処理等ができるようにする。生活科学科のディプロマポリシーにある「生活科学に関する基礎的な知識」を科学的に捉えることに関係し、実践的な能力を養う。

到達目標

ワードやパワーポイント、エクセルの操作は今日の社会で必須のスキルである。演習を通して、社会人になったときに組織のなかで書類作成をてきぱきとこなせる高いレベルまで到達する。文書やグラフなどを自分のイメージしたとおりに表現することができる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	橋爪博幸	エクセルの画面についてその名称、機能を知る。		復習の時間90分。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第2回	橋爪	エクセルソフトで使われる関数について、その入力方法や記号の意味を理解	関数の課題にチャレンジ	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。

	博幸	する。	ジする。	習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第3回	橋爪博幸	合計を求めるSUM関数、平均を求めるAVERAGE関数を使い、表計算処理を行う。	関数の課題にチャレンジする。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第4回	橋爪博幸	ある範囲の中から最大値を求めるMAX関数、同様に最小値を求めるMIN関数を使い、表計算処理を行う。また、個々のセルに、さまざまな書式を設定する方法を学ぶ。	関数の課題にチャレンジする。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第5回	橋爪博幸	相対参照と絶対参照というエクセルソフト独特の用語を理解する。そして、あるセルをかならず参照（絶対参照）するように設定し、順位をつける関数（RANK.EQ関数）に生かす技術を学ぶ。	関数の課題にチャレンジする。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第6回	橋爪博幸	エクセルを活用してグラフを作成する。棒グラフ、円グラフなどを描いてみる。グラフ画面の様々な要素についてプリントにまとめる。	各自でグラフを作成し、印刷して提出する。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第7回	橋爪博幸	テキストの課題を見ながら、折れ線グラフや、レーダーチャートグラフ等をつくる。テキストにあるグラフ作成の実践問題にチャレンジする。	各自でグラフを作成し、印刷して提出する。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第8回	橋爪博幸	エクセルソフトで作成したデータを印刷する方法を学ぶ。印刷したい範囲を指定し、A4用紙1枚におさまるよう工夫する方法を学ぶ。		予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第9回	橋爪博幸	エクセルソフトの実技問題にチャレンジする。	各自でエクセルの課題に取り組み、印刷して提出する。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第10回	橋爪博幸	部員名簿等を作成し、データベースの基本的な形を理解する。データの並べ替え、漢字にひらがなを表示させる方法を学ぶ。		予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第11回	橋爪	「フィルタ」を設定する方法を学ぶ。データベースの実技問題にチャレンジ		予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。

	博幸	する。		習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第12回	橋爪博幸	ふりがなを取り出したり、セル内のある文字だけを抜き出す関数を学ぶ。		予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第13回	橋爪博幸	エクセルの実技問題にチャレンジする。	課題に取り組み、印刷して提出する。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第14回	橋爪博幸	エクセルの実技問題にチャレンジする。	課題を仕上げ、完成データをe-mailに添付して教員に送信する。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第15回	橋爪博幸	エクセルソフトをつかった一覧表やグラフ、データベース作成の演習を行う。＜アクティブラーニング＞実技問題にチャレンジし、完成したら印刷して提出する。	課題を仕上げ、完成データをe-mailに添付して教員に送信する。	復習の時間90分。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。

教科書

『30時間アカデミック 情報リテラシー Office2016』 実教出版（コンピュータIと同じテキストである）

参考書

演習のなかで、必要なときに紹介する。

成績評価の方法・基準

単位認定 60 点以上 提出された課題（50%）、実技試験（30%）と知識問題（20%）の点数をもとに評価する。

課題等に対する フィードバックの方法

配布プリントや、作成データを印刷し提出する。こちらで確認後、返却し授業内で課題への回答例等を解説する。記入漏れや、データ作成の不備があるときは再提出をもとめる。

履修のポイント

休まず出席すること。演習は15回しかありませんので、一度の欠席でも、一項目がすっかり抜けてしまいますので、休まないこと。また、課題はかならず提出すること。

オフィス・アワー

水曜日の昼休みをオフィス・アワーとする。9号館3階の第10研究室に来ること。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C130

講義コード	30320001
講義名	家庭経営学
(副題)	【教職必修（家庭）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	1時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員		
職種	氏名	所属
教員	◎ 飯島 正義	指定なし

授業の概要と教育目標

生活経営の内容としては、家族、結婚、育児、少子高齢化、消費者問題、衣食住、地域とのつながりなど、私たちの身近な生活に関する事柄（問題）が含まれます。授業形態は、双方向型の遠隔授業で行います。履修者は少人数と思われるので、事前配布したプリント資料を使用してゼミ形式の質疑応答を行っていきます。履修者には、毎回報告を課しますので、その準備してください。本講義は、私たちの身近な生活に関する問題を多角的に、また科学的に理解することを目標とします。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連では、1. 私たちの生活を身近な問題からグローバルなテーマまで多角的に理解している、2. 生活科学の基礎となる衣食住に関する基本的な事柄について、さらに生活を取り巻く社会的環境について、科学的に理解している、と関連しています。本講義を通じて、私たちの生活に身近ないろいろな事柄を考えていきます。

到達目標

私たちの身近な生活問題を多面的・科学的に理解することによって、問題をより深く考え、それに対処できる知識を修得することができます。

授業計画

	授業内容と方法、課題	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	生活経営とは オリエンテーション（授業内容、進め方、成績評価等） 生活経営とは何かについて学びます。	予習90分：シラバスをよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第2回	人口の変化 日本の人口の長期的な変化について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。

第3回	家族形態の変化 大家族制から小家族制への 家族形態の変化について学 びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復 習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこ と。
第4回	少子・高齢化（1） 少子化の現状について学び ます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復 習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこ と。
第5回	少子・高齢化（2） 少子化の問題点（出生率、 結婚、育児等）について学 びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復 習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこ と。
第6回	少子・高齢化（3） 高齢化の現状について学び ます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復 習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこ と。
第7回	少子・高齢化（4） 高齢化の経済的な問題点に ついて学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復 習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこ と。
第8回	少子・高齢化（5） 前回に続き、高齢化の問 題、特に社会保障制度の問 題について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復 習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこ と。
第9回	豊かさの変遷 所得格差について学びま す。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復 習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこ と。
第10回	家計消費 家計消費の動向について学 びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復 習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこ と。
第11回	家計貯蓄 家計貯蓄の動向について学 びます。	予習90分：プリント資料から第12章をよく読んでお くこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめ ておくこと。
第12回	現代の貧困 貧困の現状とその課題につ いて学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復 習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこ と。
第13回	政府による政策効果 租税、社会保障の再分配効 果について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復 習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこ と。
第14回	女性の教育と労働 女性教育と労働について学 びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復 習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこ と。
第15回	私たちの生活全般について 考える これまでの授業に関する総 合的なディスカッションを行 います。	予習90分：これまでのプリント資料全体を読み返 し、重要点を確認しておくこと。復習90分：授業内 容を整理し文章としてまとめておくこと。

教科書

使用しません。プリント資料を事前に配布し、授業を進めていきます。

参考書

必要に応じて紹介します。

成績評価の方法・基準

単位認定50点以上

レポート50%、平常点（授業での報告と質疑応答、取り組みなど）50%

課題等に対する
フィードバックの方法

前期授業は、双方向型の遠隔授業を実施することとなったので、質問等についてはできるだけ授業時間内に答えることにします。また、授業内容全体をまとめるレポートの提出については、Webで提出してもらい、講評します。

履修のポイント

毎回の授業ポイントの整理・まとめを着実に積み重ねてください。

オフィス・アワー

授業日の授業開始前もしくは終了後もWebで質問に応じます。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C172

講義コード	30330001
講義名	住居学
(副題)	【教職必修（家庭）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	1時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	住宅部材のデザインや内装設計業務の経験に基づき、人々の「生活文化」と自然や社会の「環境調和」の関わりについて「住居／すまいづくり」の視点から解説する。
学年	2学年

担当教員		
職種	氏名	所属
教員	◎ 峰岸 康之	指定なし

授業の概要と教育目標

人が生活する上での基盤となる「住まい」を学ぶことは、「建築物としての室内」と「室内で行われる生活行為」の両面から考察していくことが必要です。そして「住まい」を取り囲む「環境」との関係も見逃すことはできません。日本国内やヨーロッパの気候風土と住居の事例を観ていきながら、そこでの生活文化を考察していきます。多様な住まい方の形を知ると共に、人間の持つ五感に対しての、住まいの作り方の工夫も探求していきます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活文化としての「住まいかた」、「住まいをとりまく環境」についての科学的な考察と理解を深め、快適で個々の生活スタイルに適した心地良い「住まいかた」や「住まいの演出」を実現していくための、知識、感性、考察の技術を修得すること。

到達目標

日本及び世界の地理的条件や気候風土から、古来よりの住居の作り方についての理解を深め、現代の住まと比較し、その特徴や環境への対応、そして変化について理解を深め考察することが出来る。室内で快適に生活するための、ハード面及びソフト面におけるすまいづくりの工夫を、人間の持つ五感を軸に考察し、心地良い住まいのづくりを実践していくための基本的な知識・技術を習得していること。

授業計画				
	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのため必要な

				時間
第1回	峰岸康之 峰岸康之	生活文化を学ぶ／日本の気候風土と住宅のつくりかた		予習として シラバス確認及通読90分 復習として 関連事項の調査研究90分
第2回	峰岸康之	古民家の間取り／現代住宅の間取り／日本各地の住居	提示課題のテーマに沿い、生活様式や気候風土による住まいの違いや共通点等、その特徴について考察を深めるため、「アクティブラーニング」型式の意見交換、討論を行う。	予習として シラバス確認及通読90分 復習として 関連事項の調査研究90分
第3回	峰岸康之	生活行為と室空間の構成	提示課題のテーマに沿い、生活様式や気候風土による住まいの違いや共通点等、その特徴について考察を深めるため、「アクティブラーニング」型式の意見交換、討論を行う。	予習として シラバス確認及通読90分 復習として 関連事項の調査研究90分
第4回	峰岸康之	社会生活と住まいの関係「どこに住み、どう生活するか」	課題レポート1	予習として シラバス確認及通読90分 復習として 関連事項の調査研究90分
第5回	峰岸康之	光と色彩 色彩の基礎、心理効果・色彩調和	提出レポートの着眼や考察及び展開において「アクティブラーニング」型式の発表、講評、意見交換を行う。	予習として シラバス確認及通読90分 復習として 関連事項の調査研究90分
	峰	あかりの演出 照明計画		予習として シラバス確認及通

第6回	岸康之	の基本とアンビエントライティング		読90分 復習として 関連事項 の調査研 究90分
第7回	峰岸康之	素材と材質感 内装仕上げ材の種類や性質・多様なテクスチャ		予習として シラバス 確認及通 読90分 復習として 関連事項 の調査研 究90分
第8回	峰岸康之	音環境と室内 防音・遮音、快適な音環境への配慮		予習として シラバス 確認及通 読90分 復習として 関連事項 の調査研 究90分
第9回	峰岸康之	食と住まい 食文化と住文化、食事空間と生活スタイル	課題レポート2	予習として シラバス 確認及通 読90分 復習として 関連事項 の調査研 究90分
第10回	峰岸康之	香り・空気環境 香りの文化、空気環境の整備、VOC対策等	提出レポートの着眼やや考察及び展開において「アクティブラーニング」型式の発表、講評、意見交換を行う。	予習として シラバス 確認及通 読90分 復習として 関連事項 の調査研 究90分
第11回	峰岸康之	ヨーロッパの住居 I		予習として シラバス 確認及通 読90分 復習として 関連事項 の調査研 90

				究 分
第12回	峰岸康之	ヨーロッパの住居 II		予習として シラバス 確認及通 読90分 復習とし て 関連事項 の調査研 究90分
第13回	峰岸康之	ヨーロッパの住居 III	課題レポート 3	予習として シラバス 確認及通 読90分 復習とし て 関連事項 の調査研 究90分
第14回	峰岸康之	ヨーロッパの住居 IV	提出レポートの着眼やや考察及び展開において「アクティブラーニング」型式の発表、講評、意見交換を行う。	予習として シラバス 確認及通 読90分 復習とし て 関連事項 の調査研 究90分
第15回	峰岸康之	情報技術の活用と課題 「未来の私達の住まい」		予習として シラバス 確認及通 読90分 復習とし て 関連事項 の調査研 究90分

教科書

独自の講義資料を作成配布し、参考文献等を随時紹介していきます。

参考書

新しい住まい学 小宮洋一・片山勢津子 他 (井上書院)
ヨーロッパの家 1. 2. 3. 4 (講談社)

成績評価の方法・基準

課題レポートの提出／課題1 (30%)、課題2 (40%)、課題3 (30%) より評価、
単位認定 50点以上 とします。

課題等に対する フィードバックの方法

提示された課題テーマ及び自ら選定した課題テーマに対する調査や考察、着眼や展開に対する取

り組みを、小論文形式のレポート作成という形で研鑽していきます。
課題の着眼において、手掛かりとなる情報の提示や、考察のプロセスや展開方法などを提示して理解を深め、研究課題を解決していく能力を修得できるようフィードバックを行っていきます。

履修のポイント

日常生活の基本的な要素である『衣・食・住』生活科学全般に関わる内容で、生活文化にかかわる職業を志す人としての基本的な教養です。
講義内容を通して、身近な「住まい」の環境に、問題意識を持ち、その解決策や、改善案を探っていくことを心掛けましょう。

オフィス・アワー

非常勤)

前期：水曜（2限デザイン科授業） 10：50～11：00 1号館 デザイン棟 131山本研究室

*個別に質問や相談がある場合は、授業前又は後に申し出てください。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C150

講義コード	30340001
講義名	育児学
(副題)	【教職必修（家庭）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	1時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	高等学校等で保育の授業を受け持ったことがある経験をもとに、実践的な授業を展開する。
学年	2学年

担当教員		
職種	氏名	所属
教員	◎ 宮本 雄基	指定なし
教員	橋本 まさ子	指定なし

授業の概要と教育目標

育児の目的は、心身ともに健康な子供を育てることにあるが、1980年ごろからとくに指摘されているのは、体の健康は順調であっても、心の健康に問題のある子供が増加している点である。現代社会においてどのような育児が望ましいかという視点を持ちながら、出生前育児、乳幼児の心身の発達・発育・栄養・養護等について学ぶ。現代社会における育児支援の必要性を理解し、育児に関する知識・技術について学習する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、「健康・栄養」をキーワードに生活を科学的に理解を深めることを目指し、「育児」「乳幼児の発達・発育」の理解を通してその目的達成に資する知識を養う。そして将来的展望としては多様化する育児に対応する基盤となる学修を行うことを目指すものとする。

到達目標

- ・ 育児の知識を習得する。（出生前育児，乳幼児の心身の発達・発育，乳幼児の栄養，子供の主な病気、けが、事故について）
- ・ 自分の成長の記録を作成して育児のもつ意義やあり方について学び、自身の育児に活かす。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	橋本まさ子	育児における価値観の変遷/日本と世界の育児		予習90分：育児に関する新聞記事を収集する。復習90分：配布資料を見直す。

第2回	橋本まさ子	0歳から2歳までの発育と発達I (自分の成長記録を作成)	履修者に母子手帳を用いて乳幼児期の発育・発達について月齢毎に意見交換をさせ、乳幼児期の特徴について理解するきっかけを作る。また資料を用いてについて解説して理解を深め、再度学生自身の乳幼児期の発育・発達について意見交換する。	予習90分：教科書を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第3回	橋本まさ子	3歳から5歳までの発育と発達II (自分の成長記録を作成)		予習90分：教科書を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第4回	橋本まさ子	子供の成長と環境/現代の社会文化環境/家庭生活環境		予習90分：配布した文献及び資料を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第5回	橋本まさ子	女性の生理と妊娠/胎児の発育と生理/胎児に及ぼす諸因子		予習90分：配布した文献及び資料を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第6回	宮本雄基	母乳ミルクの与え方、離乳食について		予習90分：教科書を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第7回	宮本雄基	0歳から2歳までの心身の健康と食事		予習90分：教科書を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第8回	宮本雄基	3歳から5歳までの心身の健康と食事		予習90分：教科書を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第9回	宮本雄基	幼児食及びおやつ、食物アレルギーについて	子どもの食事、おやつの作成	予習90分：教科書を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第10回	橋本まさ子	乳児のための育児技術 (抱っこ・おむつ交換・授乳・ベビーマッサージ着替え・歯磨き・食事及び排泄の世話)		予習90分：教科書を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
	宮		履修者が使用した遊具およびおもちゃにつ	予習90分：教科書3章を読

第11回	本雄基	幼児の生活と遊び	いて話し合を行い、簡単に作れるおもちゃを作成し、意見交換を行う	む。復習90分：配布資料を見直す。
第12回	宮本雄基	子供のけがと事故の応急処置、子供のおもな病気とその予防、症状と手当て		予習90分：教科書を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第13回	橋本まさ子	衛生的な環境管理、乳幼児の生活を通じてのしつけ		予習90分：配布資料を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第14回	宮本雄基	現代社会における育児及びその支援についてI	履修者に現代社会における育児及びその支援について意見交換をさせ、おいしさの科学について理解するきっかけを作る。またこれまでの講義を資料を用いて振り返り解説して理解を深め、再度意見交換する。	予習90分：配布した文献及び資料を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第15回	宮本雄基	現代社会における育児及びその支援についてII		予習90分：配布した文献及び資料を読む。復習90分：配布資料を見直す。

教科書

子どもの理解と援助（光生館）

参考書

育つ・育てる（建帛社）子ども学概論(丸善プラネット) 最新版らくらくあんしん育児(Gakken)

成績評価の方法・基準

単位認定：50点以上 課題I50% 課題II50%

課題等に対する フィードバックの方法

授業の中での課題を課します。採点后ご返却しますので、次回の課題の参考にしてください。

履修のポイント

乳幼児に興味を持ち授業に積極的に参加することが望ましい。

オフィス・アワー

木曜日、12：30～13：20(昼休み)、9号館2階 第5研究室（橋本）
※講義授業前後にも、適宜受けます。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C173

講義コード	30350001
講義名	被服学及び実習
(副題)	【教職必修(家庭)】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	通年
講義区分	講義・実習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	高等学校等で家庭科(被服)の授業を担当した経験をもとに、実践的な授業を展開する。
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋本 まさ子	指定なし
教員	久保田 恵美子	指定なし
教員	荒井 尚美	指定なし

授業の概要と教育目標

被服の役割や機能、歴史について概説する。被服材料の大部分をである繊維製品の種類、構造、性能に関する基礎的な事項、染色や仕上げ加工、新しい素材の特徴について説明し、快適で着心地の良い被服の着用の条件、着用した被服の洗濯、管理などについて解説する。実習では、縫製用具や裁縫ミシンの使い方、手縫いの種類とその方法を学ぶ

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学日生活科学科のディプロマ・ポリシーの関連として、基礎の1つとなる衣生活について学び生活を取り巻く社会環境や文化について科学的理解できることを学ぶ。ここでは、被服構成の概略について学習し、小学校、中学校の家庭科被服分野の学習に必要とされる基本的技術の習得をめざす。

到達目標

家庭科教育実習に対応できる資質・技術を身につけられるよう、確実に自分の技術にすることを目標とする。二年次の教育実習には自信を持って望むものとする。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	橋本 まさ子 久保田 恵美子 荒井 尚美	授業の概要説明、 授業と資格との関係等		復習60分:配布資料を見直す。
	橋本	被服着用の目的と		予習60分前回の授業を見直す、復

第2回	まさ子	機能、被服の起源と形		習:配布資料を見直すために90分以上必要である。
第3回	橋本まさ子	繊維の種類、構造と性能		予習60分前回の授業を見直す、復習:配布資料を見直すために90分以上必要である
第4回	橋本まさ子	糸の種類と性質、構造と性質		予習60分前回の授業を見直す、復習:配布資料を見直すために90分以上必要である。
第5回	橋本まさ子	布地の種類、構造と性質		予習60分前回の授業を見直す、復習:配布資料を見直すために90分以上必要である。
第6回	橋本まさ子	被服の洗濯、染み抜き、保管管理		予習60分前回の授業を見直す、復習:配布資料を見直すために90分以上必要である。
第7回	橋本まさ子	基礎縫いI	簡単な小物の製作。	予習60分前回の授業を見直す、復習:基礎縫いを練習しておくために90分以上必要である。
第8回	橋本まさ子	基礎縫いII	簡単な小物の製作。	予習60分前回の授業を見直す、復習:基礎縫いを練習しておくために90分以上必要である。
第9回	久保田恵美子	授業の概要説明/縫製用具の種類と使い方		予習60分前回の授業を見直す、復習:配布資料を見直すために90分以上必要である。
第10回	久保田恵美子	基礎技術I	縫い方の基本について実際に作業する。	予習60分前回の授業を見直す、復習のために90分以上必要である。
第11回	久保田恵美子	基礎技術II	縫い方の基本について実際に作業する。	予習60分前回の授業を見直す、復習のために90分以上必要である。
第12回	久保田恵美子	縫製技術I	縫い方の応用について実際に作業する。	予習60分前回の授業を見直す、復習のために90分以上必要である。
第13回	久保田恵美子	縫製技術II	作品の制作をする。	予習60分前回の授業を見直す、復習のために90分以上必要である。
第14回	久保田恵美子	縫製技術III	作品の制作をする。	予習60分前回の授業を見直す、復習のために90分以上必要である。
第15回	久保田恵美子	縫製技術応用/中学校教材の研究→作品提出		予習60分前回の授業を見直す、復習のために90分以上必要である。
第16回	荒井尚美	技術・家庭(家庭分野)教材研究(被服領域)I		予習60分前回の授業を見直す、復習:60分配布資料を見直すために必要である。
第17回	荒井尚美	技術・家庭(家庭分野)教材研究(被服領域)II		予習60分前回の授業を見直す、復習:60分配布資料を見直す必要である。
第18回	荒井尚美	布を用いたものの製作I	作品の制作をする。	予習60分前回の授業を見直す、復習のために90分以上必要である。
第19回	荒井尚美	布を用いたものの製作I	作品の制作をする。	予習60分前回の授業を見直す、復習のために90分以上必要である。

第20回	荒井尚美	布を用いたものの製作I	作品の制作をする。	予習60分前回の授業を見直す、復習のために90分以上必要である。
第21回	荒井尚美	日本の伝統・文化(和服の文化)	和服に触れる。	予習60分前回の授業を見直す、復習:配布資料を見直すために120分以上必要である。
第22回	荒井尚美	日本の伝統・文化(和服の文化)	和服に触れる。	予習60分前回の授業を見直す、復習:配布資料を見直すために120分以上必要である。
第23回	荒井尚美	実習のまとめ		予習60分前回の授業を見直すために必要である。

教科書

随時資料の配布

参考書

新被服材料学 建帛社
衣生活概論 井上書院
衣生活の科学 建帛社

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上／実技課題(作品の技術力50%、完成度等50%・提出期限厳守等々)
※本授業は作品提出等により成績評価を行い、定期試験は実施しない

課題等に対する フィードバックの方法

提出したものは採点をして返却する。提出期限は守る。作品は教育実習の試料として使用する

履修のポイント

講義及び実技ですので、特段の理由が無い限り休まず出席して下さい。授業の復習は大事です。

オフィス・アワー

火曜日(12:30~13:20お昼休み) 荒井尚美、月曜日(12:30~13:20お昼休み) 久保田恵美子、月曜日(12:30~13:20お昼休み) 9号館2階 第5研究室 橋本まさ子

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C113

講義コード	30360001
講義名	解剖学
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	4時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 煙山 健仁	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養面から健康の増進と維持のかかわりを学習するには、人体の解剖学（構造）を理解する必要があり、ヒトの生命活動である栄養摂取から排泄までを学習する。栄養学の基礎知識である「食べ物の消化・吸収、代謝、排泄」という一連の流れを、どの器官系で行っているか、また、生体の恒常性を維持している器官系について学習する。

本科目では、食・栄養・健康という幅広い分野で科学的根拠に基づく栄養の実践活動ができるようになるため、人体のしくみを説明できるようにする。消化器系、呼吸系、腎・泌尿器系、循環器系、生殖器及び感覚器の構造と機能について、説明できることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーでは、「人間のからだ」「食品」「栄養」に関して基本的なことから理解し、さらにそれら相互作用について理解していることが求められており、解剖学の理解を通して、その目標達成に必要な知識を養う。

到達目標

人体の構成を器官・器官系レベルで体系的に理解でき、構造や機能を説明できる。栄養学に関わる人体の構造の基礎的な知識を身につける。

授業計画

	授業内容と方法、課題	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	解剖学とは、授業の進め方	予習90分：図書やインターネットで解剖学と生理学の違いについて調べる。復習90分：配布資料を見直し、疑問点をまとめる。疑問点が解決できない場合は、早めに質問に来る。
第2回	全身の骨格・筋肉、骨・筋肉の構造	予習90分：教科書1章・筋骨格系を読む。復習90分：配布資料を見直し、疑問点をまとめる。疑問点が解決できない場合は、早めに質問に来る。
第3回	全身の血管、心臓の構造	予習90分：教科書1章・循環器系を読む。復習90分：配布資料を見直し、疑問点をまとめる。疑問点が解決できない場合は、早めに質問に来る。

第4回	血液の成分とは たらき	予習90分：教科書1章・循環器系を読む。復習90分：配布資料を見直し、疑問点をまとめる。疑問点が解決できない場合は、早めに質問に来る。
第5回	【消化器系1】 口腔・咽頭・食 道の構造、嚥下	予習90分：教科書1章・消化器系を読む。復習90分：配布資料を見直し、疑問点をまとめる。疑問点が解決できない場合は、早めに質問に来る。
第6回	【消化器系2】 胃・小腸・大腸 の構造、消化と 吸収のしくみ	予習90分：教科書1章・消化器系を読む。復習90分：配布資料を見直し、疑問点をまとめる。疑問点が解決できない場合は、早めに質問に来る。
第7回	【消化器系3】 膵・肝・胆の構 造	予習90分：教科書4章・腹部背部を読む。復習90分：配布資料を見直し、疑問点をまとめる。疑問点が解決できない場合は、早めに質問に来る。
第8回	鼻腔・咽頭・喉 頭・気管・肺の 構造	予習90分：教科書1章・呼吸器系を読む。復習90分：配布資料を見直し、疑問点をまとめる。疑問点が解決できない場合は、早めに質問に来る。
第9回	腎臓・尿管・膀 胱・尿道の構 造、尿産生のし くみ	予習90分：教科書1章・泌尿生殖器系を読む。復習90分：配布資料を見直し、疑問点をまとめる。疑問点が解決できない場合は、早めに質問に来る。
第10回	内分泌器官とホ ルモン	予習90分：教科書1章・内分泌系を読む。復習90分：配布資料を見直し、疑問点をまとめる。疑問点が解決できない場合は、早めに質問に来る。
第11回	中枢神経系、末 梢神経系、脳・ 脊髄のしくみ	予習90分：教科書1章・神経系を読む。復習90分：配布資料を見直し、疑問点をまとめる。疑問点が解決できない場合は、早めに質問に来る。
第12回	運動神経と知覚 神経、自律神経 系	予習90分：教科書1章・神経系を読む。復習90分：配布資料を見直し、疑問点をまとめる。疑問点が解決できない場合は、早めに質問に来る。
第13回	視覚、聴覚、平 衡覚、嗅覚、味 覚、皮膚感覚	予習90分：教科書1章・感覚器系を読む。復習90分：配布資料を見直し、疑問点をまとめる。疑問点が解決できない場合は、早めに質問に来る。
第14回	皮膚、免疫、体 温調節	予習90分：教科書1章・感覚器系を読む。復習90分：配布資料を見直し、疑問点をまとめる。疑問点が解決できない場合は、早めに質問に来る。
第15回	男性生殖器、女 性生殖器	予習90分：教科書1章・泌尿生殖器系を読む。復習90分：配布資料を見直し、疑問点をまとめる。疑問点が解決できない場合は、早めに質問に来る。

教科書

ぜんぶわかる人体解剖図、坂井建雄・橋本尚詞 著、成実堂出版

参考書

人体の構造と機能（1）解剖生理学、坂井建雄・岡田隆夫 編集、医学書院

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上

授業中の小テストやレポート（10%）、期末テスト（90%）で評価する。

課題等に対する フィードバックの方法

授業内で小テストやレポート課題を課すことがある。授業内での小テストやレポートは、実施した次の回の授業で内容を解説する。

履修のポイント

自分だけの学習では正しい知識の理解が難しいので、講義に出席することが大切です。講義では話し（ストーリー）を聞くことに集中して下さい。

オフィス・アワー

月曜日～水曜日、金曜日（09：20～18：10）、10号館病理・解剖実習研究室

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C214

講義コード	30370001
講義名	生理学
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	2時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	一般市中病院と大学病院で内科医として40年間にわたって診療に携わった経験を活かして、疾病の成り立ちと臨床背景について学生とインターアクティブに講義を行う。
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 山科 章	指定なし

授業の概要と教育目標

人間の生存と活動を支えるために必要な栄養を科学的根拠に基づいて提供する栄養士にとって、人体の構造や働きを知ることは極めて重要である。そこで解剖学で学んだ知識をもとに、人体の正常な働きをその構造単位である細胞レベルから組織・器官・器官系レベルに至るまで各臓器を体系的に関連付け、実際の現場で役立つ知識と考え方が身につく講義を行う。

覚えることではなく、考え、理解することを基本とする。そのためには、事前に課題をみつけ、概要をとらえ、講義中に問題を解決する方法を身につけ、講義後に自分自身の言葉で説明できることをゴールとする。

生理学に重要なキーワードも含めて解説するが、自分で設定した問題解決型の学習の場とする。アクティブラーニングとするため、グループ分けして、あらかじめグループ毎に課題を設定して発表（プレゼンテーション）し、グループの発表後に質疑応答を行い、理解を深めるようにする。アクティブラーニングを行う。講義中も頻回に質問してインターアクティブに行うので、積極的に回答し、理解の向上に役立ててほしい。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科の目標である「生活を身近な問題から、グローバルなテーマに至るまで幅広く研究し、栄養士として実践を重視し健康・栄養の分野で活躍できる人材」をめざして、そのディプロマポリシーとしての「人間のからだ、食品、栄養に関する基本的なことから、およびその相互作用を理解して、健康・栄養に関わる現場での実践に繋げられる」ようにする。具体的には生体の生理作用を遺伝子、分子、細胞、組織、器官レベルで理解し、さらにそれを自分の言葉で説明できるようにする。

人体の生命・生理現象がどのようなメカニズムで行われているかを学び、これを習得して、栄養士として医学の基礎知識を身につける。各章で「臨床への入門」として、疾患の概要を理解することにより、逆に生理機能をより深く把握できるようにする。患者さんの栄養計画を作成し、説明するために必要な疾患の概要を把握する。

到達目標

1. 人体を構成する細胞、組織、器官のはたらきを理解する。
2. 器官系を構成している各臓器全体のはたらきを理解する。
3. 生命現象とはいかなるものかを理解する。

以上の内容を自分の言葉で分かりやすく説明できるようにする。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	山科章	生命の源と栄養、人体の構造・機能と栄養、人体の器官系の役割と栄養を学ぶ 初回は以上の項目を概説し、重要な点を強調するとともに質疑応答を行う	初回なので、今後行うアクティブラーニングについて説明をする。講義も学生との間でインターアクティブに行う。質問に対し、集中力をもって積極的に対応する。	予習90分。教科書「はじめに」の章を読む。 復習90分。教科書、メモ、ノートを読み直す。
第2回	山科章	細胞・組織の構成とはたらき、細胞・細胞内小器官・生体膜・核・人体組織・器官の構造と機能	課題： 1. 細胞内小器官の構造とそれぞれの役割について説明する。 2. 細胞質内でタンパクが合成されるメカニズムを説明する。 3. 生体膜の構造の特徴を説明する。 4. 生体膜の物質輸送の種類と仕組みを説明する。 5. 細胞分裂の仕組みの概要を説明する。	予習90分。教科書「第1章」の章を読む。 復習90分。教科書、メモ、ノートを読み直す。
第3回	山科章	消化器系の構成とはたらき、咀嚼・嚥下・消化管運動の仕組み	課題： 1. 咀嚼筋の種類とどのような動きをするか。 2. 嚥下の際になぜ食物が気道（気管）に入らないのか？ 3. 消化管運動にはどのような種類があるか？ 4. 食事をすると排便したくなるのはなぜか？ 5. 便意があっても失禁しない機序は何か。	予習90分。教科書「第2章前半」の章を読む。 復習90分。教科書、メモ、ノートを読み直す。
第4回	山科章	消化・吸収、糞便形成と排便の仕組み	課題： 1. 1日に分泌される唾液の量とその役割を説明せよ？ 2. 1日に分泌される胃液の量と、それを構成する主な成分とそれぞれの役割を説明せよ？ 3. 1日に分泌される胆汁の量と、それを構成する主な成分とそれぞれの役割を説明せよ？ 4. 1日に分泌される膵液の量と、その役割を説明せよ？ 5. 1日に消化管で吸収される水分の量はどのくらいで主にどこで行われるか。	予習90分。教科書「第2章後半」の章を読む。 復習90分。教科書、メモ、ノートを読み直す。
	山	血液・造血器・リンパ系の構成とはたらき、骨髄各血球の分化と成熟、赤血球・ヘモグロビンのはたらき	課題： 1. 血球の分類とそれぞれの主な機能はなにか？ 3. 各血球の分化と成熟を説明せよ	予習90分。教科書「第3章」の章を読む。

第5回	科 章	白血球・血小板、血漿タンパク質、止血機能・凝固・線溶系の作用、臨床への応用	4. 血液凝固と止血にはどのようなタンパクが担っているか？ 5. ヘモグロビン合成とその分解・代謝はどのように行われるか？	復習90分。教科書、メモ、ノートを読み直す。
第6回	山 科 章	循環器系の構成と機能、心臓・血管の機能、心電図、心臓周期 血管の構成とはたらき、血圧、循環系、循環の調節	課題： 1. 刺激伝導系を構成するものには何があり、どのような役割があるか。 2. 心電図の波形は心臓の電気現象の何に対応するか？ 2. 心臓が収縮・拡張する心周期について、心電図波形、血液の流れ、心臓弁の動きと合わせて説明する。 3. 体循環と肺循環の違いを説明する 4. 動脈壁の構造と血圧調整との関連を説明する？ 5. 心拍出量（心機能）を規定するものは何か？	予習90分。教科書「第4章」の章を読む。 復習90分。教科書、メモ、ノートを読み直す。
第7回	山 科 章	呼吸とは、気道、肺、胸郭と呼吸運動・ガス交換及び血液ガス、呼吸機能の指標、呼吸の調節	課題： 1. 呼吸に必要な筋肉は何でどこにあり、どのような役割をしているか？ 2. 気管は肺胞まで何回分岐し、それぞれの名称について説明せよ？ 3. 呼吸機能検査（肺活量など）で検査知る主な指標とその意味を説明する。 4. 外呼吸（肺胞でのガス交換）について説明する。 5. 内呼吸（組織でのガス交換）について説明する。	予習90分。教科書「第5章」の章を読む。 復習90分。教科書、メモ、ノートを読み直す。
第8回	山 科 章	腎尿路系の構成、腎臓の構成とはたらき、体液とその異常、水・電解質の調節におけるホルモンと腎臓の役割、腎臓から分泌されるホルモン	課題： 1. 腎臓の局在と関係する動静脈、尿路について説明する。 2. 腎臓の主な機能について説明する。 3. 腎小体（糸球体とボウマン嚢）と尿細管の機能分担はどのように分かっているか？ 4. 生体を構成する水分の分布について説明する。 5. 浸透圧とは何か、また、浸透圧の変動に対応して体液調節するホルモンは何か説明する？	予習90分。教科書「第6章」の章を読む。 復習90分。教科書、メモ、ノートを読み直す。。
第9回	山 科 章	生殖器系の構成とはたらき、男性・女性生殖器の発育課程・形態・機能、女性の性周期、排卵・妊娠と分	課題： 1. 女性生殖器の構成と機能について説明する。 2. 男性生殖器の構成と機能について説明する。 3. 女性の性周期におけるホルモンの変化と子宮内膜の変化につい	予習90分。教科書「第7章」の章を読む。 復習90分。教

		娩か？	て説明する？ 4. 受精から妊娠の過程について説明する。 5. 授乳に関わるホルモンのはたらきについて説明する。	科書、メモ、ノートを読み直す。
第10回	山科章	骨格系の構成とはたらき、骨の成長、骨形成・骨吸収筋肉系の構成と機能、赤筋と白筋	課題： 1. 骨の機能について説明する。 2. 骨の成長と代謝、骨量について説明する。 3. 骨格筋の構造と収縮の仕組みについて説明する。 4. 筋収縮のエネルギーについて説明する。 5. 赤筋と白筋の違いと役割、代謝の違いについて説明する。	予習90分。教科書「第8, 9章」の章を読む。 復習90分。教科書、メモ、ノートを読み直す。
第11回	山科章	内分泌系の構成と機能、視床下部・下垂体、甲状腺、副腎、膵島とホルモン動態、カルシウム代謝調節ホルモン、性腺ホルモン	課題： 1. ホルモンのフィードバックについて説明する？ 2. 視床下部一下垂体の連携および働きについて説明する。 3. 副腎から分泌されるホルモンについてその種類と役割を説明する。 4. 甲状腺の働きについて説明する。 5. Caの調節について説明できる	予習90分。教科書「第10章」の章を読む。 復習90分。教科書、メモ、ノートを読み直す。
第12回	山科章	神経系の構成、中枢神経系、末梢神経系、脳の血管支配、ニューロンの形態と機能	課題： 1. 中枢神経系を構成するものおよびその主な機能を説明する。 2. 髄膜と脳室とくも膜下腔、脳脊髄液産生と流れについて説明できる。 3. 大脳皮質の機能局在について説明する。 4. 脳神経について説明する。 5. ニューロンと神経の伝達について説明する。	予習90分。教科書「第11章前半」の章を読む。 復習90分。教科書、メモ、ノートを読み直す。
第13回	山科章	知覚神経・運動神経・自律神経のはたらき	課題： 1. 運動神経について脳から末梢までの経路について説明する。 2. 知覚神経について末梢から脳までの経路を説明する。 3. 脊髄神経とデルマトームについて説明する。 4. 自律神経の特徴について説明する。 5. 交感神経・副交感神経の分布と役割の違いを説明する？	予習90分。教科書「第11章後半」の章を読む。 復習90分。教科書、メモ、ノートを読み直す。
第14回	山科	感覚器系の構成と機能、味覚、嗅覚、視覚、聴覚、平	課題： 1. 味覚の5大要素とそのリセプターを介しての知覚について説明する。 2. 嗅覚の受容器と伝導路について説明する。 3. 視覚の受容器、伝導路と感知	予習90分。教科書「第12章」の章を読む。 復習90分。教

	章 衡覚、摂食の調節	する脳の部位について説明する。 4. 摂食・食欲を調整する仕組みについて説明する。 5. 美味しいものをみて唾液や胃液が分泌される仕組みを説明する。	科書、メモ、ノートを読み直す。
第15回	山科章 免疫の構成と機能、非特異的防御機構、生体防御機構における免疫系の特徴、細胞免疫、体液性免疫、免疫的自己の確立と破綻 皮膚組織、体温調節	課題： 1. 免疫系の臓器と細胞について説明する。 2. 自然免疫と獲得免疫の違いを説明する。 3. 体液性免疫の仕組みについて説明する。 4. 細胞性免疫の仕組みについて説明する。 5. 食物アレルギーの発症メカニズムは？	予習90分。教科書「第13, 14」の章を読む。 復習90分。教科書、メモ、ノートを読み直す。

教科書

栄養科学イラストレイテッドシリーズ「解剖生理学」人体の構造と機能 志村二三夫・岡 純・山田和彦編、羊土社

参考書

医学系の生理学教科書及び臨床系臓器別の教科書など講義の際に、新しい話題を含めて、適宜紹介する。

成績評価の方法・基準

単位認定：60点以上。
筆記試験 80%、レポート・課題・授業への参加度（グループのプレゼンテーション含む）20%

課題等に対するフィードバックの方法

毎回の講義修了前に課題（授業内課題）を与え、ミニレポートを提出する。この評価を次回の講義のはじめに講評をコメントする。このことによって、生理作用の理解、基礎知識の習得をうながす。
各グループの課題に関する発表（プレゼンテーション）には他の学生に客観的評価をしてもらい、授業への参加度の算定に利用する。また、プレゼンテーションの際には質問を出してもらい、アクティブラーニングとして、他の学生との質疑応答を行う。
定期試験の結果は採点して返却する。

履修のポイント

予習・復習の積み重ねが知識を身につける力になり、理解力・判断力の増強に役立ちます。範囲が広く、また理解が難しい点もありますが、自らの日々の生活に関係している者ばかりです。興味をもって課題に取り組み、さらなる興味ある箇所は積極的に読み込んでおいて、授業に参加してください。また、授業の後に疑問を持った箇所を自分で調べることは重要ですし、理解の上で効果的です。
一度の読み、聞きでは理解できなくても、繰り返すことで理解できることが多々ありますので、各臓器・組織がどのように連携して作用しているかにこだわって、考察するようにしましょう。

オフィス・アワー

月曜日 12:50-13:20。金曜日 12:50-14:00、4号館2階教員居室。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C233

講義コード	30380001
講義名	環境生理学
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期（重複②）
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	4時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 榮 昭博	指定なし

授業の概要と教育目標

生体は、常に外部環境から加わる刺激に対して、自己の内部環境を一定に保とうとする機構を備え、適応している。環境生理学では、外部からの刺激をストレスとし、ストレスが加わることにより、内部環境（生体の恒常性）が歪んだ状態になったことをストレスとしている。本講義では、ストレスの内容とストレスの状態とこれに対応する生体の防衛反応を学び、さらに個々の外部環境下（高温、低温、高圧、低圧など）における、適応について学習する。また、各環境下における栄養についても触れる。本講義はヒトのホメオスタシスの概念と特殊環境下における防衛反応を理解することを目標にする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

環境生理学は、卒業認定方針の「人間のからだ」「食品」「栄養」に関して基本的なことから理解し、さらにそれら相互作用について、理解していること」に関連し、基本的な生活活動や環境変化に対する人体の適応について学び、また、生活科学の基礎となる衣食住に関する基本的なことからについて、さらに生活を取り巻く社会的環境について、科学的に理解していること。

到達目標

「環境と栄養」分野の特に生理学的内容を理解すること。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	ストレスI :ストレスに関係する生体の組織、ホルモン、神経の基礎を学び、ストレスについて理解する。プリント・レジメを配布する。		予習：解剖生理学の脳および生化学のホルモンの分野を確認しておくこと。復習：左記の内容を講義ノートにまとめる。予習復習の自己学習を4時間以上行うこと。
	ストレスII :セリエのストレス学説と汎	ホルモンおよび神経系統について講	予習：レジメ p2～6を読み理解しておくこと。復習：左記の内容を

第2回	適応症候群、適応などについて学ぶ。	義中に質問し、その回答に対してコメントをする。	講義ノートにまとめる。予習復習の自己学習を4時間以上行うこと。
第3回	気温（温度） ：高温および低温環境下における生体の防衛反応を学ぶ。	体温の調節について講義中に質問し、その回答に対してコメントをする。	予習：レジメ p7～10を読み理解しておくこと。復習：左記の内容を講義ノートにまとめる。予習復習の自己学習を4時間以上行うこと。
第4回	気圧（高圧、低圧） ：高圧および低圧に生体が曝された場合の反応を学ぶ。		予習：レジメ p11～12を読み理解しておくこと。復習：左記の内容を講義ノートにまとめる。予習復習の自己学習を4時間以上行うこと。
第5回	騒音（音）・振動 ：騒音と振動に対する生体の反応を学ぶ。		予習：レジメ p13～15を読み理解しておくこと。復習：左記の内容を講義ノートにまとめる。予習復習の自己学習を4時間以上行うこと。
第6回	電磁場・電磁波 ：太陽光や高圧電線下から発生する電磁波について学び、これが生体に及ぼす影響について学ぶ。		予習：レジメ p15～17を読み理解しておくこと。復習：左記の内容を講義ノートにまとめる。予習復習の自己学習を4時間以上行うこと。
第7回	加速度・無重力・その他 ：乗り物（車、船、飛行機）などGが変化する状態や宇宙空間、その他特殊な環境下における生体反応について学ぶ。		予習：レジメ p19～20を読み理解しておくこと。復習：左記の内容を講義ノートにまとめる。予習復習の自己学習を4時間以上行うこと。
第8回	まとめ	今まで学修してきた内容について講義中に質問し、その回答に対してコメントをする。	予習復習：レジメ p1～20を読み理解しておくこと。予習復習の自己学習を4時間以上行うこと。

教科書

使用しない（レジメを配布します）

参考書

応用栄養学 化学同人（応用栄養学の教科書） および 『栄養応用栄養学』 同文書院

成績評価の方法・基準

期末試験 100%、50点以上を合格とする。

課題等に対する フィードバックの方法

実施しない

履修のポイント

生理生化学的視点の講義内容を含むので解剖生理学の教科書が参考となる。

オフィス・アワー

授業開講日の12：30～13：20に11号館3階第14研究室で行う。ただし、この時間帯以外でも講義・会議・出張等の校務がない場合行うことができることがある。

科目区分

専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-C275

講義コード	30390001
講義名	生化学
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	4時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 榮 昭博	指定なし

授業の概要と教育目標

生体を構成する成分・分子理解しするために、糖、脂質、タンパク質についてその化学の基礎を学びさらに代謝・排泄を学ぶ。また、代謝などを調節する内分泌や遺伝子とその働きも学ぶ。人体の構造と機能、特に各栄養素の働きを生化学的に理解することを目標としている。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生化学は、卒業認定・学位授与認定方針の「人間のからだ」「食品」「栄養」に関して基本的なことから理解し、さらにそれら相互作用について、理解している」に関連して、人体の構造と機能の1分野を学ぶ。

到達目標

生体を構成する分子の構造・機能を理解する。また、各分子の代謝を理解する。さらに遺伝子・遺伝情報発現に関することを理解する。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	細胞の構造と性質:細胞の構造と機能についてその基礎を学ぶ。プリントを配布する。	左記の内容について、学生に発問し、学生は回答する。	予習：高校生物または生物基礎の左記分野読み理解しておくこと。教科書 p6~12を読み理解する 復習：左記の内容の講義ノートを作成する。予習復習の自己学習を4時間以上行うこと。

第2回	生体成分の化学的基礎:生体成分を構成する化合物の基礎を学ぶ。特に有機化学について、その基礎から復習しながら生体成分への理解を深める。プリントを配布する。	左記の内容について、学生に発問し、学生は回答する。	予習：教科書 p1～6を読み理解する。 復習：左記の内容の講義ノートを作成する。予習復習の自己学習を4時間以上行うこと。
第3回	糖の構造と性質:糖質の分類と構造、単糖・少糖・多糖の構造と性質について学ぶ。プリントを配布する。	左記の内容について、学生に発問し、学生は回答する。	予習：教科書 p13～19を読み理解する。 復習：左記の内容の講義ノートを作成する。予習復習の自己学習を4時間以上行うこと。
第4回	脂質の構造と性質:脂肪、リン脂質、ステロイドについてその種類、作用について学ぶ。また、コレステロールリポ蛋白質の作用と生体に及ぼす影響を学ぶ。プリントを配布する。	左記の内容について、学生に発問し、学生は回答する。	予習：教科書 p19～26を読み理解する。 復習：左記の内容の講義ノートを作成する。予習復習の自己学習を4時間以上行うこと。
第5回	蛋白質の構造と性質:アミノ酸およびペプチドの構造と性質について理解し、さらに消プリントを配布する。	左記の内容について、学生に発問し、学生は回答する。	予習：教科書 p26～34を読み理解する。 復習：左記の内容の講義ノートを作成する。予習復習の自己学習を4時間以上行うこと。
第6回	ヌクレオチドと核酸:プリン・ピリジミン塩基、ヌクレオシド、ヌクレオチド、DNA、RNAについて学ぶ。	左記の内容について、学生に発問し、学生は回答する。	予習：教科書 p34～41を読み理解する。 復習：左記の内容の講義ノートを作成する。予習復習の自己学習を4時間以上行うこと。
第7回	生体機能成分(酵素):酵素の基質特異性、活性、種類等について学ぶ	左記の内容について、学生に発問し、学生は回答する。	予習：教科書 p42～49を読み理解する。 復習：左記の内容の講義ノートを作成する。予習復習の自己学習を4時間以上行うこと。
			予習：教科書

第8回	生体機能成分（ホルモンI）；ホルモンの定義、種類、作用機序について学ぶ	左記の内容について、学生に発問し、学生は回答する。	p49～59を読み理解する。 復習：左記の内容の講義ノートを作成する。予習復習の自己学習を4時間以上行うこと。
第9回	蛋白質の代謝 生体機能成分（ホルモンII）；ホルモンの定義、種類、作用機序について学ぶ	左記の内容について、学生に発問し、学生は回答する。ホルモンの作用についての小テストを行い、その解答について、質疑応答する。	予習：教科書 p49～59を読み理解する。 復習：左記の内容の講義ノートを作成する。予習復習の自己学習を4時間以上行うこと。
第10回	生体機能成分（ビタミンの構造と性質（1））；脂溶性ビタミンの種類と作用について理解する。プリントを配布する。	左記の内容について、学生に発問し、学生は回答する。	予習：基礎栄養学Iビタミンの分野および教科書 p59～63を読み理解する。 復習：左記の内容の講義ノートを作成する。予習復習の自己学習を4時間以上行うこと。
第11回	生体機能成分（ビタミンの構造と性質（2））；水溶性ビタミンの種類と作用について理解する。	左記の内容について、学生に発問し、学生は回答する。	予習：基礎栄養学Iビタミンの分野および教科書 p64～69を読み理解する。 復習：左記の内容の講義ノートを作成する。予習復習の自己学習を4時間以上行うこと。
第12回	糖代謝：グリコーゲンおよびグルコース代謝（解糖・TCAサイクル）、糖新生などについて学ぶ。主要無機化合物の生理作用、特にカルシウムの生理作用と欠乏症について述べる。プリントを配布する。	左記の内容について、学生に発問し、学生は回答する。	予習：教科書 p118～119を読み理解する。 復習：左記の内容の講義ノートを作成する。予習復習の自己学習を4時間以上行うこと。
第13回	脂質代謝：脂質の体内動態（リポタンパク質など）について学ぶ。特に、コレステロール代謝について考察する。	左記の内容について、学生に発問し、学生は回答する。	予習：教科書 p107～123を読み理解する。 復習：左記の内容の講義ノートを作成する。予習復習の自己学

			習を 時間以上行うこと。
第14回	アミノ酸の代謝:たんぱく質の消化吸収について学ぶ。アミノ基転移反応、尿素回路等を理解する。特殊なアミノ酸の代謝について考察する。	左記の内容について、学生に発問し、学生は回答する。糖・脂質・たんぱく質の代謝についての小テストを行い、その解答について、質疑応答する。	予習：教科書 p124～140を読み理解する。 復習：左記の内容の講義ノートを作成する。予習復習の自己学習を4時間以上行うこと。
第15回	遺伝子発現とその制御:セントラルドグマ、特に、たんぱく質合成について学ぶ。プリントを配布する。	左記の内容について、学生に発問し、学生は回答する。1～14回分の講義ノートを提示する。	予習：教科書 p164～176を読み理解する。 復習：左記の内容の講義ノートを作成する。予習復習の自己学習を4時間以上行うこと。

教科書

『Nブックス三訂生化学』建帛社ISBN: 978-4-7679-0528-0

参考書

『Nブックス基礎栄養学』林 淳三ら 建帛社など基礎栄養学の書は参考になる。

成績評価の方法・基準

60点以上で合格とする。定期試験91% 講義ノート9%

課題等に対する フィードバックの方法

事前の学習課題を行い提出すること。また、授業終了後、講義ノートを作成すること。ノートの評価点を記して返却する。

履修のポイント

化学の知識を必要とするので化学（特に有機化学）を復習しておくことが望ましい。

オフィス・アワー

授業開講日の12:30～13:20に11号館3階第14研究室で行う。ただし、この時間帯以外でも講義・会議・出張等の校務がない場合行うことができることがある

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C234

講義コード	30400001
講義名	生理生化学実験
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	実験
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	4時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 榮 昭博	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養素（糖質、蛋白質等）の基本的な性質を実験により確認し、さらに血液、尿、臓器の主要成分や消化に関する酵素活性を測定する。本実験では栄養素の機能と生理学的意義を理解することを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生理生化学実験は、卒業認定の方針の「人間のからだ」「食品」「栄養」に関して基本的なことから理解し、さらにそれら相互作用について、理解している」に関連している。特に、生化学、生理学、基礎栄養学で学んだ内容を実験にて確認し理解を深めることが求められている。

到達目標

実験を通じて、栄養アセスメントにおける「臨床検査知識技術」の能力を習得すること。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	糖の定性試験 :糖の呈色反応を利用して、未知試料が何であるかを同定する。	左記の内容をレポート（実験ノート）にまとめる。また、実験中に上記内容についてグループでディスカッションし、実験終了後、担当教員に報告する。この時、教員を含めて質疑応答を行う。	予習：生化学・基礎栄養学の左記分野をよく読み理解しておくこと。復習：左記分野のレポートをまとめ、関連項目についても調べておくこと。予習復習の自己学習を1時間以上行うこと。
第2回	蛋白質およびアミノ酸の定性試験 :アミノ酸および蛋白質の呈色反応を利用して、未知試料が何で	左記の内容をレポート（実験ノート）にまとめる。また、実験中に上記内容についてグループでディスカッションし、実験終了後、担当教員に報告する。この時、教員を含めて質疑応答	予習：生化学・基礎栄養学の左記分野をよく読み理解しておくこと。復習：左記分野のレポートをまとめ、関連項目についても調べておくこと。予習復習の自己学習を1時間以

	あるかを同定する。	を行う。	上行うこと。
第3回	ビタミンAの定性試験 :脂溶性ビタミンAの定性試験を行い、肝臓試料のビタミンAの存在を確認する。	左記の内容をレポート(実験ノート)にまとめる。また、実験中に上記内容についてグループでディスカッションし、実験終了後、担当教員に報告する。この時、教員を含めて質疑応答を行う。	予習:生化学・基礎栄養学の左記分野をよく読み理解しておくこと。復習:左記分野のレポートをまとめ、関連項目についても調べておくこと。予習復習の自己学習を1時間以上行うこと。
第4回	ビタミンB2の定性試験 :水溶性ビタミンB2の定性試験を行い、肝臓料のビタミンB2の存在を確認する。	左記の内容をレポート(実験ノート)にまとめる。また、実験中に上記内容についてグループでディスカッションし、実験終了後、担当教員に報告する。この時、教員を含めて質疑応答を行う。	予習:生化学・基礎栄養学の左記分野をよく読み理解しておくこと。復習:左記分野のレポートをまとめ、関連項目についても調べておくこと。予習復習の自己学習を1時間以上行うこと。
第5回	尿中成分I 正常成分 :尿中の尿素、クレアチニン、インジカン等正常成分の検出をおこない、それらの生理学的意義を学ぶ。	左記の内容をレポート(実験ノート)にまとめる。また、実験中に上記内容についてグループでディスカッションし、実験終了後、担当教員に報告する。この時、教員を含めて質疑応答を行う。	予習:生化学・基礎栄養学の左記分野をよく読み理解しておくこと。復習:左記分野のレポートをまとめ、関連項目についても調べておくこと。予習復習の自己学習を1時間以上行うこと。
第6回	尿中成分II 異常成分 :尿中の蛋白質、糖、アセトン体等異常成分の検出をおこない、それらの生理学的意義と疾病との関係を学ぶ。	左記の内容をレポート(実験ノート)にまとめる。また、実験中に上記内容についてグループでディスカッションし、実験終了後、担当教員に報告する。この時、教員を含めて質疑応答を行う。	予習:生化学・基礎栄養学の左記分野をよく読み理解しておくこと。復習:左記分野のレポートをまとめ、関連項目についても調べておくこと。予習復習の自己学習を1時間以上行うこと。
第7回	血漿蛋白質の定量 :血漿蛋白質を測定し、その生理学的意義と栄養状態の判定を行う	左記の内容をレポート(実験ノート)にまとめる。また、実験中に上記内容についてグループでディスカッションし、実験終了後、担当教員に報告する。この時、教員を含めて質疑応答を行う。	予習:生化学・基礎栄養学の左記分野をよく読み理解しておくこと。復習:左記分野のレポートをまとめ、関連項目についても調べておくこと。予習復習の自己学習を1時間以上行うこと。
第8回	血漿コレステロールの定量 :血漿コレステロールを測定して、その生理学的意義と疾病との関係を学ぶ。	左記の内容をレポート(実験ノート)にまとめる。また、実験中に上記内容についてグループでディスカッションし、実験終了後、担当教員に報告する。この時、教員を含めて質疑応答を行う。	予習:生化学・基礎栄養学の左記分野をよく読み理解しておくこと。復習:左記分野のレポートをまとめ、関連項目についても調べておくこと。予習復習の自己学習を1時間以上行うこと。
第9回	血糖の定量 :血糖を測定し、疾病、特に糖尿病との関係を学ぶ。	左記の内容をレポート(実験ノート)にまとめる。また、実験中に上記内容についてグループでディスカッションし、実験終了後、担当教員に報告する。この時、教員を含めて質疑応答を行う。	予習:生化学・基礎栄養学の左記分野をよく読み理解しておくこと。復習:左記分野のレポートをまとめ、関連項目についても調べておくこと。予習復習の自己学習を1時間以上行うこと。

		を行う。	上行うこと。
第10回	血漿カルシウムの定量 ：血漿Caを測定し、カルシウムの生理学的意義を学ぶ。	左記の内容をレポート（実験ノート）にまとめる。また、実験中に上記内容についてグループでディスカッションし、実験終了後、担当教員に報告する。この時、教員を含めて質疑応答を行う。	予習：生化学・基礎栄養学の左記分野をよく読み理解しておくこと。復習：左記分野のレポートをまとめ、関連項目についても調べておくこと。予習復習の自己学習を1時間以上行うこと。
第11回	膵臓プロテアーゼ活性 ：膵臓トリプシン活性を測定し、蛋白質の消化を学ぶ。	左記の内容をレポート（実験ノート）にまとめる。また、実験中に上記内容についてグループでディスカッションし、実験終了後、担当教員に報告する。この時、教員を含めて質疑応答を行う。	予習：生化学・基礎栄養学の左記分野をよく読み理解しておくこと。復習：左記分野のレポートをまとめ、関連項目についても調べておくこと。予習復習の自己学習を1時間以上行うこと。
第12回	膵臓リパーゼ活性 ：膵臓リパーゼ活性を測定し、脂肪の消化を学ぶ。	左記の内容をレポート（実験ノート）にまとめる。また、実験中に上記内容についてグループでディスカッションし、実験終了後、担当教員に報告する。この時、教員を含めて質疑応答を行う。	予習：生化学・基礎栄養学の左記分野をよく読み理解しておくこと。復習：左記分野のレポートをまとめ、関連項目についても調べておくこと。予習復習の自己学習を1時間以上行うこと。
第13回	唾液アミラーゼ活性 ：各自の唾液アミラーゼ活性を測定し、デンプンの消化を学ぶ。	左記の内容をレポート（実験ノート）にまとめる。また、実験中に上記内容についてグループでディスカッションし、実験終了後、担当教員に報告する。この時、教員を含めて質疑応答を行う。	予習：生化学・基礎栄養学の左記分野をよく読み理解しておくこと。復習：左記分野のレポートをまとめ、関連項目についても調べておくこと。予習復習の自己学習を1時間以上行うこと。
第14回	腸管マルターゼ活性 ：マルターゼ活性を測定し、糖の膜消化を学ぶ。	左記の内容をレポート（実験ノート）にまとめる。また、実験中に上記内容についてグループでディスカッションし、実験終了後、担当教員に報告する。この時、教員を含めて質疑応答を行う。	予習：生化学・基礎栄養学の左記分野をよく読み理解しておくこと。復習：左記分野のレポートをまとめ、関連項目についても調べておくこと。予習復習の自己学習を1時間以上行うこと。
第15回	栄養アセスメント ：モデルの身体計測や各血液検査データを読み、栄養評価の実践を行う。	左記の内容をレポート（実験ノート）にまとめる。また、実験中に上記内容についてグループでディスカッションし、実験終了後、担当教員に報告する。この時、教員を含めて質疑応答を行う。	予習：生化学・基礎栄養学の左記分野をよく読み理解しておくこと。復習：左記分野のレポートをまとめ、関連項目についても調べておくこと。予習復習の自己学習を1時間以上行うこと。

教科書

使用しない（プリントを配布する）。

参考書

栄養学領域からみた生理生化学実験 五島孜郎 編 建帛社

成績評価の方法・基準

総合点の内50点以上を合格とする。学期末試験（ペーパー試験）75%、実験ノートの評価点15%、実験への参加度（サンプル提供等）10%。

課題等に対する

フィードバックの方法

実験終了後レポートを各單元ごとに作成し、これを綴り実験ノートを作成すること。実験ノートは第8回と第15回の実験終了時に提出し、後日評価点を記入して返却する。

履修のポイント

実験操作のみでなく各測定成分の栄養・生理学的意義をよく理解すること。白衣着用のこと。電卓等持参のこと。カメラを持参すると便利である（記録用）。

オフィス・アワー

授業開講日の12:30～13:20に11号館3階第14研究室で行う。ただし、この時間帯以外でも講義・会議・出張等の校務がない場合行うことができることがある

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C276

講義コード	30410001
講義名	食品加工学
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	3時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋本 まさ子	指定なし

授業の概要と教育目標

加工食品なしでは食生活が成り立たないほど多種多様な加工食品があり、加工技術も高度で複雑になっている。食品の品質や表示に対する社会制度も刻々と変化し、それに対する消費者の関心も高まっている。このような状況で、食品加工、食品の保存と包装技術、ならびに品質表示に対して正しい知識を身につけることは非常に大切である。本授業では、種々の加工食品の製造原理、製造工程、食品保存・包装技術を学び、また、加工による食品の成分や物性の変化を学び、食品加工の理論と実際についての知識を学修する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として「食品」「栄養」に関して基本的な事柄を理解し、社会の貢献できる食の専門家としてこれから社会が求めている栄養士の資格を取得することを目的にする。

到達目標

食品の加工方法および加工品について理解する。食品の特性について理解する。日常食品の取り扱い方について理解する。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	橋本まさ子	オリエンテーション（授業の概要説明、成績評価） 食品加工・貯蔵のはじまり 食品の特性と食品加工、食生活と加工食品の分野の内容についての授業内容。		予習60分、教科書を読んでおく。復習に120分以上は必要です。
第2回	橋本まさ子	加工食品の表示、容器包装とリサイクル分野の授業内容。 食品表示については、実際の加工食品の表示を提示して意見交換を		予習90分、教科書を読んでおく。復習に120分以上は必要です。

	子	行う。		
第3回	橋本まさ子	食品の加工および操作と原理、技術の分野では、工程別による方法論を学習する授業内容。また、調理加工に伴う食品成分の変化についての授業内容。		予習90分、教科書を読んでおく。復習に120分以上は必要です。
第4回	橋本まさ子	食品の包装、加工技術、規格・基準と食品表示基準、HACCPについての授業内容。		予習90分、教科書を読んでおく。復習および確認テストに向けて120分以上は必要です。
第5回	橋本まさ子	確認テスト1回目 生産条件と食品成分の違いについて、地域、季節、栽培条件による違いについての授業内容。		予習90分、確認試験返却後の問題の整理に120分以上かけてください。
第6回	橋本まさ子	穀類、いも類および豆類（大豆、小豆）の加工方法および加工品についての授業内容。	確認テストを返却し、解答について情報交換する。	予習90分、教科書を読んでおく。復習に120分以上は必要です。
第7回	橋本まさ子	野菜・果物・きのこの加工方法および加工品の種類と成分についての授業内容。		予習90分、教科書を読んでおく。復習に120分以上は必要です。
第8回	橋本まさ子	食肉の加工方法および加工品の種類と成分についての授業内容。		予習90分、教科書を読んでおく。復習に120分以上は必要です。
第9回	橋本まさ子	乳製品の加工方法および加工品、卵類の種類と成分についての授業内容。		予習90分、教科書を読んでおく。復習および確認テストに向けて120分以上は必要です。
第10回	橋本まさ子	確認テスト2回目 魚介類の加工方法および加工品の種類と成分についての授業内容。		予習90分、確認試験返却後の問題の整理に120分以上かけてください。
第11回	橋本まさ子	植物油脂、動物油脂、加工油脂の加工方法とそれにより種類と成分についての授業内容。	確認テストを返却し、解答について情報交換する。油脂に対するイメージについて発表してもらう。	予習90分、教科書を読んでおく。復習に120分以上は必要です。
第12回	橋本まさ子	味噌、醤油、塩、香辛料、甘味料の加工方法とそれにより種類と成分についての授業内容。		予習90分、教科書を読んでおく。復習に120分以上は必要です。
		嗜好飲料（非アルコール飲料およ		

第13回	橋本まさ子	びアルコール飲料)の加工方法とそれにより種類と成分についての授業内容。 アルコール飲料を挙げさせ、どのようなものが市場に出回っているのか意見交換をする。		予習90分、教科書を読んでおく。復習に120分以上は必要です。
第14回	橋本まさ子	新技術による加工法、流通・貯蔵等による加工法、形状による加工法、用途別加工法についての授業内容。		予習90分、教科書を読んでおく。復習および確認テストに向けて120分以上は必要です。
第15回	橋本まさ子	食品表示の見方 確認テスト3回目	確認テストの解答について情報交換する。	確認試験返却後の問題の整理に180分以上かけてください。本試験に向けてさらに復習は必要です。

教科書

栄養科学シリーズ 食品加工・保蔵学 講談社

参考書

食物学II (公社) 日本フードスペシャリスト協会編 建帛社
 レクチャー食品加工学 黒川守浩編 建帛社、食品加工・保蔵学 海老原清編 講談社

成績評価の方法・基準

単位認定 50点以上 (授業内3回の確認テストと本試験を実施)
 確認テスト3回、及び本試験 100%

課題等に対する フィードバックの方法

授業中に3回の確認小試験を実施評価して返却しますので再度復習しておくこと。毎回の授業後の復習を勧めます

履修のポイント

欠席については、後日課題を提出していただく。授業での積極的な取り組みを望みます。

オフィス・アワー

月曜日12:30~13:20 (お昼休み) または、授業終了後、随時 9号館2階 第5研究室

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C273

講義コード	30420001
講義名	食品衛生学
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	3時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員		
職種	氏名	所属
教員	◎ 宮本 雄基	指定なし

授業の概要と教育目標

人は生命維持のため、食物の摂取を欠かすことができない。また、食事に対して、健康維持・増進等の期待が高まっている昨今であるが、食品とは常に安心・安全なものでなければならない。食品衛生学では、食品の生産から消費に至るまでの過程において、安全な食品を選択し、提供することができるよう関連法規や危害要因、衛生管理の方法について学修する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

広く「食」を扱う職種において、食品の安全性を確保するために必要な知識を習得することが基礎となる。

到達目標

食品衛生学では、関連法規・食品の変質・食中毒・食品中の汚染物質及び食品添加物・衛生管理手法・食品表示等の学修をとおり、食品による健康被害を未然に防ぐための基礎知識を習得することを到達目標とする。

授業計画

	授業内容と方法、課題	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	食品衛生の概念と関連法規	予習40分：教科書 復習40分：教科書、ノート
第2回	食品衛生関連組織	予習40分：教科書 復習40分：教科書、ノート
第3回	食品の変質I	予習40分：教科書 復習40分：教科書、ノート
第4回	食品の変質II	予習40分：教科書 復習40分：教科書、ノート
第5回	食中毒I	予習40分：教科書 復習40分：教科書、ノート
		予習40分：教科書

第6回	食中毒II	復習40分：教科書、ノート
第7回	食中毒III	予習40分：教科書 復習40分：教科書、ノート
第8回	食中毒IV	予習40分：教科書 復習40分：教科書、ノート
第9回	食品中の汚染物質I	予習40分：教科書 復習40分：教科書、ノート
第10回	食品中の汚染物質II	予習40分：教科書 復習40分：教科書、ノート
第11回	食品添加物I	予習40分：教科書 復習40分：教科書、ノート
第12回	食品添加物II	予習40分：教科書 復習40分：教科書、ノート
第13回	食品衛生管理	予習40分：教科書 復習40分：教科書、ノート
第14回	食品表示制度	予習40分：教科書 復習40分：教科書、ノート
第15回	講義のまとめ	予習120分：教科書 復習40分：教科書、ノート

教科書

食品衛生学 田崎達明ほか 羊土社

参考書

食品の安全 有菌幸司ほか 南江堂、食品衛生学 一戸正勝ほか 講談社

成績評価の方法・基準

小テスト(全3回)：20%、学期末試験：80%で評価する。単位認定は50%以上とする。

課題等に対する フィードバックの方法

課題実施後その都度。また、講義のまとめで講評する。

履修のポイント

教科書の予習・復習及び配布プリントの復習をとおり、理解を深めること。不明な点は、早期に解決するよう心がけること。

オフィス・アワー

火曜日：12:30～13:20、講義終了後。または、個別に相談のこと。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C251

講義コード	30430001
講義名	食品衛生学実験
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	実験
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	1時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員		
職種	氏名	所属
教員	◎ 宮本 雄基	指定なし

授業の概要と教育目標

人は生命維持のため、食物の摂取を欠かすことができない。また、食品とは常に安心・安全なものでなければならず、食品衛生学ではその基礎知識について学修した。そこで食品衛生学実験では、科学的な手法を用いて、講義で学んだ知識(食品の規格・基準、危害因子等)と各検査法の原理をより一層深く理解し、習得することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

広く「食」を扱う職種において、食品の安全性を確保するために必要な知識を習得することが基礎となる。実験においては、その科学的検査法等を習得することとなる。

到達目標

実験をとおして、食品の安全性を確保するために必要となる食品衛生検査の基礎を学修するとともに、食品の規格基準等を科学的視点をもって評価できることを目標とする。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのため必要な時間
第1回	食品衛生の分析化学実験の基礎	食品衛生学の分析化学の基礎を学ぶ：使用する薬品・器具・測定機器、試薬の調整、試料のサンプリング	予習40分：教科書 復習40分：配布資料
第2回	飲料水の硬度測定、残留塩素濃度測定	清涼飲料水中の硬度を滴定法により測定する。DPD法により水道水中の遊離型・結合型残留塩素を測定する。	予習40分：教科書 課題：レ

			ポートに まとめる
第3回	分光光度計の応用の基礎	分光光度計の原理（Lambert-Beerの法則）を理解する。メチレンブルーの未知濃度試料を測定をする。	予 習40分： 教科書 課題：レ ポートに まとめる
第4回	未知試料の同定	アミノ酸、タンパク質、糖質について7種類の化学反応を利用し、6種類の未知試料を同定する。	予 習40分： 教科書 課題：レ ポートに まとめる
第5回	食品添加物【着色料の測定】	食品中に添加された着色料を抽出し、TLC（薄層クロマトグラフィー）法により定性試験を行う。	予 習40分： 教科書 課題：レ ポートに まとめる
第6回	食品添加物【発色剤の測定】	食肉製品中に添加された発色剤（亜硝酸根）を、ジアゾ化法により定量試験を行う。	予 習40分： 教科書 課題：レ ポートに まとめる
第7回	油脂の変敗の測定	各種の油脂を用い、滴定法により遊離脂肪酸濃度（酸価）の定量試験を行う。	予 習40分： 教科書 課題：レ ポートに まとめる
第8回	食品添加物【漂白剤の測定】	食品中に添加された漂白剤（亜硫酸）をヨウ素酸カリウム・でんぷん紙を用いて定性試験を行う。	予 習40分： 教科書 課題：レ ポートに まとめる
第9回	食品衛生の微生物実験の基礎 培地の作成"	食品衛生学の微生物等の基礎を学ぶ：使用する培地・薬品・器具・機器、試料のサンプリング、微生物の形態と性質、培地の作成	予 習40分： 教科書 復 習40分： 配布資料
第10回	細菌数測定：ふき取り検査	・施設、器具等のふき取り検査による細菌数測定の前処理を行う。 ・次回実験の準備（培地作成）"	予 習40分： 教科書 課題：レ ポートに まとめる
第11回	落下細菌・真菌の分離 手指からの細菌	・前回実験の細菌数の測定 ・落下細菌の測定、手指洗浄消毒の効果判定の前処理を行う。	予 習40分： 教科書 課題：レ

	分離	・次回実験の準備（培地作成）	ポートに まとめる
第12回	グラム染色による細菌・真菌の形態観察	・前回実験の細菌数の測定 ・グラム染色による細菌の染色、及び真菌の顕微鏡による形態観察 ・次回実験の準備（培地作成）	予 習40分： 教科書 課題：レ ポートに まとめる
第13回	食品からの細菌数、大腸菌群の測定	市販食品からの一般細菌数、及び大腸菌群の測定	予 習40分： 教科書 課題：レ ポートに まとめる
第14回	鮮魚介類からの寄生虫の分離、形態観察	市販の鮮魚介類からの寄生虫の分離、及び形態観察	予 習40分： 教科書 課題：レ ポートに まとめる
第15回	食器の残留物検査	食器の残留物を測定することにより各種洗浄効果を 確認する。	予 習40分： 教科書 課題：レ ポートに まとめる

教科書

食品・環境の衛生検査 桑原祥浩ほか 朝倉書店

参考書

食品安全・衛生学実験 岡崎真ほか 講談社サイエンティフィック

成績評価の方法・基準

単位認定50点以上。実験レポート80%、実験への積極的参加20%を総合して評価

課題等に対する フィードバックの方法

提出されたレポートについて、その都度、講評をおこなう。

履修のポイント

実験は主体的に取り組むことで、より深く理解することに繋がります。積極的に参加すること。

オフィス・アワー

火曜日：12:30～13:20、講義終了後。または、個別に相談のこと。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C252

講義コード	30440001
講義名	公衆栄養学概論
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	3時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	管理栄養士としての県庁・保健所等での勤務経験に基づき、公衆栄養実践活動について具体的に教授する。
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橘 陽子	指定なし

授業の概要と教育目標

公衆栄養学は国民、地域住民、職域などさまざまな集団を対象に、食と健康の関係を明らかにし、望ましい食生活の実現に向けた公衆栄養活動推進のための基本的な知識と技術を習得することを目的としている。

本授業では、公衆栄養学の概念、わが国の健康・栄養問題の現状と課題、公衆栄養マネジメント、栄養疫学、わが国の栄養・食料政策、諸外国の健康・栄養政策、日本人の食事摂取基準に関する理解を目的し、公衆栄養学における幅広い知識を身に付けることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマポリシーとの関連として、生活に関する身近な問題からグローバルなテーマまで多角的に理解するとともに、生活を取り巻く社会的環境について科学的に理解することを目的し、公衆栄養学の概念、わが国の健康・栄養問題の現状と課題、公衆栄養マネジメント、栄養疫学、わが国の栄養・食料政策、諸外国の健康・栄養政策、日本人の食事摂取基準に関する理解と習得を目指す。将来的な展望としては、修得した内容を基盤とし、栄養士としての現場での実践的活用や、問題解決能力の発揮に活かすことで、社会で活躍できる人材となることを目指すものとする。

到達目標

1. 公衆栄養学の枠組みや歴史を理解し、栄養士としての実践的活動への発展について説明できるようになる。
2. 我が国や諸外国の健康・栄養問題の現状と課題を理解し、栄養士が果たすべき役割について考察できるようになる。
3. 公衆栄養プログラムの流れや食事調査の手法を理解し、栄養士としての実践的活動への発展について説明できるようになる。
4. 我が国の栄養・食料政策を理解し、栄養士としての実践的活動への発展について説明できるようになる。
5. 日本人の食事摂取基準における集団を対象とした食事評価と改善計画を理解し、栄養士としての実践的活動への発展について説明できるようになる。

授業計画

担			
---	--	--	--

	当 者	授業内容と方 法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	橘 陽 子	□公衆栄養学の 概念 ・公衆栄養学 の意義と目的 ・公衆栄養活 動の歴史	ライフステージ別の健康障害要 因とそれに対する予防策の案に ついて考えをまとめ、ディス カッションする。	予習60分：教科書の該当部 分を読んでおく。 復習120分：教科書を再度読 み込み、授業資料と照らし合 わせながら理解を深める。ま た不明点を整理し、解決す る。
第2回	橘 陽 子	□公衆栄養マネ ジメント ・公衆栄養活 動の進め方 ・公衆栄養の マネジメント サイクル	保健所および市町村保健セン ターの栄養士業務についてまと め、その違いについてディス カッションする。	予習60分：教科書の該当部 分を読んでおく。 復習120分：教科書を再度読 み込み、授業資料と照らし合 わせながら理解を深める。ま た不明点を整理し、解決す る。
第3回	橘 陽 子	□公衆栄養マネ ジメント ・公衆栄養プ ログラム		予習60分：教科書の該当部 分を読んでおく。 復習120分：教科書を再度読 み込み、授業資料と照らし合 わせながら理解を深める。ま た不明点を整理し、解決す る。
第4回	橘 陽 子	□栄養疫学 ・歴史上の栄 養疫学の業績 に学ぶ	高木兼弘による脚気対策に関す る映像を視聴し、栄養疫学の重 要性について考察・ディスカッ ションする。	予習60分：教科書の該当部 分を読んでおく。 復習120分：教科書を再度読 み込み、授業資料と照らし合 わせながら理解を深める。ま た不明点を整理し、解決す る。
第5回	橘 陽 子	□栄養疫学 ・栄養疫学に 必要な指標 ・食習慣と健 康・生活習慣 病に関する栄 養疫学研究の 例	罹患率、有病率、死亡率等を具 体例から計算し、各指標の算出 方法と定義の違いを理解する。	予習60分：教科書の該当部 分を読んでおく。 復習120分：教科書を再度読 み込み、授業資料と照らし合 わせながら理解を深める。ま た不明点を整理し、解決す る。
第6回	橘 陽 子	□栄養疫学 ・栄養疫学調 査 ・食事調査	相対危険、寄与危険、寄与危険 割合、オッズ比等を具体例から 計算し、各指標の算出方法と定 義の違いを理解する。	予習60分：教科書の該当部 分を読んでおく。 復習120分：教科書を再度読 み込み、授業資料と照らし合 わせながら理解を深める。ま た不明点を整理し、解決す る。
第7回	橘 陽 子	□栄養疫学 ・日本人の食 事摂取基準 (2020年版) と集団への活 用	食事摂取基準（2020年版）を活 用した集団の摂取量評価を行 い、活用方法を理解する。	予習60分：教科書の該当部 分を読んでおく。 復習120分：教科書を再度読 み込み、授業資料と照らし合 わせながら理解を深める。ま た不明点を整理し、解決す る。
		□わが国の健		予習60分：教科書の該当部 分を読んでおく。

第8回	橘陽子	康・栄養問題の現状と課題 ・国民の健康状態と公衆栄養施策の変遷	ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチについてまとめ、その違いについてディスカッションする。	復習120分：教科書を再度読み込み、授業資料と照らし合わせながら理解を深める。また不明点を整理し、解決する。
第9回	橘陽子	□わが国の健康・栄養問題の現状と課題 ・国民健康・栄養調査 ・食生活の変化について	最新の国民健康・栄養調査の結果から、日本人の栄養素等摂取量の問題点を整理し、その改善策についてディスカッションする。	予習60分：教科書の該当部分を読んでおく。 復習120分：教科書を再度読み込み、授業資料と照らし合わせながら理解を深める。また不明点を整理し、解決する。
第10回	橘陽子	□わが国の健康・栄養問題の現状と課題 ・高齢者の健康・栄養問題	高齢者の栄養摂取の問題点をまとめ、その改善方法についてディスカッションする。	予習60分：教科書の該当部分を読んでおく。 復習120分：教科書を再度読み込み、授業資料と照らし合わせながら理解を深める。また不明点を整理し、解決する。
第11回	橘陽子	□わが国の健康・栄養問題の現状と課題 ・食料需給と自給率	日本の食料自給率の現状から、問題点を整理し、その改善策についてディスカッションする。	予習60分：教科書の該当部分を読んでおく。 復習120分：教科書を再度読み込み、授業資料と照らし合わせながら理解を深める。また不明点を整理し、解決する。
第12回	橘陽子	□わが国の健康・栄養政策 ・公衆栄養の施策と法規	健康増進法の概要を整理し、栄養士に求められる資質と能力についてディスカッションする。	予習60分：教科書の該当部分を読んでおく。 復習120分：教科書を再度読み込み、授業資料と照らし合わせながら理解を深める。また不明点を整理し、解決する。
第13回	橘陽子	□わが国の健康・栄養政策 ・健康日本21（第2次）	健康日本21（第2次）における栄養・食生活の項目について整理し、中間評価の結果に対する改善策についてディスカッションする。	予習60分：教科書の該当部分を読んでおく。 復習120分：教科書を再度読み込み、授業資料と照らし合わせながら理解を深める。また不明点を整理し、解決する。
第14回	橘陽子	□わが国の健康・栄養政策 ・特定健診・特定保健指導 ・健康・栄養指導の指針やガイドライン	食事バランスガイドを活用し、自らの食生活を評価する。	予習60分：教科書の該当部分を読んでおく。 復習120分：教科書を再度読み込み、授業資料と照らし合わせながら理解を深める。また不明点を整理し、解決する。
第15回	橘陽子	□諸外国の健康・栄養政策 ・世界の健康・栄養問題の現状と課題 ・国際機関の健康・栄養施	開発途上国と先進国の栄養問題を整理し、それぞれの特徴と改善策についてディスカッションする。	予習60分：教科書の該当部分を読んでおく。 復習120分：教科書を再度読み込み、授業資料と照らし合わせながら理解を深める。また不明点を整理し、解決する。

教科書

健康・栄養科学シリーズ 公衆栄養学 改訂第7版

参考書

日本人の食事摂取基準（2020年版） 第一出版

成績評価の方法・基準

単位認定50点以上
定期試験80%、課題15%、授業への参加度5%課題等に対する
フィードバックの方法

返却の際に解説・コメントを付与する

履修のポイント

授業内容に連続性があるため、欠席しないこと

オフィス・アワー

月～金曜日 昼休み 研究室9

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C272

講義コード	30450001
講義名	臨床栄養学概論
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	3時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	病院管理栄養士としての臨床経験に基づき、各疾患の栄養療法について講義を行う。
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中山 優子	指定なし

授業の概要と教育目標

臨床栄養学の基礎、各疾患別の栄養療法について学ぶ。各疾患の概要を理解し、予防、治療に有効である栄養療法を学び、各疾患に応じた栄養療法を計画、立案、調理、評価するための知識やスキルを学習する
医療機関、施設で適切な栄養管理を行うために栄養ケアプランの作成、実施、評価など総合的なマネジメントを理解する

卒業認定・学位授与の方針との関連

「人間のからだ」「食品」「栄養」に関して基本的な事柄を理解し、さらにそれら相互作用について理解している。
「人間のからだ」「食品」「栄養」に関する学修を総合的に理解し、「健康・栄養」に係る現場で実践的に活用し、また問題を解決できる能力を修得している。

到達目標

医療チームの一員の栄養士として、医療機関、施設で実践活動に対応できるように基礎から応用の知識を習得し、業務遂行の即戦力となる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	中山優子	病院給食について（仕組み、動き、業務の関わり） 臨床栄養管理（栄養ケアの概要）		予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第2回	中山優子	1. 肥満症 2. 糖尿病 3. 高尿酸血症		予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
	中			予習90分：教科書の該

第3回	山優子	1. 肝炎（急性肝炎、慢性肝炎） 2. 肝硬変・肝不全 3. 脂肪肝		当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第4回	中山優子	1. 胆石症 2. 膵炎（急性膵炎・慢性膵炎）		予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第5回	中山優子	1. 脂質異常症 2. 高血圧 3. 虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞） 4. 心不全		予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第6回	中山優子	1. 急性腎臓病 2. 慢性腎臓病		予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第7回	中山優子	3. ネフローゼ症候群 4. 腎不全 5. 透析療法		予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第8回	中山優子	糖尿病食品交換表の利用、腎臓病食品交換表の利用、糖尿病性腎症の食品交換表の利用	食品交換表による糖尿病食の献立計算、腎臓病食品交換表による腎臓病食の献立計算 糖尿病腎症食品交換表による糖尿病腎症食の献立計算	予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第9回	中山優子	1. 鉄欠乏性貧血 2. 骨粗鬆症 3. くる病・骨軟化症		予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第10回	中山優子	1. 消化不良症 2. 小児糖尿病 3. 小児肥満 4. 小児腎臓病 5. 食物アレルギー		予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第11回	中山優子	1. 胃炎（急性胃炎・慢性胃炎） 2. 消化性潰瘍 3. 下痢・便秘 4. 潰瘍性大腸炎・クローン病		予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第12回	中山優子	1. 高齢者の身体的特徴と食事ケア 2. 摂食・嚥下障害 3. 介護食と嚥下食 4. 障害に適した食事のポイントと調理について	動画による摂食嚥下障害の観察と理解	予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第13回	中山優子	5. 調理形態の工夫と栄養ケアマネジメント 6. 褥瘡の栄養ケア	写真による褥瘡の理解と褥瘡時に使用する食品の試食	予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第14回	中山優子	1. 経口栄養法 2. 経腸（経管）栄養法 3. 静脈栄養法（中心静脈・末梢静脈）	写真による経腸栄養の理解と経腸栄養に使用する食品の試食	予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。

第15回	中山優子	1. 栄養管理の考え方 2. 臨床調理のめざすもの 3. 臨床調理の考え方 4. 臨床調理の食事プラン	予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
------	------	--	-----------------------------------

教科書

「新ガイドライン対応・臨床栄養学」 井上修二監修 光生館

参考書

糖尿病食品交換表、糖尿病性腎症の食品交換表、腎臓病食品交換表、臨床栄養学 他

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上 筆記試験により評価（授業内20%、期末80%）
提出物は締切厳守

課題等に対する フィードバックの方法

授業内でレポートや課題を課すことがある。返却するので学習の参考にすること。また、授業の振り返りの出来る資料を配布するので授業内容の理解に役立てること。

履修のポイント

各疾患に応じた栄養療法を計画、立案、調理、評価するための基本を学習

オフィス・アワー

授業日の授業開始前もしくは終了後に教室等で質問に応じます。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C232

講義コード	30460001
講義名	臨床栄養学実験
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	実験
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	4時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	病院管理栄養士としての臨床経験に基づき、各疾患の献立の理論と技術について実験を行う。
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中山 優子	指定なし

授業の概要と教育目標

各疾患の概要を理解し、予防、治療に有効である栄養療法を学び、各疾患別に身体状況や栄養状態に応じた具体的な栄養療法を計画、立案、調理し、献立内容や量を把握、評価する。献立の理論と技術を習得する。医療機関、施設で適切な臨床栄養管理を行うためのスキルを身につける。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「人間のからだ」「食品」「栄養」に関する学修を総合的に理解したうえで、各種の病態に対する予防と治療には、食事と栄養が深くかかわっていることを確認し、栄養士の特性である献立作成のテクニックの向上を図り、「健康・栄養」に係る現場での実践力を学び、多様な問題を解決できる能力を修得させる。

到達目標

栄養士として、医療機関、施設での栄養実践活動に対応し業務遂行の即戦力となる技術の習得

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	中山優子	・各疾患別栄養療法の重要ポイント・実習に臨む心得と支度 ・病院と施設の給食について(仕組み動き業務の関わり)	[課題] 流動食 軟食について調べる(グループワーク)	予習45分：教科書の該当箇所を読む。復習45分：配布資料を見直す。
		①流動食の種類・適応 流動食に適した料理 流動食の栄養基準と食品構成		

第2回	中山優子	(普通流動食)：単純流動食と濃厚流動食の比較 ②軟食の種類、軟食の適応、食品の適応と調理 分粥食栄養基準と食品構成	[演習] 軟食献立の立案	予習45分：教科書の該当箇所を読む。復習45分：配布資料を見直す。
第3回	中山優子	流動食の実習(単純流動食、濃厚流動食)	軟食の種類・軟食の実習 各グループごとに発表	予習45分：教科書の該当箇所を読む。復習45分：配布資料を見直す。
第4回	中山優子	糖尿病の食事療法の実際 (食品交換表を使用した献立作成)	[課題] 献立表の作成 食品交換表に基づいた献立表の各食に配分された単位を示す 使用本：糖尿病食事療法のための食品交換表	予習45分：教科書の該当箇所を読む。復習45分：配布資料を見直す。
第5回	中山優子	糖尿病基本献立の立案 食品交換表に基づく (1600kcal)	[演習] 献立立案 炭水化物(60%)	予習45分：教科書の該当箇所を読む。復習45分：配布資料を見直す。
第6回	中山優子	第5回の演習献立を使用する。	次回実験する献立を選択、グループで (1600kcal) 各グループごとに実習作業工程表・発注表を作成	予習45分：教科書の該当箇所を読む。復習45分：配布資料を見直す。
第7回	中山優子	食品交換表に基づいた基本献立を調理再現する。	第6回、演習献立の評価 各グループごとに発表	予習45分：教科書の該当箇所を読む。復習45分：配布資料を見直す。
第8回	中山優子	たんぱく質制限を伴う糖尿病治療食について 糖尿病性腎症の食事療法について 糖尿病性腎症の食品交換表の使い方 エネルギー調整食品について	食事献立表 (1840kcal.たんぱく質50g) の作成と支持単位記入	予習45分：教科書の該当箇所を読む。復習45分：配布資料を見直す。
第9回	中山優子	腎疾患における食事療法 腎臓病食品交換表 課題献立表を完成 単位配分と献立について (たんぱく質30g・10単位の食事)	[課題] たんぱく質30g・10単位献立表を完成 (単位を記入) 使用本：「腎臓病食品交換表」	予習45分：教科書の該当箇所を読む。復習45分：配布資料を見直す。
第10回	中山優子	腎疾患における食事療法 腎臓病食品交換表 課題献立表を完成 単位配分と献立について (たんぱく質30g・10単位の食事)	慢性腎不全の献立を実習 (第9回の演習献立表) 低たんぱく質、食塩、特殊食品の使用例 各グループごとに発表	予習45分：教科書の該当箇所を読む。復習45分：配布資料を見直す。

第11回	中山優子	食塩コントロール食（虚血性心疾患・本態性高血圧症） 栄養基準と食品構成、食品の選択、献立及び調理の工夫 ナトリウムの食塩換算、塩分の換算	[演習] 献立立案（本態性高血圧症）	予習45分：教科書の該当箇所を読む。復習45分：配布資料を見直す。
第12回	中山優子	グループごとに前回立案した献立を選択 実習作業工程表、発注表を作成	[課題] 食塩制限はどんな病気の時に必要かまとめる	予習45分：教科書の該当箇所を読む。復習45分：配布資料を見直す。
第13回	中山優子	検査食の要点、第12回で選択した献立を調理・評価する	各グループごとに発表	予習45分：教科書の該当箇所を読む。復習45分：配布資料を見直す。
第14回	中山優子	高齢者の身体的特徴と介護食の基本 ①嚥下食ピラミッド ②ユニバーサルデザインフードの区分 障害に適した食事のポイントと調理	[課題] 咀嚼・嚥下障害のある人の食事の工夫をまとめる	予習45分：教科書の該当箇所を読む。復習45分：配布資料を見直す。
第15回	中山優子	1) 膵臓の食事療法、食品、献立、調理 栄養基準・食品構成 2) 貧血の食事療法、食品、献立、調理 栄養基準・食品構成		予習45分：教科書の該当箇所を読む。復習45分：配布資料を見直す。

教科書

「栄養食事療法の実習」 本多佳子編（医歯薬出版）

参考書

糖尿病食品交換表、糖尿病性腎症の食品交換表、腎臓病食品交換表、食品成分表 他

成績評価の方法・基準

単位認定50点以上 演習、課題提出(30%)・期末テスト(70%)により評価 提出物は締切厳守

課題等に対する フィードバックの方法

授業内でレポートや課題を課すことがある。返却するので学習の参考にすること。また、授業の振り返りの出来る資料を配布するので授業内容の理解に役立てること。

履修のポイント

各疾患別に身体状況や栄養状況に応じた、栄養療法を計画、立案、調理し、献立内容や量を把握、評価する
献立の理論と技術を習得する

オフィス・アワー

授業日の授業開始前もしくは終了後に教室等で質問に応じます。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C255

講義コード	30470001
講義名	臨床栄養学各論
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	3時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	管理栄養士として病院での勤務経験を活かして、臨床経験に基づき、栄養マネジメント等の基礎知識と実際について講義する。
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中山 優子	指定なし

授業の概要と教育目標

疾病者の疾患や栄養状態に基づく適切な栄養ケアマネジメントの実施に必要な、臨床症状や臨床検査データを理解する。
 疾患の改善に欠くことのできない栄養療法について、各治療食の献立立案から献立展開を習得する。
 医療現場のシステムやチーム医療における栄養士の役割および栄養士の専門性の確立を理解する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

人間のからだ・食品・栄養に関する学修を総合的に理解し、健康・栄養に係る現場での実践的活用と問題解決能力を修得することができる。

到達目標

卒後の現場で栄養実践活動に対応し、即戦力になる栄養士としての専門知識と技術を習得できるようにする。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	中山優子	栄養アセスメントについて	臨床栄養に関するトピックスを集め、意見・情報交換を行う	予習90分（臨床栄養学の教科書 関連ページを読む） 復習90分（授業内容をまとめる）
第2回	中山優子	基本となる検査値の読み方 検査値と各栄養指標からのアセスメント		予習90分（情報発表の下準備） 復習90分（授業内容をまとめる）
				予習90分（臨床栄養学

第3回	中山優子	栄養補給法の概要 経口栄養法、経腸栄養法、経静脈栄養法		概論の教科書 関連ページを読む) 復習90分 (授業内容をまとめる)
第4回	中山優子	一般・特別治療食、検査食 他		予習90分 (臨床栄養学概論の教科書 関連ページを読む) 復習90分 (授業内容をまとめる 次回演習の資料準備)
第5回	中山優子	一般治療食の献立立案 【演習課題】 食事基準に沿った基本献立の立案		予習90分 (次回演習の資料準備) 復習90分 (演習課題の確認)
第6回	中山優子	献立展開の意義と基本的な考え方 献立展開の方法 【演習課題】 例問題献立を展開する	各自が立案した献立を発表し、意見交換・情報提供を行う	予習90分 (次回演習の資料準備) 復習90分 (演習課題の確認)
第7回	中山優子	第5回基本献立の展開 ① 【演習課題】 塩分コントロール食への展開 エネルギーコントロール食への展開		予習90分 (次回演習の資料準備) 復習90分 (演習課題の確認)
第8回	中山優子	第5回基本献立の展開 ② 【演習課題】 たんぱく質・塩分コントロール食への展開 脂質コントロール食への展開	授業を受けての感想発表 今後の学習に向けての意見交換を行う	予習90分 (次回演習の資料準備) 復習90分 (演習課題の確認)

教科書

毎回資料及び演習用プリントを配布使用する。

参考書

最新臨床栄養学 新ガイドライン対応 (井上修二 他編著・光生館)
臨床栄養学概論及び実験で使用している教科書および食品交換表
食品成分表 (七訂2018版 香川明夫監修・女子栄養大学出版部)

成績評価の方法・基準

単位認定50点以上。
演習および課題提出(60%)、小テスト(40%)により評価する。課題提出は期日厳守のこと。

課題等に対する フィードバックの方法

授業計画書を確認し、主題(授業内容)を予習・復習しておくことが望ましい。演習献立はチェックおよびコメントを入れて返却するので、以後の参考資料にすること。

履修のポイント

臨床栄養学に関わる科目(概論および実験)の内容を復習しておくことを薦める。
演習は献立立案を中心に行うので、日頃から参考書籍を検索して献立のレパトリーを広げておく。

栄養情報やトピックスなどについての情報交換等を授業に織り込んでいく予定なので、人前で発表する等の自主練習を試みておくように。

オフィス・アワー

授業日の授業開始前もしくは終了後に教室等で質問に応じます。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C350

講義コード	30480001
講義名	臨床栄養学各論実験
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	実験
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	4時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	病院管理栄養士としての臨床経験をに基づき、栄養診断、介入方法等の基礎知識と実際について実験を行う。
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中山 優子	指定なし

授業の概要と教育目標

臨床栄養学各論にて学んだ各疾患の臨床症状、臨床検査データ、治療法などの相互関係、かつ疾患の改善に欠くことのできない栄養療法を演習しながら習得する。
基本献立から各疾患別献立の展開など演習しながら、献立の理論と技術を習得する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

人間のからだ・食品・栄養に関する学修を総合的に理解し、健康・栄養に係る現場での実践的活用と問題解決能力を修得する。併せて医療現場における栄養士の役割および栄養士の専門性の確立を理解修得する。

到達目標

臨床栄養学各論にて習得したことを基礎として、卒後の現場での栄養実践活動に対応し、即戦力になる栄養士としての専門知識と技術を習得できるようにする。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	中山優子	一般治療食・特別治療食 基本的な考え方		予習30分（臨床栄養学の教科書および実習書を読む） 復習60分（授業内容のおさらい）
第2回	中山優子	食事の概要 【演習】献立立案と展開 まとめ		予習30分（臨床栄養学の教科書および実習書を読む） 復習60分（演習記録を確認しまとめる）
	中	食事の概要		予習30分（臨床栄養学の教科書および実習

第3回	山優子	【演習】献立立案と展開 まとめ		書を読む) 復習60分(演習記録を確認しまとめる)
第4回	中山優子	【演習】 「糖尿病治療のための食品交換表」を用いての献立展開	各自が立案した献立を発表 意見・情報交換を行う	予習30分(臨床栄養学の教科書および実習書を読む) 復習60分(演習記録を確認しまとめる)
第5回	中山優子	食事の概要 【演習】献立立案と展開 まとめ		予習30分(臨床栄養学の教科書および実習書を読む) 復習60分(演習記録を確認しまとめる)
第6回	中山優子	【演習】 「腎臓業食品交換表」を用いての献立展開	各自が立案した献立を発表 意見・情報交換を行う	予習30分(臨床栄養学の教科書および実習書を読む) 復習60分(演習記録を確認しまとめる)
第7回	中山優子	食事の概要 【演習】献立立案と展開 まとめ		予習30分(臨床栄養学の教科書および実習書を読む) 復習60分(演習記録を確認しまとめる)
第8回	中山優子	食事の概要 【演習】献立立案と展開 まとめ	授業で学習した内容まとめを基に、臨床栄養に関する意見・情報交換を行う	予習30分(臨床栄養学の教科書および実習書を読む) 復習60分(演習記録を確認しまとめる)

教科書

栄養士になるための臨床栄養学実習 別冊 食事療法実務実習書(芦川修貳 他編著・学健書院)
その他項目内容によってはプリント配布あり。

参考書

最新臨床栄養学 新ガイドライン対応(井上修二 他編著・光生館)
臨床栄養学概論及び実験にて使用した教科書および食品交換表
食品成分表(7訂2018版 香川明夫監修・女子栄養大学出版部)

成績評価の方法・基準

単位認定50点以上。
課題・レポート(20%)、演習(70%)、記録(10%)をまとめて提出評価する。課題提出は期限厳守のこと。

課題等に対する フィードバックの方法

授業計画書の内容を確認し、実習教科書を予習・復習しておくことが望ましい。演習献立はチェックおよびコメントを入れて返却するので、以後の参考資料にすること。

履修のポイント

臨床栄養学各論で学習した基礎献立の立案～展開を、更に実習書での演習を通して学んでいく。臨床栄養に関する情報やトピックスを授業内容に織り込んでいくので、日頃からの情報収集を心掛けてほしい。

オフィス・アワー

授業日の授業開始前もしくは終了後に教室等で質問に応じます。

科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-C370

講義コード	30490001
講義名	スポーツ栄養学
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	5時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員		
職種	氏名	所属
教員	◎ 吉村 英悟	指定なし

授業の概要と教育目標

運動の種類・強度と持続時間は、体内の貯蔵エネルギーに関係することが知られている。例えば、短距離を全力で走る場合は、筋肉内のグリコーゲンがエネルギー源となる。一方、ジョギングなどの場合は貯蔵された脂肪を消費する。また、分枝鎖アミノ酸は筋肉で代謝される特殊な作用があり、アスリートにはサプリメントとして多用されている。このような事例を説明しながら、次の内容を講義する。運動・スポーツ時の栄養・代謝、スポーツの健康・体力への影響、トレーニング時の栄養補給法などについて学習する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

ディプロマ・ポリシーの4に関連して人体の運動時・栄養等の生理的な理解をする。またスポーツの現場で活用できるように習得する

到達目標

1. 運動生理学を基礎とし、アスリストの食事管理が行うための基礎知識を身につけること
2. スポーツ栄養マネジメントを理解すること。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	エネルギー産生の系を学び有酸素運動と無酸素運動の違いなどを考察する。		予習90分（スポーツ栄養をしらべる） 復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
	運動時の糖代謝、脂質代謝に及ぼす影響、血圧、骨密度、		予習90分（運動時の代謝について調べる）

第2回	寿命、適応性や抵抗性、運動の欠点などを学ぶ。		復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第3回	嫌氣的条件、好氣的条件の代謝と運動の種類との関係について学習する。		予習90分（運動の種類と代謝条件について調べる） 復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第4回	運動時の栄養必要量（タンパク質、水分、糖質など）について学ぶ		予習90分（運動時に必要な栄養素を学ぶ） 復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第5回	運動時の栄養素摂取のタイミング、サプリメントなどについて学習する		予習90分（栄養素の摂取タイミングについてしらべる。） 復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第6回	持久力系の運動（陸上長距離など）に対する栄養について具体的に学ぶ。 瞬発力系の運動（陸上短距離等）に対する栄養について具体的に学ぶ。		予習90分（スポーツの特徴にあった栄養を調べる） 復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第7回	スポーツ栄養マネジメントについて学ぶ	栄養マネジメントについて、ケーススタディを使いながら、グループで話し合いプログラムを作成およびまとめをする。	予習90分（スポーツ栄養マネジメントについてしらべる。） 復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第8回	スポーツ栄養マネジメントについて学ぶ。（プログラムづくり） 上記内容のまとめを行う。	栄養マネジメントについて、ケーススタディを使いながら、グループで話し合いプログラムを作成およびまとめをする。	予習90分（スポーツ栄養のプログラム例をしらべる） 復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する）

教科書

使用しない。授業中にプリント配布する。

参考書
<p>エクセル栄養君建帛社。 エクセル栄養君FFQ g 建帛社 健康づくりと競技力向上のための スポーツ栄養マネジメント。日本医療企画。鈴木 志保子 (著)他 アスリートの栄養アセスメント。第一出版。田口 素子 (著)他</p>
成績評価の方法・基準
<p>単位認定は50点以上とする。期末試験（100%） ただし授業中に提出された課題を評価して試験の点数に加点することがある。合計値が100点を 超えても評価は100点とする。</p>
課題等に対する フィードバックの方法
<p>課題に対して、コメントし返却する。</p>
履修のポイント
<p>応用栄養学の環境と栄養、運動と栄養の分野が参考となる。</p>
オフィス・アワー
<p>曜 日：月曜日～金曜日 時 間：12：30～13：15 場 所：11号館3階 研究室6</p>
科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-C351

講義コード	30500001
講義名	スポーツ栄養学実習
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	4時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 吉村 英悟	指定なし

授業の概要と教育目標

スポーツ栄養はトップアスリートだけでなく、健康の維持・増進のために運動をしている人を含め幅広く対象とする。科学的理論と根拠に基づき「スポーツ栄養学」の基本的理論を踏まえ、演習実習を通して学ぶ。また各競技特性や対象者ごとに把握してスポーツ栄養マネジメント（問題点の把握、改善目標、ケアプラン）の方法を身につける。

卒業認定・学位授与の方針との関連

ディプロマ・ポリシーの3や4に関連して人体の運動時・栄養等の基本的な生理学的・生化学的な理解をする。またスポーツの現場で活用できるようにスポーツ栄養マネジメントを理解し世代別、ケース別にプログラムづくりを行う。

到達目標

1. スポーツ栄養学の基礎的な知識の習得と栄養管理の手法を身につける。
2. 対象者別に効果的な集団指導の方法を考察する。
3. トップアスリートの食事面、栄養面でのサポートにおける個別対応の必要性を理解する。
4. スポーツ栄養マネジメントについて理解し習得する

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	授業概要 スポーツ栄養の概要		予習30分（スポーツ栄養をしらべる） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第2回	スポーツ栄養に関する科学的理論と根拠		予習30分（運動生理学や運動時の栄養について調べる） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）

			る)
第3回	栄養ケア・マネジメント、栄養アセスメント、スポーツ栄養マネジメントとは		予習30分（栄養マネジメントについて調べる） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第4回	スポーツ栄養マネジメントの概要1		予習30分（スポーツ栄養マネジメントについて調べる） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第5回	スポーツ栄養マネジメントの概要2		予習30分（スポーツ栄養マネジメントについて調べる） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第6回	ケーススタディによるスポーツ栄養マネジメントの実践 ケアプランの作成	グループでのプログラムづくりするためアクティブラーニングを行う。	予習30分（ケアプランを作るための資料集めをする） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第7回	ケーススタディによるスポーツ栄養マネジメントの実践 ケアプランに基づく献立作成1	グループでのプログラム（献立）づくりするためアクティブラーニングで行う。	予習30分（献立を作るための資料集めをする） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第8回	ケーススタディによるスポーツ栄養マネジメントの実践 ケアプランに基づく献立作成2	グループでのプログラム（献立）づくりのためアクティブラーニングで行う。	予習30分（献立を作るための資料集めをする） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第9回	ケーススタディによるスポーツ栄養マネジメントの実践 ケアプランに基づく献立作成3	スポーツ栄養マネジメント実習（グループ研究）発表準備 グループでのプログラムの発表を行うためアクティブラーニングにてまとめる。	予習30分（発表の準備を行う） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第10回	スポーツ栄養マネジメント実習（グループ研究） 発表・評価		予習30分（発表の準備を行う） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第11回	対象者別スポーツ栄養指導について	グループでのプログラム作成を行うためアクティブラーニングにてまとめる。	予習30分（ライフステージ別のプランを立てる上で年代毎の資料を集める。） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第12回	対象者別スポーツ栄養指	グループでのプログラム作成(教材作成)を行うためアク	予習30分（教材づくりのための資料を集める。） 復習60分（授業の記録を

	導（栄養教育教材作成）	ティブラーニングにてまとめる。	ノートと資料で再確認する)
第13回	対象者別スポーツ栄養指導（発表）		予習30分（発表の準備を行う） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第14回	個別競技の特性を踏まえた栄養管理1		予習30分（指定競技の概要、ルールなどを予習する） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第15回	個別競技の特性を踏まえた栄養管理2 発表・相互評価		予習30分（発表に向け準備する） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）

教科書

なし
適宜、プリントを渡します。

参考書

健康づくりと競技力向上のための スポーツ栄養マネジメント。日本医療企画。鈴木 志保子 (著)他
エクセル栄養君建帛社。
エクセル栄養君FFQ g 建帛社
アスリートの栄養アセスメント。第一出版。田口 素子 (著)他

成績評価の方法・基準

単位認定：50点以上
提出物50% 発表50%

課題等に対する フィードバックの方法

課題や発表に対してコメント付け返却する。

履修のポイント

スポーツ選手等の栄養管理の実際について検討する各研究発表において、各自が積極的に発言し意見交換を行うこと。

オフィス・アワー

曜日：月曜日～金曜日
時間：12：30～13：15
場所：11号館3階 研究室6

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C371

講義コード	30510001
講義名	給食計画・実務論
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	3時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋本 まさ子	指定なし

授業の概要と教育目標

給食計画・実務論は、病院・学校・福祉施設・事業所等の給食施設における業務での栄養士の役割を認識し、食事計画や栄養管理、給食の運営等について、経営管理理念をもち、いかに適切に遂行することを役目とする。本授業では、具体的に給食施設での栄養管理・大量調理の献立作成、調理作業、衛生管理、安全管理、作業管理、施設管理について理解を深め実務に活かせることを目標とする

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマポリシーに則し、社会の要請に応える給食業務ができる栄養士の教育・養成を目指す。卒業後は、その施設の特性に対応できる、給食の運営ができる、実践力を身に着けることを目指すものとする。

到達目標

栄養士の様々な業務を認識する
 喫食者に対して、実態に適応した安全で良質な給食ができる実践力を身に着ける
 社会に出て即実践に働ける知識を身につける

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	オリエンテーション、給食の概念、栄養士の役割、給食関係法規と行政指導		予習で教科書を読んでおく90分
第2回	給食の栄養・食事管理、献立作成、提供形態、食事評価、栄養管理報告、	グループディスカッション：給食や栄養士という職業にどのようなイメージを持っているか、また業務に対する認知度等について	復習に120分、予習

	給食と栄養指導	て	に90分
第3回	給食の調理管理、給食食材管理、給食の作業管理、新調理システム		復習に120分、予習に90分
第4回	給食の調理管理、安全・衛生管理、HACCPによる衛生管理、危機管理と災害・事故発生時の対応		復習に120分、予習に90分
第5回	大量調理衛生管理マニュアルに基づく衛生管理		復習に120分、予習に90分
第6回	給食施設の設備管理（建物の位置、調理機器の用途と保守、採光換気、給排水、電気他）		復習に120分、予習に90分
第7回	給食の組織管理と人事管理、教育・訓練		復習に120分、予習に90分
第8回	給食の原価管理		復習に120分、予習に90分
第9回	給食の事務管理（帳票管理、コンピューターの利用と活用）		復習に120分、予習に90分
第10回	施設別の給食運営（学校給食）		復習に120分、予習に90分
第11回	施設別給食の運営（病院給食）		復習に120分、予習に90分
第12回	施設別の給食運営（児童福祉施設）		復習に120分、予習に90分
第13回	施設別の給食運営（高齢者福祉施設）		復習に120分、予習に90分
第14回	施設別の給食運営（事業所給食）		復習に120分、予習に90分
第15回	まとめ	各給食施設での栄養士の役割について、グループディスカッションを行い、職場で求められる栄養士とはどのような人なのか	復習に120分、

教科書

給食管理論 学建書院

参考書

イラスト給食経営管理論 東京教学社

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上 試験90% 課題の取り組み・レポート10%

課題等に対する
フィードバックの方法

課題提出後採点して返却するので、本試験の参考にする

履修のポイント

給食計画から実践へ理解を深め、校外実習に活かす
給食施設の目的に適応した給食づくりを理解する

オフィス・アワー

授業終了後適宜受け付ける。9号館2階 第5研究室

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C235

講義コード	30520001
講義名	校外実習
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋本 まさ子	指定なし
教員	井桁 千恵子	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養士法が2002年に改正され、栄養士は単に食事を提供するのみではなく、食を通して人をより良い栄養状態に導く健康のプロであることが明言されました。栄養士を目指す学生は、人の健康の担い手であることが求められています。

本授業では、いろいろな問題を見つけみずからの力で解決していくことにより、体験を通して物事を知る「実践の知」につながる実習をおこなう。経験・体験した知識を就職に結びつけることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、学修を総合的に理解し、卒業後に栄養士として活躍できるよう実習現場での経験をし、社会人になれるように基本的な事項を身につける、栄養士としての意識を持って望み、問題を解決できる学生の校外実習をめざす。

到達目標

これから求められる栄養士になれるような学習を、実習現場で経験することにより、栄養士の役割を理解し、現場において役立つ社会人となることが到達目標である。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	実習先の発表と説明、 実習に当たっての諸注意 班員の情報確認と共有する		校外実習について理解するために事前学習90分以上
第2回	校外実習についての説明（学校給食、事業所給食） 各実習施設の情報共有	各班ごとに分かれ情報を共有する	各実習場所の特徴について調べるために120分以上

	する		
第3回	事前挨拶等の説明、事前課題 課題発表、提出日時、 場所等共有確認する		事前課題等の作成のため に90分以上 実習施設への連絡確認の ために90分
第4回	実習直前説明会	各班ごとに分かれ情報を共有 する（確認事項をまとめるな ど）	実習場所の内容について 事前学習180分以上
第5回	実習40時間		事前準備のために120分以 上、毎日ノート整理等 に60分以上
第6回	課題提出		課題提出のために120分以 上
第7回	各実習場所の報告会お よび反省会	各班の代表者による実習報告 を実施し、情報交換等を実施 する。	報告会のための準備 に120分以上
第8回	第二回実習場所発表 実習先の説明、実習に 当たっての諸注意 情報を共有する		第二期校外実習について 理解するために事前学 習90分以上
第9回	校外実習についての説 明（病院給食、社会福 祉施設）		各実習場所の特徴につい て調べるために90分以上
第10回	事前挨拶等の説明、事 前課題		事前課題等の作成のため に60分以上 実習施設への連絡確認の ために120分
第11回	実習直前説明会	各班ごとに分かれ情報を共有 する（確認事項をまとめるな ど）	実習場所の内容について 事前学習120分以上
第12回	実習40時間		事前準備のために120分以 上 毎日ノート整理等に60分 以上
第13回	課題提出		課題提出のために120分以 上
第14回	報告会及び反省会の準 備	各班ごとに班長中心に意見 をまとめ、報告会にむけての準 備をする。	報告会のための準備 に180分以上
第15回	各実習場所の報告会お よび反省会	各班の代表者による実習報告 を実施し、情報交換等を実施 する。	報告会のための準備 に120分以上 報告会終了後まとめ に60分

教科書

栄養士校外実習ノート（学内作成用）

参考書

管理栄養士・栄養士になるための国語表現 萌文書院

成績評価の方法・基準

単位認定 50点以上 校外実習先評価点90%、事前・事後課題10%

課題等に対する フィードバックの方法
実習反省会の資料を作成、発表後、学生へ返却する。
履修のポイント
具体的な栄養士の現場を体験することにより、栄養士の内容を理解する
オフィス・アワー
月曜日12：30～13：20（お昼休み）または、授業終了後、随時 橋本まさ子：9号館2階 第5研究室 火曜日12：30～13：20（お昼休み）または、授業終了後、随時 井桁千恵子：9号館3階 第8研究室
科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-C256

講義コード	30530001
講義名	栄養指導論I
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	2時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	病院管理栄養士としての臨床経験に基づき、栄養教育について講義を行う。
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 町田 大輔	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養士が行う栄養教育の意義や目的を理解し、行動変容に関する理論・モデル及びカウンセリングの基本技術を統合した栄養教育を実践できる力を身につける。また、栄養教育マネジメントサイクルを理解し、適切な栄養教育計画を立案・実施できる力を身につける。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活を取り巻く社会的環境について科学的に理解し、栄養教育に繋げることができる。様々な現場での実践に活用可能な栄養教育の基礎知識を習得する。

到達目標

栄養士が行う栄養指導の意義や目的、栄養教育に関わる理論・モデル、カウンセリングの基本、栄養教育のマネジメントサイクルについて概説できる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	町田大輔	ガイダンス、栄養教育概論（教科書Chapter 1）	学習した内容をレポートにまとめグループ内で共有する	予習：教科書の該当箇所を読む（60分） 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す（120分）
第2回	町田大輔	栄養教育に関わる理論・モデルとその活用①（教科書Chapter 2）	学習した内容をレポートにまとめグループ内で共有する	予習：教科書の該当箇所を読む（60分） 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す（120分）
第3回	町田	栄養教育に関わる理論・モデルとその活用②（教科書Chapter 3）	学習した内容をレポートにまとめグループ内で共有する	予習：教科書の該当箇所を読む（60分） 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す（120分）

	大輔	科書Chapter 2)	で共有する	および配布プリントを見直す (120分)
第4回	町田大輔	栄養教育に関わる理論・モデルとその活用③ (教科書Chapter 2)	学習した内容をレポートにまとめグループ内で共有する	予習：教科書の該当箇所を読む (60分) 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す (120分)
第5回	町田大輔	栄養教育に関わる理論・モデルとその活用④ (教科書Chapter 2)	学習した内容をレポートにまとめグループ内で共有する	予習：教科書の該当箇所を読む (60分) 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す (120分)
第6回	町田大輔	栄養教育に関わる理論・モデルとその活用⑤ (教科書Chapter 2)	学習した内容をレポートにまとめグループ内で共有する	予習：教科書の該当箇所を読む (60分) 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す (120分)
第7回	町田大輔	カウンセリングの基本と栄養教育への応用① (教科書Chapter 3)	学習した内容をレポートにまとめグループ内で共有する	予習：教科書の該当箇所を読む (60分) 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す (120分)
第8回	町田大輔	カウンセリングの基本と栄養教育への応用② (教科書Chapter 3)	学習した内容をレポートにまとめグループ内で共有する	予習：教科書の該当箇所を読む (60分) 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す (120分)
第9回	町田大輔	カウンセリングの基本と栄養教育への応用③ (教科書Chapter 3)	学習した内容をレポートにまとめグループ内で共有する	予習：教科書の該当箇所を読む (60分) 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す (120分)
第10回	町田大輔	カウンセリングの基本と栄養教育への応用④ (教科書Chapter 3)	学習した内容をレポートにまとめグループ内で共有する	予習：教科書の該当箇所を読む (60分) 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す (120分)
第11回	町田大輔	栄養教育のマネジメントサイクル① (教科書Chapter 4)	学習した内容をレポートにまとめグループ内で共有する	予習：教科書の該当箇所を読む (60分) 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す (120分)
第12回	町田大輔	栄養教育のマネジメントサイクル② (教科書Chapter 4)	学習した内容をレポートにまとめグループ内で共有する	予習：教科書の該当箇所を読む (60分) 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す (120分)
第13回	町田大輔	栄養教育のマネジメントサイクル③ (教科書Chapter 4)	学習した内容をレポートにまとめグループ内で共有する	予習：教科書の該当箇所を読む (60分) 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す (120分)
				予習：教科書の該当箇所

第14回	町田大輔	栄養教育のマネジメントサイクル④（教科書Chapter 4）	学習した内容をレポートにまとめグループ内で共有する	を読む（60分） 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す（120分）
第15回	町田大輔	授業のまとめ、試験		予習：これまでの授業で学んだ内容を見直す（120分） 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す（60分）

教科書

武見ゆかり・赤松理恵 編 栄養教育論 理論と実践（医歯薬出版株式会社）

参考書

適宜紹介する

成績評価の方法・基準

単位認定：50点以上

授業内試験60%、レポート課題の提出30%、授業への主体的な参加10%

課題等に対する

フィードバックの方法

- ・レポート課題は採点后返却するので、学習の参考にしてください。
- ・授業内で毎回小テストを行い、その場で解説します。回収はしません。配布プリントなどと合わせて学習の参考にしてください。

履修のポイント

授業には主体的には参加してください。講義は質問や議論を交えながら展開します。また講義科目ですが、適宜グループワークやプレゼンテーションを取り入れながら授業を進めます。

オフィス・アワー

質問や相談には、授業開始前および終了後またはリアクションペーパーにて応じます。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C257

講義コード	30540001
講義名	栄養指導論II
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	1時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	病院管理栄養士としての臨床経験に基づき、栄養教育について講義を行う。
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 町田 大輔	指定なし

授業の概要と教育目標

様々な場における対象者の発達段階や身体・精神的状況，価値観，社会的背景等の特徴を理解し，マネジメントサイクルに基づいた栄養指導を実践できる力を身につける。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活を取り巻く社会的環境について科学的に理解し、栄養教育に繋げることができる。様々な現場での実践に活用可能な栄養教育の基礎知識を習得する。

到達目標

- ・個人・集団を対象とした栄養教育および食環境づくりと栄養教育との関連、発達段階と場に応じた栄養教育の方法について概説できる。
- ・発達段階と場に応じた栄養教育を実践できる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	町田大輔	ガイダンス、個人を対象とした栄養教育（教科書Chapter 5）	学習した内容をレポートにまとめグループ内で共有する	予習：教科書の該当箇所を読む（60分） 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す（120分）
第2回	町田大輔	集団を対象とした栄養教育（教科書Chapter 6）	学習した内容をレポートにまとめグループ内で共有する	予習：教科書の該当箇所を読む（60分） 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す（120分）
第3回	町田	食環境づくりと栄養教育	学習した内容をレポートにまとめグループ内	予習：教科書の該当箇所を読む（60分） 復習：教科書の該当箇所

	大輔	(教科書Chapter 8)	で共有する	および配布プリントを見直す (120分)
第4回	町田大輔	妊婦・授乳婦を対象とする栄養教育象とする (教科書Chapter 7)	学習した内容をレポートにまとめグループ内で共有する	予習：教科書の該当箇所を読む (60分) 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す (120分)
第5回	町田大輔	幼児期の栄養教育① (教科書Chapter 7)	学習した内容をレポートにまとめグループ内で共有する	予習：教科書の該当箇所を読む (60分) 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す (120分)
第6回	町田大輔	幼児期の栄養教育② (教科書Chapter 7)	グループで栄養教育計画を作成し発表する	予習：教科書の該当箇所を読む (60分) 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す (120分)
第7回	町田大輔	学童期の栄養教育① (教科書Chapter 7)	学習した内容をレポートにまとめグループ内で共有する	予習：教科書の該当箇所を読む (60分) 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す (120分)
第8回	町田大輔	学童期の栄養教育② (教科書Chapter 7)	グループで栄養教育計画を作成し発表する	予習：教科書の該当箇所を読む (60分) 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す (120分)
第9回	町田大輔	思春期・青年期の栄養教育 (教科書Chapter 7)	学習した内容をレポートにまとめグループ内で共有する	予習：教科書の該当箇所を読む (60分) 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す (120分)
第10回	町田大輔	成人期の栄養教育① (教科書Chapter 7)	学習した内容をレポートにまとめグループ内で共有する	予習：教科書の該当箇所を読む (60分) 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す (120分)
第11回	町田大輔	成人期の栄養教育② (教科書Chapter 7)	グループで栄養教育計画を作成し発表する	予習：教科書の該当箇所を読む (60分) 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す (120分)
第12回	町田大輔	高齢期の栄養教育① (教科書Chapter 7)	学習した内容をレポートにまとめグループ内で共有する	予習：教科書の該当箇所を読む (60分) 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す (120分)
第13回	町田大輔	高齢期の栄養教育② (教科書Chapter 7)	グループで栄養教育計画を作成し発表する	予習：教科書の該当箇所を読む (60分) 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す (120分)
				予習：教科書の該当箇所

第14回	町田大輔	アスリート・障がい者を対象とした栄養教育（教科書Chapter 7）	学習した内容をレポートにまとめグループ内で共有する	を読む（60分） 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す（120分）
第15回	町田大輔	授業のまとめ、試験		予習：これまでの授業で学んだ内容を見直す（120分） 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す（60分）

教科書

武見ゆかり・赤松理恵 編 栄養教育論 理論と実践（医歯薬出版株式会社）

参考書

適宜紹介する

成績評価の方法・基準

単位認定：50点以上

授業内試験60%、レポート課題の提出20%、授業への主体的な参加（プレゼンテーション含む）20%

課題等に対する

フィードバックの方法

- ・レポート課題は採点后返却するので、学習の参考にしてください。
- ・授業内で小テストを行い、その場で解説します。回収はしません。配布プリントなどと合わせて学習の参考にしてください。

履修のポイント

授業には主体的には参加してください。講義は質問や議論を交えながら展開します。また講義科目ですが、適宜グループワークやプレゼンテーションを取り入れながら授業を進めます。

オフィス・アワー

質問や相談には、授業開始前および終了後またはリアクションペーパーにて応じます。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C277

講義コード	30550001
講義名	学内実習
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	1時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	医薬品メーカーや食品関連企業に管理栄養士として勤務した経験を活かし、栄養や食品・調理についての基礎知識について解説する。
学年	1学年

担当教員		
職種	氏名	所属
教員	◎ 中島 君恵	指定なし

授業の概要と教育目標

集団給食室（学内）を利用し、学生を対象にした食事計画・大量調理・調理作業の計画・食品管理・衛生管理など集団給食の栄養業務・その他の業務すべてを体験する。実習では、食事計画 → 献立作成 → 材料の発注 → 試作 → 給食業務 → 反省会の流れで実習を行う。食事計画・大量調理・調理作業の計画・食品管理・衛生管理など集団給食の栄養業務・その他の業務すべてを体験することで集団給食における栄養士の役割とあり方について学ぶことを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、「健康・栄養」に係る食を中心に生活を科学的に理解を深めることを目指し、実習を通じて「給食管理」「大量調理」の理解を通してその目的達成に資する知識を養う。そして将来的展望としては多様化する食生活に対応する食事（給食）を設計する基盤となる学修を行うことを目指すものとする。

到達目標

- ・集団給食における食事計画・大量調理・調理作業の計画・食品管理・衛生管理などを通じてその特性と栄養士業務を理解する。
- ・学内実習を通してグループ学習の重要性を理解し、校外実習への発展を促す。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	中島君恵	学内実習 授業概要について		予習30分：教科書1章(給食運営・経営管理 実習のてびき)を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第2回	中島	1. 栄養・食事管理業務 (1) 2. 献立作成の		予習30分：教科書(給食運営・経営管理 実習のてびき)2章 <1> 1を読

	君恵	手順 3. 給与 栄養目標量の算 出 (演習)		む。復習30分：配布資 料を見直す。
第3回	中島 君恵	1. 栄養・食事 管理業務 (2) 2. 栄養比率の 算出 (演習)		予習30分：教科書(給食 運営・経営管理 実習の てびき)2章〈1〉1を読 む。復習30分：配布資 料を見直す。
第4回	中島 君恵	1. 栄養・食事 管理業務 (3) 2. 食品構成表 の作成 (演習)		予習30分：教科書(給食 運営・経営管理 実習の てびき)2章〈1〉2・3を 読む。復習30分：配布 資料を見直す。
第5回	中島 君恵	1. 食材の生産 管理 2. 発注 表の作成 (演 習)		予習30分：教科書(給食 運営・経営管理 実習の てびき)2章〈1〉7を読 む。復習30分：配布資 料を見直す。
第6回	中島 君恵	食事計画・献立 作成(演習)		予習30分：教科書(給食 運営・経営管理 実習の てびき)2章〈1〉4を読 む。復習30分：配布資 料を見直す。
第7回	中島 君恵	学内実習 概 要・衛生管 理(HACCP)		予習30分：教科書(給食 運営・経営管理 実習の てびき)2章〈2〉4及び 教科書(大量調理)1章を 読む。復習30分：配布 資料を見直す。
第8回	中島 君恵	1. 施設・設備 の保守管理につ いて (1) 2. 実習室説明		予習30分：教科書(給食 運営・経営管理 実習の てびき)2章〈2〉4を読 む。教科書1章を読む。 復習30分：配布資料を 見直す。
第9回	中島 君恵	栄養教育媒体等 作成	履修者に栄養教育について意見交換 をさせ、栄養教育について理解する きっかけを作る。また資料を用いて 栄養教育の実践例について解説して 理解を深め、再度栄養教育について 意見交換する。	予習30分：教科書教科 書(給食運営・経営管理 実習のてびき)2章 〈1〉8を読む。復 習30分：配布資料を見 直す。
第10回	中島 君恵	栄養教育媒体等 作成	履修者に栄養教育について意見交換 をさせ、栄養教育について理解する きっかけを作る。また資料を用いて 栄養教育の実践例について解説して 理解を深め、再度栄養教育について 意見交換する。	予習30分：教科書(給食 運営・経営管理 実習の てびき)2章〈1〉5を読 む。教科書1章を読む。 復習30分：実習日誌を 記入。
第11回	中島 君恵	試作実習 ※詳細につい ては実施献立決定 後発表	履修者に実施予定献立について意見 交換をさせ、給食管理について理解 するきっかけを作る。また資料を用 いて実施予定献立について解説して 理解を深め、再度意見交換する。	予習30分：教科書(給食 運営・経営管理 実習の てびき)2章〈2〉を読 む。復習30分：実習日 誌を記入。
				予習30分：教科書(給食

第12回	中島君恵	給食管理実習 ※詳細については実施献立決定後発表		運営・経営管理 実習のてびき)2章〈2〉を読む。復習30分：実習日誌を記入。
第13回	中島君恵	給食管理実習 ※詳細については実施献立決定後発表		予習30分：教科書(給食運営・経営管理 実習のてびき)2章〈2〉を読む。復習30分：実習日誌を記入。
第14回	中島君恵	詳細については実施献立決定後発表		予習30分：教科書(給食運営・経営管理 実習のてびき)2章〈2〉を読む。復習30分：実習日誌を記入。
第15回	中島君恵	学内実習の際に実施したアンケート結果をもとに反省会を行う		予習30分：配布した反省会資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。

教科書

給食運営・経営管理実習のてびき第5版（医歯薬出版株式会社）
大量調理（学建書院）

参考書

給食経営管理テキスト 第5版(学建書院)

成績評価の方法・基準

単位認定：60点以上 実習実技40% 実習ノート40% 課題20%

課題等に対する フィードバックの方法

授業内でレポートや課題を課すことがある。返却するので学習の参考にすること。

履修のポイント

この授業では給食運営において栄養士がどのような業務をし、それにはどのような能力が必要なのかを実践の場で習得する実習であるので、研究心、協調性、責任感、積極性、自主性をもって意欲的に実習に取り組み、教科書やプリント等の講義資料の熟読を復習として勧めます。

オフィス・アワー

木曜日、12：30～13：20(昼休み)、9号館3階第7研究室
※講義授業前後にも、適宜受けます。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C215

講義コード	30560001
講義名	栄養情報処理演習
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	1時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	医薬品メーカーや食品関連企業に管理栄養士として勤務した経験を活かし、栄養や食品・調理についての基礎知識について解説する。
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中島 君恵	指定なし
教員	石井 広二	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養関係業務では多くの資料を扱うことが多い。そこで栄養管理及び栄養教育の基礎的技術としてコンピュータの利用について演習を行う。授業ではLMSを使用する。栄養士業務のなかでコンピュータを用いた栄養管理及び栄養教育技術への応用について理解し、実際にコンピュータを利用して処理を行える技術を身に付けることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、「健康・栄養」に係る食を中心に生活を科学的に理解を深めることを目指し、「統計学」「情報処理」「プレゼンテーション」の理解を通してその目的達成に資する知識を養う。そして将来的展望としては多様化する食生活に対応する栄養士の基盤となる学修を行うことを目指すものとする。

到達目標

- ・栄養士業務におけるコンピュータの役割について理解し積極的に利用できるようになる
- ・栄養士業務の中で給与栄養目標量の算出や食品構成表、栄養出納表の作成をExcelを用いて作成できる
- ・栄養士業務における統計処理の基本的な知識と技術を習得する
- ・パワーポイントを用いて栄養教育資料を作成しプレゼンテーションを行うことができる

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	中島君恵石	学習目的・講義計画について、文献検索について、PCの習熟度についての確認		予習30分：テキストを読む。復習30分：配布

	井 広 二	献立作成ソフトの操作方法及び演習 担当：中島・石井		資料及びテキストを見直す。
第2回	石 井 広 二	Excelによるデータ処理、度数分布表、平均、標準偏差 担当：石井		予習30分：教科書第1章～第3章を確認 復習30分：理解度の問題を行う
第3回	石 井 広 二	グラフによるデータのまとめ方、相関と回帰直線 担当：石井		予習30分：教科書第4章～第6章を確認 復習30分：理解度の問題を行う
第4回	石 井 広 二	確率分布 担当：石井		予習30分：教科書第8章を確認 復習30分：理解度の問題を行う
第5回	石 井 広 二	区間推定（母平均の区間推定など） 仮説検定 担当：石井		予習30分：教科書第9章・第10章を確認 復習30分：理解度の問題を行う
第6回	石 井 広 二	仮説検定 担当：石井		予習30分：教科書第10章・第11章を確認 復習30分：理解度の問題を行う
第7回	石 井 広 二	クロス集計表と検定 課題 担当：石井		予習30分：教科書第7章・第12章を確認 復習30分：理解度の問題を行う
第8回	石 井 広 二	食事摂取基準の考え方 データ分析 (1) 課題 担当：石井	実際のデータを用いて、分析を行う 課題に取り組む	予習30分：今までの内容を確認 復習30分：課題に取り組み、理解度を確認する
第9回	中 島 君 恵	Excelを用いて食品構成表を作成する 担当：中島		予習30分：配布資料を読む。復習30分：配布資料及びテキストを見直す

				す。
第10回	中島君恵	Excelを用いて食品構成表を作成する 担当：中島		予習30分：テキストを読む。復習30分：配布資料及びテキストを
第11回	中島君恵	パワーポイントの操作方法、インターネットを用いた情報検索と著作権 担当：中島	履修者にどのような栄養に関する情報が必要かについて意見交換をさせ、栄養指導について理解するきっかけを作る。また資料を用いて生活習慣病等に関する栄養情報を用いて解説して理解を深め、再度栄養指導に関する意見交換を行う。	予習30分：テキストを読む。復習30分：配布資料及びテキストを見直す。
第12回	中島君恵	テーマを選び、パワーポイントを用いてプレゼンテーション資料作成及び発表 担当：中島		予習30分：テキストを読む。復習30分：配布資料及びテキストを見直す。
第13回	中島君恵	テーマを選び、パワーポイントを用いてプレゼンテーション資料作成及び発表 担当：中島		予習30分：テキストを読む。復習30分：配布資料及びテキストを見直す。
第14回	中島君恵	テーマを選び、パワーポイントを用いてプレゼンテーション資料作成及び発表 担当：中島	各自で作成した資料をもとに1人ずつプレゼンテーションを行う。	予習30分：テキストを読む。復習30分：配布資料及びテキストを見直す。
第15回	中島君恵	発表 担当：中島	各自で作成した資料をもとに1人ずつプレゼンテーションを行う。	予習30分：テキストを読む。復習30分：配布資料及びテキストを見直す。

教科書

Excel統計処理：「よくわかる統計学 看護医療データ編 第2版」（東京図書）、その他はプリントを配布する。

参考書

「30時間アカデミック情報リテラシー Office2016」

「管理栄養士・栄養士のための統計処理入門」（建帛社）武藤志真子編著

成績評価の方法・基準

単位認定：50点以上 課題（食品構成表20%、統計処理40%）、プレゼンテーション（資料・発表40%）を総合して評価

課題等に対する
フィードバックの方法

授業内で課題やレポートを課すことがあります。返却しますので、学習の参考にしてください。

履修のポイント

栄養に関する情報に対して科学的な視点を持ち、積極的な姿勢で授業に臨むこと。
統計処理においては、「くらしと統計」を履修していない学生は特に予習として教科書や資料を熟読しておいてください。その他についても、配布テキストやプリント等の講義資料の熟読、課題を復習として勧めます。
また、栄養士必修科目のため、欠席（公欠含む）した場合は必ず補講内容について確認してください。

オフィス・アワー

中島：木曜日、12：30～13：20（昼休み）、9号館3階第7研究室
石井：火曜日、12：30～13：20（昼休み）、9号館3階第11研究室
※講義授業前後にも、適宜受けます。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C258

講義コード	30570001
講義名	栄養教諭論
(副題)	【教職必修（栄養）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	5 時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋本 まさ子	指定なし
教員	武井 弘美	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養教諭の制度と役割、学校給食の教育的意義と役割、学校組織と栄養教諭の位置づけや学校給食の歴史と食文化の変遷についての講義内容。また、自分の実践を踏まえての講義。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーの関連として理論だけでなく、より専門的な知識をもった栄養教諭をめざす。そして将来的には栄養教諭論で学んだことを食の専門家として生かせるようになる。

到達目標

栄養教諭の社会的使命、職務内容を食に関する全体的な指導計画ができるようになる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	武井弘美	栄養教諭制度創設の趣旨と意義、社会・時代的背景、課せられた使命と役割、学校給食法等の関連法律の理解等についての講義内容。	栄養教諭の役割について考えさせ意見交換をする	予習60分：教科書を読んで授業に臨む、復習90分：授業のまとめ
第2回	武井弘美	学校給食の歴史、学校組織と栄養教諭の位置づけ等についての講義内容。		予習90分：教科書を読んで授業に臨む、復習90分：授業のまとめ
第3回	武井弘美	栄養教諭の職務内容、給食管理と食に関する指導、栄養教諭の実際の役割について、主に理論と実践例からの講義。	栄養教諭の職務についてまとめさせ、発表する。	予習90分：教科書を読んで授業に臨む、復習90分：授業のまとめ

第4回	武井弘美	「食に関する指導」の必要性、内容と作成と留意点について栄養教諭の実際の役割について、主に理論と実践例からの講義内容。		予習90分：教科書を読んで授業に臨む、復習90分：授業のまとめ
第5回	武井弘美	食に関する指導の全体計画、教科等における指導計画、給食時間の指導計画、栄養教諭の実際の役割について、主に理論と実践例からの講義内容。		予習90分：教科書を読んで授業に臨む、復習90分：授業のまとめ
第6回	武井弘美	給食指導の年間指導計画の作成、給食時間における指導の実際等、栄養教諭の実際の役割について、主に理論と実践例からの講義内容。		予習90分：教科書を読んで授業に臨む、復習90分：授業のまとめ
第7回	武井弘美	小・中学生の学習の発達と食生活学習についての講義内容。栄養教諭の実際の役割について、主に理論と実践例からの講義内容。具体例を挙げさせ、指導方法についての意見交換をする。		予習90分：教科書を読んで授業に臨む、復習90分：授業のまとめ
第8回	武井弘美	「道徳・特別活動」における食に関する指導、栄養教諭の実際の役割について、主に理論と実践例からの講義内容。		予習90分：教科書を読んで授業に臨む、復習90分：授業のまとめ
第9回	武井弘美	個別相談の意義、特長、指導方法、食物アレルギー等に関する個別支援の仕方について、栄養教諭の実際の役割について、主に理論と実践例からの講義内容。		予習90分：教科書を読んで授業に臨む、復習90分：授業のまとめ
第10回	武井弘美	「家庭・地域社会との連携」における留意点、連携の仕方および手順等について、栄養教諭の実際の役割について、主に理論と実践例からの講義内容。		予習90分：教科書を読んで授業に臨む、復習90分：授業のまとめ
第11回	橋本まさ子	「家庭科」、「技術・家庭科」、「体育科」、「保健体育科」における食に関する指導、栄養教諭の実際の役割について、主に理論と実践例からの講義内容。		予習90分：教科書を読んで授業に臨む、復習90分：授業のまとめ
第12回	橋本まさ子	「生活科」における職の指導、栄養教諭の実際の役割について、主に理論と実践例からの講義内容。		予習90分：教科書を読んで授業に臨む、復習90分：授業のまとめ
第13回	橋本まさ子	「総合的な学習の時間」における食に関する指導、栄養教諭の実際の役割について、主に理論と実践例からの講義内容。		予習90分：教科書を読んで授業に臨む、復習90分：授業のまとめ
第14回	橋本まさ子	模擬授業に向けての指導案の作成、教材作成。個別指導を実施する。	各自の課題に沿って、指導案を作成し模擬授業を実施し、意見交換をする。	予習180分：模擬授業の準備及び教材作成、復習180分：模擬授業のための最終確認
	橋			予習120分：模擬授

第15回	本 ま さ 子	模擬授業を行なう。まとめ。	模擬授業方法について意見交換を実施する。	業の準備、復習60分：授業のまとめ
教科書				
三訂 栄養教諭 第3版 金田雅代 編				
参考書				
栄養教諭は何をすべきか ぎょうせい 栄養教諭 養成における 実習の手引き 東山書房 新現代の栄養教育実践 同文書院				
成績評価の方法・基準				
単位認定 60点以上 学期末レポート60%、指導案作成20%、課題20%などで評価				
課題等に対するフィードバックの方法				
授業内でレポートや課題を課すことがあるので、返却後学習の参考にすると良い。				
履修のポイント				
予習・復習の積み重ねが知識を身につける力になりるので、授業への積極的な取り組む態度が後の教育実習を成功させる結果になります。				
オフィス・アワー				
授業終了後 適宜受け付けます。 武井弘美、月曜日12：30～13：20（お昼休み）または、授業終了後 適宜受け付けます。 9号館2階 第5研究室(橋本)				
科目区分				
専門科目				
当該授業科目の教育課程内での位置づけ				
CS-C330				

講義コード	30580001
講義名	食育論
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	5時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 町田 大輔	指定なし

授業の概要と教育目標

食育に関連する法律や制度、食に関する諸問題やその問題を解決するための取組について学び、栄養士としての食育実践に必要な基礎知識を身につける。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「人の体・食品・栄養」に関する学修を総合的に理解し、「健康・栄養」に係る現場、食育を必要とする場面での指導力を身につける。

到達目標

- ・食育に関連する法律や制度、食に関する諸問題について概説できる。
- ・食に関する諸問題を解決するための取組事例をあげることができる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	町田大輔	食育白書①（食育推進施策の基本的枠組み、食育推進施策をめぐる状況）	学習した内容をレポートにまとめグループ内で共有する	予習：食育白書の該当箇所を読む（45分） 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す（120分）
第2回	町田大輔	食育白書②（家庭における食育の推進）	学習した内容をレポートにまとめグループ内で共有する	予習：食育白書の該当箇所を読む（45分） 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す（120分）
第3回	町田大	食育白書③（学校・保育所等における食育の推進）	学習した内容をレポートにまとめグループ内で共有する	予習：食育白書の該当箇所を読む（45分） 復習：教科書の該当箇所および配布プリント

	輔			を見直す (120分)
第4回	町田大輔	食育白書④ (地域における食育の推進)	学習した内容をレポートにまとめグループ内で共有する	予習：食育白書の該当箇所を読む (45分) 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す (120分)
第5回	町田大輔	食育白書⑤ (食育推進運動の展開)	学習した内容をレポートにまとめグループ内で共有する	予習：食育白書の該当箇所を読む (45分) 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す (120分)
第6回	町田大輔	食育白書⑥ (生産者と消費者との交流の促進、環境と調和のとれた農林漁業の活性化等)	学習した内容をレポートにまとめグループ内で共有する	予習：食育白書の該当箇所を読む (45分) 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す (120分)
第7回	町田大輔	食育白書⑦ (食文化の継承のための活動)	学習した内容をレポートにまとめグループ内で共有する	予習：食育白書の該当箇所を読む (45分) 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す (120分)
第8回	町田大輔	食育白書⑧ (食品の安全性・栄養等に関する情報提供の推進)	学習した内容をレポートにまとめグループ内で共有する	予習：食育白書の該当箇所を読む (45分) 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す (120分)

教科書

平成30年度食育白書にそって授業を進めます。食育白書の必要箇所は授業の際配布します。

参考書

適宜紹介する

成績評価の方法・基準

単位認定：50点以上

レポート課題の提出80%、授業への主体的な参加20%

課題等に対する

フィードバックの方法

レポート課題は採点后返却するので、配布プリントと合わせて学習の参考にしてください。

履修のポイント

授業には主体的には参加してください。講義は質問や議論を交えながら展開します。また講義科目ですが、適宜グループワークやプレゼンテーションを取り入れながら授業を進めます。

オフィス・アワー

質問や相談には、授業開始前および終了後またはリアクションペーパーにて応じます。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C352

講義コード	30590001
講義名	食育論演習
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	4時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 町田 大輔	指定なし

授業の概要と教育目標

すべてのライフステージおよび食育を必要とする様々な場での食育計画の立案、実施、評価の方法を学び、栄養士として食育が実践できる力を身につける。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「人の体・食品・栄養」に関する学修を総合的に理解し、「健康・栄養」に係る現場、食育を必要とする場面での指導力を身につける。

到達目標

・対象に応じた効果的な食育計画の立案、実施、評価の方法について概説でき、様々な場面で食育を実践することができる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	町田大輔	ガイダンス、ライフステージ別の食育場面と適切な内容	グループワークでまとめた内容をクラス全体で共有する	予習：授業内容に関連する事柄を調べておく（15分） 復習：配布プリントを見直す（30分）
第2回	町田大輔	家庭における食育計画	グループワークでまとめた内容をクラス全体で共有する	予習：授業内容に関連する事柄を調べておく（15分） 復習：配布プリントを見直す（30分）
第3回	町田大	学校・保育所等における食育計画	グループワークでまとめた内容をクラス全体で共有する	予習：授業内容に関連する事柄を調べておく（15分） 復習：配布プリント

	輔			を見直す (30分)
第4回	町田大輔	地域における食育計画	グループワークでまとめた内容をクラス全体で共有する	予習：授業内容に関連する事柄を調べておく (15分) 復習：配布プリントを見直す (30分)
第5回	町田大輔	食育推進のための取組	グループワークでまとめた内容をクラス全体で共有する	予習：授業内容に関連する事柄を調べておく (15分) 復習：配布プリントを見直す (30分)
第6回	町田大輔	農林漁業に関する食育計画	グループワークでまとめた内容をクラス全体で共有する	予習：授業内容に関連する事柄を調べておく (15分) 復習：配布プリントを見直す (30分)
第7回	町田大輔	食文化の継承に関する食育計画	グループワークでまとめた内容をクラス全体で共有する	予習：授業内容に関連する事柄を調べておく (15分) 復習：配布プリントを見直す (30分)
第8回	町田大輔	食品の安全性・栄養等に関する情報提供に関わる食育計画	グループワークでまとめた内容をクラス全体で共有する	予習：授業内容に関連する事柄を調べておく (15分) 復習：配布プリントを見直す (30分)
第9回	町田大輔	食育リーフレットの作成ー対象に応じた効果的なリーフレットを考える①	グループワークによる食育リーフレットの作成	予習：授業内容に関連する事柄を調べておく (15分) 復習：配布プリントを見直す (30分)
第10回	町田大輔	食育リーフレットの作成ー対象に応じた効果的なリーフレットを考える②	グループワークによる食育リーフレットの作成	予習：授業内容に関連する事柄を調べておく (15分) 復習：配布プリントを見直す (30分)
第11回	町田大輔	食育リーフレット発表会ーリーフレットの評価	グループワークでまとめた内容をクラス全体で共有する	予習：授業内容に関連する事柄を調べておく (15分) 復習：配布プリントを見直す (30分)
第12回	町田大輔	集団指導における食育媒体の作成ー対象に応じた効果的な媒体を考える①	グループワークによる集団指導計画と食育媒体作成	予習：授業内容に関連する事柄を調べておく (15分) 復習：配布プリントを見直す (30分)
第13回	町田大輔	集団指導における食育媒体の作成ー対象に応じた効果的な媒体を考える②	グループワークによる集団指導計画と食育媒体作成	予習：授業内容に関連する事柄を調べておく (15分) 復習：配布プリントを見直す (30分)
	町	—	グループワークでまと	予習：授業内容に関連する事柄を調べて

第14回	田 大 輔	集団指導発表会 指導内容と 媒体の評価①	めた内容をクラス全体 で共有する	おく（15分） 復習：配布プリント を見直す（30分）
第15回	町 田 大 輔	集団指導発表会—指導内容と 媒体の評価②	グループワークでまと めた内容をクラス全体 で共有する	予習：授業内容に関 連する事柄を調べて おく（15分） 復習：配布プリント を見直す（30分）

教科書

平成30年度食育白書にそって授業を進めます。食育白書の必要箇所は授業の際配布します。

参考書

適宜紹介する

成績評価の方法・基準

単位認定：50点以上
レポート課題の提出80%、授業への主体的な参加20%

課題等に対する フィードバックの方法

レポート課題は採点后返却するので、配布プリントと合わせて学習の参考にしてください。

履修のポイント

授業には主体的には参加してください。グループワークとプレゼンテーションを中心とした授業になります。

オフィス・アワー

質問や相談には、授業開始前および終了後またはリアクションペーパーにて応じます。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C372

講義コード	30600001
講義名	フードコーディネート論
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	3時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 宮本 雄基	指定なし

授業の概要と教育目標

フードコーディネートとは、食に関する場において、複雑な条件を調整し、それぞれの要求に沿って満足できる状況を演出することである。それは食事の歴史、あるいは食文化といった背景、メニュープランニング、食空間コーディネートや食卓のサービス・マナーといった要因が複雑に関係して総合的に構築されるものである。本講義では、食の本質が「おいしさ」、「楽しさ」、「おもてなし」にあることを学ぶ上で欠かすことのできない、フードコーディネートの基礎知識を習得すると共に、評価する手法についても併せて学習し、理解を深めることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「健康・栄養」に係る現場において多様化する社会のニーズに対し、個人を取り巻く社会的環境やライフステージ、生活習慣等を理解し、総合的に判断した上で、適切なメニュープランニング、食空間の提案等ができるよう「フードスペシャリスト」の基盤となる学修を行うことを目指す。

到達目標

- ・フードコーディネートの基本理念であるおいしさの理論を習得する。
- ・食事の文化、料理様式についての知識を習得し、メニュープランニングの理論を習得する。
- ・食卓及び食空間のコーディネート、サービス、マナーについて基本的な知識を習得する。
- ・フードサービスマネジメントの知識と理論を習得する。
- ・食品の品質について、評価・鑑別をおこなうための手法について習得する。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために 必要な時間
第1回	フードコーディネートの基本理念		予習60分： 教科書 ①(1章) 復習60分： 教科書、

			ノート
第2回	食事の文化	履修者に身の回りの「特別な日(ハレの日)の食事」について発表させることで、身近な食文化等についてより深い理解を促す。	予習60分： 教科書 ①(2章) 復習60分： 教科書、 ノート
第3回	食卓のコーディネート		予習60分： 教科書 ①(3章) 復習60分： 教科書、 ノート
第4回	食卓のサービスとマナー		予習60分： 教科書 ①(4章) 復習60分： 教科書、 ノート
第5回	メニュープランニング		予習60分： 教科書 ①(5章) 復習60分： 教科書、 ノート
第6回	食空間のコーディネート		予習60分： 教科書 ①(6章) 復習60分： 教科書、 ノート"
第7回	フードサービスマネジメント		予習60分： 教科書 ①(7章) 復習60分： 教科書、 ノート
第8回	食企画の実践 コーディネート		予習60分： 教科書 ①(8章) 復習60分： 教科書、 ノート
第9回	講義のまとめI 食品の品質 官能評価I		予習60分： 教科書 ①(1～8章) 教科書 ②(1章) 復習60分： 教科書、 ノート
第10回	官能評価II		予習60分： 教科書 ②(1章)

			復習60分： 教科書、 ノート
第11回	化学的評価 法I		予習60分： 教科書 ②(2章) 復習60分： 教科書、 ノート
第12回	化学的評価 法II		予習60分： 教科書 ②(2章) 復習60分： 教科書、 ノート
第13回	物理的評価 法I		予習60分： 教科書 ②(3章) 復習60分： 教科書、 ノート
第14回	物理的評価 法II		予習60分： 教科書 ②(3章) 復習60分： 教科書、 ノート
第15回	講義のまと めII		予習60分： 教科書 ②(1～3章) 復習60分： 教科書、 ノート

教科書

①三訂 フードコーディネート論(建帛社) ②三訂 食品の官能評価・鑑別演習(建帛社)

参考書

フードスペシャリスト資格認定試験集

成績評価の方法・基準

単位認定：50点以上 定期試験70% 小テスト20% その他課題10%

課題等に対する フィードバックの方法

課題実施後その都度。また、講義のまとめで講評する。

履修のポイント

本教科をより深く理解するには、日々の食事や食に関する情報に興味を持ち、積極的に情報を得る、または蓄積することが重要である。また、講義の内容が次の興味への手がかりとなることもあるので、積極的に授業へ参加すること。

オフィス・アワー

火曜日：12:30～13:20、講義終了後。または、個別に相談のこと。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C353

講義コード	30610001
講義名	フードスペシャリスト論
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	3時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員		
職種	氏名	所属
教員	◎ 井桁 千恵子	指定なし

授業の概要と教育目標

フードスペシャリストの概念、世界及び日本の食、現代日本の食生活、食品産業の役割、品質規格と表示などの食に関する幅広い専門知識について学ぶ。
食に対する総合的・体系的な知識と技術、豊かで安全かつバランスの取れた食を消費者に提案できる力を持つ食の専門職資格の取得を目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

私たちの生活を身近な問題からグローバルなテーマ迄多角的に理解することを目指し、食全般の知識を養う。食に関する基本的な事柄やそれらの相互作用、学修の総合的な理解をして、健康・栄養に関わる現場での実践的活用や問題解決能力を習得できるようにする。

到達目標

フードスペシャリスト資格認定試験（毎年1回、本学科では2年次に実施）の合格および認定資格取得を目指す。食の本質がおいしさ・楽しさ・おもてなしにあることを学び、併せてこれらを支える専門知識（食品学、調理学、官能試験・鑑別論）を幅広く理解できるようにする。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	フードスペシャリストとは フードスペシャリストの概念、業務とその専門性、養成と資格、活躍分野、責務		予習90分（教科書該当ページを読む） 復習90分（講義内容の理解、教科書の学習箇所を読み直す）
	人類と食物 人類の歩みと食物、	食品加工・保存技術についての意見交換、レポート作成	予習90分（教科書該当ページを読む）

第2回	食品加工・保存技術史	食品加工と保存技術について（伝統的・近代的・現代的）意見交換を行い、レポートにまとめて理解を深める	復習90分（講義内容の理解、教科書の学習箇所を読み直す）
第3回	世界の食I 食作法、食の禁忌と忌避		予習90分（教科書該当ページを読む） 復習90分（講義内容の理解、教科書の学習箇所を読み直す）
第4回	世界の食II 世界各地の食事情	世界の地域ごとの食事情についての意見交換、レポート作成 世界の地域（欧州、アジア、中東、北米、中南米、アフリカ、その他）の食の特徴や食事情について意見交換を行い、レポートにまとめて理解を深める。	予習90分（教科書該当ページを読む） 復習90分（講義内容の理解、教科書の学習箇所を読み直す）
第5回	日本の食I 日本の食物史（縄文時代～現代）		予習90分（教科書該当ページを読む） 復習90分（講義内容の理解、教科書の学習箇所を読み直す）
第6回	日本の食II 食の地域差（野菜類、調味料、料理、他）		予習90分（教科書該当ページを読む） 復習90分（講義内容の理解、教科書の学習箇所を読み直す）
第7回	現代日本の食生活I 戦後の食生活の変化、食生活の現状と消費生活、食生活の変遷と食産業	日本の食生活の変遷についての意見交換、レポート作成 戦後日本の食生活に関わる変化現況について意見交換を行い、レポートにまとめて理解を深める。	予習90分（教科書該当ページを読む） 復習90分（講義内容の理解、教科書の学習箇所を読み直す）
第8回	現代日本の食生活II 食糧の供給と食料自給率、環境と食		予習90分（教科書該当ページを読む） 復習90分（講義内容の理解、教科書の学習箇所を読み直す）
第9回	食品産業の役割I フードシステムと食品産業、食品製造業の規模と動向・目的と特徴		予習90分（教科書該当ページを読む） 復習90分（講義内容の理解、教科書の学習箇所を読み直す）
			予習90分（教科

第10回	食品産業の役割II 食品卸売業、食品小売業、外食産業		書該当ページを読む) 復習90分(講義内容の理解、教科書の学習箇所を読み直す)
第11回	食品の品質規格と表示I 食品の品質規格、表示に関わる法律、JAS法による規格、食品表示法による表示		予習90分(教科書該当ページを読む) 復習90分(講義内容の理解、教科書の学習箇所を読み直す)
第12回	食品の品質規格と表示II 健康や栄養に関する表示制度、その他の法律による表示、コーデックス規格		予習90分(教科書該当ページを読む) 復習90分(講義内容の理解、教科書の学習箇所を読み直す)
第13回	食情報と消費者保護I 食情報の発信と受容、食情報の濫用、食品の情報管理		予習90分(教科書該当ページを読む) 復習90分(講義内容の理解、教科書の学習箇所を読み直す)
第14回	食情報と消費者保護II 食品の安全、消費者保護の制度		予習90分(教科書該当ページを読む) 復習90分(講義内容の理解、教科書の学習箇所を読み直す)
第15回	まとめ 授業の振り返りを行い理解を深める 資格認定試験過去問題(抜粋)のテスト		予習90分(教科書該当ページを読む) 復習90分(講義内容の理解、教科書の学習箇所を読み直す)

教科書

4訂フードスペシャリスト論(第6版・建帛社)

参考書

フードスペシャリスト資格認定試験過去問題集(2019年版・建帛社)

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上

筆記試験90%、授業への参加度10%(小テスト、まとめ学習)

課題等に対する

フィードバックの方法

学習内容を深めるため、テーマを決めてレポート作成や意見交換の機会を設ける。

また授業内で学習した内容を返却基に小テストを行い返却および解答解説をするので、ファイル

などに保存をして資格試験に備えるようにしておく。

履修のポイント

学内講座の単位習得をふまえて資格認定試験を行うので、積極的な授業への取り組みをしてほしい。

関連する教科や科目の教科書をよく読み理解をする。食に関する新しい情報について敏感であること。

オフィス・アワー

月・火曜日、12:30～13:20、9号館3階第8研究室

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C310

講義コード	30620001
講義名	基礎ゼミ (井桁)
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 井桁 千恵子	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養士の専門知識を深めるためには、食品・栄養に関する事柄に対して多角的に取り組む意識をもってもらいたいと考える。履修授業で習得する内容をふまえた知識や技術の他に、卒後社会に関わる栄養士として必要になる心構え等を理解し、これからの栄養士業務に生かしていける学習内容にしたい。

卒業認定・学位授与の方針との関連

食品・栄養に関する情報に興味を持ちその内容について幅広く研究学習を行うことで、食品・栄養に関して基本的な事柄とそれら相互作用について理解する。
健康・栄養に係わる卒後の現場での実践的な活用と、問題解決能力を修得する。

到達目標

身近な問題から多角的なテーマまでを幅広く研究し、栄養士として実践を重視したあらゆる現場の分野で活動できる人材像を目指す。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	基礎ゼミの概要説明、計画の立て方		予習30分 (研究の希望計画) 復習60分 (テーマ決定の準備・検索)
第2回	各自研究テーマを決める内容・工程の連絡、次回の準備	各研究テーマに対する意見交換を行う食に関する事柄から内容を広げていき、各自が興味や関心を持ったものをテーマにまとめ、意見交換をして決めていく	予習30分 (研究テーマの計画) 復習60分 (演習の準備)
	テーマ別に内		予習30分 (次回演習の準備)

第3回	内容実施、資料の検索		復習60分（演習内容の確認チェック）
第4回	テーマ別に内容実施、資料の検索		予習30分（次回演習の準備） 復習60分（演習内容の確認チェック）
第5回	テーマ別に内容実施、資料の検索		予習30分（次回演習の準備） 復習60分（演習内容の確認チェック、課題レポートの準備）
第6回	テーマ別に内容実施、資料の検索 【課題】中間報告のレポート提出		予習30分（課題レポートの準備） 復習60分（演習内容の確認チェック）
第7回	経過報告の発表（検討会）	各研究の進捗状況を発表 意見交換および情報の提示を行う 前回提出し添削された中間報告レポートをもとに、今後の方針（実験や実習形態を伴う場合はその計画案）を再考・立案する	予習30分（中間発表の準備） 復習60分（発表後の内容検討、まとめに向けた準備計画）
第8回	テーマの再検討 期末まとめに向けた準備		予習30分（検討内容の確認） 復習60分（次回演習の準備）
第9回	テーマ別に内容実施、資料の検索		予習30分（次回演習の準備） 復習60分（演習内容の確認チェック）
第10回	テーマ別に内容実施、資料の検索		予習30分（次回演習の準備） 復習60分（演習内容の確認チェック）
第11回	テーマ別に内容実施、資料の検索		予習30分（次回演習の準備） 復習60分（演習内容の確認チェック）
第12回	テーマ別に内容実施、資料の検索		予習30分（次回演習の準備） 復習60分（演習内容の確認チェック）
第13回	テーマ別に内容実施 期末まとめの作成		予習30分（次回演習の準備） 復習60分（期末まとめの作成内容チェック）
第14回	期末まとめの作成 【課題】期末まとめの提出		予習30分（期末まとめの確認） 復習60分（提出内容の確認、経過発表の準備）
		各研究まとめ状況を発表 意見交換および情報	

第15回	基礎ゼミのまとめ（各自経過発表） 提出レポートのチェック（後期に向けて）	報の提示を行う 前回提出の期末まとめを全員で可視化（パワーポイント若しくは書面）した状態で状況報告を行う。 ゼミ全体で発表ができる機会を得られる際はその方針を出して計画案を検討する（大学祭研究発表）	予習30分（経過発表の準備） 復習60分（発表後の確認、後期に向けての準備）
------	---	---	---

教科書

特になし

参考書

研究テーマに応じて図書等の検索を行う。

成績評価の方法・基準

単位認定50点以上。
発表内容70%、提出物30%。

課題等に対する
フィードバックの方法

基礎ゼミでは年間通して研究するテーマの骨組みを作る作業を主とする。
提出課題（中間および期末まとめの提出）は添削コメントを添えて返却するので、今後の授業と研究方針立案の参考にすること。

履修のポイント

食についての意識を広く持って、積極的に学習してほしい。年間通しての研究結果をまとめるので、日頃からの情報収集や記録（パソコン技能）の技術を身につけること。

オフィス・アワー

月・火曜日、12:30～13:20、9号館3階第8研究室。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-R354

講義コード	30620002
講義名	基礎ゼミ (橋本)
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員		
職種	氏名	所属
教員	◎ 橋本 まさ子	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養士を目指す人は食に関して必要な知識について興味を持って欲しい。そのために本授業では、食生活・食文化の内容に趣を置きそれぞれの興味のある分野について研究する。また、基礎ゼミでの研究を通して、栄養士として必要な知識、技能、態度、心構えなどを学ぶために行うことを目標にし、社会における食品・栄養の実際を観察し、また体験し、さらに経験や体験を積むことにより、栄養士の必要性についての理解を深め、これからの栄養士業務に生かしていけるような内容のゼミとし、社会で活躍できる学生の育成が目標である。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーの関連として、生活を身近な問題としてとらえて幅広い観点から食に関する情報に興味を持ってもらえるような内容について学習・研究することにより、栄養士としてのスキルを身につけることをめざす。

到達目標

これから必要とされる栄養士になるためには、どのような内容を知らなければならないのかを判断できるようになることが到達目標である。

授業計画			
	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	授業の進め方、概要の説明、計画		事前準備(研究題材等を収集する)に90分
第2回	内容、工程の連絡、次回の準備	研究テーマについて意見交換	次回の準備として120分以上、復習に90分以上
第3回	テーマ別に実施 資料の収集等 テーマについては、個人共同は学生に選ばせる		次回の準備として120分以上、復習に90分以上
	テーマ別に実施 資料		

第4回	の収集等 個別指導の実施		次回の準備として120分以上、復習に90分以上
第5回	テーマ別に実施 資料 の収集等 個別指導の実施		次回の準備として120分以上、復習に90分以上
第6回	テーマ別に実施 資料 の収集等 個別指導の実施		次回の準備として120分以上、復習に90分以上
第7回	各内容別に発表、内容 検討 審査	それぞれの内容について、意見 交換をし、次回の発表の参考に する	次回の準備として180分以上、復習に90分以上
第8回	発表後 テーマの検討 まとめ準備	情報交換を実施する。	次回の準備として120分以上、復習に90分以上
第9回	テーマ別に実施 まと め準備		次回の準備として120分以上、復習に90分以上
第10回	テーマ別に実施 まと め準備		次回の準備として180分以上、復習に90分以上
第11回	テーマ別に実施 まと め準備。		次回の準備として180分以上、復習に90分以上
第12回	テーマ別に実施。		次回の準備として180分以上、復習に90分以上
第13回	テーマ別に実施、製作 準備。		製次回の準備とし て180分以上、復習 に90分以上
第14回	実技（製作）。		次回の準備として180分以上、復習に90分以上
第15回	基礎ゼミのまとめレ ポートにする。	発表後意見交換	事前準備に180分以上予 習が必要である。

教科書

必要に応じて資料配布

参考書

テーマに応じて紹介する

成績評価の方法・基準

単位認定 50点以上 発表内容70%、提出原稿30%

課題等に対する フィードバックの方法

ゼミで研究したもの及び作成したものは、学園祭等で発表する。その後各自に返す。

履修のポイント

積極的な学習方法を望む、食品について感心を持ってもぞむこと

オフィス・アワー

月曜日12:30~13:20 (昼休み) 授業終了後、随時 9号館2階第5研究室

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-R354

講義コード	30620003
講義名	基礎ゼミ (中島)
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	医薬品メーカーや食品関連企業に管理栄養士として勤務した経験を活かし、栄養や食品・調理についての基礎知識について解説する。
学年	2学年

担当教員		
職種	氏名	所属
教員	◎ 中島 君恵	指定なし

授業の概要と教育目標

調理をいう視点から食教育について考え、文献等の資料から 発表 → ディスカッション という流れの中でゼミを進めていく。環境、咀嚼、災害をテーマにエコクッキング、カムカム(噛む噛む)クッキング、ポリクッキングについても実習を含め学習する。また、大豆製品を利用したレシピコンテストに参加する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、「健康・栄養」に係る食を中心に生活を科学的に理解を深めることを目指し、「調理」「調理科学」の理解を通してその目的達成に資する知識を養う。そして将来的展望としては多様化する食生活に対応する食事を設計する基盤となる学修を行うことを目指すものとする。

到達目標

- ・調理を通じて「健康・栄養」に係る食を中心に生活を科学的に理解を深める。
- ・エコクッキング、カムカム(噛む噛む)クッキング、ポリクッキングについて学習することで調理の多様性を理解する。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	中島君恵	授業概要について		予習30分：環境、咀嚼、災害に関する新記事の収集。復習30分：配布資料を見直す。
第2回	中島	私たちの食生活と環境のかかわり	履修者に調理と環境について意見交換を行い、テーマについて理解するきっかけを作る。また私たちの食生活とと環境について解説して理解	予習30分：配布した文献及び資料を読む。復

	君恵	について文献等を読む。	を深め、再度エコクッキングについて意見交換する。	予習30分：配布資料を見直す。
第3回	中島君恵	私たちの食生活と環境のかかわりについてまとめる。		予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第4回	中島君恵	私たちの食生活と環境のかかわりについてまとめる。		予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第5回	中島君恵	私たちの食生活と環境のかかわりについてまとめる。		予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第6回	中島君恵	咀嚼と調理について、文献等を読む。	履修者に調理と咀嚼について意見交換を行い、テーマについて理解するきっかけを作る。また私たちの食生活と環境について解説して理解を深め、再度カムカムクッキングについて意見交換する。	予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第7回	中島君恵	咀嚼と調理についてまとめる。		予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第8回	中島君恵	咀嚼と調理についてまとめる。		予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第9回	中島君恵	咀嚼と調理についてまとめる。		予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第10回	中島君恵	災害と調理について、文献等を読む。	履修者に調理と環境、調理と咀嚼、調理と災害について意見交換をさせて、環境問題について理解するきっかけを作る。また私たちの食生活と環境について解説して理解を深め、再度ポリクッキングについて意見交換する。	予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第11回	中島君恵	咀嚼と調理についてまとめる。		予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第12回	中島君恵	咀嚼と調理についてまとめる。		予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。

第13回	中島君恵	咀嚼と調理についてまとめ。		予習 分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第14回	中島君恵	エコクッキング、カムカムクッキング、ポリクッキング		予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第15回	中島君恵	まとめ		予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。

教科書

教科書は使用せず、プリントを配布する予定

参考書

環境がわかる絵本

成績評価の方法・基準

単位認定：50点以上 レポート80% プレゼンテーション（発表）20%

課題等に対する
フィードバックの方法

提出されたレポートは返却しない。全般に対する講評と重要項目についての解説を記述したプリントを配布するので、活用すること。

履修のポイント

食と環境の視点を持ち、配布テキストやプリント等の講義資料の熟読を復習として勧めます。

オフィス・アワー

木曜日、12：30～13：20(昼休み)、9号館3階第7研究室
※講義授業前後にも、適宜受けます。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-R354

講義コード	30620004
講義名	基礎ゼミ (橋爪)
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋爪 博幸	指定なし

授業の概要と教育目標

四季折々の食材を実際に手にしたり、調理したり、ときには栽培してみたりして「旬」の味を学ぶ。季節ごとの野菜や果物を使い、昔ながらの保存食や乾物づくりを行う。春から夏にかけて各種の果物や野菜を使い保存食を作る。同時に、簡単な野菜栽培にもチャレンジする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

季節ごとに収穫できたり、収穫されたりする食材を知り、自分で調べた活用方法等をゼミノートにまとめて提出する。生活科学科のディプロマポリシーとの関連について、「食品」「栄養」に関する基礎的な知識を習得し、「健康」「栄養」「食」に関係する現場で実践的に活用し、問題解決できる能力を養う。

到達目標

春から夏にかけて旬を迎えるさまざまな食材を知り、その活用法を実践的に身につける。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブ ラーニング の内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	橋爪博幸	植物や花を育てる際の基本的な手順を学ぶ。終了後、学習内容と作業内容を、レポートにまとめて提出する(以下同じ)。		復習としてゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる(180分)。
第2回	橋爪博幸	春夏野菜のひとつインゲンやチャイルドリーフの栽培方法、調理方法をしらべ、まとめる。		予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書きとる(90分)。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる(90分)。
	橋			予習として事前配布したプリントから大事なところをノー

第3回	爪博幸	キュウリ、ナス、バジルなど夏野菜の育て方、調理活用方法を調べ、まとめる。		トに書きとる（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。
第4回	橋爪博幸	夏野菜の代表格であるトマト、ピーマンの育て方、多様な調理方法を調べてまとめる。	トマトやピーマンの栽培方法を調べ、それらの苗を受けつける。	予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書きとる（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。
第5回	橋爪博幸	トマト、キュウリ等のつる植物について支柱への誘引、摘心などの栽培方法を知る。この時期に旬を迎えるソラマメについて収穫方法、調理方法を学ぶ	キュウリの栽培方法を調べ、じっさいに苗を植えつける。	予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書きとる（45分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（45分）。
第6回	橋爪博幸	タケノコを活用した炒め物や保存食づくりを学ぶ。		予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書きとる（45分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（45分）。
第7回	橋爪博幸	小梅の塩漬け、そして「梅ジャム」など梅を活用した保存食づくりの方法を学ぶ。		予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書きとる（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。
第8回	橋爪博幸	甘酢漬けラッキョウ、新ショウガの甘酢漬けなど香味野菜を使った保存食づくりを学ぶ。		予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書きとる（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。
第9回	橋爪博幸	ニンニクや玉ねぎなど、この時期に収穫期を迎えるユリ科植物の活用事例を学ぶ。	玉ねぎやニンニクの収穫作業とそれらの活用方法を図書館で調べる。	予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書きとる（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。
第10回	橋爪博幸	キュウリのピクルスまど、キュウリを使った保存食にはどのようなものがあるかを調べる。		予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書きとる（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。
第11回	橋爪博幸	6月から7月に収穫されるサンショウの実の活用方法を学ぶ。ちりめんサンショウなど、サンショウの実を使ったピリリとしたさわやかなお惣菜の作り方を調べる。		予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書きとる（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。
				予習として事前配布したプリ

第12回	橋爪博幸	夏野菜をふんだんに使った保存食を知る。		ントから大事なところをノートに書きとる（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。
第13回	橋爪博幸	バジルの活用事例を学ぶ。		予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書きとる（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。
第14回	橋爪博幸	トマトの栽培方法を振り返り、トマトソースなど保存食づくりの方法を学ぶ。	トマトを使った調理実習を行う。	予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書きとる（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。
第15回	橋爪博幸	前期に触れた野菜や果物について振り返り、調理方法を一覧表にまとめる。全員で前期の作業内容を振り返る。秋以降に収穫される野菜にはどのようなものがあるか調査する。	ゼミノートを各自で完成させ、提出する。	復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（180分）。

教科書

ゼミの授業のなかで適宜、プリントを配布する。

参考書

『家仕事ごよみ』（地球丸、2012年）

成績評価の方法・基準

単位認定 50 点以上 授業レポート（50%）、授業への取り組み（50%）をもとに評価する。

課題等に対する フィードバックの方法

ゼミの実施後にノートを回収し、こちらでコメントや補足説明を書いて戻す。

履修のポイント

休まず出席すること。さまざまな食材について、新聞等で授業に関係する記事を探し読んでおく。適宜、ゼミノートに追記していくことを勧める。

オフィス・アワー

水曜日の昼休みをオフィス・アワーとする。9号館3階の第10研究室に来ること。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-R354

講義コード	30620005
講義名	基礎ゼミ (石井)
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員		
職種	氏名	所属
教員	◎ 石井 広二	指定なし

授業の概要と教育目標

基礎ゼミでは、栄養士として研究を進めていくうえで必要なリサーチリテラシーについて、課題発見や情報の収集・整理、読解そして分析について、学習しながら、実際に各自でテーマを探して進めていけるようになることを目標とする。
 テーマとしては、主にインターネット上にある、食に関わる情報を中心に設定するが、それ以外でも各自の興味に応じて可能な範囲で対応をしていく。例えば、インターネット上の食に関わる情報にはどのようなものがあるか調べ、文献を収集し、同時にそれらの分析を行うには、どのような手法があるか検討していく。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のDP「家庭生活に対して、大きな影響を与える社会のさまざまな現象を科学的に理解するため、衣食住に関する基本的なことから学修し、さらにそれを取り巻く社会的環境について科学的に学修」に関連し、食と情報をテーマに学習する。

到達目標

リサーチリテラシーについて理解し、各自でテーマを設定して、情報の収集・整理が行える。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	ガイダンス		予習30分：普段インターネットで利用している食の情報について調べる 復習30分：資料の見直し
第2回	課題の発見 (1)		予習30分：資料を読む 復習30分：資料の見直し
第3回	課題の発見 (2)	前回の内容をもとに、各自でインターネットなどを活用して調べ、大まかな課題を設定する	予習30分：資料を読む 復習30分：資料の見直し
	情報の収集		予習30分：資料を読む

第4回	(1)		復習30分：資料の見直し
第5回	情報の収集 (2)	インターネットや図書館などを利用して情報を収集する	予習30分：資料を読む 復習30分：資料の見直し
第6回	情報の整理 (1)		予習30分：資料を読む 復習30分：資料の見直し
第7回	情報の整理 (2)	収集した情報を、PC上で整理し管理する	予習30分：資料を読む 復習30分：資料の見直し
第8回	情報の整理 (3)	収集した情報を、PC上で整理し管理する	予習30分：資料を読む 復習30分：資料の見直し
第9回	読解 (1)		予習30分：資料を読む 復習30分：資料の見直し
第10回	読解 (2)		予習30分：資料を読む 復習30分：資料の見直し
第11回	データ分析 (1)		予習30分：資料を読む 復習30分：資料の見直し
第12回	データ分析 (2)		予習30分：資料を読む 復習30分：資料の見直し
第13回	研究計画書の 作成 (1)	今までの内容をもとに、各自で研究計画書を作成する	予習30分：資料を読む 復習30分：資料の見直し
第14回	研究計画書の 作成 (2)	今までの内容をもとに、各自で研究計画書を作成する	予習30分：資料を読む 復習30分：資料の見直し
第15回	研究計画書の 発表と基礎ゼミのまとめ	それぞれの研究計画書を発表し、討議する	予習30分：資料を読む 復習30分：資料の見直し

教科書

特になし

参考書

「アカデミック・スキルズ」（佐藤望編著）慶應義塾大学出版会
「大学生のためのリサーチリテラシー入門」（山田剛史・林創著）ミネルヴァ書房
他、適宜紹介する

成績評価の方法・基準

単位認定：50点以上（レポート：60%、発表：30%、討議：10%）

課題等に対する フィードバックの方法

授業中にコメントする

履修のポイント

各自で進められるテーマを設定することが大切です。

オフィス・アワー

火曜日昼休み。それ以外の曜日・時間については、授業の際に伝える。また、研究室は9号館3階第11研究室。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-R354

講義コード	30620006
講義名	基礎ゼミ (宮本)
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 宮本 雄基	指定なし

授業の概要と教育目標

「食は常に安心・安全なものでなければならない」これをテーマにゼミを行います。そこで、基礎ゼミでは食品衛生の観点から、過去に起きた食中毒事件に学び、その後どのような対策がなされているのかについて調べ、理解を深めます。食品衛生にかかわる知識を学び、予防と対処について理解することを目標とします。

卒業認定・学位授与の方針との関連

食品衛生(特に過去の事例)を学ぶことは、「人間のからだ」と「食品」に関する相互作用についても併せて理解を深めることとなる。また、広範に渡り影響を与えた事例となると生活を取り巻く社会的環境についても理解することになる。そして、解決に向けたプロセスなどを学習することで、その学びが現場で実践的に活用され、問題を解決できる能力となる。

到達目標

過去の食中毒等の食に関する事例に学び、その後行われた法整備等について理解する。また、それらの背景を深く理解することで、自身がそのような場面に遭遇した際の対処方法を検討できるスキルを身につけることを到達目標とする。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	宮本雄基	授業の進め方と概要の説明、計画作成		予習：30分 復習：30分
第2回	宮本雄基	導入講義 テーマの設定及び意見交換(個人またはチーム)	設定したテーマについて、理由等を意見交換する。	予習：30分 復習：30分
第3回	宮本雄基	情報収集 個別指導		予習：60分 復習：60分
第4回	宮本雄基	情報収集 個別指導		予習：60分 復習：60分

第5回	宮本雄基	情報収集 個別指導		予習：60分 復習：60分
第6回	宮本雄基	プレゼンテーション準備		予習：60分 復習：60分
第7回	宮本雄基	プレゼンテーション準備		予習：60分 復習：60分
第8回	宮本雄基	プレゼンテーション1	互いの発表について意見交換を行う。	予習：60分 復習：60分
第9回	宮本雄基	プレゼンテーション2	互いの発表について意見交換を行う。	予習：60分 復習：60分
第10回	宮本雄基	中間まとめ テーマの検討		予習：60分 復習：60分
第11回	宮本雄基	情報収集 個別指導		予習：60分 復習：60分
第12回	宮本雄基	情報収集 個別指導		予習：60分 復習：60分
第13回	宮本雄基	情報収集 個別指導		予習：60分 復習：60分
第14回	宮本雄基	プレゼンテーション3	互いの発表について意見交換を行う。	予習：60分 復習：60分
第15回	宮本雄基	基礎ゼミのまとめ 衛生試験法について講義		予習：60分

教科書

教科書は指定せず、必要に応じて印刷物を配布予定

参考書

食品衛生学 田崎達明ほか 羊土社
その他必要に応じて連絡する

成績評価の方法・基準

プレゼンテーション：20%、レポート：80%で評価する。単位認定は50%以上とする。

課題等に対する フィードバックの方法

課題実施後その都度。また、全体でのディスカッションの場を通して、教員を含め相互に講評ができる環境としたい。

履修のポイント

食を学修する者として、基本となることを学びます。好奇心をもち、主体的に取り組むことを望みます。

オフィス・アワー

火曜日：12:30～13:20、講義終了後。または、個別に相談のこと。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-R354

講義コード	30630001
講義名	専門ゼミ (井桁)
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	1 時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員		
職種	氏名	所属
教員	◎ 井桁 千恵子	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養士の専門知識を深めるためには、食品・栄養に関する事柄に対して多角的に取り組む意識をもってもらいたいと考える。履修授業で習得する内容をふまえた知識や技術の他に、卒後社会に関わる栄養士として必要になる心構え等を理解し、これからの栄養士業務に生かしていける学習内容にしたい。

卒業認定・学位授与の方針との関連

食品・栄養に関する情報に興味を持ちその内容について幅広く研究学習を行うことで、食品・栄養に関して基本的な事柄とそれら相互作用について理解する。
健康・栄養に係わる卒後の現場での実践的な活用と、問題解決能力を修得する。

到達目標

身近な問題から多角的なテーマまで幅広く研究し、栄養士として実践を重視したあらゆる現場の分野で活動できる人材像を目指す。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	専門ゼミの概要説明、計画の立て方	研究発表（大学祭）の希望計画・構成の意見情報交換を行う 基礎ゼミ最終回にて検討・計画立案した内容（大学祭研究発表）を検討し、詳細立案の形にしていく	予習30分（基礎ゼミの実施内容確認） 復習60分（次回演習の準備）
第2回	テーマ別に内容実施、資料の検索		予習30分（次回演習の準備） 復習60分（演習内容の確認チェック）
第3回	テーマ別に内容実施、		予習30分（次回演習の準備） 復習60分（演習内容の

	資料の検索		確認チェック)
第4回	テーマ別に 内容実施、 資料の検索		予習30分 (次回演習の 準備) 復習60分 (演習内容の 確認チェック)
第5回	テーマ別に 内容実施、 資料の検索		予習30分 (次回演習の 準備) 復習60分 (演習内容の 確認チェック)
第6回	テーマ別に 内容実施、 資料の検索 【課題】中 間報告のレ ポート提出		予習30分 (次回演習の 準備) 復習60分 (演習内容の 確認チェック、課題レ ポートの準備)
第7回	経過報告の 発表 (検討 会)	各研究の進捗状況を発表 意見交換および情 報の提示を行う 前回提出添削を受けた報告レポートを元に 完成形 (論文の形式に則った文章) を構成 できるようにする 併せてパワーポイントを使用した発表会の 予告も行う	予習30分 (中間発表の 準備) 復習60分 (発表後の内 容検討、まとめに向け た準備計画)
第8回	検討会後の 内容確認 期末まとめ に向けた準 備		予習30分 (検討内容の 確認) 復習60分 (次回演習の 準備)
第9回	テーマ別に 内容実施、 資料の検索		予習30分 (次回演習の 準備) 復習60分 (演習内容の 確認チェック)
第10回	テーマ別に 内容実施、 資料の検索		予習30分 (次回演習の 準備) 復習60分 (演習内容の 確認チェック)
第11回	テーマ別に 内容実施、 資料の検索		予習30分 (次回演習の 準備) 復習60分 (演習内容の 確認チェック)
第12回	テーマ別に 内容実施、 資料の検索 まとめ冊子 の作成		予習30分 (次回演習の 準備) 復習60分 (演習内容の 確認チェック)
第13回	テーマ別に 内容実施、 資料の検索 まとめ冊子 の作成		予習30分 (次回演習の 準備) 復習60分 (演習内容の 確認チェック)
第14回	【課題】ま とめ冊子の 作成・提出 発表会の準		予習30分 (提出冊子の 確認) 復習60分 (発表会の準

	備		備)
第15回	報告会 専門ゼミの まとめ	各研究の報告発表 質疑応答および意見交換 を行う パワーポイントを使用した報告会（時間設 定を課した口頭発表、質疑応答）を行い、 1年間のゼミ全体活動を振り返る	予習30分（発表内容の 確認） 復習60分（年間通して のゼミ研究結果記録を 整理まとめ）

教科書

特になし

参考書

研究テーマに応じて図書等の検索を行う。

成績評価の方法・基準

単位認定50点以上。
発表内容70%、提出物30%。

課題等に対する フィードバックの方法

基礎ゼミで決めた研究テーマの骨組みを基に、専門ゼミでは実践（大学祭での発表）を目指す。
また最終報告として各自の内容をテーマ別に発表し講評を行う。
提出課題（中間およびまとめの提出）は添削コメントを添えて返却するので、授業学習のまとめ
の参照にすること。

履修のポイント

食についての意識を広く持って、積極的に学習してほしい。年間通しての研究結果をまとめるの
で、日頃からの情報収集や記録（パソコン技能）の技術を身につけること。

オフィス・アワー

月・火曜日、12:30~13:20、9号館3階第8研究室。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-R374

講義コード	30630002
講義名	専門ゼミ (橋本)
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	1 時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋本 まさ子	指定なし

授業の概要と教育目標

基礎ゼミでは、食に関する事柄（食生活・食文化等）について、研究・体験することにより知識を深め、社会における食品・栄養について経験や体験さらには観察等を実施した。専門ゼミでは、継続を実施し、さらに内容については深める学習を行い、これからの食の専門家として社会で活躍できる学生の育成が目標である。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーに関連として、生活を取り巻く環境について科学的に理解できるよ基礎ゼミで研究したことをさらに深めて研究し、栄養士としての知識を身につけて、資格取得をする。

到達目標

これから必要となる栄養士になるためには、どのような内容を知らなければならないのかを考えられるように、常に食情報には関心を持った学習内容とする。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	概要の説明、計画 基礎ゼミのテーマを引き継ぐ	基礎ゼミの内容について振り返り、意見交換をする。	事前準備のために各90分以上
第2回	テーマ別の実施 資料の収集等 今後の取り組みについて個別指導		事前準備のために60分以上、復習に120分以上
第3回	テーマ別の実施 資料の収集等		事前準備のために60分以上、復習に120分以上
第4回	テーマ別の実施 資料の収集等		事前準備のために60分以上、復習に120分以上

第5回	テーマ別の実施 資料の収集等	学園祭に向けてテーマを決めるための意見交換をする。	事前準備のために60分以上、復習に120分以上
第6回	各内容別に発表、内容検討 審査 学園祭で発表するものの準備（共同作業）		事前準備のために60分以上、復習に120分以上
第7回	発表：学園祭に発表するものについて 情報共有する		事前準備のために60分以上、復習に120分以上
第8回	発表後 テーマの検討 まとめ準備		事前準備のために60分以上、復習に120分以上
第9回	テーマ別の実施 まとめ準備		事前準備のために60分以上、復習に120分以上
第10回	テーマ別の実施 まとめ準備		事前準備のために60分以上、復習に120分以上
第11回	テーマ別の実施 まとめ準備		事前準備のために60分以上、復習に120分以上
第12回	テーマ別の実施 まとめ準備		事前準備のために60分以上、復習に120分以上
第13回	まとめ		事事前準備のために60分以上、復習に120分以上
第14回	冊子にまとめる	報告会への準備のための意見交換会	事前準備のために120分以上、復習に120分以上
第15回	報告会		事前準備のために180分以上

教科書

各テーマ別に使用する

参考書

テーマ別に準備する

成績評価の方法・基準

単位認定 50点以上 発表内容40%、提出原稿60%

課題等に対する
フィードバックの方法

実施しない

履修のポイント

積極的な学習方法を望む、食品について感心を持つてのぞむこと、まとめをしっかりとすること

オフィス・アワー

月曜日12：30～13：20（お昼休み）または授業終了後、随時 9号館2階 第5研究室

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-R374

講義コード	30630003
講義名	専門ゼミ (中島)
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	1時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	医薬品メーカーや食品関連企業に管理栄養士として勤務した経験を活かし、栄養や食品・調理についての基礎知識について解説する。
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中島 君恵	指定なし

授業の概要と教育目標

基礎ゼミで学習した環境、咀嚼、災害をテーマにエコクッキング、カムカム(噛む噛む)クッキング、ポリクッキングについてさらに学習を進める。文献等の資料収集から、発表 → ディスカッション という流れの中で理解を深め、ゼミを進めていく。またテーマを設定して実習を行う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、「健康・栄養」に係る食を中心に生活を科学的に理解を深めることを目指し、「調理」の理解を通してその目的達成に資する知識を養う。そして将来的展望としては多様化する食生活に対応する食事を設計する基盤となる学修を行うことを目指すものとする。

到達目標

- ・「健康・栄養」に係る調理を中心にした生活を科学的に理解を深める。
- ・エコクッキング、カムカム(噛む噛む)クッキング、ポリクッキング料理を考案する。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	中島君恵	授業概要についてエコクッキング、カムカムクッキング、ポリクッキングについて		予習30分：環境、咀嚼、災害に関する新聞記事を収集する。復習30分：配布資料を見直す。
	中島	エコクッキング、カムカムクッキング	履修者にエコクッキング、カムカムクッキング、ポリクッキングを実施しての意見交換をさせてまとめ、理解を深める。咀嚼の効果に	予習30分：配布した文献及び資料を読む

第2回	君恵	グ、ポリクッキングについて	ついて意見交換をさせ、咀嚼について理解するきっかけを作る。また咀嚼と脳の発達について解説して理解を深め、再度咀嚼について意見交換する。	む。復習30分：配布資料を見直す。
第3回	中島君恵	エコクッキング、カムカムクッキング、ポリクッキング(実習I)		予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第4回	中島君恵	エコクッキング、カムカムクッキング、ポリクッキング(実習I)		予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第5回	中島君恵	エコクッキング、カムカムクッキング、ポリクッキング 実習Iまとめ		予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第6回	中島君恵	エコクッキング、カムカムクッキング、ポリクッキング 実習まとめ		予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第7回	中島君恵	エコクッキング、カムカムクッキング、ポリクッキングの中からテーマを選び、パワーポイントを用いてまとめる。		予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第8回	中島君恵	エコクッキング、カムカムクッキング、ポリクッキングの中からテーマを選び、パワーポイントを用いてまとめる。		予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第9回	中島君恵	エコクッキング、カムカムクッキング、ポリクッキングの中からテーマを選び、パワーポイントを用いてまとめる。		予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
		エコクッキング、		予習30分：配

第10回	中島君恵	カムカムクッキング、ポリクッキングの中からテーマを選び、パワーポイントを用いてまとめる。		布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第11回	中島君恵	エコクッキング、カムカムクッキング、ポリクッキングの中からテーマを選び、パワーポイントを用いてまとめる。		予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第12回	中島君恵	エコクッキング、カムカムクッキング、ポリクッキングの中からテーマを選び、パワーポイントを用いてまとめる。		予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第13回	中島君恵	エコクッキング、カムカムクッキング、ポリクッキング(実習II)		予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第14回	中島君恵	エコクッキング、カムカムクッキング、ポリクッキング(実習II)	履修者にエコクッキング、カムカムクッキング、ポリクッキングを実施しての意見交換及びまとめを行い、理解を深める。	予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第15回	中島君恵	まとめ		予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。

教科書

教科書は使用せず、プリントを配布する予定

参考書

脳を豊かにする「食脳学」

成績評価の方法・基準

単位認定：50点以上 レポート80% プレゼンテーション（発表）20%

課題等に対する フィードバックの方法

提出されたレポートは返却しない。全般に対する講評と重要項目についての解説を記述したプリントを配布するので、活用すること。

履修のポイント

食と健康の視点を持ち、配布テキストやプリント等の講義資料の熟読を復習として勧めます。

オフィス・アワー

木曜日、12：30～13：20(昼休み)、9号館3階第7研究室
※講義授業前後にも、適宜受けます。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-R374

講義コード	30630004
講義名	専門ゼミ (橋爪)
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	1 時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員		
職種	氏名	所属
教員	◎ 橋爪 博幸	指定なし

授業の概要と教育目標

前期の基礎ゼミに引き続いて、季節ごとの食材をテーマに、実践を交えて活用方法を学ぶ。また専門ゼミでは各自でテーマを決めて、10枚のレポートを仕上げ、提出する。後期のゼミでは、秋から冬にかけて収穫時期を迎える野菜や果物を使い、保存食や乾物、漬物づくりを行う。四季折々の食材を手にし、調理し、ときには栽培して「旬」を学び、一年間の自然食材のサイクルを追う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

秋から冬にかけて実りの時期を迎える野菜や果物といった食材の利用方法を知る。どのようなものが実り、いかに加工できるかを知る。それらの食材をじっさいに味わい、一年間にわたる食材の収穫サイクルを知り、卒業後も季節ごとの食材をタイムリーに活用できるようにする。生活科学科のディプロマポリシーとの関連について、「食品」「栄養」に関する基礎的な知識を習得し、「健康」「栄養」「食」に係る現場で実践的に活用し、問題解決できる能力を養う。

到達目標

専門ゼミでみていく食材について知識を深め、またそれらの活用方法を実践活動を通じて身につける。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	橋爪博幸	後期の専門ゼミの予定を確認する。秋野菜にはどのようなものがあるかを調べる。	秋野菜の種まきを行う。栽培の注意点をコンピュータ演習室などでしらべゼミノートにまとめる。レポート課題を各自で設定し、調査を開始する。	復習としてゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる(180分)。
				自己学習として10枚

第2回	橋爪博幸	白菜、キャベツの栽培方法、調理方法について調べる。		レポートの一部を作成する(90分)。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる(90分)。
第3回	橋爪博幸	ブロッコリー、カリフラワーの生育方法、調理方法を調べる。	秋野菜の栽培方法についてコンピュータ室などで調べる。	自己学習として10枚レポートの一部を作成する(90分)。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる(90分)。
第4回	橋爪博幸	大根の種類や、そのさまざまな加工用途を調べ、まとめ発表する。		自己学習として10枚レポートの一部を作成する(90分)。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる(90分)。
第5回	橋爪博幸	秋の味覚のひとつ栗の活用方法を知る。栗の甘煮の作り方を学ぶ。		自己学習として10枚レポートの一部を作成する(90分)。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる(90分)。
第6回	橋爪博幸	秋から冬にかけての晴天の天日を利用してできる乾物の保存食に適した食材を調べる。干しイモ、干し大根の作り方を調べる。		自己学習として10枚レポートの一部を作成する(90分)。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる(90分)。
第7回	橋爪博幸	たくあん漬け、ダイコンのゆず漬けなど、漬物の仕込み方法を学ぶ。		自己学習として10枚レポートの一部を作成する(90分)。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる(90分)。
第8回	橋爪博幸	キウイのジャム、リンゴのコンポートやジャムなど、秋冬に収穫された果物の活用方法を知る。		自己学習として10枚レポートの一部を作成する(90分)。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる(90分)。
第9回	橋爪博幸	秋に収穫時期を迎える、ラッカセイを使ったレシピを調べる。	落花生の収穫作業を行い、落花生の活用方法を調べる。	自己学習として10枚レポートの一部を作成する(90分)。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる(90分)。

第10回	橋爪博幸	秋冬に収穫されるサツマイモなど、イモ類を使ったレシピを調べ、まとめる。	サツマイモの収穫作業を行い、貯蔵の方法について図書館やコンピュータ演習室で調べる。	自己学習として10枚レポートの一部を作成する(90分)。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる(90分)。
第11回	橋爪博幸	白菜づけ、白菜キムチなど、白菜を使った保存食にはどのようなものがあるかを調べる。		自己学習として10枚レポートの一部を作成する(90分)。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる(90分)。
第12回	橋爪博幸	ショウガを活用した保存食にどのようなものがあるかを調べ、まとめる。		自己学習として10枚レポートの一部を作成する(90分)。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる(90分)。
第13回	橋爪博幸	冬野菜の代表格であるホウレンソウの活用事例を学ぶ。	ホウレンソウを収穫し、調理実習で活用する。	自己学習として10枚レポートの一部を作成する(90分)。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる(90分)。
第14回	橋爪博幸	多くの野菜を活用した福神漬の作り方を調べる。		自己学習として10枚レポートの一部を作成する(90分)。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる(90分)。
第15回	橋爪博幸	これまでの一年間にわたって学んできた保存食から学んだことを振り返り、一枚の用紙にまとめる。＜アクティブラーニング＞調査したレポートを各自でまとめて発表する。	ゼミノート、およびレポートを完成させ、提出する。	復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる(180分)。

教科書

随時、プリントを配布する。

参考書

『家仕事ごよみ』(地球丸、2012年)、『秋・冬の野菜(旬の食材)』(講談社、2004年)など。

成績評価の方法・基準

単位認定 50点以上 ノートやレポート(50%)、授業への取り組み(50%)をもとに評価する。

課題等に対する フィードバックの方法

ゼミの実施後にノートを回収し、こちらでコメントや補足説明を書いて戻す。後期の専門ゼミでは、各自で調査テーマを決めてA4用紙10枚のレポートを作成する。授業時間だけでは足りない場合は、専門ゼミ以外の時間でも、調査レポートの作成にとりくむこと。レポートはこちらでコメントを書き入れ、返却する。

履修のポイント

専門ゼミの最終回に、調査レポート（A4用紙10枚）を提出すること。休まず出席すること。

オフィス・アワー

水曜日の昼休みをオフィス・アワーとする。9号館3階の第10研究室に来ること。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-R374

講義コード	30630005
講義名	専門ゼミ (石井)
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	1 時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員		
職種	氏名	所属
教員	◎ 石井 広二	指定なし

授業の概要と教育目標

専門ゼミでは、基礎ゼミで取り組んできた基礎的な内容と、そこで設定したテーマについて、各自で研究を進める。そして研究の内容をまとめて発表し、討議をしながら、最終的なレポートとしてまとめ上げる。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のDP「家庭生活に対して、大きな影響を与える社会のさまざまな現象を科学的に理解するため、衣食住に関する基本的なことからを学修し、さらにそれを取り巻く社会的環境について科学的に学修」に関連し、食と情報をテーマに学習する。

到達目標

リサーチリテラシーについて理解し、各自のテーマに従って研究を進めることができる。研究の内容をレポートとしてまとめることができる。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	ガイダンス 専門ゼミの進め方		予習30分：基礎ゼミの復習 復習30分：資料の見直しと振り返り
第2回	研究データの収集 (1)	各自に必要なデータを収集する	予習30分：収集するデータを確認する 復習30分：課題点を確認する
第3回	研究データの収集 (2)	各自に必要なデータを収集する	予習30分：収集するデータを確認する 復習30分：課題点を確認する
第4回	研究データの収集 (3)	各自に必要なデータを収集する	予習30分：収集するデータを確認する 復習30分：課題点を確認する
	研究データの分析	収集したデータの分	予習30分：収集したデータの分析方

第5回	(1)	析をする	法を確認する 復習30分：課題点を確認する
第6回	研究データの分析 (2)	収集したデータの分析をする	予習30分：収集したデータの分析方法を確認する 復習30分：課題点を確認する
第7回	研究データの分析 (3) 中間まとめの資料作成	収集したデータの分析をする	予習30分：収集したデータの分析方法を確認する 復習30分：課題点を確認する
第8回	中間まとめの発表		予習30分：ここまでの内容をまとめる 復習30分：課題点を確認する
第9回	研究レポートの作成 (1)		予習30分：今までの資料を確認する 復習30分：課題点を確認する
第10回	研究レポートの作成 (2)	各自でレポートの作成を進める	予習30分：前回までの内容を確認する 復習30分：課題点を確認する
第11回	研究レポートの作成 (3)	各自でレポートの作成を進める	予習30分：前回までの内容を確認する 復習30分：課題点を確認する
第12回	研究レポートの作成 (4)	各自でレポートの作成を進める	予習30分：前回までの内容を確認する 復習30分：課題点を確認する
第13回	研究レポートの発表準備 (1)	発表用資料を作成する	予習30分：レポートとしてまとめた内容を確認する 復習30分：課題点を確認する
第14回	研究レポートの発表準備 (2)	発表用資料を作成する	予習30分：前回までの内容を確認する 復習30分：課題点を確認する
第15回	研究の発表とまとめ		予習30分：まとめた資料を確認する 復習30分：全体を通して振り返りをおこなう

教科書

特になし

参考書

「アカデミック・スキルズ」(佐藤望編著) 慶應義塾大学出版会
「大学生のためのリサーチリテラシー入門」(山田剛史・林創著) ミネルヴァ書房
他、適宜紹介する

成績評価の方法・基準

単位認定：50点以上 (レポート：60%、発表：30%、討議：10%)

課題等に対する フィードバックの方法

授業中にコメントする

履修のポイント

最終的に形にすることが重要です

オフィス・アワー

火曜日昼休み。それ以外の曜日・時間については、授業の際に伝える。また、研究室は9号館3階第11研究室。

科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-R374

講義コード	30630006
講義名	専門ゼミ (宮本)
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	1 時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員		
職種	氏名	所属
教員	◎ 宮本 雄基	指定なし

授業の概要と教育目標

「食は常に安心・安全なものでなければならない」これをテーマにゼミを行います。そこで、専門ゼミでは、基礎ゼミで学んだ過去の事例及びその後の対策などから各個人が興味を持ったテーマについて、衛生試験手法を実験的に学びを深め、食品衛生にかかわる知識について一層理解を深めることを目標とします。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「人間のからだ」と「食品」に関する相互作用について、専門ゼミでは実験等を含めて理解を深めていただきます。そして、実験を通して物質または微生物等について学習し、その学びが危害防止という意味で実践的に活用される知識・能力となります。

到達目標

実験を通して、食品衛生に関与する事象を深く理解してもらいます。そして、食品衛生に関する予防的視点を身につけることを到達目標とします。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	宮本雄基	授業の進め方と概要の説明、計画作成		予習：60分 復習：60分
第2回	宮本雄基	導入講義 テーマの設定及び意見交換(個人またはチーム)	設定したテーマについて、理由等を意見交換する。	予習：60分 復習：60分
第3回	宮本雄基	情報収集 個別指導		予習：60分 復習：60分
第4回	宮本雄基	実験研究 個別指導		予習：60分 復習：60分
第5回	宮本	実験研究		予習：60分

	雄基	個別指導		復習：60分
第6回	宮本雄基	実験研究 個別指導		予習：60分 復習：60分
第7回	宮本雄基	実験研究 個別指導		予習：60分 復習：60分
第8回	宮本雄基	実験研究 個別指導		予習：60分 復習：60分
第9回	宮本雄基	中間報告会	互いの状況を報告し、意見交換を行う。	予習：60分 復習：60分
第10回	宮本雄基	実験研究 個別指導		予習：60分 復習：60分
第11回	宮本雄基	実験研究 個別指導		予習：60分 復習：60分
第12回	宮本雄基	プレゼンテーション準備 資料作成		予習：60分 復習：60分
第13回	宮本雄基	プレゼンテーション準備 資料作成		予習：60分 復習：60分
第14回	宮本雄基	研究報告会	互いの発表について、意見交換を行う。	予習：60分 復習：60分
第15回	宮本雄基	専門ゼミのまとめ 今後必要となる食品衛生に関する基礎事項の講義		予習：60分 復習：60分

教科書

教科書は指定せず、必要に応じて印刷物を配布予定

参考書

食品衛生学 田崎達明ほか 羊土社
その他必要に応じて連絡する

成績評価の方法・基準

プレゼンテーション：20%、レポート：80%で評価する。単位認定は50%以上とする。

課題等に対する フィードバックの方法

課題実施後その都度。また、全体でのディスカッションの場を通して、教員を含め相互に講評ができる環境としたい。

履修のポイント

食を学修する者として、基本となることを学びます。好奇心をもち、主体的に取り組むことを望みます。

オフィス・アワー

火曜日：12:30～13:20、講義終了後。または、個別に相談のこと。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-R374

講義コード	30640001
講義名	オフィスワーク
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	通年
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	4時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 松原 直樹	指定なし

授業の概要と教育目標

オフィスワークでは、職場での勤務の実際を学習する。この講座では、主に企業経営・実務に関する業務の知識について、また現実の日常業務に関する基礎知識および技術について、学習する。原則として、一般企業におけるオフィスワークを想定しているが、あらゆる職場に通用する知識・技術について、数多く学習する予定である。また、医療現場で働く人にとって、最低限のマナー・知識について習得できるような学習も行っていく。
本講座により、社会人として職場で働くために必要な共通の最低限度の知識を修得し、また医療現場の事務職として働くために必要不可欠な知識を修得する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

家庭生活に対して大きな影響のある社会のさまざまな現象、及びそれを取り巻く社会的環境について科学的に学修することを目的とする。

到達目標

1. 職場において共通する基本的知識および職場における最低限のマナーを理解する。
2. 文書のまとめ方、言葉づかいの基礎について学習する。
3. 医療秘書資格取得に必要な知識を修得する。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	授業の方針・方法の説明をした後、ビジネスにおける心構え、また医療現場で働く人の心構えを学習する。講義終了時にチェックテストを実施する。		予習90分：シラバスを読み、授業計画について把握する。 復習90分：ハンドアウトに記載してある内容を読んで、復習する。
			予習90分：ハンドアウト

第2回	ビジネスの現場での言葉づかいや医療現場での言葉づかいについて、具体的に学習する。講義終了時にチェックテストを実施する。		第2回を読む。 復習90分：ハンドアウト第2回に記載して内容を読んで、復習する。返却されたチェックテストについて、誤りを復習する。
第3回	ビジネスマナーとして、訪問時のマナー、会社内で執務する際のマナーについて学習する。講義終了時にチェックテストを実施する。		予習90分：ハンドアウト第3回を読む。 復習90分：ハンドアウト第3回に記載してある内容を読んで、復習する。返却されたチェックテストについて、誤りを復習する。
第4回	ビジネスマナーとして、電話のかけ方や受け方、電話での話し方、会社の窓口での来客応対方法、話し方・聞き方を学習する。講義終了時にチェックテストを実施する。		予習90分：ハンドアウト第4回を読む。 復習90分：ハンドアウト第4回に記載してある内容を読んで、復習する。返却されたチェックテストについて、誤りを復習する。
第5回	仕事において、必要とされるスケジュール管理、出張、ファイリング、情報管理、慶弔などについてのビジネス実務の知識を学習する。講義終了時にチェックテストを実施する。		予習90分：ハンドアウト第5回を読む。 復習90分：ハンドアウト第5回に記載してある内容を読んで、復習する。返却されたチェックテストについて、誤りを復習する。
第6回	労働環境として、給与・報酬・手当などがどのような体系となっているのか、また給与から差し引かれる税金・社会保険について、学習する。講義終了時にチェックテストを実施する。		予習90分：ハンドアウト第6回を読む。 復習90分：ハンドアウト第6回に記載してある内容を読んで、復習する。返却されたチェックテストについて、誤りを復習する。
第7回	労働者保護のしくみとして、法令で定められている具体的内容、会社による福利厚生具体例について学習する。また、主な労使間の具体的なトラブルについて、学習する。講義終了時にチェックテストを実施する。	調べてきた労使間の具体的なトラブルを発表する。	予習120分：ハンドアウト第9回を読む。労使間の具体的なトラブルを調査しておく。 復習60分：ハンドアウト第9回に記載してある内容を読んで、復習する。返却されたチェックテストについて、誤りを復習する。
第8回	ビジネスの現場で使われる文書の様式について学習し、ビジネス文書はどのようにまとめたらいいいのかについて、学習する。ここで学習した知識・技術を使って、ビジネス文書を作ってみる演習を行う。		予習90分：ハンドアウト第8回を読む。 復習90分：ハンドアウト第8回に記載してある内容を読んで、復習する。返却されたチェックテストについて、誤りを復習する。
第9回	作成されたビジネス文書例を検討する。まとめのテスト(40分)を実施する。	前回作成したビジネス文書例を発表	予習90分：ハンドアウト第9回を読む。 復習90分：ハンドアウト第9回に記載してある内容を読んで、復習する。返却

		する。	されたチェックテストについて、誤りを復習する。
第10回	医療秘書実務に関するルールを学習する。		予習90分：事前に配布された課題をやってくる。 復習90分：返却されたまとめのテストについて、誤りを復習する。第10回の授業で行った課題の解説を参考にして、誤りを復習する。
第11回	まとめのテストの解答の提示および解説を行う。 医療秘書実務問題演習(1)医療及び医療保険等に関わる法令に関する問題演習を行う。		予習120分：事前に配布された課題をやってくる。 復習60分：第11回の授業で行った課題の解説を参考にして、誤っていた部分を復習する。
第12回	医療秘書実務問題演習(2)医療保険等に関わる法令に関する問題演習を行う。		予習120分：事前に配布された課題をやってくる。 復習60分：第12回の授業で行った課題の解説を参考にして、誤っていた部分を復習する。
第13回	医療秘書実務問題演習(3)診療報酬請求に関する実務について問題演習を行う。		予習120分：事前に配布された課題をやってくる。 復習60分：第13回の授業で行った課題の解説を参考にして、誤っていた部分を復習する。
第14回	医療秘書実務問題演習(4)診療報酬請求に関する実務について問題演習を行う。		予習120分：事前に配布された課題をやってくる。 復習60分：第14回の授業で行った課題の解説を参考にして、誤っていた部分を復習する。
第15回	医療秘書実務問題演習(5)診療報酬請求に関する実務について引き続き問題演習を行う。 医療秘書実務において、重要な部分を復習する。		予習120分：事前に配布された課題をやってくる。 復習60分：第15回の行った課題の解説を参考にして、誤っていた部分を復習する。

教科書

医療秘書関係科目の教科書(『メディカルシステム論』『診療報酬請求の実務』『医科診療報酬点数表』、等)

参考書

武田秀子・他『秘書・オフィス実務』(早稲田教育出版)

成績評価の方法・基準

平常点(授業への参加度・学習態度・等) [15%]、チェックテスト・課題等 [35%]、まとめのテスト(第9回) [30%]、医療秘書実務理解度 [20%] を総合して評価。総合点50点以上で単位認定する。

課題等に対する

フィードバックの方法

授業時間でチェックテスト等を実施し、授業終了時に提出してもらったものについては、原則として次回授業で採点済答案を返却して、チェックテスト等の解説を行う。まとめのテストについては、第11回に答案を返却し、解答の提示と解説を行う。

履修のポイント

医療管理秘書士、医事管理士等の医療事務関係資格取得希望者は、単位修得する必要がある。

オフィス・アワー

月・水・金曜日, 11時～15時（授業時間以外）, 11号館3階研究室11

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C152

講義コード	30650001
講義名	医療経営学
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	医療機関の医事課で9年の実務経験があり、実際の医療機関の話を織り交ぜながら必要な知識を伝える。
学年	1学年

担当教員		
職種	氏名	所属
教員	◎ 尾崎 好子	指定なし

授業の概要と教育目標
 医療機関を訪れる患者様に、安心・信頼・満足を感じて頂くための必要な専門知識を学び、医療秘書としてふさわしい教養、接遇対応を身につけ、医療機関での仕事について理解できる。

卒業認定・学位授与の方針との関連
 私たちの生活を身近な問題からグローバルなテーマまで多角的に理解することを目指し、社会で実践的に活用できる人材を育成するための科目である。

到達目標
 ・患者様や患者様の家族と接するので不安等を解消する質問や疑問にも適切に答えられるようになる。
 ・診療報酬だけでなく医療関係法規や医療用語など幅広い専門的な知識と医療の方向性を理解できる。

授業計画			
	担当者	授業内容と方法、課題	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	尾崎好子	医療と社会	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第2回	尾崎好子	近代の病院の社会的機能	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第3回	尾崎好子	病院組織と経営	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第4回	尾崎好子	医療を支える職種	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。

第5回	尾崎好子	医療の場の特殊性	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第6回	尾崎好子	医療はサービス業	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第7回	尾崎好子	医療関連法規 ①医療法	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第8回	尾崎好子	医療関連法規 ②医師法	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第9回	尾崎好子	医療関連法規 ③薬剤師法	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第10回	尾崎好子	医療関連法規 ④医療保険制度	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第11回	尾崎好子	医療関連法規 ⑤二重指定制度	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第12回	尾崎好子	保健・医療・福祉の連携	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第13回	尾崎好子	医療と情報	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第14回	尾崎好子	まとめ（1）	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第15回	尾崎好子	まとめ（2）	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。

教科書

『医学一般』一般社団法人医療教育協会
『メディカルシステム論』一般社団法人医療教育協会

参考書

特に指定しない。

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上
授業への取り組み姿勢（20%）
課題・レポート・提出物（20%）
定期試験（60%）

課題等に対する フィードバックの方法

提出された課題および質問に対しては個別に対応し、授業時に全体に向け回答・説明する。

履修のポイント

遅刻をせず、忘れに気を付け、真剣に課題に取り組むこと。
医療管理秘書士資格取得に必要な科目です。

オフィス・アワー

集中講義期間内の授業開始前もしくは終了後に教室等で質問に応じます。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C131

講義コード	30660001
講義名	社会福祉論
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	4時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	社会福祉士として福祉施設に勤務し、主に高齢者支援にあたる。その経験を本講義の学習内容に活かしていく。
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 服部 弘	指定なし

授業の概要と教育目標

本講義では、わが国における社会福祉の理念、制度やそのしくみについて基本的な理解をする。さらには、現代における社会的な背景や暮らし方の変化などについての学習を通じて、食の暮らしをサポートする専門職が社会福祉分野でどのような役割があるかを理解し、そのために必要な実務などを検討し学んでいく。
食を支える専門職としての視点をもって、社会福祉のしくみやそのあり方について学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、社会福祉という側面から、生活科学の基礎となる衣食住に関する基本的なことからについて、さらに生活を取り巻く社会的環境について、科学的に理解することを目指すものとする。

到達目標

1. 社会福祉の理念やその成り立ちについて説明できる。
2. 社会福祉における制度等を学び、その根拠を説明できる。
3. 現代における社会福祉と食についての関係や今後のあり方について説明できる。
4. 社会福祉分野での職種間連携の重要性と社会福祉専門職との連携について説明できる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	服部弘	ガイダンス・生活を支える「食」と「社会福祉」・社会福祉の意味と対象 ～授業の進め方、栄養士が社会福祉を学ぶ意義と目的、社会福祉とは誰のためにあるか～	予習90分：教科書を読む 復習90分：配付資料を見直す
第2回	服部弘	私たちの生活と社会保障① ～生活を支える社会保障の体系と社会保険～	予習90分：教科書を読む 復習90分：配付資料を見直す

第3回	服部弘	私たちの生活と社会保障② ～生活を支える社会保障の体系と社会保険～	予習90分：教科書を読む 復習90分：配付資料を見直す
第4回	服部弘	公的扶助 ～最低限度の生活保障～	予習90分：教科書を読む 復習90分：配付資料を見直す
第5回	服部弘	高齢者の福祉① ～高齢者の生活と介護～	予習90分：教科書を読む 復習90分：配付資料を見直す
第6回	服部弘	高齢者の福祉② ～高齢者の生活と介護～	予習90分：教科書を読む 復習90分：配付資料を見直す
第7回	服部弘	児童家庭福祉① ～子どもと子育て家庭の生活～	予習90分：教科書を読む 復習90分：配付資料を見直す
第8回	服部弘	児童家庭福祉② ～子どもと子育て家庭の生活～	予習90分：教科書を読む 復習90分：配付資料を見直す
第9回	服部弘	障害者の福祉① ～地域でみんなとともに暮らすために～	予習90分：教科書を読む 復習90分：配付資料を見直す
第10回	服部弘	障害者の福祉② ～地域でみんなとともに暮らすために～	予習90分：教科書を読む 復習90分：配付資料を見直す
第11回	服部弘	地域福祉① ～地域で安心して暮らし続けるために～	予習90分：教科書を読む 復習90分：配付資料を見直す
第12回	服部弘	地域福祉② ～地域で安心して暮らし続けるために～	予習90分：教科書を読む 復習90分：配付資料を見直す
第13回	服部弘	社会福祉基礎構造改革と権利擁護 ～利用者本位の社会福祉の構築～	予習90分：教科書を読む 復習90分：配付資料を見直す
第14回	服部弘	社会福祉における援助の方法・社会福祉実践の場と専門職 ～専門的援助の実践体系としてのソーシャルワーク、社会福祉の実施機関・施設、社会福祉の専門資格と専門職種～	予習90分：教科書を読む 復習90分：配付資料を見直す
第15回	服部弘	これまでの講義まとめ ～栄養士として必要とされる社会福祉の基礎知識～	予習90分：教科書を読む 復習90分：配付資料を見直す

教科書
岩松珠美・三谷嘉明編 「六訂 栄養士・管理栄養士をめざす人の社会福祉」 株式会社みらい
参考書
適宜紹介をする。
成績評価の方法・基準
単位認定60点以上 筆記試験100% ※授業態度を加味する。
課題等に対する フィードバックの方法
授業のおさらいを実施するので、配布資料等を参考にし、理解に役立てること。
履修のポイント
授業への積極的な取り組みを期待します。
オフィス・アワー
講義終了前後などに、適宜受け付けます。
科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-C114

講義コード	30670001
講義名	家庭の医学
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	4時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	保健師（13年）、養護教諭（32年）として勤務した経験を活かし、実学実践の授業を展開します。
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 高橋 美砂子	指定なし
教員	黒岩 初美	指定なし

授業の概要と教育目標

日常生活において自分自身や周りの人々がかかりやすい病気やケガについて基本的な知識を学び、その対応方法について理解することは、私たちが健康で安心して生活するために必要なことである。こんな時はどうしたらよいのか、どんな医療行動をとったらよいのか、アクティブ・ラーニングを取り入れ、その時の状況を考え、自ら実践できる能力を養う。自らの健康を守るためのセルフケア力を高めるとともに援助を必要としている対象に適切な支援ができる知識と技術の習得を目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマポリシーである、人間の生活と健康に関する基本的な近いと応用、実践に関連し、生活に密着した医学的知識の修得を目指す。

到達目標

1. かかりやすい病気とその症状、治療方法について理解できる
2. 自分自身の身体と健康について理解できる
3. 病気やけがの初期対応について基本的技術を修得する
4. 人間の発達段階と健康との関連について理解できる
5. 身近に接する対象としての小児、高齢者の健康支援について理解できる

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な 時間
第1回	高橋美砂	授業ガイダンス ・健康な生活とは ・現在社会の中で、医療	[グループディスカッション] ①健康な生活とはなにか ②現在社会の中で、どんな人が	予習：90分 本授業で学びたい ことを明確にする 復習：90分 グループディス カッション（以下

	子	を必要としている人とは	医療を必要としているか	GDと記す) したことを振り返り、ノートにまとめる。
第2回	高橋美砂子	高齢者の発達と健康① 認知症とは 認知症の対応方法	〔グループディスカッション〕 認知症サポーターとしての心得について話し合う	予習：90分 前回の授業内容を振り返り替える 復習：90分 本日の学修したことをノートにまとめる 予習：90分
第3回	高橋美砂子	高齢者の発達と健康② マヒのある方の支援方法 車いす、杖の使い方 自身の身体と健康について 肥満・痩せ、飲酒・喫煙等の健康問題について フードファティズムと食生活について	〔実技〕 車いすの基本、移動方法	予習：90分 前回の授業内容を振り返り替える 復習：90分 本日の学修したことをノートにまとめる 予習：90分
第4回	高橋美砂子	日常生活での健康管理② 薬の種類と飲み方、保存の仕方 受診の方法：専門医と医療機関 心の健康について 現代人の主な精神疾患について ストレス対処法、睡眠リズムとメンタルケアについて	〔グループディスカッション〕 病気になったと時にどんな医療行動をとるか、話し合う	予習：90分 前回の授業内容を振り返り替える 復習：90分 本日の学修したことをノートにまとめる
第5回	高橋美砂子	日常生活での健康管理② 女性の健康と特有の疾患、セルフケアとは まとめ【最終授業評価】 感染症の予防と対応について	〔グループディスカッション〕 自分の身体をどの程度知っているのか、話し合う。 この授業で学んだこと。	予習：90分 前回の授業内容を振り返り替える 復習：90分 本日の学修したことをノートにまとめる
第6回	黒岩初美	人間の発達と健康について 発育発達の特徴と課題(子ども期を中心に)について 受講生自身のライフステージについて 病気やけがの初期対応について	〔グループディスカッション〕 自身のライフステージについて考え、発表し合い、各々の生き方を理解する	予習：90分 事前に配布した資料を読む 復習：90分 本日の学修したことをノートにまとめる
第7回	黒岩初美	感染症の種類について 感染症の予防：感染源・感性経路・宿主の感受性の3要素について サーベイランスシステム、予防接種、吐物処理について	〔アクティブラーニング〕 サーベイランスシステムを検索し、現在の感染症発生動向／感染症関連情報等感染症の実態について調べる。その結果を基に感染予防について理解する	予習：90分 事前に配布した資料を読む 復習：90分 本日の学修したことをノートにまとめる
		病気やけがの初期対応について		予習：90分 事前

第8回	黒岩初美	救急法：手当の基本、AEDを用いた心肺蘇生法、気道内異物除去についての理論と実技、主な病気やけがの初期対応について	〔ロールプレイングを用いた実技〕 グループで互いに傷病者・救助者・協力者の役割を交代で演じながら実技を学ぶ	に配布した資料を読む 復習：90分 実技を練習し身に付ける
第9回	黒岩初美	病気やけがの初期対応について 救急法：手当の基本、AEDを用いた心肺蘇生法、気道内異物除去についての理論と実技、主な病気やけがの初期対応について	〔ロールプレイングを用いた実技〕 グループで互いに傷病者・救助者・協力者の役割を交代で演じながら実技を学ぶ	予習：90分 事前に配布した資料を読む 復習：90分 実技を練習し身に付ける
第10回	黒岩初美	子どもの病気やけがの応急手当について 子供に起こりやすい事故とその予防についての理論と実技 止血法、応用包帯、嘔吐物処理の実技	〔ロールプレイングを用いた実技〕 グループで互いに傷病者・救助者・協力者の役割を交代で演じながら実技を学ぶ	予習：90分 事前に配布した資料を読む 復習：90分 実技を練習し身に付ける
第11回	黒岩初美	子どもの病気やけがの応急手当について 子供に起こりやすい事故とその予防についての理論と実技 止血法、応用包帯、嘔吐物処理の実技	〔ロールプレイングを用いた実技〕 グループで互いに傷病者・救助者・協力者の役割を交代で演じながら実技を学ぶ	予習：90分 事前に配布した資料を読む 復習：90分 実技を練習し身に付ける
第12回	黒岩初美	身体の健康について 肥満・痩せ、飲酒・喫煙等の健康問題について 食生活について	〔体験学習とグループディスカッション〕 BMI算出、フードファティズムQ & A、エタノール・パッチテストを実施した後、健康問題とその対応についてGDを行う	予習：90分 事前に配布した資料を読む 復習：90分 本日で学修したことをノートにまとめる
第13回	黒岩初美	心の健康について ストレス、睡眠リズムとメンタルケアについて 現代人の主な精神疾患について	〔体験学習とグループディスカッション〕 簡易ストレスチェック法を実施した後、社会人として巣立つ直前の受講生各自のメンタルケアについてGDを行う	予習：90分 事前に配布した資料を読む 復習：90分 本日で学修したことをノートにまとめる
第14回	高橋美砂子	自他の健康を守るための健康生活について 自身が考える現代人の健康課題と対応策について	〔体験学習とグループディスカッション〕 個人課題をまとめる⇒集団討議⇒意見集約の順に検討した後、まとめて発表する	予習：90分 事前に配布した資料を読む 予習：90分 これまで学修したことを資料やノートを用いてまとめる

第15回	黒岩初美 自他の健康を守るための健康生活について 自身が考える現代人の健康課題と対応策について	〔体験学習とグループディスカッション〕 個人課題をまとめる⇒集団討議 ⇒意見集約の順に検討した後、まとめて発表する	予習：90分 これまでの資料やノートを用いて振り返る
------	---	---	----------------------------

教科書

日赤救急法テキスト（授業時に頒布する）
授業毎に必要な資料を配布します。

参考書

授業の中で、必要時紹介します。

成績評価の方法・基準

単位認定50点以上を合格する
ミニテスト...40% レポート2回60% (30%×2)

課題等に対する フィードバックの方法

毎回の授業時に書き込みをしたノートを提出後、コメントして返却します。

履修のポイント

講義科目ですが実技も多く取り入れますので、欠席しないでください。
グループワークをしますので、メンバーとの協力が大切です。

オフィス・アワー

授業日に対応する。（黒岩）
研究室在室時に対応しますが会議等で不在もありますので、事前メールをしていただけるとよいです。 takahashi-mi@kiryu-u.ac.jp 研究室 10号館（看護棟）2階（高橋）

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C153

講義コード	30680001
講義名	医療保険実務
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	3
代表曜日	
代表時限	
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	医療機関の医事課で9年の実務経験があり、実際の医療機関の話を織り交ぜながら必要な知識を伝える。
学年	2学年

担当教員		
職種	氏名	所属
教員	◎ 尾崎 好子	指定なし

授業の概要と教育目標
 医師が診療中に記録した診療録（カルテ）を読むための基本的な医学の知識を身につけ、医師が行った診療行為を料金化するための算定方法を修得する。

卒業認定・学位授与の方針との関連
 私たちの生活を身近な問題からグローバルなテーマまで多角的に理解することを目指し、社会で実践的に活用できる人材を育成するための科目である。

到達目標
 診療録（カルテ）より治療内容を読み取り、診療報酬明細書を作成できる。

授業計画			
	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	ガイダンス		予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第2回	医療保険制度		予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第3回	初診料 再診料		予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
			予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料

第4回	入院料		を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第5回	投薬料		予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第6回	注射料	注射料の算定ルール。	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第7回	レセプト作成 及びレポート 提出		予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第8回	処置料		予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第9回	検査料		予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第10回	手術料 麻酔料		予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第11回	画像診断料		予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第12回	リハビリテー ション料 精神科専門療 法料 放射線治療料 病理診断料		予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第13回	レセプト作成 およびレポート 提出		予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第14回	レセプト作成 およびレポート 提出		予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第15回	まとめ		予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。

教科書

『診療報酬請求の実務診療報酬請求演習』（一般社団法人 医療教育協会発行）
『医科診療報酬点数表』（一般社団法人 医療教育協会発行）

参考書
特に指定しない。
成績評価の方法・基準
単位認定50点以上 授業への取り組み姿勢（20%） 課題・レポート・提出物（20%） 定期試験（60%）
課題等に対する フィードバックの方法
提出された課題および質問に対しては個別に対応し、授業時に全体に向け回答・説明する。
履修のポイント
遅刻をせず、忘れに気を付け、真剣に課題に取り組むこと。 医療管理秘書士資格取得に必要な科目です。
オフィス・アワー
集中講義期間内の授業開始前もしくは終了後に教室等で質問に応じます。
科目区分
医療事務科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-C550

講義コード	30690001
講義名	教師論（共通）
(副題)	【教職必修（共通）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	5時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	学校現場での教員経験を活かし、教師という仕事の魅力を伝えるとともに学校をめぐるさまざまな問題を解決できる「教師」としての資質・能力を身に付けられる授業を展開する。
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 簗輪 欣房	指定なし

授業の概要と教育目標

教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容（研修、サービス及び身分保障を含む）について理解するとともにこれからの教師に求められる役割とそれに応えるために必要な資質・能力の具体を述べたり、主要な教育法規の規定に基づいて教員としての職務遂行上に生じる諸問題への対応を述べたり、教職を目指すための進路の具体を説明したりすることができるようになる。「教育は人なり」という言葉が示すように、教育の成否は教師にかかっているといても過言ではない。教職は児童生徒の人格形成に深く関わる仕事であるから、その責務をしっかりと果たす必要がある。

本授業の教育目標は、

1. 教職の意義及び教員の役割について理解し、具体的な実践場面における教員の在り方を述べるようになる。
2. 教員の職務内容を理解し、その根拠となる教育法規等を具体的に説明することができる。
3. 進路選択に資する各種機会の情報を得て、自らの進路を構想することができる。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科の基礎となる衣食住、さらに生活を取り巻く社会的環境を視野に入れながら学修し、教師として、社会人としての資質・能力を養う。

到達目標

本授業の到達目標は、

1. 教職の意義及び教員の役割について理解し、具体的な実践場面における教員の在り方を述べるることができる。
2. 教員の職務内容を理解し、その根拠となる教育法規等を具体的に説明することができる。
3. 進路選択に資する各種機会の情報を得て、自らの進路を構想することができる。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
			予習90分：教師という職業について各自が考

第1回	教職に就くということ	教師という職業について各自の考えを 発表する	えてくる。 復習90分：配付資料を 見直し、内容の理解を 深める。
第2回	学校教育の意義	学校で行われている教育について各自 の経験を元に考えを発表する。	予習90分：この回の テーマについてあらか じ め調べ、内容の概要を 把握する。 復習90分：配付資料を 見直し、内容の理解を 深める。
第3回	教師の魅力	教師の魅力とは何か各自が今まで出 会った教師から考えて発表をする。	予習90分：この回の テーマについてあらか じ め調べ、内容の概要を 把握する。 復習90分：配付資料を 見直し、内容の理解を 深める。
第4回	教師をめぐる現 状と課題	教師という仕事はブラックだと言われ たりすることもあることから教師の現 状について考える。	予習90分：この回の テーマについてあらか じ め調べ、内容の概要を 把握する。 復習90分：配付資料を 見直し、内容の理解を 深める。
第5回	教師の地位と育 成システム	教師は他の職業と違い子ども達に与え る影響も大きくその立場の保証、育成 について考えを発表する。	予習90分：この回の テーマについてあらか じ め調べ、内容の概要を 把握する。 復習90分：配付資料を 見直し、内容の理解を 深める。
第6回	保護者・地域と の連携と教師の 役割	学校は地域や保護者との連携が何故必 要なのかを考える。	予習90分：この回の テーマについてあらか じ め調べ、内容の概要を 把握する。 復習90分：配付資料を 見直し、内容の理解を 深める。
第7回	教員の身分と服 務及び倫理と校 務分掌	教師には研修の義務が課されている事 の意義と含む上の倫理について考え る。	予習90分：この回の テーマについてあらか じ め調べ、内容の概要を 把握する。 復習90分：配付資料を 見直し、内容の理解を 深める。
			予習90分：この回の テーマについてあらか じ

第8回	子どもの権利条約と教師の使命・人権教育	教育において子どもの毛管理はどのように扱われているのか、保証すべきかについて各自の意見を発表する。	め調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：配付資料を見直し、内容の理解を深める。
第9回	教師のライフワークバランスとメンタルバランス	教師の働き方改革が進められようとしていることと教師の生活について考える。	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：配付資料を見直し、内容の理解を深める。
第10回	カリキュラムを創る、授業をデザインする	教師が行う授業とその根拠となるカリキュラムについて考える。	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：配付資料を見直し、内容の理解を深める。
第11回	放課後における子どもの教育活動との連携	放課後の児童クラブ、寺子屋といわれる放課後の子どもの育成活動との連携について考える。	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：配付資料を見直し、内容の理解を深める。
第12回	生徒理解とチーム学校について	生徒を理解するとはどういうことか各自の今までの学校生活を踏まえて意見を発表する。	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：配付資料を見直し、内容の理解を深める。
第13回	新しい時代における教師の役割と責務	Society5.0という時代を迎えるに当たって教師の役割の変化について考える。	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：配付資料を見直し、内容の理解を深める。
第14回	教師としての発達とその支援	子どもの発達を促す教師も日々成長していかなければ成らないということについて考える。	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：配付資料を見直し、内容の理解を深める。
		授業で学んだことは何か、教師とは何	復習90分：配付資料を

第15回	授業の振り返り	かについて各自の考えを発表する。	見直し、授業内容の理解を深め、まとめる。
教科書			
池田修 著 『新版 教師になるということ』 (学陽書房、2013年)			
参考書			
講義中に適宜紹介する。			
成績評価の方法・基準			
単位認定60点以上 定期試験 50%、授業への取り組み姿勢 (リフレクション、口頭発表等) 20% レポート30%			
課題等に対する フィードバックの方法			
講義中に適宜行う。			
履修のポイント			
教職の意義、教員の役割とその職務内容、チーム学校等にポイントをおき、学修を進める。			
科目区分			
教職科目			
当該授業科目の教育課程内での位置づけ			
CM-C430			

講義コード	30700002
講義名	教育原論・教育課程論（家庭）
(副題)	【教職必修（家庭）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	5時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	学校現場での教員経験、とりわけ教務主任としての経験を活かし、学校の教育活動や教育課程が果たす役割についての知識を深めていく授業を展開する。
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 簗輪 欣房	指定なし

授業の概要と教育目標

本授業では、教育課程・カリキュラムの意義と類型を理解した上で、基準となる学習指導要領の改訂の流れとその位置づけ、学習指導要領の構成、特徴と現代的課題について考察するとともに①わが国の教育を成り立たせている思想や制度について、歴史的な展開も踏まえて学ぶことで、教育について学問的知識に裏打ちされた議論を行う基礎を築くと共に、②学生同士の意見交換や議論を行うことによって、教育に関する各人の考えを深めていくことを目指す。教育に関しては、自らの被教育経験などを通じて、ある一定の考えをすでに持っている人も多いと考えられるが、教育学の知見や他者の意見に学ぶことで、そうした考え方を批判的に問いつつ、教育を論ずる上での土台を構築することを目指す。授業では毎回のテーマに関わる様々な問いについて考えながら、教育の理念や歴史・思想についての理解を深めていく。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科の基礎となる衣食住、さらに生活を取り巻く社会的環境を視野に入れながら学修し、教師として、社会人としての資質・能力を養う。

到達目標

- 1)教育の基本的な概念や教育を成り立たせる諸要素とそれらの相互関係を理解する
- 2)教育の歴史や思想に関する基本的な知識を身につける
- 3)自らの教育観（教育とはどのようなもので、どうあるべきかについての考え）を述べることができる

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	教育観を考える～自身の受けてきた教育について振り返りを通して～	今までの学校での教育について各自の体験を元に発表する	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：配付資料を見直し、内容の理解を

			深める。
第2回	日本の教育の歴史 ① ～大正自由教育～	明治から大正へと時代の変化とともに大正時代での教育の特徴について理解する。	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：教科書の該当ページ、配付資料を見直し、内容の理解を深める。
第3回	日本の教育の歴史 ② ～国家主義教育と戦後教育改革～	戦争前も戦争中の教育と戦後の教育の変化について理解する。	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：教科書の該当ページ、配付資料を見直し、内容の理解を深める。
第4回	日本の教育の歴史 ③ ～産業化社会とポスト産業化社会～	1960年代、70年代の教育とそれ以降の90年代の教育違いについて発表ができる。	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：教科書の該当ページ、配付資料を見直し、内容の理解を深める。
第5回	学校を考える ① 近代公教育制度の成立とその理念	公教育制度の成立とその理念について理解する。	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：教科書の該当ページ、配付資料を見直し、内容の理解を深める。
第6回	学校を考える ② 学校化社会	「学校化社会」とは何を表しているのか自らの生活を元に考え発表する。	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：教科書の該当ページ、配付資料を見直し、内容の理解を深める。
第7回	学校を考える ③ 現代の公教育を考える	現代における公教育の役割について自ら受けてきた教育を振り返りながら考えたことを発表する。	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：教科書の該当ページ、配付資料を見直し、内容の理解を深める。
第8回	教育課程をどう編成するか～教育課程編成の構成要件～	教育課程とは何か、どうして編成しなければならないのかを考える。	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：教科書の該当ページ、配付資料を

			見直し、内容の理解を深める。
第9回	教育課程をどう評価するか	教育課程を作成と実践とは切手も切り離せないこととその評価について考える。	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：教科書の該当ページ、配付資料を見直し、内容の理解を深める。
第10回	教育課程をめぐる問題 ① 教科横断的な教育課題「言語活動の充実」	「言語活動の充実」とは何か、教科横断的とは何かをグループに分かれて考える。	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：教科書の該当ページ、配付資料を見直し、内容の理解を深める。
第11回	教育課程をめぐる問題 ② 教科横断的な教育課題「活用を図る学習活動」	「活用を図る学習活動」と教科横断的とのつながりについてグループに分かれて考える。	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：教科書の該当ページ、配付資料を見直し、内容の理解を深める。
第12回	教育課程をめぐる問題 ③ 教科横断的な教育課題「学習スキルの育成」	身に付けなければならない「学習スキル」について教科横断的との関係についてグループに分かれて考える。	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：教科書の該当ページ、配付資料を見直し、内容の理解を深める。
第13回	小学校と中学校の教育課程の違いと接続	小学校、中学校のつながりと中1ギャップを防ぐ方法について考える。	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：教科書の該当ページ、配付資料を見直し、内容の理解を深める。
第14回	ICTとカリキュラム	学校教育にICTが与える影響と教育効果について考える。	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：教科書の該当ページ、配付資料を見直し、内容の理解を深める。
第15回	まとめ～改めて教育観を考える～	授業を受け手最初に持っていた「教育観」がどのように変化した	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：教科書の該

のか発表する

当ページ、配付資料を見直し、内容の理解を深める。

教科書

田嶋一、中野新之祐、福田須美子、狩野浩二著『やさしい教育原理』（有斐閣）
田中 耕治・水原 克敏 著『新しい時代の教育課程(第3版)』（有斐閣アルマ）
『中学校学習指導要領』 文部科学省

参考書

講義中に適宜示す。

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上 定期試験 50%、授業への取り組み姿勢（リフレクション、口頭発表など）20% レポート 30%

課題等に対する フィードバックの方法

提出されたリフレクションペーパー等はコメントを加筆して、次時の授業時に返却する。

履修のポイント

教職科目であるため、グループ学習、口頭発表等で自分から進んで意見を述べるだけでなく、自分以外の他の学生たちの意見、考えを理解する姿勢で授業に臨むことが大切である。

科目区分

教職科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CM-C410

講義コード	30710001
講義名	教育学（栄養）
(副題)	【教職必修（栄養）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	学校現場での教員経験を活かし、教育の可能性を伝えるとともに学校をめぐるさまざまな問題を解決するためにも「教育」の知識を深めていく授業を展開する。
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 簗輪 欣房	指定なし

授業の概要と教育目標

「いじめ」や「虐待」など、教育に関わる問題はとどまるところを知らない。このような状況の中で、保護者や社会から学校教員への期待や不安は増すばかりであり、教員は従来とはまた違った知識やスキルも身につけなければならなくなっている。本講は、教育という事象について広範な視野から検討・考察を行う。人間にとって教育はどのような意味をもつのか、現代の教育や教育制度の基礎にあるのはどのような考え方なのか、現代の教育がもつ問題性は何か、などを考える。教育という営みの本質的性格、現代の学校教育が果たしている役割とその問題点などについて理解し、教育改革の方向性についての考え深める。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科の基礎となる衣食住、さらに生活を取り巻く社会的環境を視野に入れながら学修し、教師として、社会人としての資質・能力を養う。

到達目標

下記の諸点を本講の到達目標に設定する。

1. 教育の概念について自分自身の考えを整理して発表できる。
2. 人間の文化の特性やその伝達の特殊性について理解できる。
3. 近代の教育を支える思想について理解するとともに、それと現代との関係を理解できる。
4. 現代社会における教育の問題点を把握し、それについての見解を整理して発表できる。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	オリエンテーション-教育とは何か	各自の今間まで受けてきた中高での教育について発表する。	予習に90分。教科書を熟読する。
第2回	教育の歴史と思想	教育は人類の歴史と共に様々変化していることに気づくことと自分なり	予習に90分、復習に90分。授業時に配布されたプリント、教科

		にまとめる。	書の該当ページを熟読する。
第3回	日本の近代化と教育制度	日本における教育制度の変化について理解する。	予習に90分、復習に90分。授業時に配布されたプリント、教科書の該当ページを熟読する。
第4回	家庭教育としつけ	「しつけ」と「虐待」は何が違うのかを各自が考えて発表する。	予習に90分、復習に90分。授業時に配布されたプリント、教科書の該当ページを熟読する。
第5回	学校文化とは	「学校文化」とは何か各自のこれまでの学校での体験を発表する。	予習に90分、復習に90分。授業時に配布されたプリント、教科書の該当ページを熟読する。
第6回	異文化理解教育	社会のグローバル化に伴いいろんな文化圏の子ども達が日本で教育を受ける事についての理解をする。	予習に90分、復習に90分。授業時に配布されたプリント、教科書の該当ページを熟読する。
第7回	障害児教育とインクルージョン	「インクルージョン」について知っていることを発表し、理解を深める。	予習に90分、復習に90分。授業時に配布されたプリント、教科書の該当ページを熟読する。
第8回	現代の教育問題	日本を含めて教育でどのような事がもんだいであり、課題であるのか各自の考えを発表する。	復習に90分。授業時に配布されたプリント、教科書の該当ページを熟読する。

教科書

岡田昭人 編著『教育学入門』（ミネルヴァ書房）

参考書

講義中に適宜紹介する。

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上 定期試験50%、授業への取り組み姿勢（リフレクション、口頭発表など）20%、レポート30%

課題等に対する フィードバックの方法

提出されたリフレクションペーパー等はコメントを加筆して次時の授業時に返却する。

履修のポイント

教職科目であるため、グループ学習、口頭発表等で自分から進んで意見を述べるだけでなく、自分以外の他の学生たちの意見、考えを理解する姿勢で授業に臨むことが大切である。

科目区分

教職科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C411

講義コード	30720001
講義名	教育心理学（共通）
(副題)	【教職必修（共通）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	5時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	教育機関での心理臨床活動やスクールカウンセラーの経験を基にして、より具体的な児童生徒理解に関する授業を行う
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 大澤 靖彦	指定なし

授業の概要と教育目標

教師が学校現場で児童・生徒と対応する際には、彼らが、今現在発達的にどのような状況におかれているのか、また、そのときの心の状態はいかなるものなのか、ということに配慮しながら接することが求められる。この科目では、人は環境と相互に作用しあう存在であることを踏まえて、人の発達過程、学習過程、教授過程について講義する。授業は講義形式で行うが、授業後半では実習も取り入れ、学生による「模擬授業」を実施する。なお、青年期までの人の発達過程とその特徴、学習のしくみと学習を規定する要因と障がい、教授の種類について理解を深めることを教育目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマポリシーとの関連として、私たちの生活を身近な問題からグローバルなテーマまで多角的に理解すること、生活科学の基礎となる衣食住に関する基本的なことからついて、さらに生活を取り巻く社会的環境について、科学的に理解することを目指し、心理的側面の理解を通してその目的達成に資する知識を養う。そして将来的な展望としては、心身の発達理論を理解しつつ、多様な人間のライフステージ、ライフサイクルを理解するという発達の側面、そして知識を収めていく学習の側面、発達課題に直面した際の課題未達成からくる適応の問題の側面から、教職実践の基盤となる学修を目指すものとする。

到達目標

1. 教育心理学で使用されるさまざまな専門用語の意味を理解できる。
2. 青年期までの人の発達過程とその特徴について理解できる。
3. 学習のしくみと学習を規定する要因、および障がいについて理解できる。
4. 「教える」ということを体験を通じて実感し、自ら「教える」立場をシミュレーションする。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのため必要な時間

第1回	オリエンテーション 教育心理学の概要	教育心理学で取り扱う内容について、その概要（発達・学習・教授）を取り上げる。よい授業とは何かについて、心理学における教育心理学の位置づけについて考える。	予習90分： 教科書pp.12-21を読む。 復習90分： 配布資料を見直す。
第2回	発達の基本原理と人生初期の発達 発達の基本的な原理、発達の最近接領域、の発達について取り上げる。	発達を促進する要因について考究する。	予習90分： 教科書pp.22-25、31-39 復習90分： 配布資料を見直す。
第3回	発達段階の特徴 乳児期から成人期までの発達の特徴について取り上げる。	発達の特徴を前提に学校教育の意義について、考究する。	予習90分： 教科書pp.25-31を読む。 復習90分： 配布資料を見直す。
第4回	さまざまな学習理論① 刺激と反応の結びつきを重視する学習の連合理論と認知の変容を重視する学習の認知理論を中心に、学習のしくみを取り上げる。	学習理論から生まれたソーシャル・スキルトレーニングを理解する。	予習90分： 教科書41-54を読む。 復習90分： 配布資料を見直す。
第5回	さまざまな学習理論② 記憶、思考を取り上げる。	記憶のメカニズムを理解することで、どのように教授するのがよいのかについて熟考する。	予習90分： 教科書pp.55-70を読む。 復習90分： 配布資料を見直す。
			予

第6回	<p>学習の規定因① 学習の規定因としての動機づけ理論と、動機づけ向上に必要な事項について取り上げる。</p>	<p>やる気を高めたり維持するためには何が必要なのかについて、自身の考えを深める。</p>	<p>習90分： 教科書pp.72-88を読む。 復習90分： 配布資料を見直す。</p>
第7回	<p>学習の規定因② 学習を規定する要因としてのパーソナリティの理論、知能の構造、測定方法を取り上げる。</p>		<p>予習90分： 教科書pp.89-102を読む。 復習90分： 配布資料を見直す。</p>
第8回	<p>人間関係と社会性 子どもは人間関係の中でどのように成長するのかについて取り上げる。</p>	<p>愛着が発達に及ぼす意義について、自身の考えを掘り下げる。</p>	<p>予習90分： 教科書pp.104-119を読む。 復習90分： 配布資料を見直す。</p>
第9回	<p>学級集団 集団形成や教師のリーダーシップやバイアス等について取り上げる。発達を促す集団の力は教師の働きかけによるところが大きいことを理解する。</p>	<p>望ましい学級集団を形成するために教師が気を付けるべきことについて考究する。</p>	<p>予習90分： 教科書pp.124-139を読む。 復習90分： 配布資料を見直す。</p>
第10回	<p>学校不適応および障がいの理解 学校における適応と不適応、さらに発達障がいの種類や特徴の理解について取り上げる。</p>	<p>児童生徒のつまずきやすさについての考えを広げる。</p>	<p>予習90分： 教科書pp.141-171を読む。 復習90分： 配布資料を見直す。</p>
			<p>予習90分：</p>

第11回	学習指導と教育評価 学習方法や評価の種類について 取り上げる。	(対面授業であれば模擬授業の準備)	教科書pp.175-192を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第12回	発達障害 (模擬授業①)	認知面でのつまずきについて体験する。 (対面授業であれば模擬授業①)	予習90分：模擬講義資料作り。 復習90分：模擬講義ふり返り。
第13回	生徒指導・教育相談 (模擬授業②)	生徒指導・教育相談の意義について考究する。 (対面授業であれば模擬授業②)	予習90分：模擬講義資料作り。 復習90分：模擬講義ふり返り。
第14回	今どきの子どもと不登校 (模擬授業③)	子ども理解を深める。 (対面授業であれば模擬授業③)	予習90分：模擬講義資料作り。 復習90分：模擬講義ふり返り。
第15回	学校で活かす臨床心理学 授業のまとめ	まとめ及び学校で活かす臨床心理学	復習90分：これまでの小テストを見返す。

教科書

櫻井茂男監修 『実践につながる教育心理学』 北樹出版

参考書

適宜紹介する。

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。
確認テスト（最終授業で毎回の授業で行う小テストから40問を出題）もしくは小論文40%、
レポート・課題30%、

模擬授業・授業への参加度30%を総合して評価します。

課題等に対する
フィードバックの方法

授業内でレポートや課題を課すことがある。返却するので学習の参考にすること。

履修のポイント

授業への積極的な取り組みを期待します。授業時間外の学習として、主に配布資料・ノートのみ
とめを勧めます。

なお、「教育心理学（共通）」の（共通）とは、生活科学科の中学2種（家庭）と栄養教諭2種の
双方の教職に共通する科目、ということを示します。

オフィス・アワー

水曜日・木曜日、12：30～13：20（昼休み）、11号館第8研究室。

※講義終了前後にも、適宜受け付けます。

科目区分

教職科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CM-C412

講義コード	30730001
講義名	家庭科教育法（家庭）
（副題）	【教職必修（家庭）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期（重複②）
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	高校家庭科教員の経験を活かし、生徒や社会をめぐる問題を解決できる「教育」の知識を深める。
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 荒井 尚美	指定なし

授業の概要と教育目標

中学校「技術・家庭」の教員免許の取得を目指す学生を対象に設定された科目である。そのため、家庭科教育の歴史や社会とのつながりなど学校教育における家庭科教育の役割についての理解を深める。さらに、生徒の立場に立った家庭分野の教材研究、学習指導案の作成等についての基礎を実習を通して学ぶ。
 学習過程を通して、自ら考え、よりよい授業のための工夫や改善点を指摘できる能力や態度を養うとともに、他と学び合うことにより、これからの家庭科教育の必要性について理解を深めることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーと関連して、日本の生活文化の知識技術を基に、より豊かな日常生活を創造する家庭科教育の意義を理解し、社会の変化に対応できる問題解決能力や創造力を身に付けること。さらにワークライフバランスを考えた自らの人生設計について、学んだ知識技術を生かし、適切な職業選択ができるようにすることを目指す。

到達目標

- ・家庭科教育の目標・内容について説明できる。
- ・授業の題材にあわせた教材研究を行うことができる。
- ・学習指導案を作成することができる。
- ・学習指導案の検討を行い、工夫や改善についての意見を発表することができる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	荒井尚美	授業の概略 学校教育における家庭科教育の意義	ダイヤモンドランキングによる家庭科教育の特徴を学ぶ。	予習90分：学習指導要領解説技術・家庭編 学校教育法 施行規則を読む。 復習90分：授業プリントを読み返し、要点を確認する。

第2回	荒井尚美	日本における家庭科教育の変遷		予習90分：学習指導要領解説技術・家庭編 第1章を読む。 復習90分：授業プリントを読み返し、要点を確認する。
第3回	荒井尚美	小・中・高等学校の学習指導要領における目標と指導内容		予習90分：学習指導要領技術・家庭編 第2章を読む。 復習90分：授業プリントを読み返し、要点を確認する。
第4回	荒井尚美	生活課題と家庭科教育の指導内容	栄養と家事時間（労力）、食費とのバランスについてワークシートで学ぶ。	予習90分：中学校技術・家庭 家庭分野の教科書を読む。 復習90分：授業プリントを読み返し、要点を確認する。
第5回	荒井尚美	新しい学力観にたった家庭科の学習指導方法	ブレインストーミング法の実習 調べ学習（言葉の意味調べ）の実習	予習90分：学習指導要領技術・家庭編 第3章を読む。 復習90分：授業プリントを読み返し、要点を確認する。
第6回	荒井尚美	教材研究の視点と方法	織物と編み物の教材作りをする。	予習90分：手作り教材の準備。 復習90分：手作り教材の完成と自己評価。
第7回	荒井尚美	学習評価の観点と評価方法	意思決定についてアロー表を使って実習	予習90分：学習指導要領技術・家庭編 第3章を読む。 復習90分：授業プリントを読み返し、要点を確認する。
第8回	荒井尚美	学習指導要領に基づく学習指導計画		予習90分：学習指導要領技術・家庭編 第3章と中学校技術・家庭 家庭分野の教科書を読む。 復習90分：授業プリントを読み返し、要点を確認する。
第9回	荒井尚美	学習指導案の考え方、書き方の基本		予習90分：学習指導案の事例を探る。 復習90分：学習指導案の書き方の要点を復習。
第10回	荒井尚美	学習指導案の作成 ① 学習指導案を1部作成提出	自らのテーマにそって指導案①を作成する。	予習120分：学習指導案の題材を考える。 復習 60分：題材に沿った指導案を完成する。
第11回	荒井尚美	個別学習指導案に基づく模擬授業の実施 学習指導案の検討・評価	模擬授業を実施する。 評価表を書き、改善点を把握する。	予習 90分：模擬授業の準備をする。 復習 90分：模擬授業の評価と課題を明確にする。
第12回	荒井尚美	学習指導案の作成 ② 学習指導案を	①の改善点をもとに指導案②を作成する。	予習 90分：2つめの学習指導案作りの準備。 復習 90分：1つめの指導案

	美	1部作成提出		との比較、改善。
第13回	荒井尚美	個別学習指導案に基づく模擬授業の実施 学習指導案の検討・評価	模擬授業を実施する。 評価表を書き、改善点を把握する。	予習120分：2回目の模擬授業の準備。 復習60分：第2回の模擬授業の評価と課題。
第14回	荒井尚美	学習指導案に基づく学習指導の相互評価及び改善	それぞれの模擬授業について比較検討。長所、短所等について意見交換する。	予習120分：学習指導案をワープロで作成。 復習90分：指導案評価のポイントを復習。
第15回	荒井尚美	教育実習にむけての授業のまとめ	本授業についての自己評価とこれからの家庭科教育のあり方について意見をまとめ、発表する。	予習60分：教育実習指導分野の教科書を読む。 復習120分：授業プリントを読み返し、要点を確認。

教科書

中学校学習指導要領解説 技術・家庭編 文部科学省。中学校技術・家庭 家庭分野の教科書

参考書

必要に応じて資料を配布する。

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。学習指導案40%、毎時間のワークシート40%、授業への参加意欲・態度20%を総合して評価する。

課題等に対する フィードバックの方法

課題や提出物について、評価、問題点、修正すべき点などについて、個別に学生に伝達し、返却する。課題によっては、学生同士の相互評価を取り入れ、知識技術の定着やコミュニケーション能力の向上に努める。

履修のポイント

自ら考え、学習指導案を2部作成し提出する。毎時間のワークシートや作品を提出する。

オフィス・アワー

授業日の開始前もしくは終了後に教室等で相談に応じる。

科目区分

教職科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C431

講義コード	30740002
講義名	道徳理論・指導法（家庭）
（副題）	【教職必修（家庭）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	5時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	高等学校の教員として数年間にわたり勤務し、クラス担任を担当した経験がある。その経験を活かし生徒同士あるいは家族の絆を強めたり、問題解決の方法を自ら見つけたりする能力を開発する。
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋爪 博幸	指定なし

授業の概要と教育目標

道徳教育の歴史、その意義と役割を理解しつつ、学習指導案作りを実践する。他の教科との連携を踏まえ、教育実習の場でしっかりと道徳の授業ができる教育力を養うものである。

卒業認定・学位授与の方針との関連

道徳、総合的な学習の時間等の指導及び生徒指導、教育相談等に関する科目で、生活科学科のディプロマポリシーにある「私たちの生活を身近な問題からグローバルなテーマまで多角的に理解している」ことを踏まえつつ、自分から進んで多面的な授業テーマを探り、小・中学校の道徳の授業で、それを生かせるようにする。

到達目標

小・中学校において実施される道徳教育の位置づけや意義、教育目標、内容について理解し、説明することができる。指導方法や評価方法について理解し、説明できる。これら2点を教育目標として掲げる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	橋爪博幸	道徳教育の定義と、人格の完成に欠かせない道徳教育の意義を理解する。		復習90分。最近の道徳についての記事を調べる。
第2回	橋爪博幸	道徳教育の歴史を知る。	今日の日本や国際社会での道徳教育の課題について考える。	予習90分。復習90分。事前に配布された資料を読み込む。学習指導案の作成にあたり、資料探索を行う。
	橋	成長の各段階における人間の道徳性の発達と開花		予習90分。復習90分。事前に

第3回	爪博幸	(学年に適した教材に関する考察を含む)のプロセスをたどる。		配布された資料を読み込む。学習指導要領を事前に読んでおく。
第4回	橋爪博幸	学習指導要領に記された道徳教育の内容と教育目標(多様な指導方法の理解を含む)を知る。		予習120分。復習120分。事前に配布された資料を読み込む。学習指導案の作成にあたり、資料探索を行う。
第5回	橋爪博幸	学習指導計画と、教育活動全体のなかでの道徳教育の位置づけを理解する。		予習120分。復習120分。事前に配布された資料を読み込む。学習指導案の作成にあたり、発表の大筋を決める。
第6回	橋爪博幸	道徳の授業の指導案を作成する。	道徳の授業目標の設定し、授業プログラム案(学習指導案)の作成と発表を行う。	予習120分。復習120分。事前に配布された資料を読み込む。学習指導案の作成にあたり、発表資料づくりを行う。
第7回	橋爪博幸	個々の児童・生徒における道徳教科の評価方法を知る。		予習90分。復習90分。事前に配布された資料を読み込む。最近の道徳についての記事を調べ記事と概要と感想を書いてレポートにまとめ提出する。
第8回	橋爪博幸	学生による模擬授業の実施と、その振り返り(学生による自己評価を含む)を行う。		復習90分。事前に配布された資料を読み込む。作成した各自の指導案、発表資料等を提出する。

教科書

「小学校学習指導要領」「中学校学習指導要領」(平成29年3月告示 文部科学省)
「小学校学習指導要領解説」「中学校学習指導要領解説」にある「特別の教科道徳」(平成29年6・7月告示 文部科学省)

参考書

小寺正一・藤永芳純『三訂道徳教育を学ぶ人のために』世界思想社、2009年

成績評価の方法・基準

100点満点中、60点以上で単位を認定する。道徳教育に関するレポート(60点)、各時間の振り返りシート(20点)、模擬授業の発表(20点)の合計点をもとに、総合的に評価する。

課題等に対する フィードバックの方法

課題のレポートに、コメントを入れて後日、返却する。補足説明があるときは、授業内で提示し、または印刷して配布してフィードバックとする。

履修のポイント

授業回数が8回のみであるから、休まず出席すること。なお授業時間以外に、模擬授業のアクティブラーニングを実施する場合がある。

オフィス・アワー

水曜日の昼休みの時間をオフィス・アワーの時間とする。質問等を受け付けます。

科目区分

教職科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CM-C432

講義コード	30741001
講義名	特別支援教育論（共通）
(副題)	【教職必修（共通）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	中学校特別支援学級担任教諭としての指導経験を活かして実践力を育成する授業を展開する。
学年	1学年

担当教員		
職種	氏名	所属
教員	◎ 小林 徹	指定なし

授業の概要と教育目標

担当者の中学校特別支援学級担任教諭としての指導経験や市町村教育支援委員としての幼稚園・保育所等との連携の経験に基づき、研究成果も踏まえて以下の内容を講義する。

1. 特別支援教育を支える理念や歴史的変遷について理解する。
2. 特別支援教育の場（機関）と制度の現状をとらえる。
3. さまざまな障がいと障がい児、特別な配慮を要する子どもの理解の視点と方法について理解する。
4. 障がい児等の個別支援計画の作成、評価について理解する。
5. 特別支援教育の実際について理解を深める。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連としては、さまざまな障がいと障がい児、特別な配慮を要する子どもについて学ぶことで人間生活の多角的な理解を目指す。また、特別支援教育の理解を通して、得た知識を職業人として各職場で実践的に活用し、問題解決能力の修得を目指す。

到達目標

1. 履修学生が特別支援教育の理念や制度、その歴史や支援機関の現状について説明できる。
2. 履修学生が障がい児や特別な配慮を要する子どもの個別指導（支援）計画を作成し、評価することができる。
3. 履修学生がさまざまな障がいと障がい児や特別な配慮を要する子どもを支援するための視点と方法について説明できる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのため必要な時間
第1回	小林	「特別支援教育の考え方、制度と仕組み」障がい児、特別な配慮を要する子ども、特別支援教育の基礎概念、特別支援教育と障がい児		【予習90分】当日の内容をテキストで確認する。【復習90分】授業を踏

	徹	福祉の制度とその仕組みについて学習する。		まえてまとめと質問シートを作成する。
第2回	小林徹	「障がいとの出会いと子育て、保護者支援」保護者と障がいとの出会いと保護者支援、障がいのある子どもの子育ての考え方と療育の実際を映像を通して学習する。		【予習90分】当日の内容をテキストで確認する。【復習90分】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
第3回	小林徹	「障がい児の理解と支援①発達障がい・知的障がい・情緒障がい」映像を通して発達障がい、知的障がい、情緒障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。		【予習90分】当日の内容をテキストで確認する。【復習90分】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
第4回	小林徹	「障がい児の理解と支援②肢体不自由・視覚障がい・聴覚障がい・言語障がい」肢体不自由・視覚障がい・聴覚障がい・言語障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。		【予習90分】当日の内容をテキストで確認する。【復習90分】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
第5回	小林徹	「障がい児の理解と支援③病弱・重複障がい・その他の特別な教育的ニーズ」病弱・重複障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。また、障がいはないが、特別な教育的ニーズをもつ子どもについて学び、その支援方法を考える。		【予習90分】当日の内容をテキストで確認する。【復習90分】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
第6回	小林徹	「他機関との連携、幼保小中高の接続」障がい児支援に関わるさまざまな工夫について紹介、理解を深める。また、幼保小中高の接続を含めたさまざまな機関との連携について学習する。		【予習90分】当日の内容をテキストで確認する。【復習90分】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
第7回	小林徹	「個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成と活用」子どもの有する特別な教育的ニーズをどのように見出し、理解するかを個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成を通して学習する。また、作成した計画をもとにして具体的な支援を考察する。	特別な教育的ニーズを有する児童の個別の指導計画を作成し、発表する。	【予習90分】当日の内容をテキストで確認する。【復習90分】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
第8回	小林徹	「特別支援教育のこれまでとこれから」特別支援教育の歴史的変遷について学習する。そして、今後のインクルーシブ教育システムの構築に向けた考察を行う。		【予習90分】当日の内容をテキストで確認する。【復習90分】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。

教科書

小林徹・栗山宣夫編著『ライフステージを見通した障害児保育と特別支援教育』みらい,2020

参考書

適宜紹介する。

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。

レポート試験（50%）、毎回提出する小レポート（30%）、小テスト（20%）

課題等に対する
フィードバックの方法

毎回提出する小レポートや小テストを参考にして、期末のレポート試験を受けること。

履修のポイント

障がいや障がい児について関心をもち、学習を深めてほしい。

オフィス・アワー

授業日の授業開始前もしくは終了後に教室等で質問に応じる。

科目区分

教職科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CM-C450

講義コード	30750002
講義名	教育方法・特別活動の指導法（家庭）
(副題)	【教職必修（家庭）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	5時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	高等学校での教員経験を活かし、理論と実践について幅広く知識を深めていく授業を展開する
学年	2学年

担当教員		
職種	氏名	所属
教員	◎ 石井 広二	指定なし

授業の概要と教育目標

限られた時間内に教育が行われる学校では、指導上の効果を高めるため、教育方法について理解し研究することがとりわけ肝要である。被教育者の知識・技術の習得をより効果的なものにし、さらに生徒の自主的・創造的な学習を発展させるうえで、教員を目指す者にとって教育方法の学習は、以前にも増して重要性が高まっている。この授業では、教授ないし学習指導と呼ばれている事柄を中心に扱う。また、コンピュータを中心とした教育機器の利用法や教育評価についても、教育方法にとって不可欠な分野として、取り上げる。

一方で、特別活動は、構成の異なる集団での活動を通して学校生活を捉え、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動である。

そこで、この授業では、学校教育の中で行われる、指導の効果を高めるための方法について理解し研究することを目標とし、学習指導要領に則しながら、特別活動の各活動の内容や指導方法など事例を通して検討していく。

また、授業ではMoodleを活用する予定である。

卒業認定・学位授与の方針との関連

学科のDPとは別に、教員免許状取得のために必要な学校教育法施行規則に定める科目「教育方法及び技術（情報機器および教材の活用を含む。）」と「特別活動の指導法」に該当している

到達目標

- ・教育方法の基礎理論、方法、技術について理解する
- ・コンピュータなどの機器の教育における利用方法を理解し、活用できる
- ・教育評価の理論と応用について理解する
- ・学習指導要領における特別活動の意義を理解する
- ・特別活動の指導の在り方を理解する

授業計画

授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な 時間
求められる学力とは何かを検討し、学校教育と学習指導要領の基本理念について		予習90分：教科書第1章を熟読する

第1回	考える 課題：指導案（細案）の作成とその意図の発表		こと 復習90分：振り返りをMoodleに記載、課題の作成
第2回	教育方法の基礎理論について		予習90分：教科書第2～4章を熟読すること 復習90分：振り返りをMoodleに記載、課題の相互評価
第3回	具体的な指導技術の問題点を確認し、代表的な方法と留意点を見る 学習者が意欲的に学ぶにはどのような工夫が必要か考える	各自で作成した指導案を発表し、検討をおこなう (受講者数、教育実習の日程などにより変更の可能性があります)	予習90分：教科書第5～9章を熟読すること 復習90分：振り返りをMoodleに記載
第4回	学習における評価の意味について考える	各自で作成した指導案を発表し、検討をおこなう (受講者数、教育実習の日程などにより変更の可能性があります)	予習90分：教科書第12章を熟読すること 復習90分：振り返りをMoodleに記載
第5回	メディア教材の利用と、ICT機器を利用する意味とその理論について学び、ICTを利用した授業の展開について考える 課題レポート：授業におけるICT機器の活用について	各自で作成した指導案を発表し、検討をおこなう (受講者数、教育実習の日程などにより変更の可能性があります)	予習90分：教科書第10章・11章を熟読すること 復習90分：振り返りをMoodleに記載、課題レポートの作成
第6回	学習指導要領における特別活動の意義と内容について検討する		予習90分：学習指導要領解説を熟読すること 復習90分：振り返りをMoodleに記載、課題レポートの作成
第7回	学級活動・生徒会活動・学校行事の目標とその内容について事例を通して考える (小学校・高等学校との違いを踏まえながら)	グループワーク：特別活動の指導案	予習90分：学習指導要領解説を熟読すること 復習90分：振り返りをMoodleに記載
第8回	特別活動における指導方法および評価について検討する	グループ発表：特別活動の指導案の発表	予習90分：学習指導要領解説を熟読すること 復習90分：振り返りをMoodleに記載

教科書

『新しい教職教育講座 教職教育編 教育の方法と技術』（篠原正典・荒木寿友 編著）ミネルヴァ書房
中学校学習指導要領（平成29年告示）文部科学省

参考書

「教育工学への招待」赤堀侃司（ジャストシステム）、「「教えて考えさせる授業を」を創る」市川伸一（図書文化）、「学習評価の新潮流」植野真臣他（朝倉書店）など

成績評価の方法・基準

単位認定50点以上。毎回の課題とその取組（40%）、指導案発表（30%）、課題レポート（30%）を総合的に評価する。

課題等に対する
フィードバックの方法

授業では課題を課します。それらは相互に評価することがあり、その結果をMoodleを通して、個別もしくは全体にコメントしますので、参考にしてください。

履修のポイント

授業日程についてはしっかり確認し、遅刻・欠席がないように注意してください。
また、受講者数、教育実習の日程などにより変更の可能性があります。
授業の回数が少ないため、各自で教科書を熟読し理解を深めてください。
欠席（公欠含む）した場合は、後日内容の確認をしてください。
課題は必ず提出すること。

オフィス・アワー

火曜日の昼休み。それ以外の曜日・時間については、授業の際に伝える。また、研究室は9号館3階第11研究室。

科目区分

教職科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CM-C451

講義コード	30751001	
講義名	総合的な学習の時間の指導法（共通）	
(副題)	【教職必修（共通）】	
開講責任部署	生活科学科	
講義開講時期	前期	
講義区分	講義	
基準単位数	1	
代表曜日		
代表時限		
必修/選択	選択	
実務経験のある教員の有無	×	
実務経験のある教員の経歴と授業内容		
学年	2学年	
担当教員		
職種	氏名	所属
教員	◎ 櫻井 歓	指定なし

授業の概要と教育目標

授業の概要と目標：「総合的な学習の時間」の概要や指導方法について扱う。探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行う「総合的な学習の時間」の意義、目標および内容を理解するとともに、その指導計画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付けることを到達目標とする。「学習指導要領」や具体的な教育実践例の研究などを通じて、今日的な教育課題を踏まえた創造的な教育実践を可能とする指導法の基礎を養う。

授業の方法：担当教員による講義と、アクティブ・ラーニングとしての小グループによる意見交換、レポート発表などを有機的に組み合わせ、効果的に授業を行う。授業を対話的に展開するため、各回授業時に小レポートを書いてもらい、次の回で何人分かを紹介しコメントする。

準備学習の内容：本科目では、授業への参加は言うまでもなく、授業外での準備学習が重要となる。各回の授業の復習のほか、配布プリントの予習、さらにレポート作成の課題などについては、受講者各自による授業外での主体的な取り組みが求められる。

卒業認定・学位授与の方針との関連

以下に掲げる本学生活科学科のディプロマ・ポリシーのもと培われる生活科学分野の専門性と、教職課程で培われる教職の専門性をあわせ持って、学生の個性・適性に応じて社会で活躍することのできる専門家・市民の育成を目指す。

【生活科学科】

1. 私たちの生活を身近な問題からグローバルなテーマまで多角的に理解している。
2. 生活科学の基礎となる衣食住に関する基本的なことからについて、さらに生活を取り巻く社会的環境について、科学的に理解している。
3. 「人間のからだ」「食品」「栄養」に関して基本的なことから理解し、さらにそれら相互作用について、理解している。
4. 「人間のからだ」「食品」「栄養」に関する学修を総合的に理解し、「健康・栄養」に係る現場での実践的に活用し、また問題を解決できる能力を修得している。

到達目標

上記「授業の概要と教育目標」欄に記載した内容のうち、次のことが到達目標となる。「探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行う「総合的な学習の時間」の意義、目標および内容を理解するとともに、その指導計画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動

の評価に関する知識・技能を身に付けること」。このことを学生視点の到達目標として簡潔に表現すれば以下の通りである。

- (1)「総合的な学習の時間」の意義・目標・内容について説明することができる。
- (2)「総合的な学習の時間」の指導・評価に関するレポートを作成し、効果的なレポート発表とその振り返りができる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	櫻井 欽	授業内容：開講にあたって（ガイダンス、受講者の「総合的な学習の時間」体験の振り返り） 方法：講義とアクティブラーニング 課題：本科目の授業について見通しをもつとともに、学生自身の「総合的な学習の時間」について振り返る	小グループによる「総合的な学習の時間」体験の振り返り、小レポートの作成	復習：授業プリント・ノートの読み直し、時事的な教育問題の情報収集（新聞、テレビ、インターネットなどのメディアを活用）（180分程度）
第2回	櫻井 欽	授業内容：教育課程における総合的な学習の時間の意義と役割 方法：講義とアクティブラーニング 課題：総合的な学習の時間の意義と役割について知識を得る	小グループによる意見交換、小レポートの作成とフィードバック	予習：配布プリントの予習、予告されたテーマに関する情報収集（新聞、テレビ、インターネットなどのメディアを活用） 復習：授業プリント・ノートの読み直し、授業に関連する読書（予習・復習を含めて180分程度）
第3回	櫻井 欽	授業内容：「学習指導要領」にみる総合的な学習の時間 方法：講義とアクティブラーニング 課題：「学習指導要領」にみる総合的な学習の時間に関する記述について知識を得る	小グループによる意見交換、小レポートの作成とフィードバック	予習：配布プリントの予習、予告されたテーマに関する情報収集、中間レポートの作成準備 復習：授業プリント・ノートの読み直し、授業に関連する読書（予習・復習を含めて180分程度）
第4回	櫻井 欽	授業内容：総合的な学習の時間の指導（1）主体的・対話的で深い学び 方法：講義とアクティブラーニング 課題：近年の教育改革のキーワードとされている「主体的・対話的で深い学び」について知識を得る	小グループによる意見交換、小レポートの作成とフィードバック	予習：配布プリントの予習、予告されたテーマに関する情報収集、中間レポートの作成 復習：授業プリント・ノートの読み直し、授業に関連する読書（予習・復習を含めて180分程度）
第5回	櫻井	総合的な学習の時間の指導（2）各教科などとの発展的な関連性 方法：講義とアクティブラーニング 課題：(a)総合的な学習	小グループによる意見交換、小レポートの作成と	予習：配布プリントの予習、予告されたテーマに関する情報収集 復習：授業プリント・ノートの読み

	欽	の時間と各教科などとの関連性について知識を得る、(b)中間レポートを提出する	フィードバック	直し、授業に関連する読書 (予習・復習を含めて180分程度)
第6回	櫻井 欽	授業内容：総合的な学習の時間の指導（3） 年間指導計画と単元計画 方法：講義とアクティブラーニング 課題：総合的な学習の時間の年間指導計画と単元計画について知識を得る	小グループによる意見交換、小レポートの作成とフィードバック	予習：配布プリントの予習、予告されたテーマに関する情報収集 復習：授業プリント・ノートの読み直し、授業に関連する読書 (予習・復習を含めて180分程度)
第7回	櫻井 欽	授業内容：総合的な学習の時間の指導（4） 教育実践例の研究 方法：講義とアクティブラーニング 課題：(a)総合的な学習の時間の教育実践例について知る、(b)中間レポートを発表する	小グループによる意見交換、小レポートの作成とフィードバック、中間レポートの発表	予習：配布プリントの予習、予告されたテーマに関する情報収集、中間レポートの発表準備 復習：授業プリント・ノートの読み直し、授業に関連する読書 (予習・復習を含めて180分程度)
第8回	櫻井 欽	授業内容：総合的な学習の時間の評価、授業のまとめと筆記試験 方法：講義とアクティブラーニング 課題：(a)総合的な学習の時間の評価について知識を得る、(b)最終回の授業時間の一部で筆記試験を受験する	小レポートのフィードバック、小グループでの感想交流	予習・復習：配布プリントの予習、予告されたテーマに関する情報収集、これまでの授業内容を復習して筆記試験への準備を行う（予習・復習を含めて180分程度）

教科書

特に指定しない。

参考書

「中学校学習指導要領」（文部科学省、平成29年3月）
「高等学校学習指導要領」（文部科学省、平成30年3月）

成績評価の方法・基準

単位認定50点以上。授業への出席を前提条件として、中間レポート（30%）と筆記試験（70%）により評価する。なお、授業への積極的な取り組み（レポート発表など）を加味する場合がある。

課題等に対する フィードバックの方法

(a) 授業を対話的に展開するため、各回授業時に小レポートを書いてもらい、次の回で何人分かを紹介しコメントする。
(b) 中間レポートを書いてもらい、受講生の選抜メンバーによる中間レポート発表会を行う。担当教員より中間レポートに関する総括的な講評を行う。

履修のポイント

専門職としての教職の資格取得のための科目であるため、単位認定は厳格に行う。学生諸君には教員免許状取得に向けての意欲と覚悟を持って受講していただきたい。

オフィス・アワー

授業終了後に教室にて質問・相談を受け付ける。

科目区分

教職科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CM-C470

講義コード	30760001
講義名	教育課程及び教育方法論（栄養）
(副題)	【教職必修（栄養）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	1時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	学校現場での教員経験、とりわけ教務主任としての経験を活かし、学校の教育活動、教育方法、教育課程についての知識を深めていく授業を展開する。
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 簗輪 欣房	指定なし

授業の概要と教育目標

日本の戦後学校教育における教育課程を学習指導要領の変遷を中心に概観し、新学習指導要領の内容とねらいを解説する。
カリキュラム編成に関する代表的な考え方を提示し、新学習指導要領のねらいを踏まえたカリキュラム編成のあり方を解説する。
教育方法の代表的な理論を解説するとともに、具体的な実践事例を検討しながら、これからの学校教育に求められる教育方法について考える。
授業の内容をふまえた指導案を作成し、発表と検討を通して自ら教育課程を編成する能力を養う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科の基礎となる衣食住、さらに生活を取り巻く社会的環境を視野に入れながら学修し、教師として、社会人としての資質・能力を養う。

到達目標

1. 教育課程を歴史・思想・政策・実践との関連から捉え、その意義と役割を理解する。
2. これからの学校教育における教育課程を自ら編成するための基礎的な能力を身につける。
3. 教育の方法及び技術に関する基礎的な理論を理解し、それを活用した実践を行うための基盤を作る。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	教育目標とカリキュラム	自らが受けてきた学校の教育教育目標思い出して発表する。	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：教科書の該当ページ、配付資料を見直し、内容の理解を深め

			る。
第2回	教育課程の基本 原理	教育課程とは何かをグループで考 える。	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：教科書の該当ページ、配付資料を見直し、内容の理解を深める。
第3回	学習指導要領と 授業	小学校、中学校、高等学校は学習指導要領により日本全国一定以上のレベルの教育が行われていることを知る。	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：教科書の該当ページ、配付資料を見直し、内容の理解を深める。
第4回	カリキュラムマ ネージメントの 現代的意義と課 題	各学校でカリキュラムを編成することは教師の役割であることを理解する。	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：教科書の該当ページ、配付資料を見直し、内容の理解を深める。
第5回	教育方法の理念	教育目標は同じでも方法にはいろいろとあることを知る。	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：教科書の該当ページ、配付資料を見直し、内容の理解を深める。
第6回	教材と学習環境	授業を構成するための教材は教師の授業研究、教材研究によるところが大きいことを知る。	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：教科書の該当ページ、配付資料を見直し、内容の理解を深める。
第7回	授業におけるI CTの活用	授業方法、機材にICTの活用がこれからは求められる事を知り、自らもICT活用を考える。	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：教科書の該当ページ、配付資料を見直し、内容の理解を深める。
第8回	授業分析・教育 評価	授業をしたら必ずその授業の評価、分析をすることでよりよい授業が行われることを知る。	復習90分：教科書の該当ページ、配付資料を見直し、内容の理解を深める。

教科書
<ul style="list-style-type: none"> ・実践に活かす 教育課程・教育方法と技術論 樋口直宏・林尚示 編著 学事出版 2020 ・中学校学習指導要領 文部科学省
参考書
<ul style="list-style-type: none"> ・中学校学習指導要領解説 文部科学省. ・田中耕治・水原克敏 他 著『新しい時代の教育課程（第3版）』有斐閣
成績評価の方法・基準
単位認定60点以上 定期試験 50%、授業への取り組み姿勢（リフレクション、口頭発表等）20% レポート30%
課題等に対する フィードバックの方法
提出されたリフレクションペーパー等に不足する部分の解説、コメント加筆して次時の授業時に返却する。
履修のポイント
教職科目であるため、グループ学習、口頭発表等で自分から進んで意見を述べるだけでなく、自分以外の他の学生たちの意見、考えを理解する姿勢で授業に臨むことが大切である。
科目区分
教職科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-C433

講義コード	30770002
講義名	道徳理論・特別活動論（栄養）
(副題)	【教職必修（栄養）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	1時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	高等学校の教員として数年間にわたり勤務し、クラス担任を担当した経験がある。その経験を活かし生徒同士あるいは家族の絆を強めたり、問題解決の方法を自ら見つけたりする能力を開発する。
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋爪 博幸	指定なし

授業の概要と教育目標

道徳教育の歴史、その意義と役割を理解しつつ、学習指導案作りを実践する。他の教科との連携を踏まえ、教育実習の場でしっかりと道徳の授業ができる教育力を養うものである。

卒業認定・学位授与の方針との関連

道徳、総合的な学習の時間等の指導及び生徒指導、教育相談等に関する科目で、生活科学科のディプロマポリシーにある「私たちの生活を身近な問題からグローバルなテーマまで多角的に理解している」ことを踏まえつつ、自分から進んで多面的な授業テーマを探り、それを実際に、小・中学校の道徳の授業のなかで、生かせるようにする。

到達目標

小・中学校において実施される道徳教育の位置づけや意義、教育目標、内容について理解し、説明することができる。指導方法や評価方法について理解し、説明できる。これら2点を教育目標として掲げる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	橋爪博幸	道徳教育の定義と、人格の完成に欠かせない道徳教育の意義を理解する。		復習90分。最近の道徳についての記事を調べる。
第2回	橋爪博幸	道徳教育の歴史を知る。	今日の日本や国際社会での道徳教育の課題について考える。	予習90分。復習90分。事前に配布された資料を読み込む。学習指導案の作成にあたり、資料探索を行う。
	橋	成長の各段階における人間の道徳性の発達と開花		予習90分。復習90分。事前に

第3回	爪博幸	(学年に適した教材に関する考察を含む)のプロセスをたどる。		配布された資料を読み込む。学習指導要領を事前に読んでおく。
第4回	橋爪博幸	学習指導要領に記された道徳教育の内容と教育目標(多様な指導方法の理解を含む)を知る。		予習120分。復習120分。事前に配布された資料を読み込む。学習指導案の作成にあたり、資料探索を行う。
第5回	橋爪博幸	学習指導計画と、教育活動全体のなかでの道徳教育の位置づけを理解する。		予習120分。復習120分。事前に配布された資料を読み込む。学習指導案の作成にあたり、発表の大筋を決める。
第6回	橋爪博幸	道徳の授業の指導案を作成する。	道徳の授業目標の設定し、授業プログラム案(学習指導案)の作成と発表を行う。	予習120分。復習120分。事前に配布された資料を読み込む。学習指導案の作成にあたり、発表資料づくりを行う。
第7回	橋爪博幸	個々の児童・生徒における道徳教科の評価方法を知る。		予習90分。復習90分。事前に配布された資料を読み込む。最近の道徳についての記事を調べ記事と概要と感想を書いてレポートにまとめ提出する。
第8回	橋爪博幸	学生による模擬授業の実施と、その振り返り(学生による自己評価を含む)を行う。		復習90分。事前に配布された資料を読み込む。作成した各自の指導案、発表資料等を提出する。

教科書

「小学校学習指導要領」「中学校学習指導要領」(平成29年3月告示 文部科学省)
「小学校学習指導要領解説」「中学校学習指導要領解説」にある「特別の教科道徳」(平成29年6・7月告示 文部科学省)

参考書

小寺正一・藤永芳純『三訂道徳教育を学ぶ人のために』世界思想社、2009年

成績評価の方法・基準

単位認定は50点以上(100点満点中で)。道徳教育に関するレポート(60点)、各時間の振り返りシート(20点)、模擬授業の発表(20点)の合計点をもとに、総合的に評価する。

課題等に対する フィードバックの方法

課題のレポートに、コメントを入れて後日、返却する。補足説明があるときは、授業内で提示し、または印刷して配布してフィードバックとする。

履修のポイント

授業回数が8回のみであるから、休まず出席すること。なお授業時間以外に、模擬授業のアクティブラーニングを実施する場合がある。

オフィス・アワー

水曜日の昼休みの時間をオフィス・アワーの時間とする。質問等を受け付けます。

科目区分

教職科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C471

講義コード	30780002
講義名	生徒指導・進路指導論（家庭）
(副題)	【教職必修（家庭）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	5時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 田口 和人	指定なし

授業の概要と教育目標

子どもたちを取り巻く状況は、社会の変化に呼応するかのように多様な問題を内包している。不登校・いじめ（いじめ自殺）・ネットトラブル・引きこもり、将来の不透明さなどがあげられる。これらに対応することを前提として、①生徒指導とはなにか、②生徒指導が担うべき役割はなにか、③生徒指導において教師が備え持つべき資質はなにか、について考える。そして、具体的問題を取り上げながら、これらへの対応について共同で考える。
 進路指導は、キャリア教育の観点に立ち、①進路指導の意義と指導の方法は何か、②生徒が抱える個別の課題に即しながら「自分を生かす進路選択」とは何かについて共同で考える。

卒業認定・学位授与の方針との関連

人間を対象とする教育職員の役割を念頭に置いて、日常的な生活空間そして社会・環境・コミュニケーションについての認識を深める。また、多様な社会のニーズ、変化に対応できるように、自らの「資質・能力」を高めることに努める。

到達目標

生徒指導は、一人ひとりの児童及び生徒の人格を尊重し、社会的資質や行動力を高めることを目指し、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。
 進路指導は、児童及び生徒が、将来の進路を選択し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸張するように、組織的・継続的に指導・支援する教育活動である。それを包含するキャリア教育は、学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人ひとりの社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むことを目的としている。この進路指導・キャリア教育に必要な知識や素養を身に付ける。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	教育課程における生徒指導の位置付		予習90分：教育に関する事象について調べる。復

	けについて理解する。		習90分：配付資料を見直す。
第2回	生徒指導について集団指導と個別指導の実態を踏まえ、その方法原理を理解する。		予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第3回	基礎的な生活習慣の必要性と規範意識が培われる指導について考える。		予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第4回	校則の実態を学びながら、なぜ校則が存在し、なぜ必要であるかについて考える。		予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第5回	体罰の実態を学びながら、体罰禁止の根拠と懲戒について学び、考える。		予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第6回	いじめ（いじめ自殺）についての視聴覚教材を用いて、いじめについて考える。		予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第7回	いじめの構造を理解し、その対応方法（生徒指導）についてディスカッションを行う。	いじめの構造を理解し、その対応方法（生徒指導）についてディスカッションを行う。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第8回	不登校や暴力行為の生徒指導上の課題や対応の視点について学び、考える。	不登校や暴力行為の生徒指導上の課題や対応の視点について学び、考える。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第9回	生徒を取り巻くインターネットや性に関する問題について考える。	生徒を取り巻くインターネットや性に関する問題について考える。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第10回	教育課程における進路指導・キャリア教育の位置付けについて学ぶ。		予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第11回	進路指導の歴史及びキャリア教育の概念を学び、その発展の方向性を確認する。		予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
			予習90分：教育に

第12回	職業についての体験活動を中心に、進路指導・キャリア教育の意義を学ぶ。		関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第13回	中学校段階における進路指導・キャリア教育の考え方とポートフォリオ作成。		予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第14回	第13回で作成したポートフォリオを発表し、相互検討を行う。	第13回で作成したポートフォリオを発表し、相互検討を行う。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第15回	高校時代までに経験してきた生徒指導・進路指導と本授業を通して学んだ内容を比較検討し、改めて生徒指導・進路指導のあり方について考える。		予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。

教科書

なし

参考書

『生徒指導提要』（平成23年）『小学校学習指導要領』（平成29年）

『中学校学習指導要領』（平成29年）

岩城孝次・森嶋昭伸『生徒指導の新展開』ミネルヴァ書房

適宜、資料を配付する。

成績評価の方法・基準

定期試験（80%）、授業時のレポート（20%）

単位認定基準60%以上

課題等に対する フィードバックの方法

授業内でレポートを課すことがある。返却するので学習の参考にすること。また、授業内での自分自身の発言の参考にすること。

履修のポイント

主体的、対話的で深い学びを期待します。

オフィス・アワー

火曜日・木曜日の12:30~13:20（昼休み） 11号館第7研究室

※授業終了後も、適宜受け付けます。

科目区分

教職科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CM-C434

講義コード	30790001
講義名	生徒指導論（栄養）
(副題)	【教職必修（栄養）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	5時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 田口 和人	指定なし

授業の概要と教育目標

- ①教科・道徳・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導の意義や重要性を理解すると同時に、教育課程全般のなかでの生徒指導の位置づけを理解する。
- ②集団指導・個別指導また「個人と集団」という概念のもとで、生徒指導について考える。
- ③子どもの成長発達の段階を踏まえながら、基礎的生活習慣や規範意識の重要性について考える（栄養教諭の立場から）。
- ④学校教育における体罰、いじめ、不登校、インターネットや性、また児童虐待に関する問題などを具体的に取り上げながら、これらへの対応について考える。

卒業認定・学位授与の方針との関連

人間を対象とする教育職員の役割を念頭に置いて、身近な生活からグローバルなテーマ、そして社会・環境・コミュニケーションについての認識を深める。また、多様な社会のニーズ、変化に対応できるように、自らの「資質・能力」を高めることに努める。

到達目標

生徒指導は、一人ひとりの児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じて行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	教育課程における生徒指導の位置付けについて理解する。		予習90分：教育に関する事象について調べる。 復習90分：配付資料を見直す。
			予習90分：教育

第2回	生徒指導について集団指導と個別指導の実態を踏まえ、その方法原理を理解する。		に関する事象について調べる。 復習90分：配付資料を見直す。
第3回	・校則の実態を学びながら、なぜ校則が存在し、なぜ必要であるかについて考える。 ・体罰の実態を学びながら、体罰禁止の根拠と懲戒の実施について学び、考える。		予習90分：教育に関する事象について調べる。 復習90分：配付資料を見直す。
第4回	いじめ（いじめ自殺）についての視聴覚教材を用いて、いじめについて考える。		予習90分：教育に関する事象について調べる。 復習90分：配付資料を見直す。
第5回	・いじめの構造を理解し、その対応方法（生徒指導）について考える。 ・不登校や暴力行為の生徒指導上の課題や対応の視点について学び、考える。		予習90分：教育に関する事象について調べる。 復習90分：配付資料を見直す。
第6回	栄養教諭を前提として、基礎的生活習慣の確立や規範意識の醸成に向けた生徒指導について考える。－朝食欠食問題・不規則な生活習慣などを事例に－	栄養教諭を前提として、基礎的生活習慣の確立や規範意識の醸成に向けた生徒指導について考える。－朝食欠食問題・不規則な生活習慣などを事例に－	予習90分：教育に関する事象について調べる。 復習90分：配付資料を見直す。
第7回	クラスでの生徒指導に関するケース・スタディとグループディスカッション	クラスでの生徒指導に関するケース・スタディとグループディスカッション	予習90分：教育に関する事象について調べる。 復習90分：配付資料を見直す。
第8回	第7回でのディスカッションをもとに、プレゼンテーションと相互検討。まとめ。	第7回でのディスカッションをもとに、プレゼンテーションと相互検討。まとめ。	予習90分：教育に関する事象について調べる。 復習90分：配付資料を見直す。

教科書

なし

参考書

『生徒指導提要』（平成22年）『小学校学習指導要領』（平成29年）

『中学校学習指導要領』（平成29年）

岩城孝次・森嶋昭伸『生徒指導の新展開』ミネルヴァ書房

適宜、資料を配付する。

成績評価の方法・基準

定期試験（80%）、授業時のレポート（20%）

単位認定基準50%以上

課題等に対する フィードバックの方法

授業内でレポートを課すことがある。返却するので学習の参考にすること。また、授業内での自分自身の発言の参考にすること。

履修のポイント

主体的、対話的で深い学びを期待します。

オフィス・アワー

火曜日・木曜日の12：30～13：20（昼休み） 11号館第7研究室
※授業終了後も、適宜受け付けます。

科目区分

教職科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C452

講義コード	30800001
講義名	教育相談（共通）
（副題）	【教職必修（共通）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	5時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	中学校や高等学校での教諭経験を活かし、教育相談に臨むにあたって必要な姿勢や在り方を解説する。
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 山本 裕詞	指定なし

授業の概要と教育目標

学校における教育相談について、その目的の理解から入り、徐々に具体的技法や現実の児童生徒を想定した教育相談の在り方を明らかにしていきます。カウンセリングやソーシャルワークの技法にも学びながら、教師の専門性として教育相談が展開されることの意義について理解を深めていきます。

学生の皆さんが、上記の理解内容を、自らの言葉で説明するとともに、それらを基礎としての教育相談に関する自律的な学びが可能となることが教育目標です。

卒業認定・学位授与の方針との関連

学校教育やそれを囲む社会との関係で、教育相談の必要性を理解し、基礎的知識を得るとともに、ディプロマポリシーで重視する実践する際の基礎力を身に付けます。

到達目標

- 1.教育相談の必要性、学校教育上の位置付けについて理解し、説明できるようになる。
- 2.子どもの成長発達上の課題や、それに対する現代社会の影響を踏まえた対応を理解し、説明できるようになる。
- 3.教育相談の技法を支える人間観を理解し、説明できるようになる。
- 4.教育相談に係わる多様な専門職性を理解し、チームアプローチの基礎的知識を基にした議論ができるようになる。
- 5.事例を通して、教育相談を実践する基礎を培い、自律的に個別の具体的ケースを検討できるようになる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	山本裕	1.授業のねらい、方法、評価の在り方について 2.なぜ学校が必要で、なぜ学校で教	左記2について、自己の体験を省みて意見をまとめ、発表を通して学びを共有する。	復習180分

	詞	育相談が必要とされるのか		
第2回	山本裕詞	1.広義の教育相談と狭義の教育相談 2.近年の学校教育相談の動向	生徒指導と教育相談の関係を実感できた経験を、グループ間で話し合い、発表を通して学びを共有する。	生徒指導提要等によって、事前に教育相談と生徒指導の概念間の関係を下調べする。 復習。合計180分
第3回	山本裕詞	1.学校教育相談の4機能 2.学校内組織における教育相談の位置付け	自己の体験を左記1の4機能に分けてワークシートにまとめる。	生徒指導提要等によって、当該主題の下調べを行う。 復習。合計180分
第4回	山本裕詞	1.心理的事実の受容・共感と客観的指導 2.教育相談の「心」	グループ・ワークにより受容と共感を体験的に学ぶ。	生徒指導提要等によって、当該主題の下調べを行う。 復習。合計180分
第5回	山本裕詞	1.理論と技法に関する基礎知識の必要性 2.主な理論と技法に学ぶ	左記2について、個々人でワークシートに整理する。	生徒指導提要等によって、当該主題の下調べを行う。 復習。合計180分
第6回	山本裕詞	1.意義と分類 2.児童生徒理解の基本姿勢と具体的方法	ケース事例について、教師として適切な対応を考察し、意見を述べ合う。	生徒指導提要等によって、当該主題の下調べを行う。 復習。合計180分
第7回	山本裕詞	1.一般的理解の必要性 2.心に関わる疾病・障害・行動特性・言動	ケース事例について、教師として適切な対応を考察し、意見を述べ合う。	生徒指導提要等によって、当該主題の下調べを行う。 復習。合計180分
第8回	山本裕詞	1.「発達」という概念の特徴 2.発達課題の考え方	ケース事例について、教師として適切な対応を考察し、意見を述べ合う。	生徒指導提要等によって、当該主題の下調べを行う。 復習。合計180分
第9回	山本裕詞	1.「みる」「きく」ことによる理解 2.「探る」ための基礎知識	心理テストを体験し、その結果について自己分析し、効果と感想をワークシートにまとめる。	生徒指導提要等によって、当該主題の下調べを行う。 復習。合計180分
第10回	山本裕詞	1.管理職の役割と可能性 2.校内教育相談体制と担任の役割	ケース事例について、教師として適切な対応を考察し、意見を述べ合う。	生徒指導提要等によって、当該主題の下調べを行う。 復習。合計180分
第11回	山本裕詞	1.異なる専門職との連携 2.専門機関との連携	ケース事例について、教師として適切な対応を考察し、意見を述べ合う。	生徒指導提要等によって、当該主題の下調べを行う。 復習。合計180分
第12回	山本裕詞	1.教育相談と法令 2.専門団体の倫理規定と校内の申し合わせ	当該主題に関する教員採用試験既出問題を各自が解いて提出する。	生徒指導提要等によって、当該主題の下調べを行う。 復習。合計180分
		1.自尊感情を育		

第13回	山本裕詞	て、共感力を高める支援 2.相互支援を進め、集団成長を促す	ケース事例について、教師として適切な対応を考察し、意見を述べ合う。	生徒指導提要等によって、当該主題の下調べを行う。 復習。合計180分
第14回	山本裕詞	1.発達障害のある児童生徒への対応 2.多様化する問題への対応	ケース事例について、教師として適切な対応を考察し、意見を述べ合う。	生徒指導提要等によって、当該主題の下調べを行う。 復習。合計180分
第15回	山本裕詞	1.授業のまとめ 2.小試験による学習効果の自己確認	グループワークにより学習内容を確認し、その後の個別小試験により教育目標の達成度を自己確認する。	復習180分

教科書

使用しません。授業中、必要に応じてプリント等を配布いたします。但し、下記「参考書」に示した『生徒指導提要』は予習復習に活用できますので、用意することを強く推奨します。

参考書

文部科学省『生徒指導提要』2010年、文部科学省「児童生徒の教育相談の充実について（報告）」（以上の2点は、文科省HPから入手可能）、島崎政男『入門 学校教育相談』学事出版2014年。

成績評価の方法・基準

50点以上の評価で単位を認定します。評価の割合は、授業中に数回実施予定の確認テストで50%、授業最終回のまとめの後に実施する試験によって50%です。欠席、遅刻、早退、課題の未提出等は減点の対象とします。詳細は、初回授業オリエンテーションにおいて説明します。

課題等に対する フィードバックの方法

授業内容の予習・復習を中心とした自主的な学びが必要となります。なお、各授業の終了間際10～20分で確認の小テストや小レポートを実施いたします。これらについては、採点・添削して、翌週の授業冒頭にて返却しますので、復習に活用するとともに、15回目の授業のまとめ時に使用できるように、配布プリントとともにファイリングすること。15回目の授業時に、自筆ノートとともに教員が確認します。

履修のポイント

「教育相談」の原理的理解に努めながらも、同時に、児童生徒の多様な状況・生活背景等を想像することが重要です。

オフィス・アワー

授業の前後で質問に応じます。また、文章で質問していただければ、次回の授業時で回答をお渡しします。

科目区分

教職科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CM-C453

講義コード	30810001
講義名	教職実践演習（中）（家庭）
(副題)	【教職必修（家庭）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	5時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	高等学校で数年間にわたり、教員として働いた経験がある。その経験を生かして、生徒を巻き込む実践授業ができるよう、学生自身が主体的に企画した創作活動等を取り入れる。
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋爪 博幸	指定なし
教員	田口 和人	指定なし
教員	橋本 まさ子	指定なし

授業の概要と教育目標

教育実習の実施を踏まえて、学校教育のさまざまな場面で、教育者として対応できる実践力を養う。具体的には、栄養学、生活科学、芸術学の各教科の壁を取り払ったうえで、①食とパッケージデザイン作品づくり、②自己表現の表現方法の学び、③教員としての資質向上に関する議論などを行う。履修カルテにより、教員としての実践的な能力を個別に把握し、個々の学生の教育指導力を高めることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

この演習では教育職という専門性の高い仕事について理解を深める。また栄養教諭になるための、実践的な指導能力を養う。教職科目のひとつであるが、生活科学科の教育目的・目標にある「実践を重視し、『健康』『栄養』の分野で活躍できる人材を育成する」点にもかかわる。みずから進んで、課題解決に努力したか、他の学生と協調してレシピや作品づくりに取り組み、グループ内でアイデアを出し合い、それを発表できるまでの形にするものとする。

到達目標

教職課程のいくつかの教科の中で総まとめの科目に相当するので、教職課程の講義や実習を総合的に振り返り、小中学校における教育の理念や、各教科の教育方法について学んだことをまとめることができるようになる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
	橋爪博幸			

第1回	田口和人 橋本まさ子	教職実践演習のガイダンスを行う。演習内容を理解し、小・中学校での教育理念について理解する。		復習に90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。
第2回	橋爪博幸 田口和人 橋本まさ子	現代日本社会にみられる貧困問題を確認する。	学校教育の現場で貧困に苦しむ子どもたちにできる援助を考える。	予習に90分、復習に90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。
第3回	橋爪博幸 田口和人 橋本まさ子	学校現場で実践したこと、学んだこと、反省したこと等をまとめ、教育実習をふり返る（1回目）。	実習の状況を口頭で発表し、他の学生と意見交換する。	予習に90分、復習に90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。
第4回	橋爪博幸 田口和人 橋本まさ子	学校現場で実践したこと、学んだこと、反省したこと等をまとめ、教育実習をふり返る。	実習の状況を口頭で発表し、他の学生と意見交換する。	予習に90分、復習に90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。
第5回	橋爪博幸 田口和人	学校現場で実践したこと、学んだこと、反省したこと等をまとめ、教育実習をふり返る。	実習の状況を口頭で発表し、他の学生と意見交換する。	予習に90分、復習に90分。授業時に配布されたプリントを

	橋本まさ子			熟読する。
第6回	橋爪博幸 田口和人 橋本まさ子	学校現場で実践したこと、学んだこと、反省したこと等をまとめ、教育実習をふり返る。	教育実習の状況を口頭で発表し、他の学生と意見交換する。教育実習ノートを見直し、反省点等を補足する。	予習に90分、復習に90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。
第7回	橋爪博幸 田口和人 橋本まさ子	生活科学科の学生とアート・デザイン学科の学生が協力して、お菓子や惣菜とそのパッケージをデザインする。	1回目は、グループ分けと作品の素案作りを行う。	予習に90分、復習に90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。
第8回	橋爪博幸 田口和人 橋本まさ子	生活科学科の学生とアート・デザイン学科の学生が協力して、お菓子や惣菜とそのパッケージをデザインする。2回目は、具体的なレシピとパッケージの形を決め、作品を仕上げるまでの計画をたてる。	2回目は、具体的なレシピとパッケージの形を決め、作品を仕上げるまでの計画をたてる。	予習に90分、復習に90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。
第9回	橋爪博幸 田口和人 橋本まさ子	生活科学科の学生とアート・デザイン学科の学生が協力して、お菓子や惣菜とそのパッケージをデザインする。3回目は、学科ごとに分かれて調理実習とパッケージづくりを行う。	3回目は、具体的なレシピとパッケージの形を決め、作品を仕上げるまでの計画をたてる。	予習に90分、復習に90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。

	さ 子			
第10回	橋 爪 博 幸 田 口 和 人 橋 本 ま さ 子	生活科学科の学生とアート・デザイン学科の学生が協力して、お菓子や惣菜とそのパッケージをデザインする。	4回目は、各グループが作品をもちよ り、発表と意見交換 を行う。	予習に90分、復習 に90分。授業時に配 布されたプリントを 熟読する。
第11回	橋 爪 博 幸 田 口 和 人 橋 本 ま さ 子	学生自身を鼓舞する思考、理想とする生き方を、一枚の模造紙に「オリジナルビジョンボード」として色彩豊かに表現する。	「オリジナルビジョ ンボード」の作り方 を配布するので、事 前に写真やイラスト などを準備する。模 造紙に自分の未来像 を描く。	「オリジナルビジョ ンボード」作成の補 足作業を行う (180分)。
第12回	橋 爪 博 幸 田 口 和 人 橋 本 ま さ 子	「オリジナルビジョンボード」を もとに、発表し意見を出し合う。	学生自身の「オリジ ナルビジョンボー ド」を作成し、他の 学生を前にそて口頭 で説明する。	「オリジナルビジョ ンボード」発表の準 備(180分)。復習 に90分。授業時に配 布されたプリントを 熟読する。
第13回	橋 爪 博 幸 田 口 和 人 橋 本 ま さ 子	特別支援教育の実際の現場を知 る。	『学校II』を通して学 んだ特別支援教育に ついてレポートにま とめる。	事前に映画『学 校II』を視聴してお く(120分)。予習 に60分、復習 に60分。授業時に配 布されたプリントを 熟読する。
	橋			

第14回	爪博幸田口和人橋本まさ子	特別支援教育の問題点や改善点について自分なりの意見をまとめる。	特別支援の問題点を探り、改善策を発表する。	予習に90分、復習に90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。
第15回	橋爪博幸田口和人橋本まさ子	教育にかかわる授業や演習をふり返り、教育実習や演習の授業等を通して学びや気づき、教育者としての振る舞いに必要なことをまとめる。	実践演習で学んだことや、2年間の教職課程を振り返って反省点や改善点等についてまとめ発表する。	復習に90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。

教科書

必要な時に提示する。

参考書

授業内で、必要な時に提示する。

成績評価の方法・基準

100点満点で、50点以上で単位認定する。形となった作品だけでなく、授業への取り組み状況（50点）、内容のある相手に伝わる口頭発表（50点）を評価する。

課題等に対する フィードバックの方法

提出されたレポートは確認後、補足説明やコメントを付して返却する。口頭発表やグループ討議の結果発表を行い、演習の中で随時、教員からコメント等を伝える。この返答をもってフィードバックとみなす。

履修のポイント

演習科目であるため、グループ学習、口頭発表等で自分から進んで意見を述べること、他の学生たちと協力する姿勢で授業に臨むことが大切である。

オフィス・アワー

月曜日の昼休みをオフィスアワーとします。9号館3階 第6研究室に来てください。

科目区分

教職科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CM-C472

講義コード	30820001
講義名	教職実践演習（栄養教諭）（栄養）
(副題)	【教職必修（栄養）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	5時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	高等学校で数年間にわたり、教員として働いた経験がある。その経験を生かして、生徒を巻き込む実践授業ができるよう、学生自身が主体的に企画した創作活動等を取り入れる。
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋爪 博幸	指定なし
教員	田口 和人	指定なし
教員	橋本 まさ子	指定なし

授業の概要と教育目標

教育実習の実施を踏まえて、学校教育のさまざまな場面で、教育者として対応できる実践力を養う。具体的には、栄養学、生活科学、芸術学の各教科の壁を取り払ったうえで、①食とパッケージデザイン作品づくり、②自己表現の表現方法の学び、③教員としての資質向上に関する議論などを行う。履修カルテにより、教員としての実践的な能力を個別に把握し、個々の学生の教育指導力を高めることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

この演習では教育職という専門性の高い仕事について理解を深める。また栄養教諭になるための、実践的な指導能力を養う。教職科目のひとつであるが、生活科学科の教育目的・目標にある「実践を重視し、『健康』『栄養』の分野で活躍できる人材を育成する」点にもかかわる。みずから進んで、課題解決に努力したか、他の学生と協調してレシピや作品づくりに取り組み、グループ内でアイデアを出し合い、それを発表できるまでの形にするものとする。

到達目標

教職課程のいくつかの教科の中で総まとめの科目に相当するので、教職課程の講義や実習を総合的に振り返り、小中学校における教育の理念や、各教科の教育方法について学んだことをまとめることができるようになる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
	橋爪博幸			

第1回	田口和人 橋本まさ子	教職実践演習のガイダンスを行う。演習内容を理解し、小・中学校での教育理念について理解する。		復習に90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。
第2回	橋爪博幸 田口和人 橋本まさ子	現代日本社会にみられる貧困問題を確認する。	学校教育の現場で貧困に苦しむ子どもたちにできる援助を考える。	予習に90分、復習に90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。
第3回	橋爪博幸 田口和人 橋本まさ子	学校現場で実践したこと、学んだこと、反省したこと等をまとめ、教育実習をふり返る（1回目）。	実習の状況を口頭で発表し、他の学生と意見交換する。	予習に90分、復習に90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。
第4回	橋爪博幸 田口和人 橋本まさ子	学校現場で実践したこと、学んだこと、反省したこと等をまとめ、教育実習をふり返る。	実習の状況を口頭で発表し、他の学生と意見交換する。	予習に90分、復習に90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。
第5回	橋爪博幸 田口和人	学校現場で実践したこと、学んだこと、反省したこと等をまとめ、教育実習をふり返る。	実習の状況を口頭で発表し、他の学生と意見交換する。	予習に90分、復習に90分。授業時に配布されたプリントを

	橋本まさ子			熟読する。
第6回	橋爪博幸 田口和人 橋本まさ子	学校現場で実践したこと、学んだこと、反省したこと等をまとめ、教育実習をふり返る。	教育実習の状況を口頭で発表し、他の学生と意見交換する。教育実習ノートを見直し、反省点等を補足する。	予習に90分、復習に90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。
第7回	橋爪博幸 田口和人 橋本まさ子	生活科学科の学生とアート・デザイン学科の学生が協力して、お菓子や惣菜とそのパッケージをデザインする。	1回目は、グループ分けと作品の素案作りを行う。	予習に90分、復習に90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。
第8回	橋爪博幸 田口和人 橋本まさ子	生活科学科の学生とアート・デザイン学科の学生が協力して、お菓子や惣菜とそのパッケージをデザインする。2回目は、具体的なレシピとパッケージの形を決め、作品を仕上げるまでの計画をたてる。	2回目は、具体的なレシピとパッケージの形を決め、作品を仕上げるまでの計画をたてる。	予習に90分、復習に90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。
第9回	橋爪博幸 田口和人 橋本まさ子	生活科学科の学生とアート・デザイン学科の学生が協力して、お菓子や惣菜とそのパッケージをデザインする。3回目は、学科ごとに分かれて調理実習とパッケージづくりを行う。	3回目は、具体的なレシピとパッケージの形を決め、作品を仕上げるまでの計画をたてる。	予習に90分、復習に90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。

	さ 子			
第10回	橋 爪 博 幸 田 口 和 人 橋 本 ま さ 子	生活科学科の学生とアート・デザイン学科の学生が協力して、お菓子や惣菜とそのパッケージをデザインする。	4回目は、各グループが作品をもちよ り、発表と意見交換 を行う。	予習に90分、復習 に90分。授業時に配 布されたプリントを 熟読する。
第11回	橋 爪 博 幸 田 口 和 人 橋 本 ま さ 子	学生自身を鼓舞する思考、理想とする生き方を、一枚の模造紙に「オリジナルビジョンボード」として色彩豊かに表現する。	「オリジナルビジョ ンボード」の作り方 を配布するので、事 前に写真やイラスト などを準備する。模 造紙に自分の未来像 を描く。	「オリジナルビジョ ンボード」作成の補 足作業を行う (180分)。
第12回	橋 爪 博 幸 田 口 和 人 橋 本 ま さ 子	「オリジナルビジョンボード」を もとに、発表し意見を出し合う。	学生自身の「オリジ ナルビジョンボー ド」を作成し、他の 学生を前にそて口頭 で説明する。	「オリジナルビジョ ンボード」発表の準 備(180分)。復習 に90分。授業時に配 布されたプリントを 熟読する。
第13回	橋 爪 博 幸 田 口 和 人 橋 本 ま さ 子	特別支援教育の実際の現場を知 る。	『学校II』を通して学 んだ特別支援教育に ついてレポートにま とめる。	事前に映画『学 校II』を視聴してお く(120分)。予習 に60分、復習 に60分。授業時に配 布されたプリントを 熟読する。
	橋			

第14回	爪博幸田口和人橋本まさ子	特別支援教育の問題点や改善点について自分なりの意見をまとめる。	特別支援の問題点を探り、改善策を発表する。	予習に90分、復習に90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。
第15回	橋爪博幸田口和人橋本まさ子	教育にかかわる授業や演習をふり返り、教育実習や演習の授業等を通じて学びや気づき、教育者としての振る舞いに必要なことをまとめる。	実践演習で学んだことや、2年間の教職課程を振り返って反省点や改善点等についてまとめ発表する。	復習に90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。

教科書

必要な時に提示する。

参考書

授業内で、必要な時に提示する。

成績評価の方法・基準

100点満点で、50点以上で単位認定する。形となった作品だけでなく、授業への取り組み状況（50点）、内容のある相手に伝わる口頭発表（50点）を評価する。

課題等に対する フィードバックの方法

提出されたレポートは確認後、補足説明やコメントを付して返却する。口頭発表やグループ討議の結果発表を行い、演習の中で随時、教員からコメント等を伝える。この返答をもってフィードバックとみなす。

履修のポイント

演習科目であるため、グループ学習、口頭発表等で自分から進んで意見を述べること、他の学生たちと協力する姿勢で授業に臨むことが大切である。

オフィス・アワー

月曜日の昼休みをオフィスアワーとします。9号館2階 第5研究室に来てください。

科目区分

教職科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C473

講義コード	30830001
講義名	事前・事後指導（家庭）（R2入学生）
（副題）	【教職必修（家庭）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	通年
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	高等学校等で家庭科の授業を担当した経験をもとに、実践的な授業を展開する。
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋爪 博幸	指定なし
教員	橋本 まさ子	指定なし

授業の概要と教育目標

家庭科教諭として必要な資質・能力として基礎的な知識を身に着ける。教育実習における学習指導案、指導用教材の作成技術・授業の技術を身に着けることを目標とする

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、「人間のからだ」「食品」「栄養」に関する学修を総合的に理解し、「健康・栄養」にかかわる現場での実践的に活用し、また問題を解決できる能力を習得する。将来的には取得した資格を生かせることをめざす。

到達目標

家庭科教育実習に対応できる資質・知識を身に着ける。実習校で教諭として対応できる態度等を身に着ける。児童生徒とのかかわり方を理解する。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	橋爪博幸	授業計画、成績評価 教育実習（目的、準備、心構え、教員サービス基準の遵守） 実習校、日程等個別指導		予習（教育実習に向けて準備）に90分
第2回	橋爪博幸	実習前の不安と期待の共有 教育実習ノートの記入方法 評価と指導の一体化		復習に120分、予習に60分以上
	橋本	教材研究の方法		予習（授業内容について理

第3回	まさ子	基本技術（板書、話し方、発問、机間巡視の方法、ノート指導等）		解しておく、ノートにまとめ）に180分以上
第4回	橋本まさ子	模擬授業の練習 教材作り アクティブラーニング： 学習指導案に関する個別指導等を実施する。		予習（学習指導案、教材準備等）に180分以上
第5回	橋本まさ子	模擬授業の練習 教材作り 学習指導案に関する個別指導、礼状の書き方	具体的に仮の礼状を書く。	予習（学習指導案、教材準備等）に180分以上
第6回	橋本まさ子	教育実習体験の発表準備 教育実習体験の発表準備 次回の合同報告会の準備	各自の教育実習報告を実施し、報告会にむけて準備する。	予習（教育実習体験の発表準備のため）に180分以上
第7回	橋爪博幸	教育実習体験の発表	各自の教育実習報告を実施する。	予習（教育実習体験の発表準備のため）に180分以上
第8回	橋爪博幸	1, 2年生合同 教育実習 報告会		復習まとめ（教育実習ノート等の整理）に180分

教科書

必要に応じて資料で対応する

参考書

小学校 学習指導要領の展開 明治図書
家庭科教育法 高陵社書店

成績評価の方法・基準

単位認定 60点以上。レポート・課題等100%

課題等に対する フィードバックの方法

授業内でレポートや課題を課すことがある。返却するので学習の参考にする。

履修のポイント

予習・復習の積み重ねが知識を身につける力になり、課題等の対策につながるものとなります。授業への積極的な取り組み態度が後の教育実習の成果になるものと期待します。

オフィス・アワー

月曜日12:30~13:20（お昼休み）または、講義終了後 適宜受け付けます。9号館2階 第5研究室

科目区分

教職科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C413

講義コード	30830003
講義名	事前・事後指導（家庭）（H31入学生）
（副題）	【教職必修（家庭）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	高等学校等で家庭科の授業を担当した経験をもとに、実践的な授業を展開する。
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋爪 博幸	指定なし
教員	橋本 まさ子	指定なし

授業の概要と教育目標

家庭科教諭として必要な資質・能力として基礎的な知識を身に着ける。教育実習における学習指導案、指導用教材の作成技術・授業の技術を身に着けることを目標とする

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、「人間のからだ」「食品」「栄養」に関する学修を総合的に理解し、「健康・栄養」にかかわる現場での実践的に活用し、また問題を解決できる能力を習得する。将来的には取得した資格を生かせることをめざす。

到達目標

家庭科教育実習に対応できる資質・知識を身に着ける。実習校で教諭として対応できる態度等を身に着ける。児童生徒とのかかわり方を理解する。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	橋爪博幸	授業計画、成績評価 教育実習（目的、準備、心構え、教員サービス基準の遵守） 実習校、日程等個別指導		教育実習に向けて準備に120分
第2回	橋爪博幸	実習前の不安と期待の共有 教育実習ノートの記入方法 評価と指導の一体化		復習に90分、予習に90分
	橋			

第3回	本まさ子	教材研究の方法 基本技術（板書、話し方、発問、机間巡視の方法、ノート指導等）		復習に90分、予習に120分以上
第4回	橋本まさ子	模擬授業の練習 教材作り 学習指導案に関する個別指導		事前準備に180分、復習に120分以上
第5回	橋本まさ子	模擬授業の練習 教材作り 学習指導案に関する個別指導 礼状の書き方		事前準備（学習指導案、教材準備等）に180分以上
第6回	橋本まさ子	教育実習体験の発表準備		次元準備（教育実習体験の発表準備のため）に180分以上
第7回	橋爪博幸	教育実習体験の発表	模擬授業後、それぞれ授業方法について意見交換をする。	教育実習体験の発表準備に120分、次回の合同報告会の準備に120分
第8回	橋爪博幸	1, 2年生合同 教育実習報告会	報告会后、教育実習に向けて準備や研究授業実施方法について意見交換し発表する。	復習180分以上

教科書

必要に応じて資料で対応する

参考書

小学校 学習指導要領の展開 明治図書
家庭科教育法 高陵社書店

成績評価の方法・基準

単位認定 50点以上。レポート・課題等100%

課題等に対する フィードバックの方法

授業内でレポートや課題を課すことがある。返却するので学習の参考にする。

履修のポイント

予習・復習の積み重ねが知識を身につける力になり、課題等の対策につながるものとなります。授業への積極的な取り組む態度が後の教育実習の成果になるものと期待します。

オフィス・アワー

月曜日、火曜日 12:30～13:20(昼休み) および講義終了後 適宜受け付けます。 9号館2階 第5研究室

科目区分

教職科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-F811

講義コード	30840001
講義名	教育実習（家庭）
(副題)	【教職必修（家庭）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	4
代表曜日	
代表時限	
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	高等学校等で家庭科の授業を担当した経験をもとに、実践的な授業を展開する。
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋本 まさ子	指定なし

授業の概要と教育目標

家庭科とは、家庭生活を中心とする人間の生活に必要な諸事項のうち、学校において計画的に指導する必要のあるものを系統的に編集した教科ともいえる。そこで、教育実習では、児童・生徒を取り巻く課題を踏まえ、家庭科教諭としての使命や職務内容の重要性を理解させ、学校において「人間生活に関する指導」が学校教育活動の中で実施できるように試みる。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、生活科学の基礎となる衣食住に関する基本的な事柄について、科学的理解する。そこで教育実習に向けて、積極的な取り組みを望み、教員としての自覚を身に着けることをめざす。

到達目標

家庭科教諭として、児童・生徒の体験・経験を踏まえた授業内容を実践できるような知識、技術を習得する

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	橋本まさ子	授業計画、評価方法 教育実習の目的、準備、心構え、教員服務基準の遵守 実習に臨むにあたっての不安と期待 各自の実習予定と個別指導時間の調整		復習120分以上：教育実習準備
第2回	橋本ま	教育実習日誌の記録方法	より良い教育実習記録日誌を作成するための工夫についての情	予習60分：資料を読んでおく、復習120分以上：教育

	さ 子		報交換をする。	実習準備
第3回	橋 本 ま さ 子	教材研究の方法 基本技術（板書、話 し方、発問、指名、 机間巡視、ノート指 導）		予習60分：資料を読 んでおく、復 習120分以上：教育 実習準備
第4回	橋 本 ま さ 子	模擬授業 学習指導案に関する 個別指導		予習60分：資料を読 んでおく、復 習120分以上：教育 実習準備
第5回	橋 本 ま さ 子	教育実習への準備 礼状の書き方		予習60分：資料を読 んでおく、復 習120分以上：教育 実習準備
第6回	橋 本 ま さ 子	3週間の教育実習		教育実習ノートの記 入
第7回	橋 本 ま さ 子	教育実習体験の発表 準備	各自の教育実習報告を実施し、 反省かに向けるための資料の参考に するための情報交換を実施す る。	予習60分：教育実習 ノートまとめ、 復習120分：発表会 （報告会）の準備
第8回	橋 本 ま さ 子	教育実習体験の発表 他者評価と自己反省		予習120分以上：発 表会の準備 復習60分：総まとめ

教科書

随時資料の配布

参考書

家庭科教育法 高陵社書店
家庭科の指導 建帛社
新しい家族関係 建帛社
衣生活概論 井上書院

成績評価の方法・基準

単位認定 50点以上 課題30%、模擬事業評価30%、レポート40%

課題等に対する フィードバックの方法

実習ノートは提出後、コメント等を入れて返却する。教育実習に活用できる教材等はノートに添付しておくが良い。

履修のポイント

教育実習を成功させる

オフィス・アワー

月曜日12：30～13：20（お昼休み）授業終了後、随時 9号館2階 第5研究室

科目区分

教職科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-C454

講義コード	30850001
講義名	栄養教育実習事前・事後指導（栄養）R2入
(副題)	【教職必修（栄養）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	通年
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋爪 博幸	指定なし
教員	橋本 まさ子	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養教諭として必要な資質・能力として基礎的な知識を身に着ける。教育実習における学習指導案、指導用教材の作成技術・授業の技術を身に着けることを目標とする

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、「人間のからだ」「食品」「栄養」に関する学修を総合的に理解し、「健康・栄養」にかかわる現場での実践的に活用し、また問題を解決できる能力を習得する。将来的には取得した資格を生かせることをめざす。

到達目標

栄養教育実習に対応できる資質・知識を身に着ける。実習校で教諭として対応できる態度等を身に着ける。児童生徒とのかかわり方を理解し、教育実習を成功させる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	橋爪博幸	授業計画、成績評価 教育実習（目的、準備、心構え、教員職務基準の遵守） 実習校、日程等個別指導		教育実習に向けて準備に180分
第2回	橋爪博幸	実習前の不安と期待の共有 教育実習ノートの記入方法 評価と指導の一体化	教育実習の心構え等について 問題定義して話し合いを行う	前回の授業内容について理解しておく、ノートにまとめておく180分以上
	橋	教材研究の方法		

第3回	本まさ子	基本技術（板書、話し方、発問、机間巡視の方法、ノート指導等）		前回の授業内容について理解しておく、ノートにまとめておく180分以上
第4回	橋爪博幸	模擬授業の練習 教材作り 学習指導案に関する 個別指導	それぞれの模擬授業を聞いて 情報交換を行う	学習指導案、教材準備 等に180分以上
第5回	橋本まさ子	模擬授業の練習 教材作り 学習指導案に関する 個別指導 礼状の書き方	実際に仮の礼状を作成し情報 交換をする。	学習指導案、教材準備 等に180分以上
第6回	橋本まさ子	教育実習体験の発表 準備 教育実習体験の発表 準備 次回の合同報告会の 準備		教育実習体験の発表準備 のために180分以上
第7回	橋爪博幸	教育実習体験の発表	各自の教育実習報告を実施 し、より良い用報告会のため の準備のための情報交換を実施する。	事前準備のために180分 以上
第8回	橋爪博幸	1, 2年生合同 教育 実習報告会	まとめ（教育実習ノート等の 整理）	事前準備のために180分 以上

教科書

栄養教諭論 理論と実際 建帛社
必要に応じて資料で対応する

参考書

栄養教諭はなにをすべきか ぎょうせい
栄養教諭 養成における 実習の手引き 東山書房
新時代の栄養教諭実践 同文書院

成績評価の方法・基準

単位認定 60点以上。レポート・課題等100%

課題等に対する フィードバックの方法

授業内でレポートや課題を課すことがある。返却後学習の参考にする。

履修のポイント

予習・復習の積み重ねが知識を身につける力になり、課題等の対策につながるものとなります。授業への積極的な取り組む態度が後の教育実習の成果になるものと期待します。

オフィス・アワー

月曜日12:30～13:20（お昼休み）または、講義終了後 適宜受け付けます。9号館3階 第5研究室

科目区分

教職科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

講義コード	30850003
講義名	栄養教育実習事前・事後指導（栄養）31入
(副題)	【教職必修（栄養）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	通年
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋爪 博幸	指定なし
教員	橋本 まさ子	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養教諭として必要な資質・能力として基礎的な知識を身に着ける。教育実習における学習指導案、指導用教材の作成技術・授業の技術を身に着けることを目標とする

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、「人間のからだ」「食品」「栄養」に関する学修を総合的に理解し、「健康・栄養」にかかわる現場での実践的に活用し、また問題を解決できる能力を習得する。将来的には取得した資格を生かせることをめざす。

到達目標

栄養教育実習に対応できる資質・知識を身に着ける。実習校で教諭として対応できる態度等を身に着ける。児童生徒とのかかわり方を理解し、教育実習を成功させる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	橋爪博幸	授業計画、成績評価 教育実習（目的、準備、心構え、教員職務基準の遵守） 実習校、日程等個別指導		教育実習に向けて準備に180分
第2回	橋爪博幸	実習前の不安と期待の共有 教育実習ノートの記入方法 評価と指導の一体化		前回の授業内容について理解しておく、ノートにまとめておく180分以上
	橋	教材研究の方法		

第3回	本まさ子	基本技術（板書、話し方、発問、机間巡視の方法、ノート指導等）		前回の授業内容について理解しておく、ノートにまとめておく180分以上
第4回	橋本まさ子	模擬授業の練習 教材作り 学習指導案に関する個別指導		学習指導案、教材準備等に180分以上
第5回	橋本まさ子	模擬授業の練習 教材作り 学習指導案に関する個別指導 礼状の書き方	実際に仮の礼状を作成し情報交換をする。	学習指導案、教材準備等に180分以上
第6回	橋爪博幸	教育実習体験の発表準備		教育実習体験の発表準備のために180分以上
第7回	橋爪博幸	教育実習体験の発表	各自の教育実習報告を実施し、より良い用報告会のための準備のための情報交換を実施する。	教育実習体験の発表準備のために90分以上 次回の合同報告会の準備のために90分以上
第8回	橋爪博幸	1, 2年生合同 教育実習報告会		まとめ（教育実習ノート等の整理）180分以上

教科書

栄養教諭論 理論と実際 建帛社
必要に応じて資料で対応する

参考書

栄養教諭はなにをすべきか ぎょうせい
栄養教諭 養成における 実習の手引き 東山書房
新時代の栄養教諭実践 同文書院

成績評価の方法・基準

単位認定 50点以上。レポート・課題等100%

課題等に対する フィードバックの方法

授業内でレポートや課題を課すことがある。返却後学習の参考にする。

履修のポイント

予習・復習の積み重ねが知識を身につける力になり、課題等の対策につながるものとなります。授業への積極的な取り組む態度が後の教育実習の成果になるものと期待します。

オフィス・アワー

月曜日12:30～13:20（お昼休み）または、講義終了後 適宜受け付けます。9号館2階 第5研究室

科目区分

教職科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C414

講義コード	30860001
講義名	栄養教育実習（栄養）
(副題)	【教職必修（栄養）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋本 まさ子	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養教諭として必要な資質・能力として基礎的な知識を身につけ、人間の生活に必要な諸事項のうち、学校において計画的に指導する必要があるものを系統的に実施する。そこで、教育実習では、児童・生徒を取り巻く課題を踏まえ、栄養教諭としての使命や職務内容の重要性を理解させ、学校において「人間生活に関する指導」が学校教育活動の中で実施できるように試みる。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、「人間のからだ」「食品」「栄養」に関する学修を総合的に理解し、「健康・栄養」にかかわる事柄について、現場で実践的に活用し、問題を解決できる能力を修得する。将来的には食の専門家として社会で生かせることをめざす。

到達目標

栄養教育実習に対応できる資質・知識を身につける。児童・生徒の体験・経験を踏まえた授業内容を実践できるような知識、技術を習得する。
児童生徒との関わりを方を理解し、教育実習を成功させることを目標とする。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な 時間
第1回	橋本まさ子	<ul style="list-style-type: none"> ○授業計画、評価方法 ○教育実習の目的、準備、心構え、教員服務基準の遵守 ○実習に臨むにあたっての不安と期待 ○各自の実習予定と個別指導時間の調整 		復習120分以上：教育実習準備
	橋			

第2回	本まさ子	○教育実習日誌の記録方法	より良い教育実習日誌の書き方について情報交換をする。	予習60分(資料を読んでおく)、復習120分以上
第3回	橋本まさ子	○教材研究の方法 ○基本技術(板書、話し方、発問、指名、机間巡視、ノート指導)		予習60分、復習120分以上
第4回	橋本まさ子	○模擬授業 ○学習指導案に関する個別指導		予習60分、復習120分以上
第5回	橋本まさ子	○教育実習への準備 ○礼状の書き方		予習60分、復習120分以上
第6回	橋本まさ子	1週間(5日間)の教育実習		復習、教育実習ノートの記入のために、1日120分以上
第7回	橋本まさ子	○教育実習体験の発表準備	各自の教育実習報告をする。またより良い報告会のための準備としての意見交換を実施する。	予習60分、復習120分
第8回	橋本まさ子	○教育実習体験の発表 ○他者評価と自己反省		予習180分以上

教科書

随時資料の配布

参考書

栄養教諭は何をすべきか ぎょうせい
 栄耀教諭 養成における 実習の手引き 東山書房
 新時代の栄養教育実践 同文書院

成績評価の方法・基準

単位認定 50点以上 課題・レポート等で100%

課題等に対する フィードバックの方法

授業内で課題やレポートを課すことがあるので、返却後、学習の参考にする。

履修のポイント

予習・復習の積み重ねが知識を身につける力になり、課題等の対応につながるので積極的な取り組み姿勢が教育実習を成功させるものと期待します。

オフィス・アワー

月曜日12:30~13:20(昼休み) または授業終了後、随時 9号館2階 第5研究室

科目区分
教職科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-C474

講義コード	30870001										
講義名	介護等体験実習（家庭）（H31入）										
（副題）	【教職必修（家庭）】										
開講責任部署	生活科学科										
講義開講時期	後期										
講義区分	実習										
基準単位数	1										
代表曜日											
代表時限											
必修/選択	選択										
実務経験のある教員の有無	○										
実務経験のある教員の経歴と授業内容	学校現場での特別支援学級担任などの教員経験を活かし、障がい者、高齢者、支援を必要とする児童生徒との交流等から学ぶ姿勢を身に付け、深められる授業を展開する。										
学年	2学年										
担当教員											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>職種</th> <th>氏名</th> <th>所属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教員</td> <td>◎ 田口 和人</td> <td>指定なし</td> </tr> <tr> <td>教員</td> <td>橋爪 博幸</td> <td>指定なし</td> </tr> </tbody> </table>			職種	氏名	所属	教員	◎ 田口 和人	指定なし	教員	橋爪 博幸	指定なし
職種	氏名	所属									
教員	◎ 田口 和人	指定なし									
教員	橋爪 博幸	指定なし									

授業の概要と教育目標

教職免許を取得するにあたり、「社会福祉施設等において障害者、高齢者等に対する介護や介助、交流等の体験」が義務づけられています。この主旨は、教員を志望する者が介護等の体験を通じて、「個人の尊厳や社会連帯の理念に関する認識を深めること」により、教員としての資質の向上を図ろうとするところにあります。この主旨を十分に理解して、「体験実習」に望むこと。

卒業認定・学位授与の方針との関連

人間を対象とする教育職員の役割を念頭に置いて、社会・環境・コミュニケーションについての認識を深める。また、多様な社会のニーズ、変化に対応できるように、自らの「資質・能力」を高めることに努める。

到達目標

社会的弱者の存在や生活を認識・了解した教員像をめざすにあたり、①豊かな人間性とコミュニケーション能力を有する教員、②幅広い視野と高い専門性を有する教員、③社会人としての優れた識見を有する教員、の三つの観点を到達目標とします。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	田口 和人	社会福祉施設等での障害者・高齢者の実情を踏まえ、介護や介助、交流等について学ぶ。	社会保障制度、社会的弱者の実情について調べる。
第2回		社会福祉施設での指導の下、「介護や介助、交流等」に積極的に取り組む。	体験実習に向けて、予習・復習をしっかりと行なう。
第3回		社会福祉施設での指導の下、「介護や介助、交流等」に積極的に取り組む。	体験実習に向けて、予習・復習をしっかりと行なう。
第4回		社会福祉施設での指導の下、「介護や介助、交	体験実習に向けて、予習・

		流等」に積極的に取り組む。	復習をしっかりと行なう。
第5回		社会福祉施設での指導の下、「介護や介助、交流等」に積極的に取り組む。	体験実習に向けて、予習・復習をしっかりと行なう。
第6回		5日間の体験実習について報告する。	報告の準備をする。他の報告者の話を聞く。
第7回		特別支援学校での児童・生徒の学習や生活について学ぶ。	社会保障制度、社会的弱者の実情について調べる。
第8回		特別支援学校での指導の下、「介護や介助、交流等」に積極的に取り組む。	体験実習に向けて、予習・復習をしっかりと行なう。
第9回		特別支援学校での指導の下、「介護や介助、交流等」に積極的に取り組む。	体験実習に向けて、予習・復習をしっかりと行なう。
第10回		2日間の体験実習についてレポートを提出する。	体験自習をよく振り返ること。

教科書

事前指導においては、資料を配付します。

参考書

『新版・よくわかる社会福祉施設』全国社会福祉協議会
『特別支援学校における介護等体験ガイドブック フィリア』全国特別支援学校長会編

成績評価の方法・基準

体験実習先の評価による。

課題等に対する フィードバックの方法

実習ノートを返却するので、それをもとに体験実習を振り返る。

履修のポイント

主体的、対話的で深い学びを期待します。

オフィス・アワー

火曜日・木曜日12：30～13：20（昼休み） 11号館第7研究室

科目区分

教職科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CM-C435

講義コード	30870002
講義名	介護等体験実習（家庭）（R2入）
（副題）	【教職必修（家庭）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	学校現場での特別支援学級担任などの教員経験を活かし、障がい者、高齢者、支援を必要とする児童生徒との交流等から学ぶ姿勢を身に付け、深められる授業を展開する。
学年	1学年

担当教員		
職種	氏名	所属
教員	◎ 田口 和人	指定なし
教員	橋爪 博幸	指定なし

授業の概要と教育目標

教職免許を取得するにあたり、「社会福祉施設等において障害者、高齢者等に対する介護や介助、交流等の体験」が義務づけられています。この主旨は、教員を志望する者が介護等の体験を通じて、「個人の尊厳や社会連帯の理念に関する認識を深めること」により、教員としての資質の向上を図ろうとするところにあります。この主旨を十分に理解して、「体験実習」に望むこと。

卒業認定・学位授与の方針との関連

人間を対象とする教育職員の役割を念頭に置いて、社会・環境・コミュニケーションについての認識を深める。また、多様な社会のニーズ、変化に対応できるように、自らの「資質・能力」を高めることに努める。

到達目標

社会的弱者の存在や生活を認識・了解した教員像をめざすにあたり、①豊かな人間性とコミュニケーション能力を有する教員、②幅広い視野と高い専門性を有する教員、③社会人としての優れた識見を有する教員、の三つの観点を到達目標とします。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	田口 和人	社会福祉施設等での障害者・高齢者の実情を踏まえ、介護や介助、交流等について学ぶ。	社会保障制度、社会的弱者の実情について調べる。
第2回		社会福祉施設での指導の下、「介護や介助、交流等」に積極的に取り組む。	体験実習に向けて、予習・復習をしっかりと行なう。
第3回		社会福祉施設での指導の下、「介護や介助、交流等」に積極的に取り組む。	体験実習に向けて、予習・復習をしっかりと行なう。
第4回		社会福祉施設での指導の下、「介護や介助、交	体験実習に向けて、予習・

		流等」に積極的に取り組む。	復習をしっかりと行なう。
第5回		社会福祉施設での指導の下、「介護や介助、交流等」に積極的に取り組む。	体験実習に向けて、予習・復習をしっかりと行なう。
第6回		5日間の体験実習について報告する。	報告の準備をする。他の報告者の話を聞く。
第7回		特別支援学校での児童・生徒の学習や生活について学ぶ。	社会保障制度、社会的弱者の実情について調べる。
第8回		特別支援学校での指導の下、「介護や介助、交流等」に積極的に取り組む。	体験実習に向けて、予習・復習をしっかりと行なう。
第9回		特別支援学校での指導の下、「介護や介助、交流等」に積極的に取り組む。	体験実習に向けて、予習・復習をしっかりと行なう。
第10回		2日間の体験実習についてレポートを提出する。	体験自習をよく振り返ること。

教科書

事前指導においては、資料を配付します。

参考書

『新版・よくわかる社会福祉施設』全国社会福祉協議会
『特別支援学校における介護等体験ガイドブック フィリア』全国特別支援学校長会編

成績評価の方法・基準

体験実習先の評価による。

課題等に対する フィードバックの方法

実習ノートを返却するので、それをもとに体験実習を振り返る。

履修のポイント

主体的、対話的で深い学びを期待します。

オフィス・アワー

火曜日・木曜日12：30～13：20（昼休み） 11号館第7研究室

科目区分

教職科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CM-C435